

7. 自己点検・評価報告書

(1) 2021年度第3クォーター 掲載目次

専任教員

【所属】

人文学部	キリスト教学科	1
人文学部	人類文化学科	4
人文学部	心理人間学科	10
人文学部	日本文化学科	14
外国語学部	英米学科	16
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	19
外国語学部	フランス学科	21
外国語学部	ドイツ学科	22
外国語学部	アジア学科	23
経済学部	経済学科	24
経営学部	経営学科	30
法学部	法律学科	37
総合政策学部	総合政策学科	44
理工学部	ソフトウェア工学科	52
理工学部	データサイエンス学科	53
理工学部	電子情報工学科	54
理工学部	機械システム工学科	57
国際教養学部	国際教養学科	58
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	62
教職センター		64
国際センター		64
外国語教育センター		66
体育教育センター		75

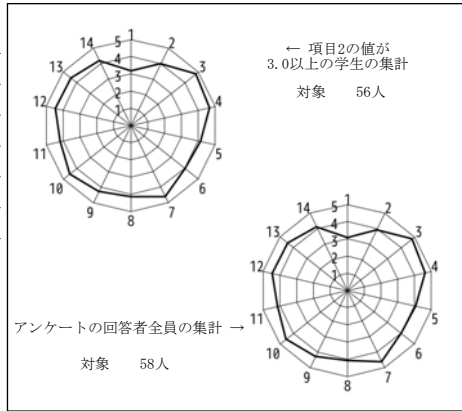
非常勤教員

【所属】

人文学部	心理人間学科	76
人文学部	日本文化学科	78
外国語学部	英米学科	80
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	81
外国語学部	フランス学科	83
外国語学部	アジア学科	84
経済学部	経済学科	87
経営学部	経営学科	90
法学部	法律学科	92
総合政策学部	総合政策学科	95
理工学部	システム数理学科(旧)	96
共通教育	仏語	96
共通教育	西語	97
共通教育	中国語	98
共通教育	共通	99
共通教育	体育	112
共通教育	韓国朝鮮語	112
教職センター		113
外国語教育センター		115

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教論[T]2
授業コード	10A01-016
教員名	KISALA, Robert
教員コード	018275
登録人数	143
回答数	58
回答率	40.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



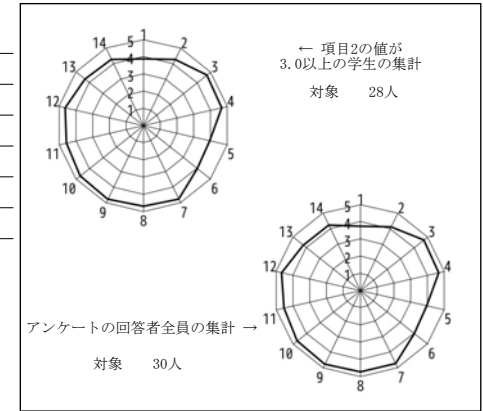
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標として「宗教についての理解を深めている」と「現代社会における宗教の位置・役割を考察することができるようになっていく」という二つを初回授業で学生に提示した。学生評価の結果（設問番号5：平均値4.09；設問番号6：平均値4.00）から、学生らは到達目標をある程度理解して授業に取り組んでいたとは言えるであろうが、更なる改善に努めます。一方、自由記述式設問の回答結果からは特にパワーポイントと映像資料の使用、または今回新しく導入した小人数グループディスカッションが積極的に評価されていると言える。また、説明及び資料が分かりやすかったことが指摘されている。

本講義の改善点として、学生が講義の到達目標を意識させるためにさらなる工夫を考えている。学生が到達目標を授業の内容と繋げられるような説明も取り入れながら毎回の講義の初めに前回の講義の内容を確認し、今回の抗議の到達目標を明確にすることを続けます。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	思想史に学ぶ人間の尊厳6
授業コード	10D03-006
教員名	渡邊 学
教員コード	017186
登録人数	89
回答数	30
回答率	33.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

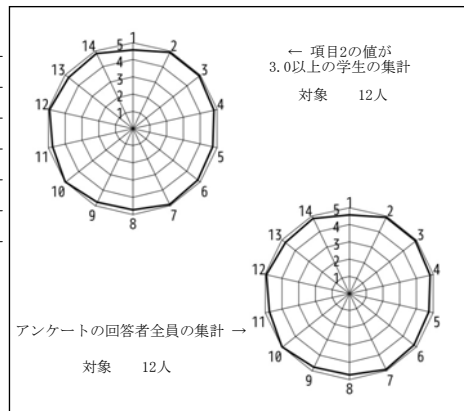


授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標に関しては、達成できたと思う。毎回の講義に対して毎回小テストを課し、時間的余裕を与えてWebClassに回答させた。また、質問や感想なども記入できるようにし、次の講義までに寄せられた質問に対しては、講義のはじめにPowerPointにまとめて毎回答えるようにした。毎回提出する小テストに20%を配点し、レポートに80%配点した。そのため、学生の学習や小テストに対する解答が成績に反映されるようになった。学生の感想には、「学生の声に耳を傾け、質問を受け入れてくれる点が嬉しかった」、また、「質問の解説を次の授業で時間をかけてしてくださったので、より理解が深まりました」というものがあった。講義内容の評価に関しては、「身近なものを例として出してくれるので授業の内容を理解しやすかった」、また、「映画や音楽などを取り上げて、私たちがより分かりやすく、楽しく授業を受けることができるように工夫していた点」がよかったなどの肯定的な意見がいくつも寄せられた。講義を改善すべき点としては、予習復習のポイントを明示して学習効果を高める努力をすること、PowerPointに図式や画像を増やして視覚的にも興味を抱きやすいものにすることが挙げられる。これらの点に関しては今後の課題としたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	思想・文化をめぐって1<国際科目群>
授業コード	13A06-901
教員名	MCMULLEN, Matthew
教員コード	103838
登録人数	33
回答数	12
回答率	36.4%
休講回数	0回
補講回数	0回



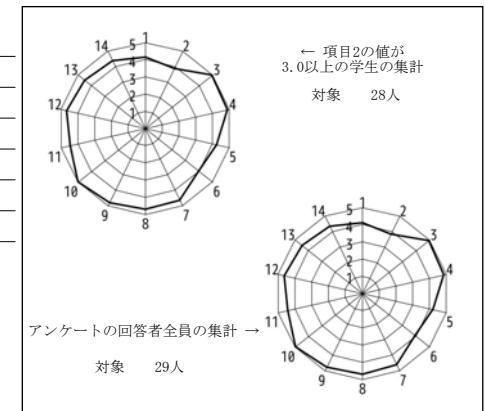
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was the first time teaching this course and my first time teaching a course in English at Nanzan. We had to make sudden adjustments when the course was moved online. My original plan was to include more decision and use of media in the classroom. However, due to the online format, it changed to more lectures.

If we have in-person classes next year, I will continue some of the lectures on history. But, I will also add some group activities to make the class more engaging, and to allow students who are not as confident speaking English to work with fellow students.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教文化
授業コード	20A08-001
教員名	清水 美佐
教員コード	152757
登録人数	66
回答数	29
回答率	43.9%
休講回数	0回
補講回数	0回

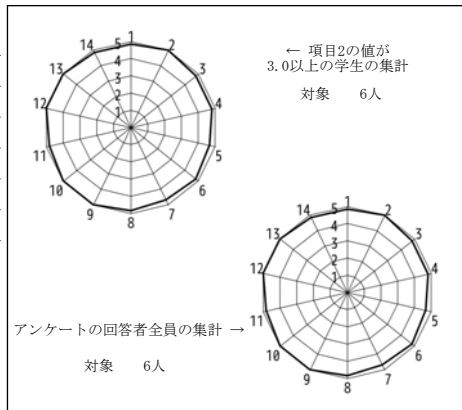


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①設定した目標は以下の通りである。「様々な時代や地域にわたる聖堂装飾の作例を見、その特徴をつかむ。図像を見て、それがどの時代・地域のものであるか判断できるようになる。モザイクやフレスコなど、聖堂装飾における表現技法の知識を得ている。」 到達の程度については、期末レポートを見る限り概ね達成されているが、「時代・地域の判断」についてはやや出来が良くない傾向にあった。
- ②全体の数値は昨年度より上がっているが、昨年に続いて、設問2（主体的に授業に参加し内容を理解しようと努力したか）・設問5（到達目標を理解できたか）・設問6（到達目標に向けて力がついてきていると思うか）が、他項目に比べてやや低く、改善の必要がある。自由記述では、視覚資料（スライド・写真）や、ゆっくりした説明に対する評価が良いようだった。改善を望む点については、キリスト教の知識の少ない学生に対して説明が不足しているという声が2つあった。本科目は2～4年生の様々な学科からの履修生がいるため、いっそう基礎的な説明から充実させられるよう改善する。なお、本科目は今年度もオンライン授業で実施したが、特に学生からの不便はなかったようである。
- ③次年度は授業内容を大きく変更する予定である。今年度までは美術（各地の聖堂装飾）を中心においていたが、より科目名に合った内容として、美術ばかりでなく文化に関わる側面を広げ、履修生が興味を持って学びやすいように改善したい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 組織神学(キリスト論B)
授業コード 21C37-001
教員名 VARGHESE, Rejimon
教員コード 100555
登録人数 7
回答数 6
回答率 85.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



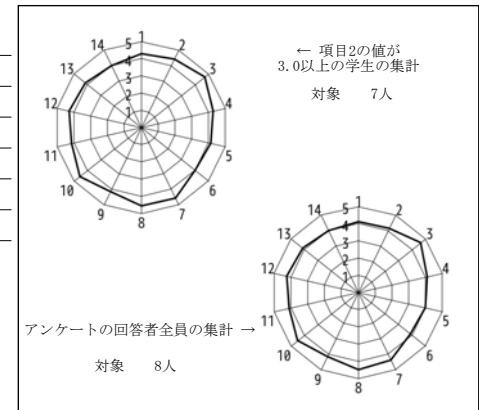
授業評価結果を踏まえた点検・評価

組織神学（キリスト論B）をQ3でオンラインで行ないました。この授業の自己評価は次の通りです。

- ① 開講当初に設定していた目標と到達に関する学生の評価は4.67なので、その目標と到達点に至ったと言えるでしょう。第1回目の講義から第14目の講義までできるだけ授業計画のテーマに沿って行なっていました。ちゃんとした講義録も学生に配分していたこともその目標と到達点に至った一つの大きなポイントではないかと思えます。
- ② 学生によるこの授業の評価項目1～14の平均は4.87なので、総合的には良い評価だと思います。項目15～17の自由記述によれば、改善が求められているようなコメントはほとんどなく、声がよく聞こえていた、様々な知識を得た、非常に面白かった、できれば対面授業がいいというようなコメントしかありません。
- ③ 次クォーターにも今まで通りに講義を行ないたいと思います。対面の場合は、先生と学生との間のやり取りはオンライン授業よりもし易くなるので、講義をもっと楽しく行なっていきたいと思います。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 組織神学(神学的人間論B)
授業コード 21C40-001
教員名 SOUSA, Domingos
教員コード 100753
登録人数 12
回答数 8
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では、代表的思想家の著作から収集した箇所を精読し、そこに展開しているキリスト教の人間論を把握する。これを通して諸思想家の思想に実際に触れてもらうとともに、受講者の研究に必要な文献の基礎的解読力・分析力を高めることを目指している。パワーポイント利用で講義したが、学習の補助のため各項目の内容をまとめたプリント教材も配布した。講義に対する学生の評価結果は、全体として良好な評価であると思われる。自由記述には肯定的評価として「非常に難しい内容でしたが、授業のテキストについて、読みやすく理解できました」などがあげられる。自由記述回答には否定的な評価として「授業の際、今進行している箇所の資料やパワーポイントを画面共有して進行して頂きたかった。口頭でその箇所を指摘して頂きましたが、テンポが速く箇所を理解できずに進行していく場面がありました」などがあげられる。画面共有の不具合があり、パワーポイント利用は不可能であったので、授業についていくのが難しかった時もあったであろう。オンライン形式の授業は継続するならば、この問題への解決策を見つける必要である。「授業評価集計」の設問2、設問5、設問6の得点は多少低い評価となっている。来年度には、講義の各項目についてより分かりやすいレジメを提供し、関連文献を紹介することにより、主体的な学習と学習意欲を向上させる工夫をしたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	聖書ヘブライ語(初級)I
授業コード	21C71-001
教員名	加藤 久美子
教員コード	103475
登録人数	7
回答数	3
回答率	42.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はオンライン形式で行った。講師と履修者がカメラとマイクを使用、タブレットとペンシルによる板書や単語帳アプリなどを画面共有、履修者が手書きの宿題の写真を撮り提出するなどの様々な方法を用い、対面に近い授業を行うことができた。古典語の学習という専門的な内容で、7名と少人数だったが、学習意欲はみな高く、出席率も高かった。

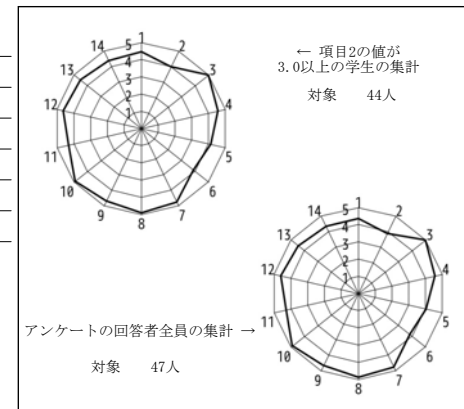
以上のような条件の下、開講当初の到達目標については、ほぼすべての学生において達成されたといえることができる。1つ残った課題は、小テストの方法である。今期はオンラインでの筆記テストでの不正防止の難しさを考え、口頭試問を行った。このため以前と比べ大幅に問題数が減少した。古典語の文字と文法の知識の定着には筆記の小テストの効果が高い。次年度はオンラインでの筆記のテストの方法も準備しておきたい。

回答数が基準に達しないため、チャートは表示されないが、寄せられた回答では全般により評価がえられた。ヘブライ文字の習得を助けるため、教科書のほかに副教材を作成し利用しているが、それらもよい効果を持ったと考えられる。

最後に授業評価の実施に関する反省点を述べたい。この授業が授業評価の対象であることは認識していたが、授業内で学生に告知し、時間を確保することを忘れ、授業の最終回終了後、WebClassのメッセージで回答を依頼した。そのため回答数が少なくなってしまった。今後はこのようなことがないように気をつけたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	考古学B
授業コード	12B02-001
教員名	渡部 森哉
教員コード	101237
登録人数	67
回答数	47
回答率	70.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバス通りに授業を行った。最終回までオンラインで授業を行った。登録者67名中47名から回答があった。

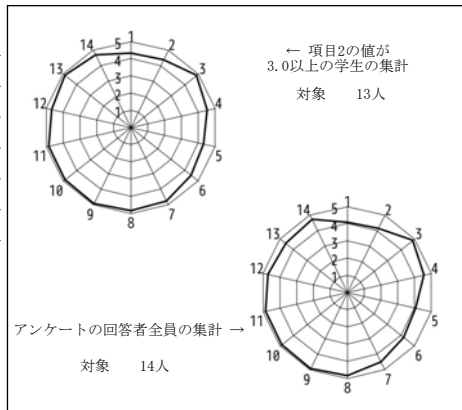
数値データを見ると目標は概ね達成できたと思われる。

質問項目5「この授業の到達目標を理解することができましたか。」と6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」の数値が低い。これは、最終レポート提出前にアンケートを行ったため、実際に自分にどれだけ力が判定できなかったことが一因であると思われる。しかし、例年と比較して数値が低いので、今後授業中に課題を設定し、それに対する評価を伝えるなどの工夫をしていきたい。

27名が自由記述で意見を寄せてくれた。リトルワールドでの学外授業を評価する意見(8名)、質問に回答があることを評価する意見(6名)、豊富な資料を用いている点を評価する意見(6名)、など好意的なコメントが多かった。一方で、課題もある。話し方について、抑揚をつけるなどしてほしいという意見があった。オンライン授業で、学生の反応を確認できなかったが、対面授業では話し方に気をつけてたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 東洋史B
授業コード 12B06-001
教員名 西江 清高
教員コード 019356
登録人数 41
回答数 14
回答率 34.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

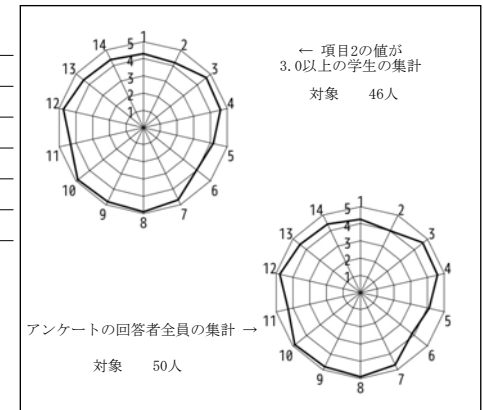


授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生による授業評価の設問項目5、6は授業の到達目標に関する質問事項である。全学的にもやや低めの評価が出やすい項目のようであるが、本授業でも他の項目に比べて相対的に評価は低く、要検討である。今後はシラバスに記載する到達目標について、学生から見てより具体的に捉えやすい内容とするよう工夫したいと考えている。授業のなかで受講生に対して到達目標を自覚させるということも必要であろう。設問項目8～12は、おもに授業の運営面に関するものであるが、いずれも比較的良好な評価が得られた。これは担当者としてはすこし意外でもあった。授業はすべてzoomによるオンライン方式としたのであるが、このことがかえって良い結果となった可能性もある。本講義では、図・表の提示や写真資料の提示を頻繁に行うが、オンライン授業なので学生各自が自身のPCに配信されたPowerPointのスライド資料を見ることで、教室における対面授業の場合よりも、むしろ鮮明な状態でスライド資料を確認しながら受講できたのだろうと考えられる。本講義のようにPowerPoint等のスライド使用を中心とした授業においては、オンライン方式が有利に働くこともあると思われる。コロナ禍以降の通常の対面授業においても、オンライン授業の利点をうまく組み合わせる方法を検討してみたいと考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化人類学B
授業コード 12B14-001
教員名 吉田 竹也
教員コード 019158
登録人数 73
回答数 50
回答率 68.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

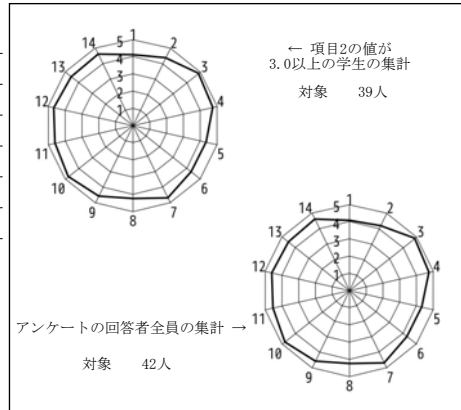
今年度から新たに担当することになった科目であり、テキストをもちい、これを画像で補完しつつ、インドネシアのバリ島の文化・近現代史・観光に関する具体的な民族誌的トピックを取り上げ、文化人類学のエッセンスを紹介するという趣旨の授業である。

数値データや自由記述をみると、こうしたねらいは十分理解され、また好意的に評価されていると考える。コメントの中には「バリ島についての内容が多面的に知れる講義でした」「私には教授がよく言われる”バリ化されたバリ島”という言葉がすごく印象に残りました」「写真や画像を多く資料として共有してくれたので、イメージが湧きやすかった」「面白かった」などがあつた。また、「先生の自著を利用した授業で、完璧な配分で授業が行われていたこと。進みすぎず、かといって遅れすぎないために予習の効果がはっきりと出る点」というコメントもあり、あらかじめ次の授業で取り上げるテキストの章を読んでおくことの意義も、わかっていただけたようである。

今年度はオンライン授業であった。次は対面でも、同様の評価を得られるよう、しっかりと準備をしていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化の比較4
授業コード 13A01-004
教員名 齋藤 喬
教員コード 103192
登録人数 79
回答数 42
回答率 53.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

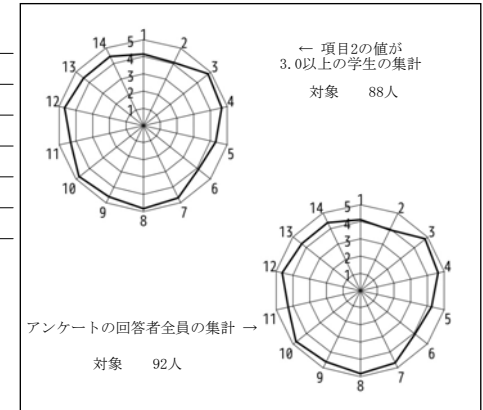


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 期末レポートの提出状況および記述内容を見る限り、「文化的な存在」であることの自覚を通じて他者の文化を反省的に見直す態度を身につけるという到達目標は、受講者の七～八割において達成することができていた。
- ② ただ、アンケート結果を見る限り、自分が到達目標を理解し達成していると実感できている受講者が少なく、設問5と6の数値が学際科目の平均値と比較して0.04～0.05ポイント低く出ている。しかしながら、自由記述の結果から、ミニテストとフィードバックの繰り返しによって思考力と記述力の向上を目指すというこの授業の形式は、従来通り今クォーターでも踏襲したが機能しているとわかった。
- ③ また、設問9と10の数値が低く出ており、両者の点において今後の授業においては改善が必要である。具体的には、オンライン授業の場合、視覚教材の活用やネット環境の改善によって、今クォーターで生じた不具合に対応することになるだろう。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アジアとの出会い2
授業コード 13B02-002
教員名 宮沢 千尋
教員コード 019562
登録人数 155
回答数 92
回答率 59.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

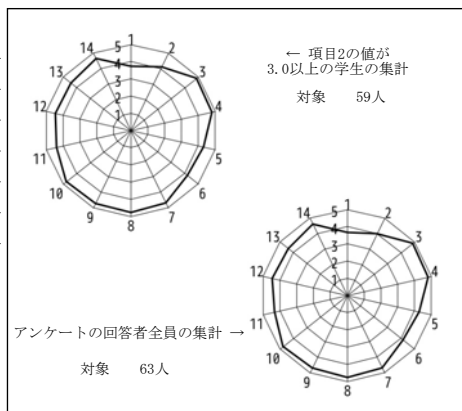


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 履修者の9割以上が単位を取得し、ほとんどの学生がA評価であったので目標に到達できたと考えている。
- ② 項目1から14の平均は4.45、3から14の平均は4.52でそれぞれ学際科目の平均より、0.1、0.09低い。項目13は4.35、14は4.37で平均より0.2ほど低い。成績に比べ、履修者は学修目標への到達感が得られなかったのかもしれない、今後の課題である。自由記述で評価されたのは、毎回レジメを用意したこと、授業内容がわかりやすく興味深かったこと、質問に誠実に答えたことなどで、いずれも複数記述があった。一方で、日本史と世界史を分ける発想ではなく総体として歴史を見るという授業方針に対し、「高校では日本史選択で世界史をそもそも知らないのでは内容がわからないし、用語も難しい」「世界史未修者のために、世界史の基本事項の授業を行い、予習・復習テストを実施してから授業内容に入るべき」「時々授業がつまらないと感じた(原文ママ)」という記述も少数ながらあった。指定図書(山川もう一度シリーズ)や世界史の基本事項のウェブサイトを授業中に紹介し、実際に授業で使って見せし、自由記述で評価されたように質問はいつでも受けつけて誠実に答えたつもりだが、これらの学生には全く役に立たなかったということだ。
- ③ 「テンポ良く話してほしい」などは改善したい。授業内容に関しても改善を心がける。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 イスラムとの出会い2
授業コード 13B03-002
教員名 石原 美奈子
教員コード 100080
登録人数 191
回答数 63
回答率 33.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

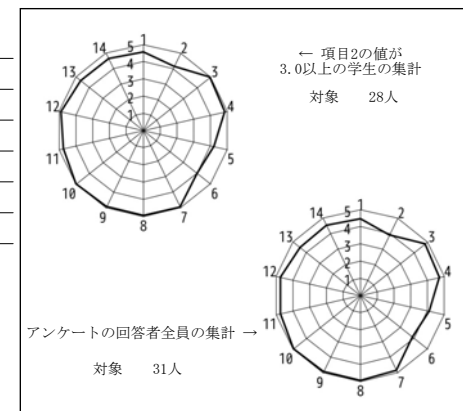


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、イスラームに関する基礎的な知識を伝え、その歴史や文化に関する理解を深めることを目的としていた。そこで、まずイスラームの歴史的展開を辿るとともに、イスラームの近現代史のなかでサラフィー主義（イスラーム復興主義）がどのように発展・普及してきたかについて概説した。毎回webclassに小テストをアップして、期限を定めて受けてもらい、それをもとに成績評価を行うことにした。すべてオンラインで授業では出欠をとらず、講義資料用ポータルサイトに講義用のPP資料をあげ、小テストもPP資料から出題したので、授業を受けなくても成績がつくと思われたのか、出席率は低かった。そのことはアンケート回答率の低さにも表れている。出席し、アンケートに回答してくれた学生は、授業に積極的に興味をもってくれた人が多かったので、授業は高評価を得た。来年度は、対面授業となるのであれば、webclassでの復習と最終試験を組み合わせる成績評価を行うことにする。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代の倫理学
授業コード 22C11-001
教員名 奥田 太郎
教員コード 100642
登録人数 103
回答数 31
回答率 30.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



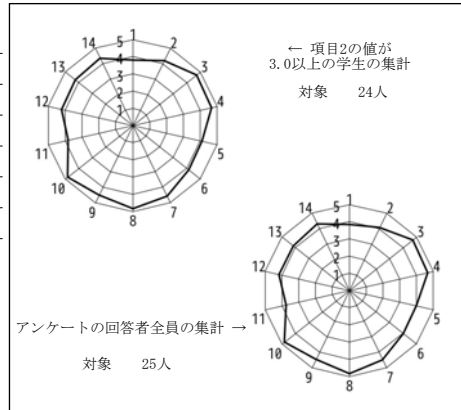
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初設定した目的は、(1) 倫理学という学問の基本を理解している、(2) 専門知と倫理の関係がなぜ問題となるのかを理解している、(3) 提示された分析や議論に対して、自分自身がどのようなスタンスと考えをもっているのかを意識できる、の3点であったが、関連する設問項目(5と6)に対する回答の平均値は、4.13と3.87と他の項目に比べてやや低めであったため、受講者側の目標に関する理解と到達の自覚はあまり高くなかったようである。しかし、提出された論述課題の記述を見る限り、多くの受講者が上記の目標をおおむね達成していたと言ってよい。自由記述回答からは、授業が丁寧に進められていた点、授業の録画動画をアーカイブとしていつでも視聴可能にしていた点が好評であったと窺われる。他方で、オンラインでは他の受講者の顔や反応を見られないので対面でも受けてみたかった、という声もあった。

次年度のこの授業では、好評であった基本線は維持しつつ、受講者に対してこの授業の目的と到達イメージを周知するよう努め、授業内容が受講者の思考の中に位置づけやすいように促していきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	近世哲学史I
授業コード	22C29-001
教員名	谷口 佳津宏
教員コード	016550
登録人数	66
回答数	25
回答率	37.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

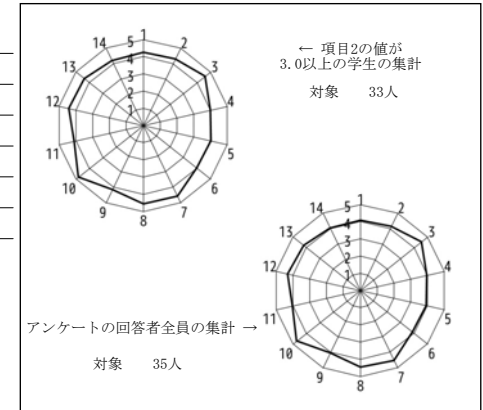


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した到達目標は「1. 近世の哲学の流れについて理解している。2. 近世の哲学の特徴を理解している。」の二つである。目標到達の程度を試験の成績から見てみると、受講登録者数66名中、最後の定期試験の受験者数は53名で、そのうち合格者(C以上)は9名であるので、実際にはかなりの数の学生が到達目標には達しなかったと言わざるをえない。もっとも50点台が14名あり、もう少し努力すれば合格圏内であったことが惜まれる。いずれにしても、マークシート方式の出題なので採点に私情をはさむ余地はなく、理解度をみるための試験形式としては論述式等より適切なものと考えている。設問項目1と11の数値が際立って低いことに示されているように、元々モチベーションがあまり高くはない受講生からいかにして学習意欲を引き出すかが今後の課題であるが、今のところ、これといった具体的な対策は見出しえていない。自由記述欄には「今まで哲学には触れてこなかったし、あまり興味もなかったのですが、この授業を受けて、面白いなと感じ、興味をそそられました。」とか「難しい内容はホワイトボードに書いて説明してくださったので、理解が深まりました。」といった記述があった一方で、「パワーポイントがもう少し詳しくあるともっとわかりやすいと感じた」といった指摘もあったので、とりあえずは、パワーポイントをもう少し改善することで今後の授業に備えていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文化史B
授業コード	22C42-001
教員名	青山 幹哉
教員コード	019323
登録人数	94
回答数	35
回答率	37.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

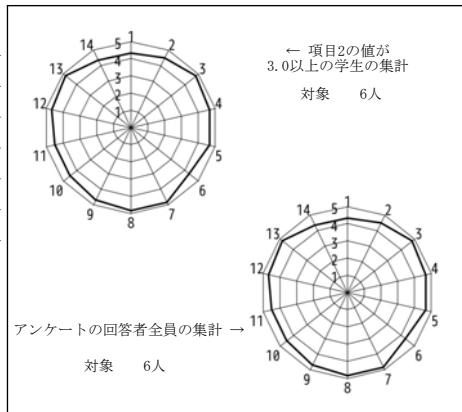


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 目標は、(1) 歴史認識の形成過程を文化史的に考えることができる (2) 歴史叙述の内容について、複数の視点から分析することができる、の2点であった。設問6の平均値は3.89と4を割る数字となり、最終の成績評価においてB以上の者も試験受験者の6割に止まった。目標達成の程度としては、残念ながらあまり芳しいものではなかった(とくに他学部の成績が悪かった)。
- ② この科目は、2018年度Q2学期における学生評価の対象であった。今期はオンライン授業となったため、やや異なる点もあるがほぼ同じ項目なので、設問1～14の回答平均値を比較したところ、今回アップした設問が5、ダウンした項目が9、となった。多数の項目に1を付けた学生の自由記述欄には「スピードが早い、わかりにくい。レジュメの重要な部分がわからない」「分かっていることを前提に話さないで」との痛烈な批判があった。ただし、授業方法については「小課題の解答後の解説が豊富であった」「(疑問点を質問した際)とても丁寧に回答して下さったことがありがたかった」といった肯定的評価の学生も当然ながら多い。学科科目なので他学部生にとって簡単な授業ではないことはわかるが、そのレベルに授業を合わせることはやはり難しいと言わざるを得ない。
- ③ オンライン授業・ハイブリッド授業のため、受講生からの質問を受ける機会がほぼ無くなった。そのため、WebClass に質問の掲示板を立ち上げたところ、好評であった(設問12の平均値は4.31、自由記述欄でもこのことに触れた記述があった)。次回以降も継続したい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域の文化と歴史(ヨーロッパ)
 授業コード 22C50-001
 教員名 坂下 浩司
 教員コード 100471
 登録人数 19
 回答数 6
 回答率 31.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

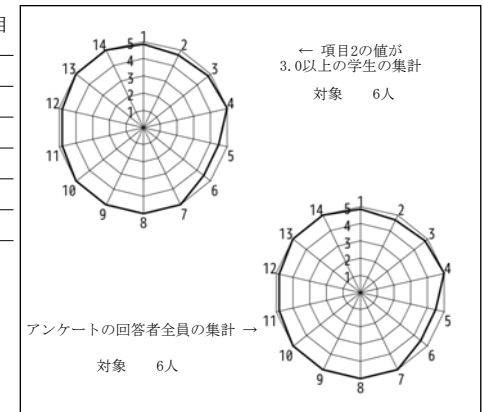


授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 開講当初に設定していた到達目標1「古代ゲルマニア諸族の特性を理解している」については、提出されたレポートから確認された。目標2「同一原典の訳を比較して読解する力が身についている」についても、同様である。したがって、到達の程度は高いと判断した。(2) 数値データは、「項目1から14の平均値」が「4.61」(「項目3から」は「4.64」)でかなり高い満足度の講義ができたと思われる。各項目を見ても、「2」以下はなく、いくつかある「3」も1名である。「自由記述」は、「発表型であったため、講義型の授業つづきのなか、メリハリがついた」(教員の補足コメント: パワーポイントを画面共有して「発表」をし、そのあと出席者からの質問を受けて答え、答えられない場合はレポートで調査報告をすることとした)、「内容や知識を知るのではなく、資料から読み取る力を付けることができた」、「資料を読み込むのと、発表を通してさらに理解が深まった」、「先生が積極的に質問をしてくださるため、生徒も質問がしやすい環境だった」(教員の補足コメント: これは今回自分でも工夫した点であったのでうまくいってよかった)。(3)の「今後の課題」であるが、自由記述で、質問をしたこと自体にも評価の点が欲しいとあった。質問は、私が司会として順に当てたので、休んでいない限りはすべての人が質問をしたはずであり、その点での不公平はないはずだが、今後の課題としたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化コミュニケーション<国際科目
群>2
 授業コード 22C53-902
 教員名 ANTONY SUSAIRAJ
 教員コード 103820
 登録人数 6
 回答数 6
 回答率 100.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

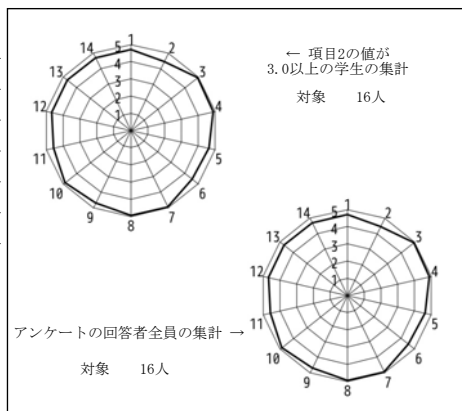


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goal set for the course was to know the cultural differences in the world, and how to understand other cultures, and how to handle the cultural differences with the people of other cultures, and how to have a successful communication with the people of other cultures. It is achieved by learning the skills through lectures, by watching video clips regarding inter-cultural experiences of Japanese in abroad. There was also online talk on 'Cultural Differences' by a foreign professor living in Japan.
2. 4/5
3. Planning to arrange a lot of sharing sessions on inter-cultural experience by the people who lived abroad

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義 (弥生・古墳時代論)
授業コード 22C78-001
教員名 黒澤 浩
教員コード 100758
登録人数 27
回答数 16
回答率 59.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

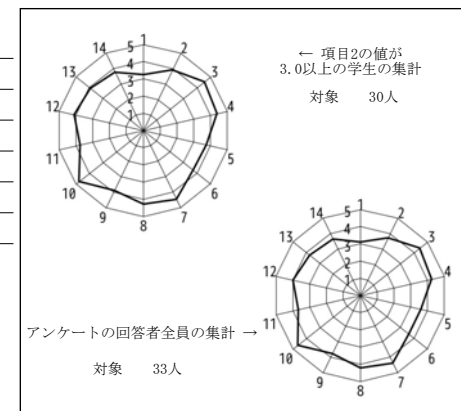


授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生からは高評価を得られたと思う。ただ、質問の受け方等についてWebClassを活用するなど、学生からの提案もあり、次年度には改善したい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[P]3
授業コード 10A51-016
教員名 ABRAHAM, Joy Plathottathil
教員コード 104278
登録人数 115
回答数 33
回答率 28.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

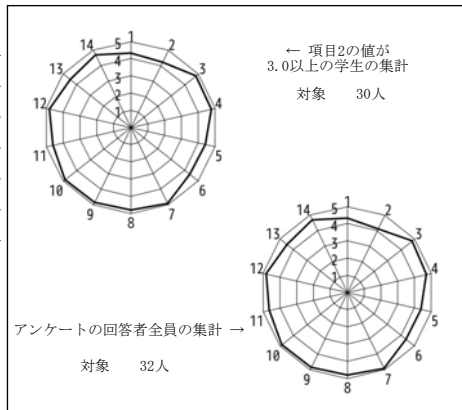


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. After evaluating the reviews and final essays I have the impression that most students have understood the main purpose of this lectures.
2. Generally the students were very interested in the lectures. Some students were often absent from the lectures. Nonetheless, there was no problem with discipline in the class room.
3. Although majority of the students have no idea about Christianity and Christian values they tried their best to understand. I am happy about the responses and proud of them for their sincere effort to grasp things which are not known to them well.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育・文化における人間の尊厳1
授業コード 10D07-001
教員名 青木 剛
教員コード 103923
登録人数 37
回答数 32
回答率 86.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

本科目では、講義で説明された健康観、心理学概念を理解し、健康の多様性について理解を深め、自身の健康観を主体的に考え自身とは異なる健康観との共生に向けて創造的に思考を展開できることを目標としていた。そのために、講義以外にもディスカッションやグループワークを含む演習を実施したが、受講生は、熱心に取り組み互いに発想したことをシェアすることを通して多様性への理解を深めているように見受けられた。また授業内でも積極的に発言がなされていることから、主体的に授業に関与している様子であった。これらのことから、本科目の到達目標は達成できていたのではないと思われる。

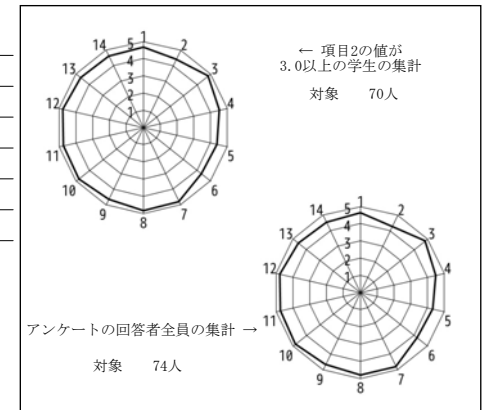
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

アンケート結果から、概ね4以上であり学生から高い評価が得られたことが見受けられた。また、自由記述からも、教員—学生間や学生同士でやりとりをしながら進められた点が評価されていたことが伺えた。到達目標の達成のためにディスカッション等を取り入れた授業計画を立てていたが、そのようなセッティングが授業効果を高め、学生の満足度を高めていることが分かった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今後も、上述のような学生による授業評価や授業の満足度を維持・増進できるように工夫したい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学B3
授業コード 12E04-003
教員名 伊東 留美
教員コード 063834
登録人数 196
回答数 74
回答率 37.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

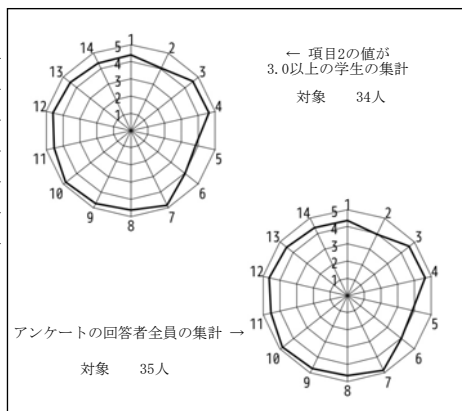
本講義は、共通教育科目（情報と科学）の選択科目であり、対象学生は全学部・全学年である。受講生は196名で、その内の74名がこの授業評価に回答をした。

本講義の到達目標は、社会心理学、パーソナリティ心理学、臨床心理学分野に関して、「各分野の概要を理解していること」「基礎的な事項について説明できること」「生活の諸側面における具体的事象と心理学的知識を関連づけることができること」の3つである。項目4の結果(4.34)から、およそ4割程度の学生が到達目標の理解をしている一方で、到達に向けて力がついてきたと感じる学生は若干少なかった(項目6: 4.23)と言える。また、全体としての満足度(項目14)は、4.53であり、新しい知識や理解の深まり(項目13: 4.58)と繋がるような結果となった。学生の知的好奇心を高めるような工夫がさらに必要だろう。

課題としては、教員の授業の進め方(項目4: 4.49)やテキストや資料など利用方法(項目9: 4.66)が挙げられる。自由記述欄には、「説明がわかりやすい」「スライドが見やすい」「興味深い動画を見ることができた」など授業での教材を評価するコメントがある一方で、「進行がずれていく」や時間配分の悪さを指摘するコメントがあった。実際に授業の後半で早口になって残りの内容を進めていくということが何度かあった。進め方については、授業内容と時間配分の調整を再検討するようにしたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ころとほ1
授業コード 13E01-001
教員名 藤田 知加子
教員コード 100382
登録人数 64
回答数 35
回答率 54.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

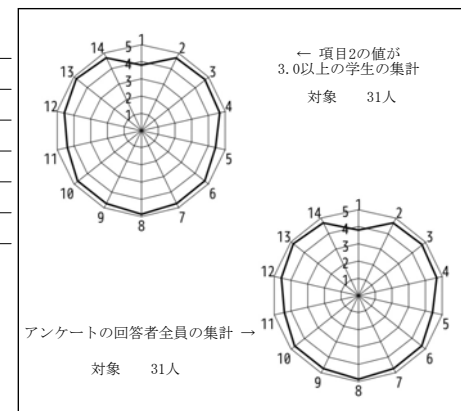


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
最終レポートの達成度から、おおむね目標は到達できていると考える。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
「学生の考えや質問に対する毎回のフィードバック」、「目標のわかりやすさ」、「授業ごとのテーマがはっきりしていて、今どういう目的でその話を聞いているのか分かった」など、授業運営上工夫を心掛けた点が学生の自由記述でも評価されていた。
また、論理的に考えるということを学べたという声もあり、大きな目標として考えていたことがある程度学生に伝わったと思われる。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
「たくさんのビデオや資料を用いた授業進行」、「授業に役立つ書籍の紹介や、動画の閲覧などがあり、考えを深めるきっかけとなった」などの声があったことから、次年度以降も資料などの提供を適切に行うつもりである。また、授業の初めに行う感想とフィードバックについての資料は、画面共有でのみ呈示していたが資料として手元に欲しいという意見もあったことから、その点を改善したい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IC
授業コード 23A06-003
教員名 解良 優基
教員コード 103910
登録人数 41
回答数 31
回答率 75.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

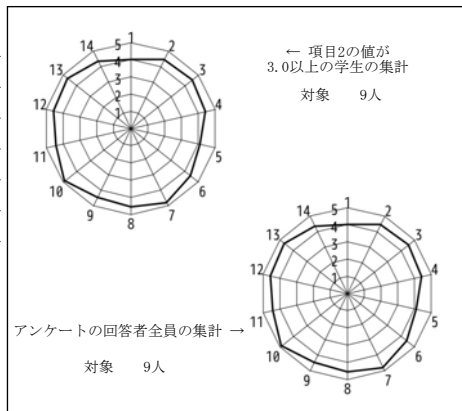


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 本授業の目標は、以下の4点であった。
- ・統計の必要性を理解する。
 - ・新聞等に掲載されるアンケート結果を的確に読み取るための知識を身につける。
 - ・表計算ソフト（Excel）を用いて簡単な統計処理ができる。
 - ・記述統計についての基礎知識を習得する。
- 小テストやExcelに関する課題の提出物より、上記の目標は概ね達成したと考えている。授業評価アンケートの結果も概ねポジティブな印象であった。
- 本授業は、反転学習と協同学習を組み合わせた授業形式で行われた。自由記述では、「予習で理解し、授業ではグループで教え合うという方式は理解が深まり良かった」というコメントや、グループでの話し合いの中で自身の疑問や不明点などを解決しながら進められたというコメントが多く得られた。これらは、本授業で意図していた学びや相互作用が学生たちによってなされており、本授業のねらいが一定程度成功していたことを示唆するものと考えられる。
- 一方で、課題の未提出も少数ながらみられたほか、提出された課題のクオリティにもまだまだ改善の余地があると考えられるため、予習・復習と言った授業外での学習をいかに深めていくかは来年度の課題と思われる。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理人間学基礎演習IIB
授業コード	23A09-002
教員名	高橋 亜希子
教員コード	103582
登録人数	25
回答数	9
回答率	36.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

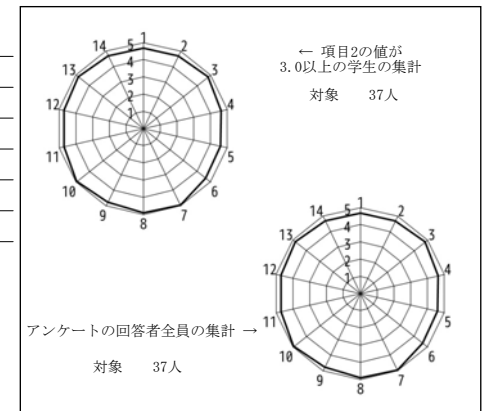


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、昨年度はオンラインで実施した。今年度は対面に戻り、やはり対面のほうが学生の関係性や進行状況もわかり、学生に対してより細かく支援ができたように感じた。また、グループから抜け落ちてしまうメンバーが出ないように、各グループのメンバーとコミュニケーションを多く取るように心掛けた。そのことが「先生が、授業中にアドバイスをたくさんしてくださって、自分たちがレジュメを作成していく中で必要なことが分かった。」「グループワークをする中で、先生がそれぞれのグループをコミュニケーションをとれていた」という自由記述での意見に繋がったのだと思う。グループでの作業を妨げないようにと活発に話しているグループは見守る形とした。（そのため、「先生が必要以上に指導されることがなかったおかげで、グループで自由に研究を進めることができた」という意見もあった）反面の反省点としては、グループでの作業が進展していると思い、そのままとしていて、発表時に発表前に支援・指摘が必要だったと思うことがあった点である。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	質的研究法I
授業コード	23C49-001
教員名	川浦 佐知子
教員コード	055855
登録人数	39
回答数	37
回答率	94.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

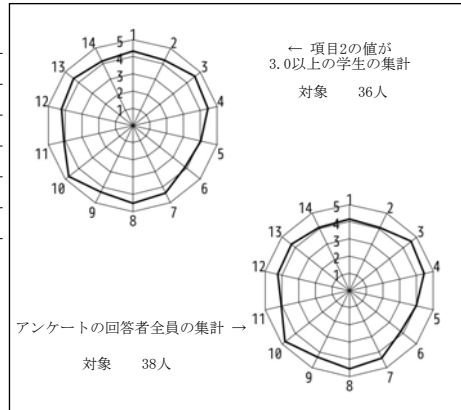


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標は、1) 質的研究の特徴及び理念の理解、2) 質的研究の手法の理解、3) インタビュー調査実施の仕方、及び逐語分析の手法の習得、4) 研究実施に関わる倫理的問題の理解であった。授業では質的研究の基盤となる社会構成主義の概要を理解した後、学生は各自、自分が取り組む研究目的の明確化、研究対象者の設定、インタビュー質問の作成、インタビュー・ロールプレイの実施、逐語録の作成とその分析を行った。学生は自ら設定した研究テーマに沿って課題に取り組み、提出週の授業において他の学生とペアになって互いにフィードバックを交わした後、教員に課題を提出。教員は課題にコメントを付して翌週返却し、授業内でいくつかの提出課題をケースとして取り上げ、優れた点、改善点などを示した。課題が多く、学生にとっては負荷のかかる授業であるため、予習、復習の自主学習に関する設問2の平均値は4.68であった。設問1の平均は4.68であり、受講生は目的意識を持って受講していたと考えられる。学生からは、「質的研究の考え方から扱ってくれたので、研究に対する理解が進んだ。」「授業内での先生の指導やアドバイスがかなり丁寧だった。」「フィードバックがちゃんと返ってくるので、自分の足りない点のわり、回を重ねるごとに質の高い課題が書けた。」「(他の学生と)課題を共有して、新しい視点を得ることができた。」「先生が授業内で事例を挙げることが頻繁にあったが、学生の研究の内容を使用して説明してくれるのがすごくよかった。」「この授業を受けずに卒論を書くことを考えるとゾッとすくらい得るものが多かった。」といったコメントが寄せられた。当初の授業目標は概ね達成されたと考えられる。課題としては、時間の関係上、限られた分析手法しか実習で取り組むことができなかった点が挙げられる。次年度はアクション・リサーチにおけるインタビューの位置付けを概説するとともに、グラウンデッド・セオリー・アプローチも実習で取り上げたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化と情報2
授業コード 13E09-002
教員名 坂井 博美
教員コード 102981
登録人数 89
回答数 38
回答率 42.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

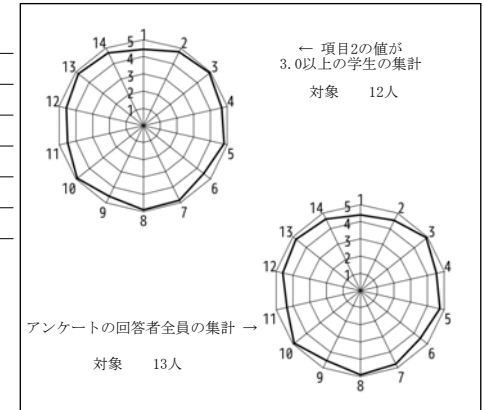


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度の授業形態は、オンライン授業であった。各回ごとに小課題（授業の内容から考えたことをまとめる、文章を読んだうえでの課題など）を提出してもらい、次の授業でその提出物の一部を紹介することを導入にして、授業を進行した。この点については、毎回自分で考える課題が出されていたことがよかったなどの肯定的な評価も多かった。ただ、長文を読むことが苦手で大変であったなどのコメントもあり、この点、補足的説明を行うなどの工夫を考えたい。アンケート機能を用いることもあったが、これについては数回利用にとどまった。しかし、アンケートについて「全員で授業に参加している一体感を感じられた」といったコメントもあり、よりそうした工夫を行うことが課題である。問「授業の到達目標に向けて力がついて来ていると思いますか」のポイントが高くないことも反省点として残り、今後、受講生に情報や視点、思考力の獲得をしてもらいそれを実感としてもてるよう、全体的に上昇させていくために、上記の工夫等によって高めていきたいと考える。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本文化史A
授業コード 24C11-001
教員名 松田 京子
教員コード 100789
登録人数 38
回答数 13
回答率 34.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

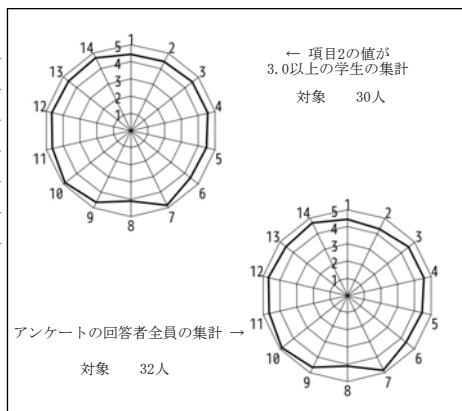


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①この授業では、博覧会という具体的な出来事を切り口として、近代日本の社会・文化および思想状況を考察するという全体テーマのもと、講義形式でオンラインによる授業を行った。主な教材としては、教員作成のプリントを資料DLサーバにアップロードするとともに、パワーポイントを作成し、それへの解説を中心に、適宜、写真や地図等も提示しながらテーマを掘り下げていった。そして毎回、授業で扱った内容について考えた点や、質問・感想などをリアクションペーパーとして書いてもらい、webclassからの提出を求めた。そして次の授業の冒頭で、前回の復習も兼ねて、そこに書かれた感想等をいくつか紹介し、質問に答えることで双方向の授業展開を目指した。このような方法で授業を進め、開講当初に示した授業計画は、ほぼ予定通り進行することができた。
- ②上記のような授業の構成や進度、授業に取り組む姿勢や方法については、「学生による授業評価」の授業評価集計の設問4の平均値4.54、設問7の4.77、設問9の4.54、設問12の4.62、設問13の4.77、設問14の4.62という比較的高い数値から、おおむね好評であったと思われる。とりわけ「自由記述欄」では、前回の授業のリアクションペーパーの紹介について、復習として知識の定着につながり、オンライン授業でも教員とのやりとりが実感できるなど、好意的で具体的な意見を複数の学生が寄せてくれていた。まだオンラインによる授業運営についても、授業の開始・終了時間に関する設問3の4.92、音声状況に関する設問8の4.92、授業の妨げとなる行為への対処に関する設問10の4.92と極めて高い数値であった。
- ③以上のことから、好評であったリアクションペーパーの紹介と復習や、疑問点への補足説明などについて、より効果的に行えるよう、時間配分も含めて工夫していきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本文学史C
授業コード	24C31-001
教員名	岸川 俊太郎
教員コード	103907
登録人数	82
回答数	32
回答率	39.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2021年度Q3の開講科目「日本文学史C」について自己点検・評価報告を以下に行う。

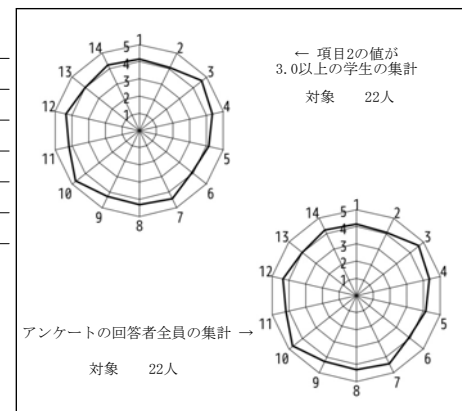
まず、①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考える。この点については、「学生による授業評価」の設問5、設問6でそれぞれ、4.47、4.38という評価を得たことから確かめられる。

次に、②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてであるが、「学生による授業評価」では、全ての設問項目で全学部（全体）の平均値を上回った。また、全体的な評価となる設問13、14では、ともに4.56、4.69という高い評価を得た。以上の数値データから、当該授業の目標並びに学生に求める理解は概ね達成することができたと判断する。

最後に、③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針について述べる。設問2（「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」）については、他の項目より評価が低かったため、次クォーター・学期以降に向けて改善したい。予習に関しては適切な事前課題を課し、復習に関してはリアクションペーパー等の内容を次の授業でフィードバックすることで、学生の主体的な学びの充実を図りたい。また、授業で配布するレジュメについても学生の理解がより深まるように内容の改善に努めたい。また、インターネットの通信環境の不安定さを指摘するコメントもみられた。こちらについても改善に努めたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	女性と古典文学
授業コード	24C39-001
教員名	辻本 裕成
教員コード	019042
登録人数	71
回答数	22
回答率	31.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスに掲げたこの授業の到達目標は以下の通りであった。

- 1 一つの古典作品をさまざまな方向から読み込むことにより、古典文学を読むことの深さと面白さに気付いている。
- 2 当時の女性が置かれていた地位、受け入れざるをえなかった運命を理解することによって、性差と社会の関わりなどについて考えることができる。
- 3 国文学研究のすぐれた成果について知り、文学研究のあり方を理解している。

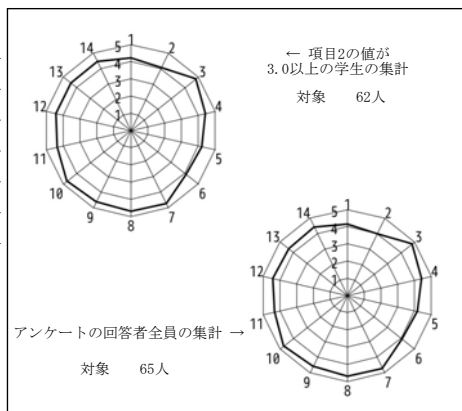
スキル科目ではないこの種の科目は、達成度が自覚しにくい面はあるものの、到達目標を強調し、それとのかかわりを意識させながら講義することが非露であったかもしれない。

この授業は、やや難解なものとなるため、オンラインで講義をやりながら、学生の理解度がどの程度かがわからなかった。また、テキストのページ数などを示した場合に、対面授業であればページをめくる音などで学生が該当のページをめくったタイミングがわかるが、オンライン授業ではそうもいかず、オンライン授業の難しさを感じた。

100分授業の途中で小休憩を取ったが、自由記述欄を見る限りそれは好評であった。授業時間を確保しつつ、間に休憩を取るのには、対面授業に戻っても継続すべきかもしれない。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	南北アメリカとの出会い1
授業コード	13B05-001
教員名	上村 直樹
教員コード	102463
登録人数	228
回答数	65
回答率	28.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価では、全般的に比較的高い評価数値が得られていたが、従来の評価結果と比較して少し違った傾向も見られた。授業全体に関する満足度や評価に関する項目11～14の部分が従来と比べて比較的高い数値が出た一方で、授業の到達目標に関する項目6・7がそれぞれ4.17、4.08と、他と比べて低い数字となった点である。今回、必ずしも従来と比べて授業でのこの点の説明を怠ったわけではないが、以前、当該項目で低い数字が出た直後の授業におけるこの点の説明に関する熱意がやや失われていた点があったかもしれない。ちなみに本講義の到達目標は、① 南北アメリカ社会の多様性を理解している、② 米州関係の歴史的展開を理解している、③ 南北アメリカにおける異文化間の交流・摩擦・共存の歩みを理解している、であり、この旨シラバスに記載してきた。今後の対応としては、改めて授業において到達目標の説明をしっかりと行うとともに、毎回の授業がいかにかそうした目標につながるかといった点についてもさらに学生の注意を喚起していきたい。また上記の到達目標自体の適切性についても改めて検討していきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語科指導法D2
授業コード	15B60-002
教員名	浅野 享三
教員コード	070912
登録人数	5
回答数	4
回答率	80.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

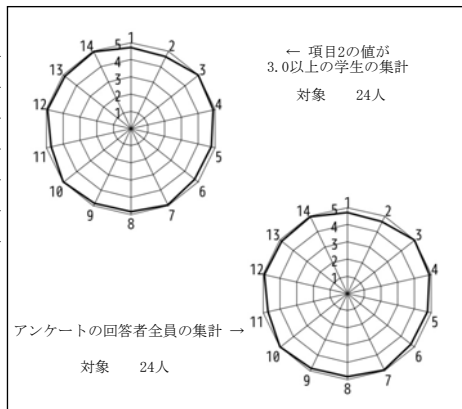
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ・履修登録者5名、回答者4名の授業について、数値的な評価対象になりえないことから、項目別評価および2つの自由記述コメントを読んだ。
- ・【到達目標】としていた以下の3項目について、授業者としては全てカバーし、最終レポートから判断して概ね達成したと思われる。
 1. 中学校及び高等学校外国語（英語）学習指導要領と検定済教科書について十分理解している。
 2. 学習指導要領「3つの資質・能力」と共に領域別学習到達目標の設定に関して理解している。
 3. 小学校外国語科学習指導要領を踏まえ、中学校および高等学校を通じた英語教育の在り方について理解している。
- ・【自由記述】にあった、以下のコメントからも当初の目標を達成したと思われる。

「ロールプレイや模擬発表など、より実践的な練習が多かったが、人数も少なかったことで、質問したことや授業の感想等により親身になって回答して下さっていたことが自分の学習意欲に繋がりました。ロールプレイングと模擬授業でも来年の教育実習に繋がる課題や気付きを多く得ることができ、良い経験になりました。授業で話して下さる先生ご自身の考えを通して、先生はこうあるべき、こう教えるべきという自分の固定概念を少しずつ柔軟なものにしていきたいと感じました。これからはより幅広い視点で授業について考えていけるようにしたいです」
- ・規定に従いこの授業が評価対象となったとして、演習以外の5名に満たない授業は、対象から外すべきである。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Language A2
 授業コード 31C11-002
 教員名 今井 隆夫
 教員コード 104239
 登録人数 25
 回答数 24
 回答率 96.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

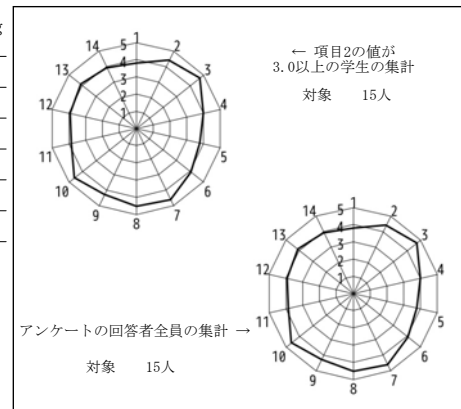


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は、ほぼ到達できたと思われるが、授業でのライブ性を重視したため、一部、予定していた内容が扱えなかった部分はある。
 ②満足度4.96、すべての項目が4.6以上の数値評価であり、達成感や学びがあったと思われます。また、次のような好意的なコメントがあった。「教授の説明がわかりやすいところです。また、議論の際に、教授が生徒の個人的な意見を否定しないところも良かったです。とても発言がしやすかったです。」「授業で扱ったものがどれも興味を引くものばかりで、毎回楽しく授業を受けることができました。」「内容がおもしろく英語を使う機会も多くてよかった。」「ディスカッションを通して、理解を深めることができること。」「ブレイクアウトルームをたくさん作ってくれて色々な人と関わることができたことです。また、質問にも丁寧に答えてくれました。」「ブレイクアウトルームの時間がたくさんあり、対面授業がなく人が話す機会が少なかったためそういう時間がたくさんあったのは良かった」---Zoomでのオンライン授業でしたら、できる限り対面授業と同じように行うことを心がけたが、Zoomであるが故に利点（多くの学生とペアやグループワークができる/投票機能でクラスの意見が即集計でき、それを共有して議論が可能）も生かせてうまくいったと思います。③対面授業でもオンラインの良い点を取り入れた授業を考えていきたいとおもいます。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Language C<国際科目群>
 授業コード 31C13-901
 教員名 SHILLAW, John
 教員コード 100560
 登録人数 36
 回答数 15
 回答率 41.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



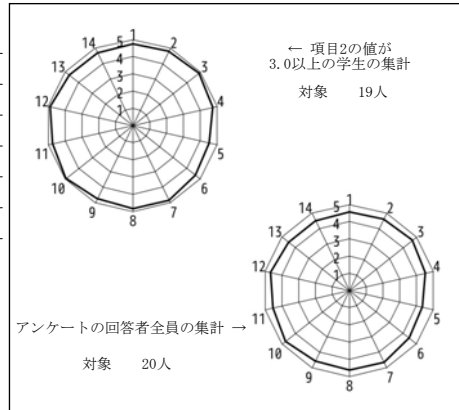
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The content of this course covers not only language but also the history and culture of English-speaking people around the world. The course is challenging when is taught in the classroom, but even more so when it is taught online because it is difficult for me to monitor and help students who are having problems following the content. Having said that, I felt that most of the students did very well and were able to follow the essential content without too many problems.

I made extensive use of videos to introduce and demonstrate how English has changed over the years and I think they helped students understand the main points. However, the level of detail in some videos proved to be too challenging for some of the less proficient students, despite the fact that students could download and watch the videos after the class was over. The results of the quizzes I set after each video which were disappointing because some students didn't read the notes I had provided to supplement each video. Feedback from students suggested that several of the quizzes were too difficult and contained too many questions. In the future I will change the content of the quizzes to make them easier.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Interdisciplinary Studies C1
授業コード	31C18-001
教員名	森山 貴仁
教員コード	104589
登録人数	23
回答数	20
回答率	87.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

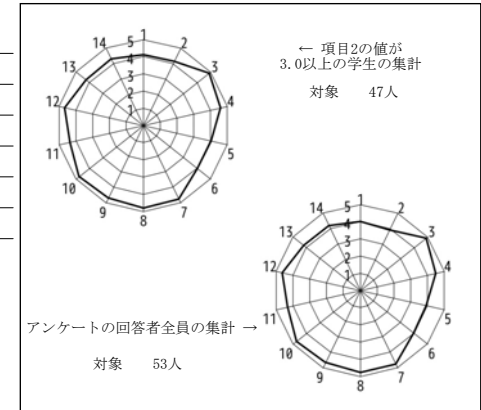
この授業ではアメリカ社会を知る上で重要なテーマを設定し、それらを扱う映像作品を鑑賞したのち、学生と教員の間で議論をするという方法をとった。これによってオーラルコミュニケーションの向上を目指したが、毎週10~15人、つまり受講者の半数が議論に参加しており、一定の成果を得たといえる。

考えるべき点は二つある。一つは授業での言語である。Special Topics として英語による講義を行い、学生の発言も英語で求めたが、日本語での発言も一部許可した。もちろん、英語能力向上の機会と海外の授業形態に近い教育を提供するのが目的とすれば、英語のみとすべきだろう。しかし学生によっては英語で話すのが難しい場合もあり、そのためディスカッションに一切参加しなければ本講の目的にも、国際化の主旨にも合わない。ただ、日本語も許可する方針は学生の間でも賛否があった。今後は、最初の2週間ほどは日本語での発言を許しつつ、その後は英語のみの発言とすることで、英語による自発的コミュニケーションを促す工夫が必要だろう。

もう一点は、議論の枠組み作りだ。学生のあいだで自由な議論をしてもらうため、講義の時間では最低限の説明にとどめたが、かえって何を話せばいいのかわからなかったという意見があった。教員が求めることを汲んで学生が意見を出すことに注意すべきかもしれないが、もう少し議論の方向性を示す必要があるように感じる。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英文法論<国際科目群>
授業コード	31E16-901
教員名	鈴木 達也
教員コード	017871
登録人数	81
回答数	53
回答率	65.4%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

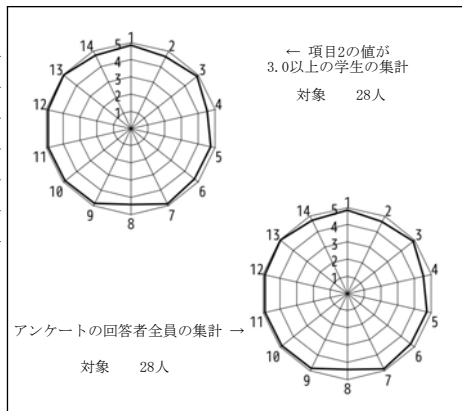
本講義の到達目標は、次の4つであった。1. 英語の音声の仕組みについて理解している。2. 英語の文法について理解している。3. 英語の歴史的変遷及び国際語としての英語の実態について理解している。4. 生成文法論的言語学方法論を理解している。

内容的にかなり難しく、特に2年生に対しては受講には慎重を期すように告げている。受講生の理解を助けるために、WebClassに自己採点可能な小テストを40問用意し、DLサーバにはすべての授業の録画をアップロードして、十分復習ができるようにしたが、自由記述欄のコメントを読むと、それらが授業の理解に役立ったことが分かり、嬉しく思う。一方、評価の数値については、項目3~14の平均は4.47であることから、一部4.0の評価を下回る項目があるものの、全体としては、まずまずの授業ができたものと考えている。到達目標との関連でいえば、自由記述欄のコメントを踏まえると、生成文法論的言語学方法論の理解についてがやや到達度が低いように思われる。

本講義は、比較的規模が大きい授業として、当初はオンラインの形態で始まった。クォーター途中で対面に切り替わったが、対面免除学生がいたため、ハイブリッドの形態で授業運営した。WebClassの小テストやZoomのブレイクアウトルーム、チャット機能を活用したが、学生の主体的な学びの点では今一歩というところであり、次年度への課題と考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語VI[FS]2
授業コード 11D06-002
教員名 千葉 裕太
教員コード 104531
登録人数 36
回答数 28
回答率 77.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

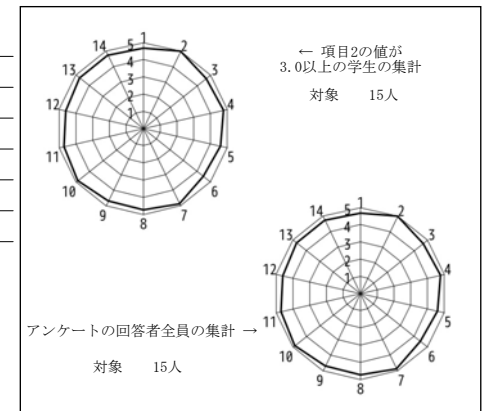
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
＞学生たちはおおよそ目標を達成できていた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
＞設問14への回答の値を見る限り、学生は十分に授業に満足していたと言える。設問8が4.5を下回ったが、2と回答した学生のコメントに「声が小さい生徒は先生の近くに行きたくて欲しい」とある通り、教員よりも学生の発言に対するものと推測できる。そのほか「自分の答えがあっているか考える時間がたまにあるので自信をもって答えを教えてほしい」というコメントについては、内容に関してスペインのスペイン語とラテンアメリカのスペイン語で正答が異なる問題があったことによる。学生が安心できる解説ができるよう改善する。「鼻が出ていることがあるので、せめて授業中だけでもマスクをちゃんとしてほしい」については、改善する。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
＞上記②で述べた点について改善し、学生がより安心して受講でき、十分なスペイン語能力を身につけられるように取り組んでいきます。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IIC1
授業コード 32A15-001
教員名 泉水 浩隆
教員コード 102114
登録人数 36
回答数 15
回答率 41.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

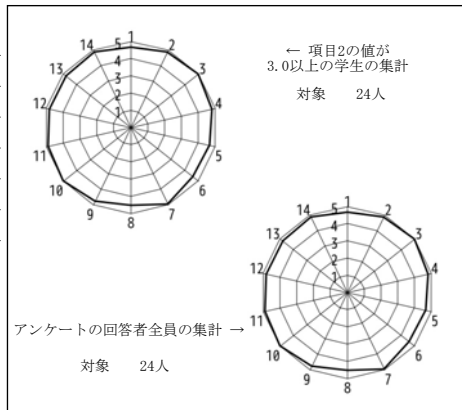
今回の授業評価においては、項目4～18の平均値が4.72、全項目の平均も4.71という評価になりました。レーダーグラフもほぼ外周に沿うような形になるため、この授業の目標は概ね達成されたと考えてよいと思われます。授業進度は予定より若干遅れ気味になりましたが、最終的には予定していた部分はカバーできました。今後もこれまでの方法を踏襲していきたいと考えます。

項目2は5.00となっていたので、予復習や主体的な授業参加ができていたと考えられます。一方、項目5や項目6については、スペイン語文法の基礎的知識の完成に向けて最終段階にさしかかっている時期で、内容そのものが難しくなっているため、理解・定着状況が予想より低くなったということではないかと考えられます。また、項目12の評価が4.60とやや低くなっており、質問・相談の機会をより求めているということかと思われます。この点については、メールアドレス等も公開しており、頻繁に質問を送ってくる受講生もいて、その都度回答はしていますので、他の受講生も同様にその機会を十分活用してほしいと考えます。

自由記述欄の記述からいくつか例を挙げると、項目15では「毎回課題が出るため、計画通りに勉強をすることが出来ました」、「文法を説明する際に、例文を多用したり、先生の海外での経験談なども聞くことができ、想像しやすかった」、項目17では「画面共有をした状態での先生の説明と手書きの文字が非常にわかりやすかった」などという回答がありました。一方、項目16では、「マイクで話さないの、答えてる人の答えが聞き取りにくいことがある」との指摘がありましたが、コロナ禍のため、使用している教室も広く、また、マイクを回すわけにもいかないという事情をご理解いただきたいと思います。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IV1
授業コード 32A27-001
教員名 CARDENAS, Abel
教員コード 017525
登録人数 31
回答数 24
回答率 77.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main objective of this course was to help students further develop their reading comprehension and oral skills in Spanish. This was achieved by using authentic reading materials as well as a variety of tasks centered on the development of successful reading strategies and oral activities to express their ideas in Spanish. The results of the survey clearly show that students were extremely satisfied with the course. As can be seen from the radar chart and the table provided, all the aspects included in the three major categories of the class evaluation received an average score of 4.81, which is higher than the average achieved by other courses in the department and across the university campus. In addition, comments provided by the students in the open-ended questions of the survey confirmed their complete satisfaction with the course. Among the positive aspects that were highlighted by the students were the use of group work that enabled students to learn from each other, the non-threatening atmosphere of the class, the variety of tasks and themes included in the teaching materials, and the appropriateness of the explanations provided throughout the course.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテンアメリカ特殊研究A
授業コード 32C35-001
教員名 浅香 幸枝
教員コード 000165
登録人数 15
回答数 4
回答率 26.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1~14の平均値は4.48であった。授業目標はおおむね達成できたといえる。4.75以上の設問は、5項目に亘っている。学生は履修前に、授業の内容に興味を持っていた。オンラインで受講時に予告開始時間が守られており、毎回の授業の構成や進行速度は適切であり、質問や相談の機会が十分に設けられ、課題や実習に対する事前・事後の指導が十分で、学生は新しい知識を得て理解が深まったと回答している。4.5以上は、4項目あり、教員の声や音声機器の音がよく聞き取れ、教員は学生の理解度に配慮し、教科書、配布資料など効果的に授業を進め、学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報があり、学生は全体としてこの授業に満足したと答えている。

自由回答では、「一方向的な授業ではなく、学生の意見を聞きながら双方向な授業を進めてくださる点。先生のお話を聞いて、学生がどう感じたのか、どう考えているのかを共有する時間があることで、他の履修者の考え等も分かり、視野がとても広がる、学びの多い授業でした。また、とても発言や質問がしやすい環境でした。」と記されている。

事前に資料DLサーバに当日の資料を入れ、学生は予習してから授業に臨んでいた。最初の授業で最終課題を提示し、毎回資料を追加しながら、考察の範囲を広げていった。双方向の授業であったので、学生の現在の関心や研究上の課題の質問を受け、それに対して、参加者の意見を聞き、その上で教員の助言をしたので、多様な考え方や方法が身についたと思う。また、有益なホームページやオンライン講演会の情報も適宜学生に提供したので、学外の情報も十分に入手し、学生は最終課題を仕上げていた。

このように学生が熱心に勉強することは、教員への励ましともなり、本テーマの書籍を大学生以上一般向けにも執筆したいという意欲を学生からもらったことに感謝したい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテンアメリカ特殊研究B
授業コード	32C36-001
教員名	ESCANDON, Arturo
教員コード	102090
登録人数	10
回答数	1
回答率	10.0%
休講回数	0回
補講回数	0回

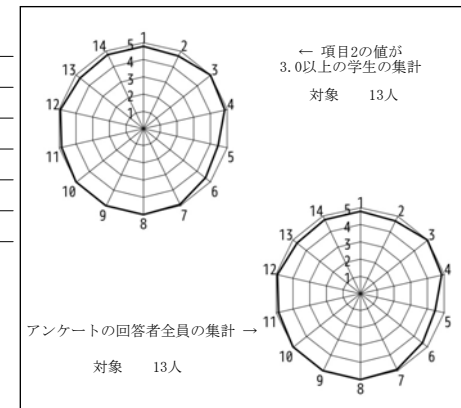
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set up for the course were met. Students saw a vast array of theoretical concepts such as social formation, modes of production, production means, historic change, discourse, etc., and deployed them into the analysis of several situations currently taking place in Latin America. Students assessed social movements in different Latin American contexts: no-land communities in Brazil, feminist and student social movements, the fall of unionism, and conflicting and emerging situations such as working conditions under new collaborative economies. As classes moved mainly into an online environment, we had to rely on more audiovisual and attractive material available online such as Youtube video segments. There is no point in commenting on the answers given by one participant to the evaluation questions. It suffices to say that the perception I got from the final assessment was positive given the teaching circumstances.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語文法II2
授業コード	33A18-002
教員名	茂木 良治
教員コード	102698
登録人数	29
回答数	13
回答率	44.8%
休講回数	0回
補講回数	0回

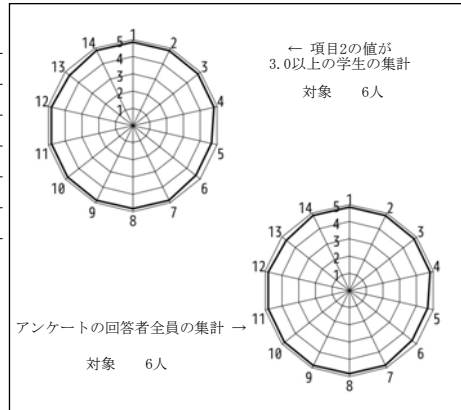


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Révolution2というフランス語文法の教科書を使用している。予定していた7課から13課を終わらせることができ、当初設定していた授業目標は達成できたと思う。設問4「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」で4.85点、設問9「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」で5.00点と高い数値を得られたことから授業運営は適切であったと伺える。設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」が4.77点であり、設問3~14の平均点が4.84と比較的高い得点であることから、授業全体の満足度も高かった。自由記述欄に、「わからないところはWebClassの学習カルテで気軽に質問することができた。また、難しい問題は予め言ってくれていたため、間違えるのが怖くなかった。」とのように、オンライン授業での実施を考慮して個別に指導をする機会を設けたことが評価されていた。一方で、改善希望として「教科書の答えを授業中の答え合わせの時にメモしないといけないので、書き忘れて答えがわからなくてテスト勉強に困っています。答えを授業後に講義資料サーバーに掲載してほしいです。」というコメントがあったように、授業の進行が早かった際は資料を掲載するなどの対応が必要だった。今後はこの点を考慮しつつ、授業を運営していきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アカデミックフランス語III
授業コード	33A28-001
教員名	吉澤 英樹
教員コード	103584
登録人数	25
回答数	6
回答率	24.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

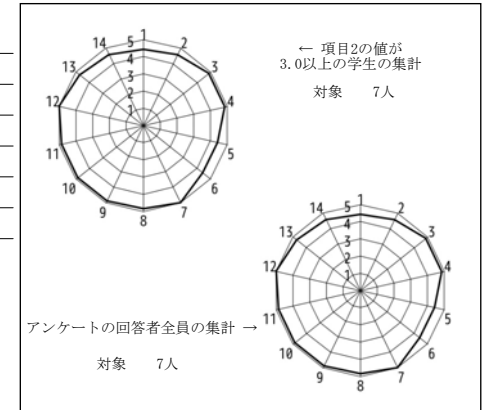


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) 当該科目は数年ぶりに担当した科目であり、コロナ禍での開講は初めての試みとなった。非常事態宣言下でのオンライン授業ということもあり、これまでの同期型オンライン授業のノウハウを活かす形でグループワークなどを多用しながら卒業論文執筆に向けたアカデミックな文章に慣れ、専門用語や時代の文脈などを調べながら、筆者の論理・主張を追えるようになることを目標とした。
- 2) アンケート結果は概して高い評点を受けたが、到達目標の共有に関しては若干弱かった印象を受けた。アカデミックな文章の選択としてフランス学科文化コースの学生に対して、以前はフィクション論など難易度の高いものを用意したが、今回は芸術社会学の入門テクストを選択したことが良かったように思える。多くの学生の関心を引いた実感があった。ただアンケートの回答実数も少なく回答をしなかった学生の意見を見通すことができなかつたは気がかりとなっている。
- 3) 対面での試験の機会などを通してアンケートの働きかけを重ねて行うなどの努力をすべきであった。また今回はこちらの型にはめていくような到達目標への誘導があったが、次回は課題の置き方など学生の自主性をもう少し取り入れる形で協同的に到達目標を共有据えるなどの工夫をしたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語VII<全>1
授業コード	11C07-001
教員名	水守 亜季
教員コード	103678
登録人数	21
回答数	7
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

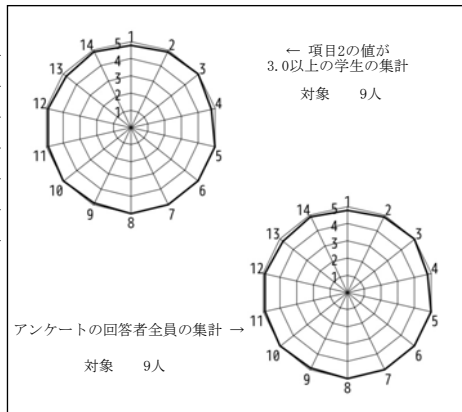


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1レベル相当の教科書を用い、ドイツ語を「実際に使える」能力の養成、主体的学習の活性化、学習ストラテジーの向上を図った。Q1では少々戸惑っていた学生たちも、今期までにオンライン授業で用いる様々なツールを使いこなし、学生同士で協力しながら楽しそうに課題に取り組んでいた。設問(3)～(14)の平均値4.77、という学生からの高い評価もその証左のひとつと言える。自由記述でも、学習者同士で相談や状況把握ができ、かつ主体的に学習に取り組むことのできるグループワークの良さについて報告する声が多かった。「授業が楽しい・楽しんで学べるように工夫されている」という声や、全員の前でも発言できたことを喜ぶ声もあった。グループワークを通じた協働学習、ZOOMのコメント機能等を用いた学生参加の機会、チャレンジしやすいクラスの雰囲気の評価してくれていること、アクティブラーニングの効果を学生が実感したことがうかがえる。また、r学生への配慮を問う設問(9)で4.86、学生の学習意欲を引き出す工夫を問う設問(11)で4.86、教員の姿勢を問う設問(7)で5.00、質問や相談の機会を問う設問(12)で5.00の値が出たが、これらの値は学習者中心の授業を実感してくれたことを示していると思われる。設問(2)などを見ると、授業外学習についての達成感は比較的小さいように見受けられるので、今後も自主的に授業外学習に取り組めるような工夫を行っていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語表現法
授業コード	34D04-001
教員名	PETERSEN, Esben
教員コード	103814
登録人数	41
回答数	9
回答率	22.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

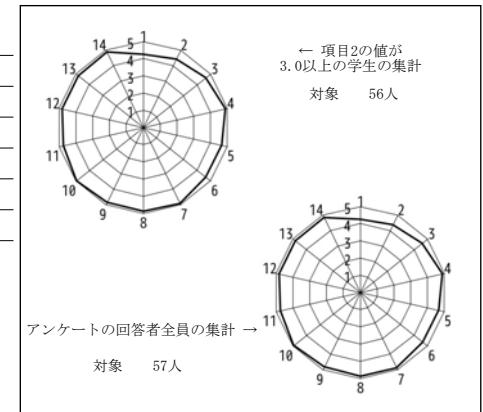
I am grateful for the constructive feedback that some of my students has provided. I taught the course for the first time and overall, I am pleased with what the students have answered and given me such a high evaluation score of 4.9!!!

I am glad to see that the class was happy with me as a teacher. The high average in question 7, 12, 13, and 14 reflect this. Also comments like [先生がとても丁寧に演劇指導やコミュニケーションをしてくれたので楽しく受講することが出来ました。] and [先生が丁寧に指導してくださったため、学習意欲が高まりました。この授業を受講してよかったですと感じています。] Shows that the student while enjoying the course also learned the central points of German expression. The goal of the course therefore seems to have been fulfilled. Like in many other courses of this year, there was a big transition from direct classes to online classes and back again to direct classes. This transition also meant that some adjustment had to be made to the original syllabus. This transition did not always work well but technically and structurally. This particular explains one of the comments [強いて言えば、対面の学生とオンラインの学生に対する注力具合に差があったこと] . I am aware of these points myself and will try to improve this in the future. But overall I am very satisfied with the overall course and students comments such as

Overall, I am happy with how the course went. I want to thank the students for having shown online in class every time participate actively. This has really helped making a great class and students comments such as [教員の意欲が伝わった] proves this.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アジアと日本
授業コード	35A21-001
教員名	宮原 佳昭
教員コード	102232
登録人数	69
回答数	57
回答率	82.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は次の3点である。①1年のときに習得したアジアに関する知識を再確認する。②近現代におけるアジアと日本の交流に関する基本的な知識を獲得する。③国際交流の視点を養う。④グローバル化の中で日本と近隣のアジア諸国との地域協力を考える姿勢を身につける。

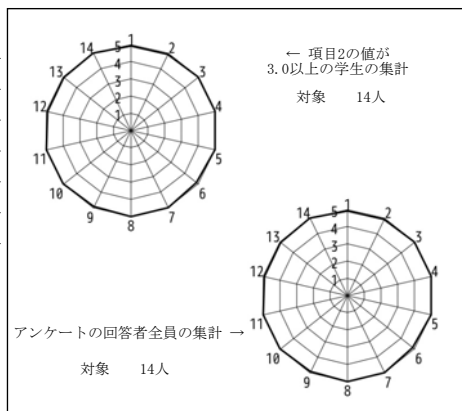
上記の目標を達成するため授業において工夫したことは、次の2点である。

①授業中の提出課題として、毎回の授業冒頭で「本日の授業の要点」を提示し、これを授業後に要約させることで、授業内容に対する理解を深めさせようとした。②同じく授業中の提出課題として、直近のアジア関連の新聞記事を要約させることで、授業内容と時事問題をリンクさせて考える習慣を身につけさせようとした。これらは学生の自由記述欄でも好評であり、授業の目標到達にとって有益であったと考えている。

一方で、学生の自由記述欄に、「課題の提出期限が授業当日の昼休み中というのは少し早すぎるのではないかと感じた。余裕を持って取り組めるように、もう少し遅めに設定してほしい」という記述が複数名あった。これについては、授業時間中に記入時間を1限・2限合わせて45分程度とっており、例年の授業でも同様に実施して問題とはなっていなかった。今年度はオンライン授業で、他の授業での課題提出の締切設定がゆるやかであったことから出てきたものと思われる。この課題は限られた時間でおこなうことに意義があるため、来年度もこれを継続するつもりである。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級インドネシア語会話B
授業コード 35D06-001
教員名 MANGGA, Stephanus
教員コード 103578
登録人数 15
回答数 14
回答率 93.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



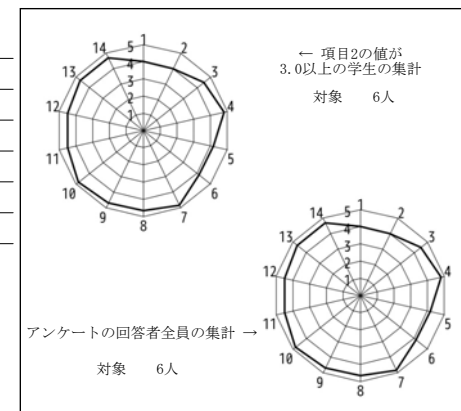
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は講義および実習形式で行われた。話すことのほか、授業では読む、書く、聞くことについてもあつかった。さらに、インドネシア文化も紹介した。到達目標としては状況に応じて適切にインドネシア語でコミュニケーションができるようになること。学生たちの評価を読みますと、授業の目標と到達が得られたのではないかと思います。この授業の良かった点に関して、学生たちは次のように評価する。「かなり実用的で難しいが実力がつき楽しい内容だった。話す機会が多かった点。適切なスピードで進めてくださった。生徒が平等に発表できた。実用的な表現をたくさん教えてもらうことができ、間違ってもたくさん褒めてくれるため、とても楽しかった。誰でも興味を持てる内容で授業が行われていた。たくさん自分で文章を作る機会があつて力がついたら感じた。ブレイクアウトルームが毎回あつていろんな生徒と話すことができ楽しかったです。」そして、授業を受講して改善したほうがよいと感じた点や困ったことに関して、ほとんどの学生は「特になし」と回答した。学生の学習への熱意は素晴らしいと感じた。学生たちは質問されたときに常に熱心に答えてくれた。

学生の感想・コメントに基づいてこれからもより良い雰囲気のクラスを作っていきたいと思う。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学B3
授業コード 12C09-003
教員名 神野 真敏
教員コード 103880
登録人数 12
回答数 6
回答率 50.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

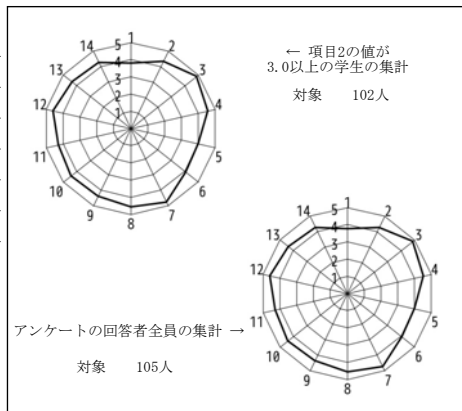
本講義では、マクロ経済学で用いられている基本的な経済用語を理解し、簡単なマクロモデルの計算が解けるようになり、その上で、マクロ統計指標の意図を自分なりに読み解けるようになることを到達目標として掲げ、講義を行った。

このような到達目標に対して、項目6では、4.17という評価となり、これは、学科平均の4.21を下回る結果となった。到達目標に向けて力をつけさせることができなかった点は残念であり、申し訳なく思っている。その一方で、授業に取り組む姿勢を問う問7では4.83（学科平均：4.60）、新しい知識や理解度の深まりを問う問13では4.67（学科平均：4.38）、あるいは、講義全体の満足度を問う問14では4.67（学科平均：4.39）と、相対的に高い評価をしてもらえたのではないだろうか。とてもありがたいと思っている。

ただ、すべての学生の期待に応えられたとは思えず、自由記述の欄に、理解ができぬまま進んでしまったとあるのは、とても気になった点である。そうならないように、最後に質問や記述漏れがないかなどを聞く時間を作ったのだが、十分ではなかったようである。この点は、今後の課題としていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ミクロ経済学2
授業コード	40B01-002
教員名	小林 佳世子
教員コード	100487
登録人数	156
回答数	105
回答率	67.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

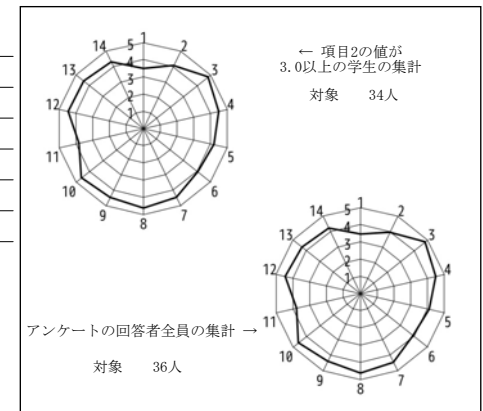
この科目は、1年生向けの重要な必修科目の1つです。2年次以降のすべての専門科目の基礎となる科目であり、そのための基礎的な分析手法を獲得することを主たる目的としています。数理的な内容も多く、必ずしも直観とあわない部分もありながら、その内容はかなり多く、教える立場としても苦慮している科目のひとつでもあります。

自由記述のアンケートからは、「最初の導入部から丁寧に説明しており、理解に困るところがほとんどなかった。」「解説に図などを用いていたため、すぐわかりやすかった」「直感的に理解しづらいことを具体的な例や例えをいろいろ使ってかみ砕いて説明してくれた。」「毎回丁寧な復讐から入ったことで、おいていかれることがなかった」など、具体例を使った説明や、毎回の丁寧な復習、図を使った直観的な説明などを高く評価する声が多数あり、教える際の工夫をポジティブに受け取ってもらっていたことに、素直にうれしく感じました。全体の評価とも合わせて、本講義の目的はおおむね達成されたと考えています。

また、この授業は当初オンラインで始まり、途中からハイブリッドに変わりましたが、オンラインにおいては手元のノートを映しながら説明する方式で進めました。このやり方は、今どこをやっているのか把握しやすく、とてもついていきやすいという声も複数ありました。一方で改善点としては、オンライン授業の際の、カメラの解像度を指摘する声が複数ありました。こうした機材の充実をどこまでどのようにするのか、この点は今後の課題だと考えています。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ処理入門3
授業コード	40B03-003
教員名	大鐘 雄太
教員コード	103641
登録人数	41
回答数	36
回答率	87.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業では、「ワードとエクセルの基本的な操作ができること」を目標とした。授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うかどうかに関する設問（設問6）は3.94であったが、提出された課題はよくできていたため、目標に到達できたと考えている。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

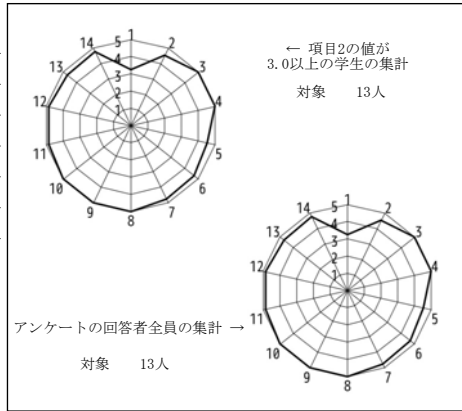
授業の内容や進め方は前回開講時とほぼ同じであったが、前回と比べて、履修生の理解度に関する質問項目（設問5、6）、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための指導や情報提供に関する質問項目（設問11）が大きく低下してしまった。オンライン授業時（前半の7回）と比べて、対面授業時（後半の7回）には質問がしにくかったという自由記述回答が複数あったことから、この点については配慮が足りなかったと考えている。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次回開講時には、対面授業においても授業中に質問がしやすいような工夫（例：プライベートのチャットの活用）を凝らすことにより、履修生の主観的な理解度の向上を図る予定である。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外書講読(経済分析の方法)A
授業コード	40C02-001
教員名	相浦 洋志
教員コード	103642
登録人数	17
回答数	13
回答率	76.5%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、英語で書かれたミクロ経済学入門書の輪読を行った。受講生が少なかったことも影響していると思われるが、アンケートでは設問1の「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」を除いて、すべて学部平均を超えていて受講生が満足する授業ができたのではと考えている。ただ、例年、この授業を私が担当した場合、1週目の授業の後、受講生が増え、定員45名の上限まで受講生で埋まるが、オンライン授業から始まった本年度は逆に受講生が減ってしまった。本授業は、輪読という授業構成から、オンラインであっても発表する必要があり、オンライン授業ではそれが敬遠されてしまったのかもしれない。また、この授業は途中から対面に切り替えたこともあり、自由記載欄のオンライン授業と対面授業の比較を公平に評価することが可能だが、その意見を見る限り、賛成する割合が各授業形態で半々ほどであった。これはオンライン授業と対面授業でそれぞれ一長一短があることの表れであり、今後の教育においてはこの点を踏まえ、オンラインの活用をすべきだと思われる。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外書講読(国際)B
授業コード	40C07-001
教員名	實多 康弘
教員コード	100751
登録人数	4
回答数	3
回答率	75.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

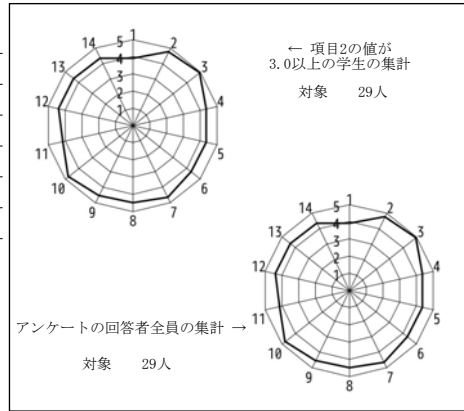
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、経済学部の選択科目で外国語科目に相当する授業で、今回で2回目の授業評価を受けた。世界的に有名な国際貿易の最新の英文テキストを用いて、学生に担当箇所を割り当て、各自で日本語ではなく、すべて英語でレジュメを作成してもらい、発表してもらう形式である。今回は途中までオンラインで、途中から対面となり、少人数なので対面で議論が深まった。目標はほぼ達成できた。事実、学生の評価は非常に高く、自由記述でも高評価を受けた。ただ、今回の受講生は最終的に3名となったため、学生の報告回数が多く、一部の学生には負担が重く感じられたようである。そこで、テキストの内容は高度なものも含まれて学生には難しく感じるかもしれないので、私の方で補足説明を丁寧に行った。発表者以外は、質問やコメントを確実にするように加点方式として、多くの質問やコメントが出て、議論が盛り上がった。少人数だからこそできたのかもしれない。今後も熱意を持って教育に取り組む所存である。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外書講読(歴史と思想)A
授業コード	40C08-001
教員名	川本 真哉
教員コード	103865
登録人数	44
回答数	29
回答率	65.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について

この授業の目標として、①戦後、日本経済はどのように発展したのか、②経済発展を可能にしたシステムは何か、③今日、日本経済はいかなる課題を抱えているのか、などのトピックについて英文で学んでいくことを掲げていた。課題提示分も含め、当初予定していたトピックについてカバーすることができたため、対象テーマの範囲としては初期の目標を達成できたと理解している。

②総合的な自己点検・評価

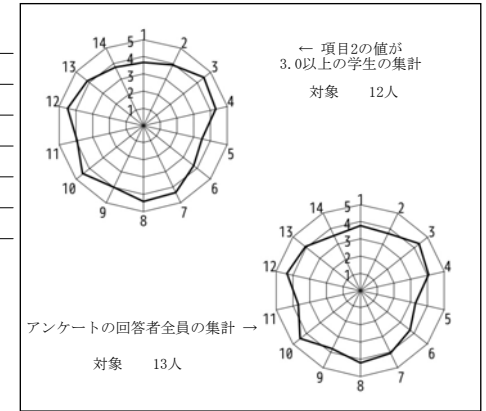
質問項目14(全体として、あなたはこの授業に満足しましたか)は4.34ポイントとなっており、概ね肯定的な評価をもらったものと理解している。特に、項目7、項目9、項目10が4.5ポイント以上となっており、授業への姿勢、配布資料の配慮、授業環境の維持等が評価された、その反面、項目1が3.9ポイントとやや低く、この点については改善の必要があることがアンケートから読み取れた。

③今後の抱負、方針

テキストの内容を補足する資料の解説と單元ごとの小テストの実施が評価されたものと理解している。この点については継続していきたい。今後の課題として、講義受講前に受講者の関心を高めるような情報提供(シラバス)について工夫が必要ないように感じられた。また、自由記述からは、声が聞き取りにくいとの内容もあった。オンラインの場合だと思われるが、この点については、受講生に問いかけ、確認するよう意識したい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済成長論A
授業コード	40D09-001
教員名	焼田 覚
教員コード	102065
登録人数	31
回答数	13
回答率	41.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

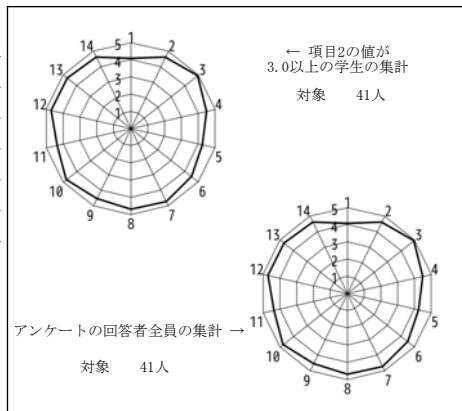


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初予定していた内容を終えることはできなかった。その意味では到達度は8割程度だった。内容的には1年生のマクロ経済学の発展形であるが、抽象度がさらに高くなっており、日常的に意識できる現象を講義内容に結びつけるのがかなり困難なので、議論を直観的に理解することはむずかしい。それも有り、何を目標としているかを理解できなかったのだと考える。この結びつきをうまく説明できないのは反省点である。②理解度の確認をしながら、かなりペースを落としたのが予定を達成できなかった理由でもあるが、「どこが理解できていないか理解できない」という発言があり、今後の課題である。しかし、一方で、アンケートには説明を聞いて理解が深まったという記述もあり、難しさを感じる。後者の感じを持ってくれる聴講者が増えるように、時間をかけていくことがさらに必要だと考えている。③マーカーについては、太字を使うと白板にかける量が少なくなり、消して書く作業が増える分だけ間隔が短くなる。話す情報はそれより多いので、理解がより困難になってしまうと考えている。広い教室の後方に座っているので、見づらいとは思いますが、つつい細かく板書することになる。可能な限り気を付けたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	理論経済学B
授業コード	40D16-001
教員名	井上 知子
教員コード	019166
登録人数	50
回答数	41
回答率	82.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



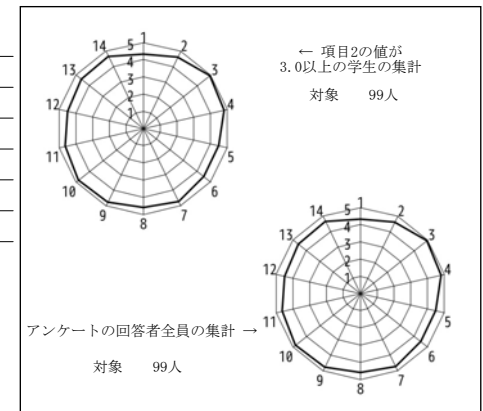
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は1～6回をオンラインで、7～14回を対面でおこなった。なお、7回以降はZOOMボタンを消去し、対面免除願いが提出されている学生のみオンライン受講を認めた。このためか、対面授業の出席率は高く、また、アンケートの回答率も、 $(41/50) \times 100 = 82(\%)$ と高かった。初めから授業に全く参加していない学生の人数を差し引けば、ほぼすべての受講生が回答したことになる。

①について、到達目標を受講生が理解していたかを問う「項目5」は4.24で、学部平均4.21とほぼ変わらないが、この授業を通じて新しい知識を得たかを問う項目13は4.68と、学部平均の4.38よりも高めであったので、概ね達成されていたと思う。②について、自由記述欄を見ると、「学生の理解度に合わせて教員が進度を調節していた」、「課題を解くにあたってのフォローがあった」、「説明が丁寧で分かりやすかった」といった意見が10件ほど、「進度が速い」、「理解できていない学生がいても先に進んだ」といったクレームが2件、さらに、オンライン授業から対面授業に切り替わったことについて、「オンライン授業の方が授業の進行がスムーズで分かりやすかった」、「オンライン授業の方が質問がしやすかった」といった意見が2件あった。③について、オンライン授業ではチャットで質問を受けていたので、学生が疑問・質問を持ったら、その場ですぐに回答していた。このことで、学生もわからないまま授業が進んでしまうということは少なかったように思う。しかし途中から対面授業に切り替わって、その場で手を挙げて質問する学生も少なくなり、質問は授業後に受け付けるようになった。これを改善できるとよいと思った。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	財政学B
授業コード	40D27-001
教員名	西森 晃
教員コード	100624
登録人数	155
回答数	99
回答率	63.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

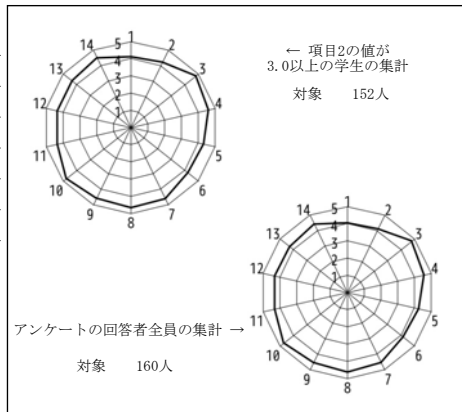
全体の平均点が4.64、設問14（授業の満足度）の平均点が4.66なので、概ね高い評価をしてもらったと理解している。設問ごとの点数に偏りもなく、大きな問題はなかったと言っても良いのではないかと。自由記述欄のコメントもほとんどが好意的なだけでなく、私が講義するに当たって学生に伝えようとしていたことを理解してくれるコメントが多く、そのことが特に嬉しい。

自由記述でハイブリッドになってからマイクの音が聞きづらくなったというコメントが複数あった。確かにS21教室のマイクはあまり感度が良くないのだが、それはともかくとして、ハイブリッド授業形式は配慮することが多いため、オンライン組に声がきちんと届いているかを確認する意識が弱かったと思う。来年度以降、どのような授業形態になるかは不明だが、その点は意識するように努めたい。

コロナ以前は板書とノートという組み合わせでずっと授業をやってきたが、オンラインになってパワーポイントとレジュメ方式を（しづしづ）取り入れたところ、思いのほか後者の評判は良いようである。レジュメはスライドとは別に作り、重要なポイントを学生が書き込まなければ完成しないようになっている。スライドとレジュメという2種類の資料を作成するのは非常に手間がかかるが、今後仮に授業が完全対面に戻ったとしても、この新しいやり方をもう少し追求して、この1年半の経験を役立てていこうと思っている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	租税論B
授業コード	40D35-001
教員名	岸野 悦朗
教員コード	103035
登録人数	462
回答数	160
回答率	34.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業は、我国の法人税並びに消費税といった法人に係る税の現状と各税法に基づく制度の考え方及び基本的な仕組み等について今後社会人として各種職務活動を行う上において必要な知識を身につけるとともに、税に対する考え方を深め、思考能力をも育成することを目的としている。

この科目は昨年度と同様にオンライン授業とされたことから、受講生により分かり易く説明する観点からパワーポイント資料を見直し授業の進め方等改善に努めた。また、これまでと同様に税に関する時事的な新聞記事を複数回紹介する等により学生に税に関する関心を引き起こすように配慮した。また、評価方法については、登録機関中コロナ感染者急増により、対面での試験が出来ないと予想し、オンラインによる課題テストを5回行う方式とした。テスト結果は良好で、概ね各人とも理解しており、ある程度目的は達成されたと評価する。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

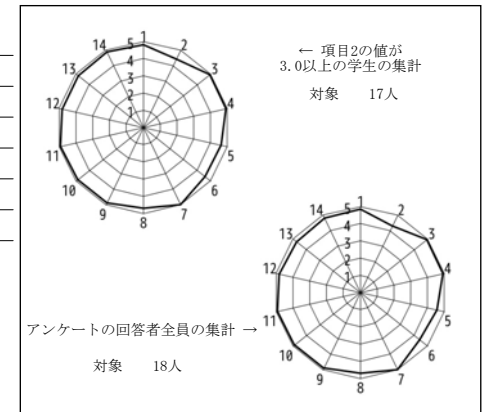
パワーポイントの構成や冒頭での税に関する時事的な紹介は評価する声が多かった。一方でオンライン授業を100分聞き続けるのは大変である意見があったが、全体としての数値的な評価は、ほぼ平均並みでまずまずの出来であると評価する。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次年度以降、これまでの取組みに加え、授業の進め方をより工夫する等充実した内容となるよう取り組んでまいりたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ビジネス英語IIIオーラル・コミュニケーション1
授業コード	42G05-001
教員名	WOOD, Joseph
教員コード	103072
登録人数	24
回答数	18
回答率	75.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

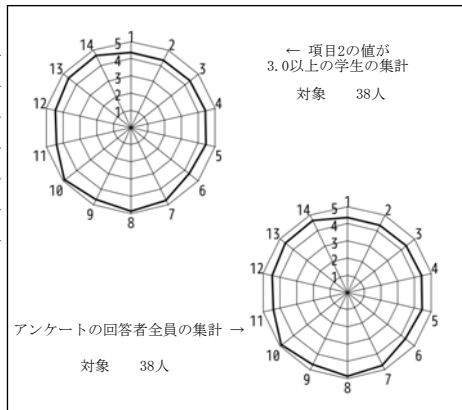
Based on the survey results, I believe the goals originally set for the course have been met and that students are enjoying the way the class is being conducted. Students are improving their English ability and learning about business. The results of the survey, and especially the written comments, were overwhelmingly positive.

One area that came up in the survey data however, was that some students would like me to write more answers on the board. I do this during in-person classes, but did not always write the answers during Zoom classes and instead just read the answers to students. I will be more careful about this for quarter 4 and will always write or present the answers on the projector for students to check. I always asked students if they would like me to repeat answers, but it seems having the answers displayed is easier for them to understand.

For quarter 4 I will be make sure students can always check their answers and I will try to continue to make the class interesting and enjoyable for them. I will try and find more time in class to have students participate in meaningful communication with partners in English and give them more opportunities to learn from one another.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学B6
授業コード 12C09-006
教員名 山下 忠康
教員コード 101152
登録人数 95
回答数 38
回答率 40.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

下記の5項目を目標としていたが、筆記試験の平均点を見る限り、おおむね達成できたと判断している。

しかし、問題の難易度が高かったこともあり、前年および前々年の平均点よりもやや低かったため、その点はあらためて分析したい。

1. 税金および税額計算の基本的な仕組みを理解している。
2. 不動産に関する基本事項を理解している。
3. 相続の基本を理解している。
4. 財産評価の基本を理解している。
5. FP3級試験に合格できる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

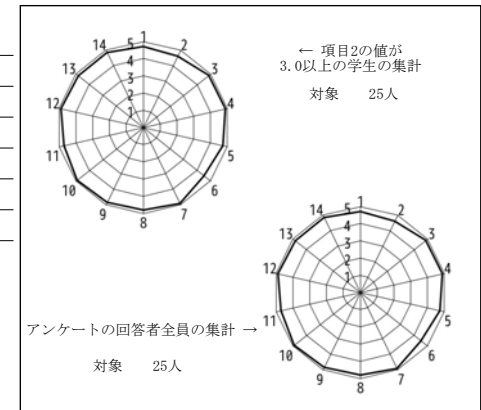
アンケートの数値データを見る限り、基盤科目や同人数規模のクラスの平均点とほぼ同水準であり、前年とも大きな差異がないことから、特段の問題がなかったと自己評価している。また、自由記述においても、学生から大きく改善も求めるようなものもなかったため、おおむね学生の要求水準は満たしていたのではないかと自己評価している。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針

次年度以降も学生の理解度が向上するような授業運営を行なっていきたいと考えている。 以上

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済の諸相1
授業コード 13C06-001
教員名 川北 真紀子
教員コード 102879
登録人数 62
回答数 25
回答率 40.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



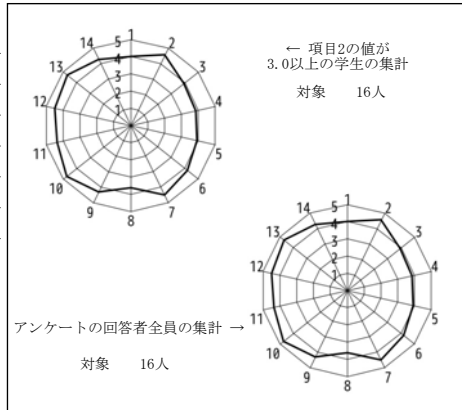
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は、芸術鑑賞に興味をもってもらうことと、芸術について語れるようになることであった。今回、対話型鑑賞や様々なクイズを通じて学生たちが主体的に発言やチャット発言を通して、鑑賞体験をした。オンラインでも主体的に取り組み工夫をしたことがよかったようだ。②総合満足度が4.84と平均と比較するとかなり高い。他の評価得点も平均よりもはるかに高い。自由記述欄にも「サポーターがいることによって理解を深めることが出来た」「対話型鑑賞が面白かったです。絵と向き合い、感想を言い合うことで、一人ひとり考えることが違って、解釈に幅ができたのが新しい体験でした。チャット機能を使うことで、対面よりも意見が言いやすくなっていました」と「主体的に生徒に取り組みさせてくれたこと」「様々な工夫をして授業を展開してくれたこと。美術館をリモートで案内してもらえたことが特に面白かった。学芸員の方々の話も聞けて飽きずに授業を受けることができた」など、かなり高評価であった。

③オンライン向けにかなり工夫をしてきており、準備時間がかかり疲弊した。もう少し効率よく実施したい。対面になると、実際の芸術鑑賞に出かけることができるため、学生たちにはぜひ、積極的に鑑賞に出かけてほしいと考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報機器の操作3
授業コード	14D02-003
教員名	長谷川 高則
教員コード	000162
登録人数	23
回答数	16
回答率	69.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標

この授業ではMS-Officeのソフトウェアを学習し、学びの場におけるICTを有効に活用できるスキルの習得を目標にしている。今回はZoom利用によるオンライン授業であったが、質問が多く指導に時間が掛かり、授業後に後回しになってしまい、進行状況は少し遅れ気味であった。

2. 目標達成度

出席状況は大変良好であったが、オンラインでの全体授業と個別指導の切り替えに手間取って、演習時間に影響を及ぼしてしまった。開講当初に設定した授業計画は80%ぐらいしか達成することができなかった。レポートの内容は高評価のものが多く、演習課題も頑張った内容のものが多かった。

3. 授業評価

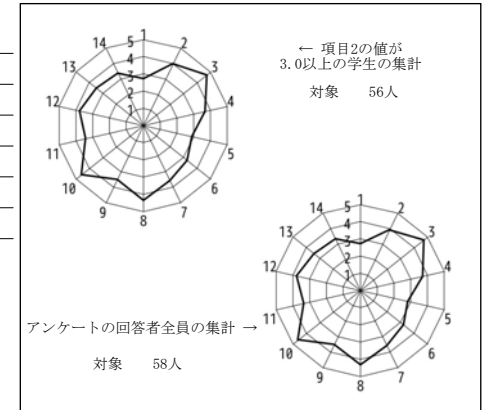
前回のアンケートと比較すると、全設問の平均値は4.21から4.25に僅かながら向上した。設問別の評価平均値を見ると、評価が高いのは設問10(授業の妨げになる行為への対処)4.75、設問13(新しい技術や能力を得た)4.69等であり、評価が低いのは設問8(ネットワーク環境が不安定)3.63、設問4(授業の構成や進行速度)3.88等であった。設問4の評価を改善するのは受講生のスキル差も有り難題ではあるが、設問8に関しては音響に関する不具合を検討し、パソコンのマイクを交換し改善中である。

4. 今後の抱負

デジタル教材を充実させ、オンライン授業で得た可能性、対面授業ならではの必要性を再認識し、次世代の学びのあり方・地域の創生に対応する内容も取り入れ、エドテックを使ってもっと興味がわき理解しやすい効率的な授業になるように、今後も検討を続けていきたいと思う。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	統計学II1
授業コード	42B02-001
教員名	松井 宗也
教員コード	102275
登録人数	136
回答数	58
回答率	42.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



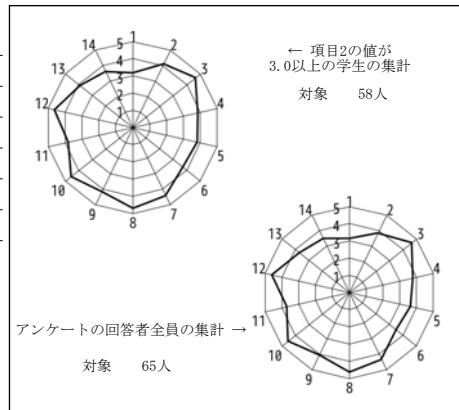
授業評価結果を踏まえた点検・評価

前年度と同様に「経営学を学ぶ上で将来必要となる統計的な考え方を身に付ける」ことを授業目標とした。授業内容は標準的な教科書に沿ったもので、数学的に高度な内容をやや噛み砕いた初等的なものである。他大学(南山大学と同程度かやや上の難易度)と比較しても遜色の無く、また生涯にわたり使える内容である。定期試験の結果から判断すると、学生は完全に授業内容を消化しているとは言い難いが、授業目標の6割から7割程度は達成できたと感じている。未消化の内容は、経営学を学びつつその都度必要に応じて補ってくれば良い。

以下では授業評価集計を踏まえ反省点を述べる。設問3~14の平均値と設問1~14の平均値は3点半ばであり、評価基準をクリアした。前年度より評価は全体的に上がった。次年度もオンラインと対面のどちらの場合でも、学生の反応を観察しつつ更に良い評価が得られるよう努めたい。平均値が低いのは設問5と6、と設問13と14である。特に前者のグループの平均値が低い。設問5は2点台後半の評価しか得ておらずこの点は反省したい。前年度と同じく、原因は、シラバスの到達目標を実感し難いことが挙げられる。今年度はシラバスを工夫するなど、前年度より注意を払ったが、まだ足りなかったようである。多くの学生は経営学を学び始めたばかりで、経営に統計がどう役立つのかを理解できていない。単に選択必修だからという理由で学んだ学生がほとんどである。今後はさらに具体例を多用し、統計学が経営にどのように役立つか示しながら授業を進めたい。そうすれば、到達目標へ向けた新しい知識の習得や理解が進んだと学生に実感してもらえると考える。設問13に関してもやはり、統計学の経営における役割がイメージしにくいことが挙げられる。学生には単に知識の暗記に過ぎないと考えられているかもしれない。設問5と同様の改善策が考えられる。この改善策を実施し、学生に「使える技術的な知識」を身に付けたという満足感を与えられれば、設問14の「満足度」は自ずと上がると思われる。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	統計学II2
授業コード	42B02-002
教員名	竹澤 直哉
教員コード	101191
登録人数	133
回答数	65
回答率	48.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業到達目標を以下の通りである。

1. 興味のある事柄に対し、目的に応じたデータの収集方法を身につける。
2. 得られたデータの統計的分析方法（点推定、区間推定、仮説検定）を理解する。
3. 統計的分析によって得られた結果を解釈する力をつける。

今回の授業評価では未集計データが提供されたため、設問1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」と設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」の相関係数を計算することが可能となり、その値は0.90（非常に高い値）を示した。このことから、授業の満足度が履修する前の興味に高く依存していることがわかった。

このことを踏まえて、設問1と設問14の集計結果の分布を比較すると、平均で0.38上昇しており、相関は高いものの平均は上昇していることがわかる。こうした傾向は授業内容に興味がなかった学生も、全体としての満足度はそれなりに良かったことを示している。

設問3, 7, 8, 9, 10, 12では過半数の学生が5と評価しており、設問4, 5, 6, 9, 11, 13では過半数の学生が4以上の評価を与えている。全体の評価が下がっている原因は5%以下の1と評価した学生による影響である。

以上の分析を踏まえると、半分以上の学生がおおむね4以上の評価をしていることから授業目標は概ね達成できたと評価する。一方、授業内容とは無関係な「授業を履修する前の興味」が授業評価に非常に強い影響を及ぼしており、今後の授業運営に強い懸念を残すこととなった。講義担当者が変えることができない「事前の興味」が授業評価に大きな影響を与えているため、授業自体の改善による授業評価の向上に限界があるものの、今後も引き続き、授業で得た知識を応用した事例などを紹介することで、興味が湧くような教育方法について検討する。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済原論II
授業コード	42B06-001
教員名	赤壁 弘康
教員コード	100788
登録人数	20
回答数	3
回答率	15.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

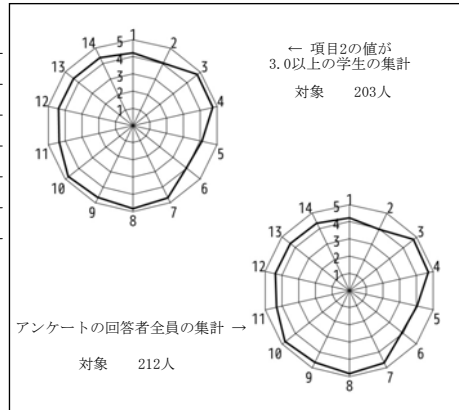
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 当初予定した最終第6節「開放経済モデル」を割愛し、その分、演習問題（授業参加シートペーパーとして提出を求め、成績評価に加味した）の解説を充実させた。この点を含め、資格試験や採用試験で求められるマクロ経済学の重要事項に関する基本的理解と具体的問題を解く操作については、所期の目標と到達は十分達成できたものと考えます。
- ② 基本的には対面式で授業を行っており、オンライン授業希望者にのみ大学が講義室に備えたPCによるZoom配信を行った。Zoom授業参加者からZoomの接続が悪い時や音割れがひどいと指摘があった。これらは大学の設備・システムであり、担当者としては如何ともしがたい。一日も早く対面授業ができる状況になってほしい。
- ③ 本学の「講義資料」サーバーでは、度の受講生が資料をダウンロードしているかがわからないため、講義資料はWebClassでもダウンロードできるようにした。WebClassでの質問にも必ず返信メッセージで応答した。受講者が多くなければ、次年度以降もこの方法を踏襲したい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営学総論III
 授業コード 42C02-001
 教員名 中島 裕喜
 教員コード 103065
 登録人数 276
 回答数 212
 回答率 76.8%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回

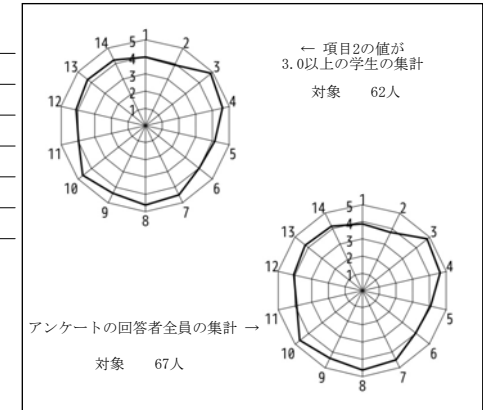


授業評価結果を踏まえた点検・評価

コロナ禍で講義形態がオンラインのあり、また1年生向けの科目ということもあり、適切に講義を受講してもらえるか心配していたが、質問項目3「オンラインで受講した場合、事前に予告された開始時間は守られていましたか。対面で受講した場合、授業の開始と終了の時間は守られていましたか」が4.78、質問項目4「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」が4.72なので、講義運営については良い評価が得られたと思う。一方、質問項目5「この授業の到達目標を理解することができましたか」が4.06、質問項目6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」が3.92となっておりコロナ禍以前より少し低いと思われる。対面に比べると、学生の動向を把握することが難しいためWebClassのメッセージ機能などでコミュニケーションをはかっているものの、一部の積極的な学生に留まっており、改善の余地がある。ただし今年は通常2コースだったものを1コースで実施せざるを得ず、一人で300名近い受講生を受け持っていたことも要因として考えられる。次年度は2コースに戻るので、学生との距離を縮めることができると考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営労務論B
 授業コード 42C06-001
 教員名 澤井 実
 教員コード 103270
 登録人数 205
 回答数 67
 回答率 32.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

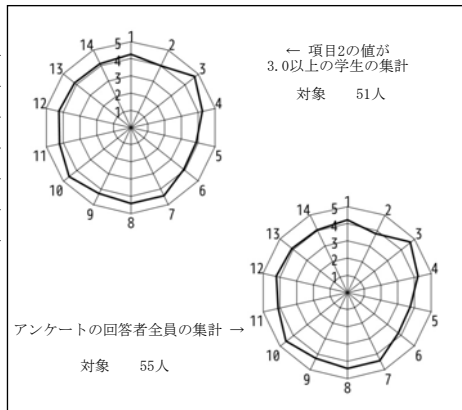


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①オンライン授業だったため、学生の集中力が続くよう間に10分の休憩を置いた。前半は授業レジュメに沿った解説を行い、後半では特定のトピックについて深い理解が進むように工夫した。とくに高度成長期における高校進学率の上昇が企業内教育に与えた影響を詳しく講義した。アンケート結果や自由記入欄から判断するかぎり、上記の目標は概ね達成されたと思われる。
- ②授業内容を理解してもらうため、Webclassを通して授業への質問を提出してもらい、それに答えるという方法をとった。質問は予想以上に多く、一つの質問をきっかけにして教員と学生の対話が進むケースが数多くみられた。とくに「日本型雇用システムの変容」については、質問が集中し、関心の高さがうかがえた。また「就職」ではなく、「就社」だとの指摘に対しては、自らの就職活動を踏まえた意見も散見され、興味深かった。学習熱心な学生に対する関わり方として上記の方法は有効だと思うが、積極的でない学生に対する興味喚起の点では多くの課題を残していることを自覚している。
- ③2022年3月退職予定のため、③は割愛する。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	マーケティング論B1
授業コード	42C10-001
教員名	南川 和充
教員コード	100478
登録人数	77
回答数	55
回答率	71.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

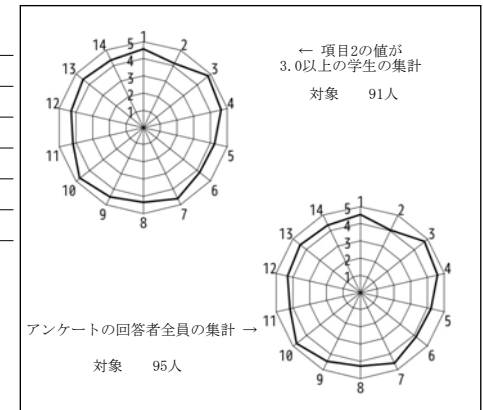


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①. 到達目標は(1)～(4) (シラバスを参照)を設定した。これらを達成するために例年同様に中間試験および数回の課題を課した。目標(1)(2)について肯定的評価の自由記述 (課題がたくさんあり、理解が深まった。) (丁寧に説明して下さる事です。ゆっくり理解することができました。)があった。目標(3)(4)については中間試験(筆答)の出来が良好であったことから、達成されたと判断できる。
- ②. 項目1を除く全項目が経営学科科目での平均点を下回っており、毎回のごとく反省している。しかし、長年低迷していた本科目の授業評価結果は全項目で、前回に引き続き、例年がない改善をみた(例年はほとんど3点台であったが、今回は3項目しか3点台はなかった)。これは偏に、登録者数が例年と比べて77名と少く授業の受講環境がよくなり、受講態度を改善してくれたことによるものと考えている。項目6に関連して、前回と同様に「中間試験結果の返却」をおこない、力が身につけていることを受講生に実感させることができたと思うが、項目6の平均値は3.80と、あまり高くなっていない。次学期は課題のフィードバックもこまめに実施したい。
- ③. 自由記述欄「改善すべき点」には、内容と関連はあるがさほど重要でないと思われる話に話題が逸れることがあり、今どんな話をしているのか掴みづらいことがあった、などがあった。これは、これまでよくあった「説明がくどくて分かりにくい」という問題点ではないので、説明の分かりやすさについては改善できたと思われる。それとは別の問題点として、派生的な内容をどのように盛り込むべきか(べきでないか)という問題だと思われるが今後改善したい。中心的な内容と余談(さほど重要でないと言われると辛い)とのメリハリをはっきりさせないために、上記のような感想を持たれてしまうと思うので、そうならないように次学期の授業からは留意したい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	マーケティング論B2
授業コード	42C10-002
教員名	石垣 智徳
教員コード	101889
登録人数	182
回答数	95
回答率	52.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

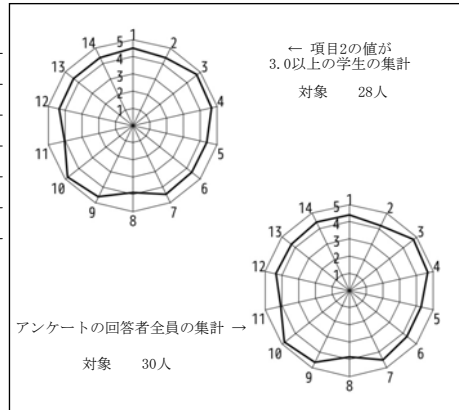


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 設定していた目標と到達の程度については、「マーケティングの基礎的な理論や考え方を習得する」「事例とマーケティング理論の関連が理解できる」を掲げ、理論や考え方については充分時間をかけて説明した。また、事例をできるだけ多く提示することも心掛けたので目標は達成できたと考えている。
- 担当科目に関する総合的な自己点検・評価は、前半が対面、後半がZoomであったが従来問題になりがちな授業中の私語は思ったより少なく皆授業に集中しているようであった。14項目から構成される学生アンケートの結果はすべて4点以上(項目最低平均4.03)であった。学生からも一定の評価があったと考えている。記述回答のところで、「前回の復習から入るのでよかった」というコメントがあったが、「復習の時間も新しい内容があればよかった」というコメントもあり、復習時間を調整する必要があるようだ。また、対応を考えるべき点として「これが聞きづらい」「Zoomになると集中しづらいので作業などが欲しい」などがあり、今後適切な対応をしていきたい。
- 今後に向けての改善点、今後の抱負、方針などについては、コロナ禍が現在も続いており、特殊な状況であるが、対面授業とオンライン授業の特性を理解し、学生たちが集中して授業を受けられるような準備を行いたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 財務会計論B
授業コード 42C12-001
教員名 安田 忍
教員コード 101561
登録人数 86
回答数 30
回答率 34.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

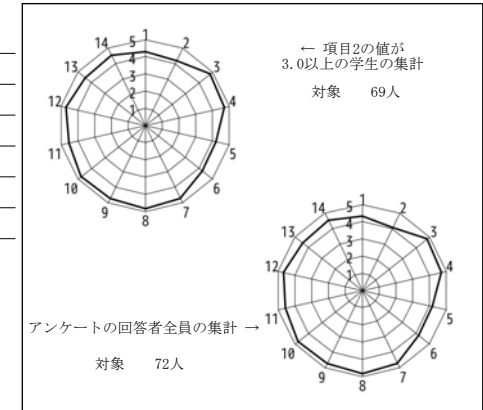


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、財務会計論のうち、貸借対照表の表示、金融資産、事業用資産、純資産の会計について、会計基準や会社法等の内容と考え方、それらと会計処理との関係を理解し、財務諸表の表示内容と財務情報の意味を理解することを目的としている。本授業は「緊急事態宣言」継続中であったため、オンラインで行われた。レジュメや説明方法を工夫すればオンライン授業であっても学生の理解を深められることをこれまでの授業から体感できたので、板書をしなくてもレジュメに沿って授業を行うことができるようにレジュメの内容や表現を昨年さらに見直しを行った。また、授業ごとに授業内容のポイントを絞った課題の提出を要請した。アンケート結果は、知識、理解（質問13）4.3、授業満足度（質問14）4.4であった。また、14名の自由記述があったが、9名がレジュメ、説明、質問回答などの分かりやすさ、4名が課題による理解の深まり等の評価をあげてくれた。回答率34.9%の中の意見なのですべてとは言えないが、授業の工夫に対してある程度の評価が得られたようである。反省点としてはZoomを使用した授業の途中で音声不安定になることがあったようである。授業中はとくにそのような声もなかったため、気づくことなく進めていたが、今後Zoom使用時は確認しながら進めていかなければいかないと気づかされた。評価結果を踏まえ、授業内容がより分かりやすく、そして、学生が興味をもって自発的に取り組めるような工夫をしていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営組織論B
授業コード 42C14-001
教員名 安藤 史江
教員コード 019554
登録人数 207
回答数 72
回答率 34.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

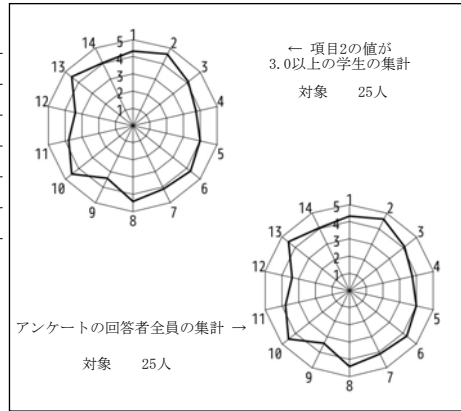


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講時の目標は、経営組織論の中でもまだそれほどメインではない組織学習論の基礎的な考え方を受講生が習得し、日々の生活に活用したり、見聞きする企業情報により高い関心をもってもらうことであったが、期末レポートや授業評価の内容をみる限り、その目標は一定程度達成できたのではないかと考える。総合満足度も4.5を超えており、質問の機会（問12）や新たな知識がつかいか否か（問13）などについても、学部平均を大きく上回る数値が得られている。そのため、こうした方向性を継続しつつ、今後、オンラインではなく、対面に戻った場合にも同等以上の水準をどのように確保するのか、一層の工夫が求められる。一方で、グループ・ディスカッションを2回行ったが、受講者間で、参加しない人、いい加減に取り組む人がいたことが自由記述内で指摘されている。今回は、グループ・ディスカッションの結果をチャットで共有する取り組みを試みたことで、昨年度よりは、そうした点に関する不満は少なくなったようであるが、まだ十分に改善されているとはいえない。そのため、あまり乗り気でない人々もそれなりに前向きに参加できるための工夫を考えていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報処理A
授業コード	42D02-001
教員名	姜 秉国
教員コード	019547
登録人数	33
回答数	25
回答率	75.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



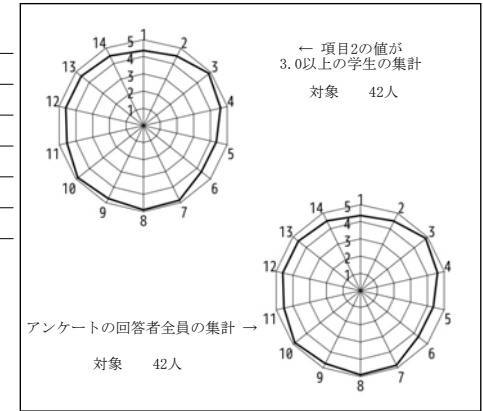
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「ビジネス情報の基本的な加工・分析ができること」と「簡単な事務処理の自動化システムの構築ができること」を開講当初に設定した目標であった。登録した学生のExcelの使い方に関する習熟度にばらつきが大きかったため、前半は習熟度の低い学生のフォローアップに努め、最後まで講義内容に対する学生の理解度に合わせて進めていく必要があった。評価項目全般にわり良い評価を得ており、現段階で特に改善を要する点は見当たらない。学生の出席、レポート、発表内容からみて、授業の目標は十分達成されたものと判断している。自由記述式設問（この授業の良かった点、評価できることは何ですか）の回答には、以下のようなコメント（評価できる点）があった。

- ・ 解説だけでは不十分な部分は練習問題を用いて解説してくれたこと。
- ・ 実務的な作業効率化の方法を学べたと思う。
- ・ 質問したことに対して先生がやり方を再度見せながら教えてくれる点
- ・ きちんと目的を教えてくれる
- ・ 生徒の理解度に合わせて授業が進行されていたこと
- ・ 力が付いたことが自分の目で分かった。
- ・ 授業内で課題に取り組みながら実務的なエクセルの使い方を学べた。
- ・ 授業前に比べてエクセルの使い方がとてもよく理解できるようになった。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営数学
授業コード	42D04-001
教員名	後藤 剛史
教員コード	100374
登録人数	72
回答数	42
回答率	58.3%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①「ゲーム理論の問題演習を通じて、ゲーム理論を本質的に理解できるようになること」が、開講当初に設定していた目標である。受講生の小レポートや期末レポートの出来具合から、この目標におおむね到達したと判断している。

②設問14の平均値は4.48であり、経営学科科目の平均値4.18および、読み取り枚数31~60枚科目の平均値4.36、前回（2019年2Q）のこの科目の平均値4.39を上回った。本科目では、すべての回でオンライン授業であったが、数学では教員の板書による説明と受講生のノートテイクが何よりも重要との判断のもと、iPad と Goodnotes (iPad用アプリ) を用いて、リアルタイムな板書を再現した。自由記述欄では、この授業形式に関する好意的な回答が10数件あり、好評なようであった（例：「予め数式を書いておいてそれを説明するのではなく、iPadを用いてリアルタイムで数式を書いて説明していた点。説明されている部分がどこなのか迷う事が無い上、思考のプロセスを学びやすかった」、「iPadの黒板を使って説明する授業形式だったのでとても見やすく、また進むスピードもちょうど良かった」、「先生の字が綺麗」など）。iPad上で綺麗に板書を再現できるよう、何度も練習して授業に臨んだが、これが教師の自己満足で終わらずに良かったと思っている。

③授業を丁寧に進めているので仕方ないところではあるが、もう少し進行速度を速めてもらいたいとの回答が1件あったことにつき、次回の講義にて改善すべく工夫したい。ただし、多数を置き去りにして1人に合わせることはできないので、あくまでも全体の様子を見ながらではある。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語で学ぶ経営学(ビジネスとジェンダー)
授業コード	42G26-001
教員名	BIERI, Thomas
教員コード	102517
登録人数	5
回答数	1
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

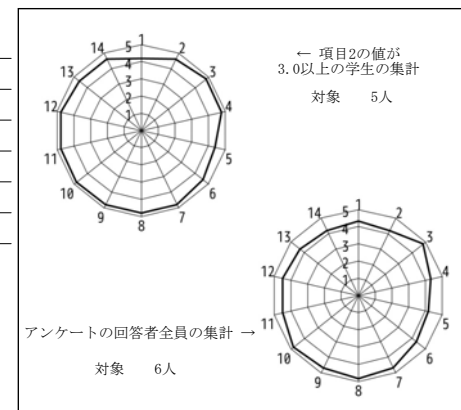
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) I believe all goals for the class were achieved, though managing English discussions and assessing fluency improvements were made more difficult through being online.
- 2) Only one student answered the questionnaire. However, from in-class feedback students seemed to be well satisfied with the class. That one student gave me all "5" scores and said, "If you want to learn more about gender and know how gender influence in workplace, it's a great class to take. A lot of lecture and information based on research, and it's easy to find lectures on webclass after class. It's tired to take notes and do a plenty of worksheets and homework, but it's worthy!! Teacher is patient, acknowledging, open to various types of students as long as you make efforts on it. It's a really good English class experience." This is exactly the kind of response I always aim for, so I feel quite happy with that.
- 3) I look forward to returning to the classroom-based teaching, and will continue to aim to improve my teaching. Now that students and I are used to digital support platforms, I will make more use of those for delivering and managing coursework outside of class time.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	法と人間の尊厳2
授業コード	10D05-002
教員名	服部 寛
教員コード	103600
登録人数	17
回答数	6
回答率	35.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

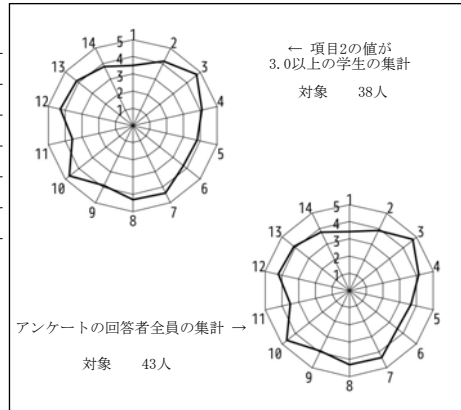


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①丁寧な説明を志向しているためか、復習を兼ねて説明を重複して行ったこともあり、当初の予定から遅れてしまい、最終予定のところまで間に合わなかった。他面で、最近のニュースとなったタイムリーな話題などについても適宜ふれ、理解の促進に努めた。学習の到達目標については、概ね達することができたと思っている。②数値で見れば、概ねよいと思われるが、全般的により高い満足度が得られるよう、次年度以降に改善を努めたいと思っている。レジュメについてはフォントサイズの小ささなどで見やすさの改善に努めたい。資料については、授業の回数を重ねるごとに、わかりやすいものにすべく、改良につとめており、それが功を奏してきているようである。今後も、引き続きタイムリーな話題にも適宜触れられるようにしたい。③先に挙げたところのほか、(人間の)尊厳の概念史の部分と、現代日本社会における諸問題との部分に二分される講義の内容について、より連携を持たせられるよう、授業内容に工夫をはかりたいと考えている。とりわけ、自己決定・自律と尊厳概念との関係について、法学上の自己決定権との結びつきをより説得的に提示できるよう、授業の内容一般について、改善したいと考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本国憲法1
授業コード	12C03-001
教員名	河合 正雄
教員コード	104426
登録人数	74
回答数	43
回答率	58.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

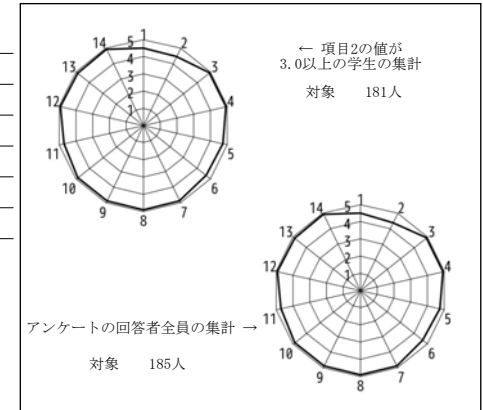
今回は、平均点こそ下回ったものの、項目1から14の平均、3から14の平均共に4点を超え、コメントも好意的な評価の方が多かった。従って、説明方法（冗談の頻度も含めて）や難易度、内容の密度は現状を維持していきたいが、それでも以下の反省点がある。

(1) レジюмеについて。Q2の授業評価に引き続き評価が割れたものの、Q2ほど厳しいコメントはなく、肯定的な評価の方が多かった。Q2に引き続き、情報量を維持ないし微減させつつ、ある程度余白を意識したレジюмеを作成する方向で改善を進めていく。

(2) オンラインでの受講環境について。Q2に引き続き、基本的には問題ないようである。但し、「オンラインのときインターネット疲れ軽減の休憩が欲しかった」という回答をいただいた。講義を連続して受講する学生も少なくないであろうことや、「日本国憲法1」が一方的な講義形式を採用していることからすると、今後オンラインで授業を行う場合は、検討する余地があるかも知れない。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	生命と倫理問題3
授業コード	13A03-003
教員名	森山 花鈴
教員コード	103223
登録人数	482
回答数	185
回答率	38.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標についてはは到達していると考える。生命と倫理問題について、学生自身が深く学び、考えていることが授業中の質疑応答のチャット、オンラインでのリアクションペーパー、最終課題から確認することができた。

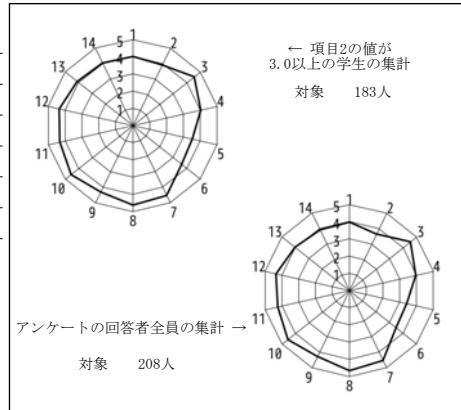
②評価については、大学全体の平均値、学際科目での平均値、科目登録者数別集計の平均値をすべての設問で超えることができた。自由記述欄では、良かった点として、レジюмеの内容に関する評価や、課題の量、授業内容、話し方についても「レジюмеや説明がわかりやすかった」等の意見があがっていた。受講人数が多く、オンライン授業だったものの、チャットやウェブクラスを通じた質問受付により、「生徒からの質問への回答が丁寧だった」等の評価も多くあった。また、録画も毎回用意していたことから、その点への評価も自由記述欄で多くあがっていた。

なお、これまでのオンライン授業と同様、インターネット環境には注意し、授業については大学のネット環境で配信をしていたため、学生側のネット環境以外にオンライン授業の際の授業環境への不都合な点は特になかった。「毎回音声がかちんと聞こえているかの確認をしてから授業が開始されたので、安心して授業を受けることができました」との回答も多かった。

③質疑応答の時間をしっかりと設けることについては、毎回評価が高いので、次クォーター以降も形式を検討しながら引き続き実施していきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	刑法総論A
授業コード	44A10-001
教員名	水留 正流
教員コード	101566
登録人数	314
回答数	208
回答率	66.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

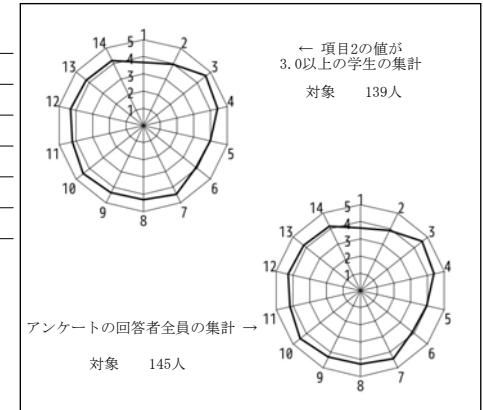


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 前年度に引き続き、Q3とQ4で刑法総論をいわば二巡するスタイルに変更した。未遂や共犯は一般には刑法総論の講義の後半で扱われるが、今回の授業ではこの部分の基本的な枠組みを説明し、その限りで定期試験にも出題した。
- 項目全体の平均が4点を超え、全体的には満足できる結果となった。しかし、設問5（到達目標の理解度：3.42）及び設問6（到達目標の実現感：3.47）はなお改善していない。授業の中で論述の訓練の機会を与えるだけでなく、もうひと工夫を考えたい。
なお、回答率は66.2%で、法学部及び大教室講義の平均を大きくクリアした。
- これまでのオンライン授業の経験から、資料を提示するのであれば、①配布物と全く同じ形で提示し、さらに②その配布物のどの部分を扱っているかを明確にすると、より多くの受講者にとってわかりやすくなることを学んだ。そこで、このことを徹底して意識して資料作成したところ、この点については概ね好評であった。対面授業であっても、手元のデバイスで資料を確認しながら授業を受講できるのは望ましいことかもしれない。したがって、コロナ禍後も可能であれば、あくまで画像提示だけのツールとしてZOOMを用いて授業を実施してみたいと考えている。
次年度はカリキュラム変更のため、刑法総論の履修体系にも変化がある。このことも踏まえて、今後ともよりよい授業の実施を目指していきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人権各論A
授業コード	44A19-001
教員名	沢登 文治
教員コード	017863
登録人数	312
回答数	145
回答率	46.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

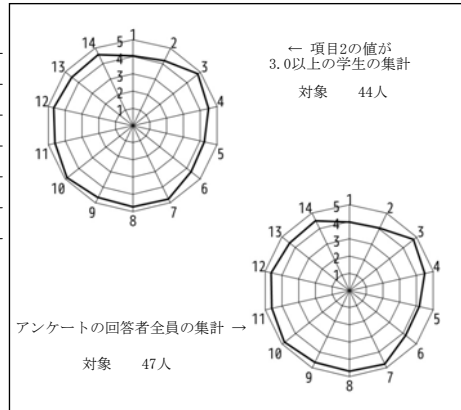


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ハイブリッド授業を大教室（S21）で初めて行うこととなった。4ポイントに届いていない項目を中心に考えたい。
- 履修生のほとんどは1年生のため、予習・復習が大切で、レジュメに示している毎回の課題に取り組むよう授業中に何回か話したが、(2)「予習や復習、主体的に授業に参加」3.86は高くないため、注意しようと思う。自由記述にはこの点、肯定的な意見もあったものの、予習・復習の度合いによって授業の進み具合も理解度もまったく変わるので、一層の働きかけをしたい。
- (5)「授業の到達目標を理解すること」(6)「到達目標に向けて力がついてきている」が3.96, 3.89と高くないことに、改めて到達目標を確認しながら授業を進めることの必要性を感じた。
- また(11)「学習意欲を引き出し積極的な授業参加を促す工夫」は、2019年度の同等科目である「憲法（人権）」の3.69より改善し4.18となったが、zoom用に用意した教材の効果である可能性が有る。さらに効果的な工夫を検討したい。
- (14)「全体の満足」は2019年度3.76から今回4.15と4点台となったが、これもzoom効果と考えられる。今後も、向上に向けて取り組みたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際法総論B
授業コード 44B14-001
教員名 洪 恵子
教員コード 103537
登録人数 177
回答数 47
回答率 26.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

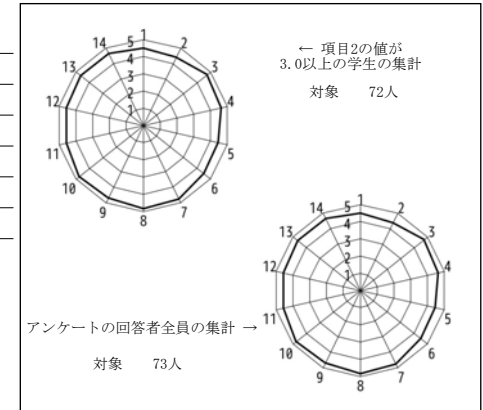


授業評価結果を踏まえた点検・評価

zoomによる遠隔授業を行った。遠隔授業であることの弱点である「音声不安定になりうる」また「教員が一方向的に話すだけの授業になりうる」に特に注意しながら、授業を行った。当初設定していた目標と到達は、アンケート結果の数値から見るとおおむね達成できたように思う。録画ではなく、zoomによる同時双方型の授業だったので、学生からの質問にもその場で答えることができ、またそのことで学生の理解度を測ることもできた。大学の授業は基本的には対面が望ましいが、大人数の講義科目の場合、遠隔授業（同時双方向）の長所もより強調されてよいように思う。アンケートの自由記述のなかに、様々な背景を持つ学生が参加しやすい授業だという声もあった。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 労働法A
授業コード 44B27-001
教員名 緒方 桂子
教員コード 103261
登録人数 294
回答数 73
回答率 24.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

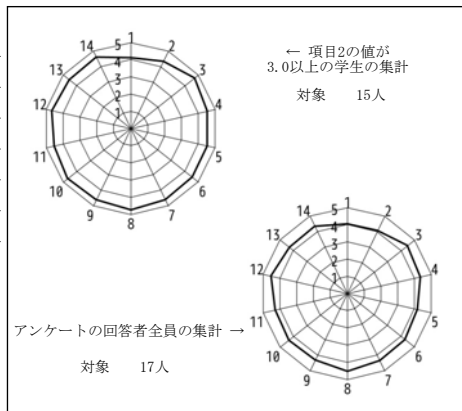


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
設定どおりの目標に到達した。
- ②担当科目に関する総合的な自己点検・評価
授業はオンライン形式で実施した。受講生からの希望もあり、また自身の経験に照らしても、オンライン授業の場合には集中力が持続しにくいと、扱っている内容がひと区切りつくタイミングで、1、2分ほどの短い休憩をとった。この間に、学生がチャット機能を使い質問をしてることが多かった。受講生の理解の程度を確認しながら進めることができ、とてもよい経験であった。
また、毎回の授業の理解度を学生が自己点検することができるように、WebClassにて「理解度確認テスト」を実施した。好評だったようである。なお、理解度確認テストの出来や参加の有無については、成績評価に反映させず、またそのことについて事前に周知した。
- ③次年度以降の方針
第4Qにおいてハイブリッド方式（オンラインと対面の併用方式）で授業を行ったが、チャットでの質問が激減した。少々、残念であった。授業中に、授業に関する質問があると、こちらも手ごたえを感じながら進めることができるので、オンライン授業の持つこういった特長を活かしたいと思うが、方法が思いつかない。好評だった理解度確認テストはこれからも続けていきたいと考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治思想史B
授業コード 44B45-001
教員名 西村 邦行
教員コード 104090
登録人数 109
回答数 17
回答率 15.6%
休講回数 3 回
補講回数 3 回

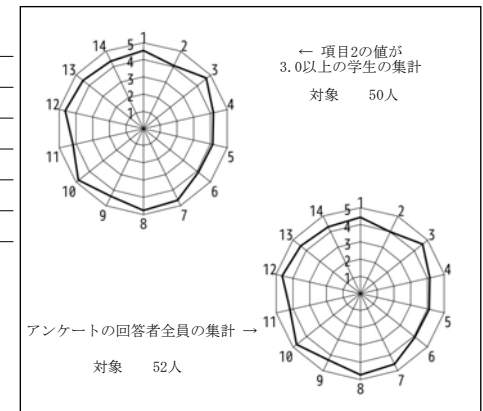


授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体として学科平均も上回っており、大きな失敗もなく授業を終えられたことに安心している。特に、これまで他の授業の評価において、到達目標に関する理解が弱いという傾向があったため、シラバスの説明に時間をかけるように注意を払ったが、その結果として全体の評価もあがったように思われ、学生への動機づけが持つ重要性に改めて気づくところがあった。実際、設問項目の1や2が並みでも、最終的な満足度は高くなっている回答者もいた。一方、設問項目の1や2がそもそも1といった受講生については、最後まで関心を引き出すことはできておらず、このあたりは今後ともよい方策を見つけ出ししていくことに努めたい。また、自身で少しペース配分を誤ったと感じていた箇所があり、自由記述欄においても進行速度がやや早い箇所があったとの声もあった。この点については、次年度以降、引き続き改善していきたい。差し当たって、難易度が高いと学生が感じたであろう箇所については、内容の見直しを図りたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 刑法各論B
授業コード 44B91-001
教員名 末道 康之
教員コード 100587
登録人数 130
回答数 52
回答率 40.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

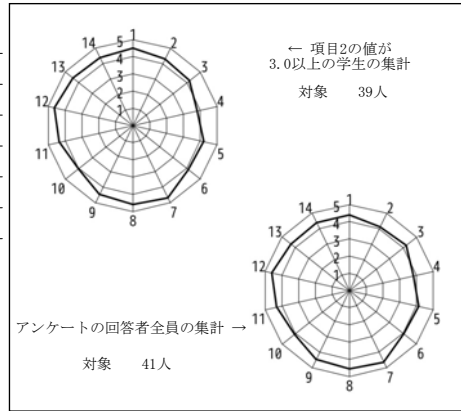


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた授業目標と到達については、オンライン授業14回で予定した内容をすべて説明しており到達したと考える。
- ②項目1～14の平均値は4.38であり、項目3～14の平均値は4.40であった。全体の満足度も4.31であり、すべての項目でも80・90%以上の評価を得ており、高い評価を得たと考えている。自由記述においても、授業内容について明快で説明が分かりやすかったと積極的に評価するものが多く、質問の機会を多く設けたことについても、授業内容を理解するうえで有益であったという意見が多かった。オンライン授業を実施して効果があったと思われるのは、対面の授業よりも学生が質問をしやすいという環境にあることである。学生からのチャットの質問に対して口頭で即座に回答することも可能であり、その点で学生の理解を深めることにつながったものとする。新型コロナウイルス感染症拡大下でオンラインの授業の利用が拡大したが、感染症が収束したとしても、オンラインの授業は積極的に利用すべきであるとする。
- ③授業の進度については、少し早い部分もあったという意見があった。オンラインの授業では授業の進行が比較的スムーズであるため、授業を効率的に進めたこともあったかと思うが、そのような意見があったことも踏まえて、来年度以降には対応したいと考える。来年度以降も、学生の理解や意欲を高める授業の実施に向けて、授業運営を考えていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 知的財産法
授業コード 44C15-001
教員名 平嶋 竜太
教員コード 104448
登録人数 166
回答数 41
回答率 24.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

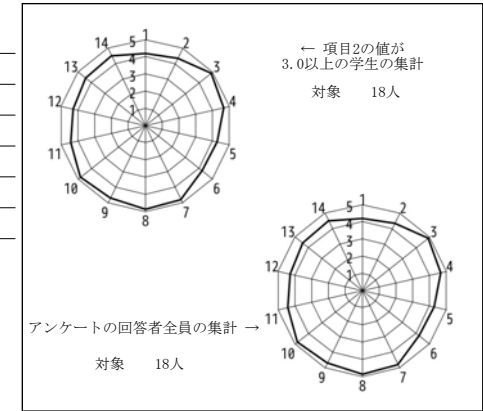


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定した目標については、概ね実現できたものとする。ただし、当初設定目標として、講義で扱う内容を学部授業としては、かなり多くの内容を取り入れていたため、実際に授業を行った実感としては、若干、目標設定自体が多めであったとも考えられる。
- ②数値データをみる限り、ほぼ全項目について4以上の数値となっており、受講学生においては、ほぼ授業内容を理解して、一定の学習成果を得られたものと考えられる。もっとも、当初目標で取り扱う内容が若干多めに設定していたため、授業内容へキャッチアップすることが大変な学生もみられるようである。このため、授業として取り扱う内容については、もう少し減らしつつ、個別の項目の説明を詳しくする形が望ましかったものと考えられる。また、オンライン授業であることからの固有の問題として、参加学生のなかでマナーの悪い者への対応を検討したいと考える。（オンライン授業を前提とした場合であるが）
- ③次年度以降の講義構成については、項目内容をもう少し減らしたうえで、個別説明に時間をかける形での検討をしたい。オンライン授業ということもあって、参加学生への質問や意見を求めるといったことを授業で取り込むことが難しかったので、そのような機会も積極的に設けたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済法A
授業コード 44C19-001
教員名 齊藤 高広
教員コード 103599
登録人数 23
回答数 18
回答率 78.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

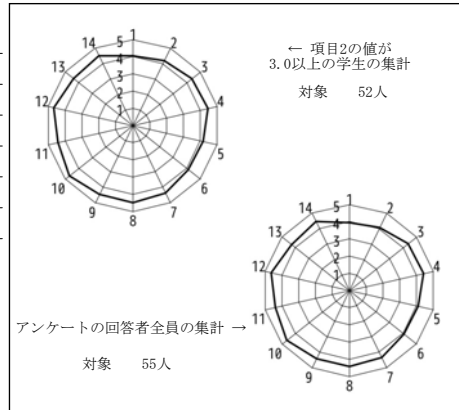


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 本講義では、①経済活動に対する法的規律を理解する、②市場における競争秩序の意義と規整方法を法的に説明することができる、③競争政策の歴史と競争制限行為の規制手法を理解する、という3つの到達目標を念頭に、オンライン方式および途中から対面授業方式の形で、計14回の授業を実施した。授業計画どおり、進行することができ、本年度については、例年または昨年と比較してとくに登録者数が激減したが、多数のアンケート回答を得ることができた。対面授業の場合、あてがわれた教室のスクリーンを通じてしか画面が投影されないため、「文字が細かい」「情報過多」などの不満があることが懸念されているが、幸いその点に関する問題点の指摘はなかった。カーテンを閉める、前方を消灯するなど工夫をしたものの、反射によるスクリーンの見づらさを指摘する回答が1件あった。窓側スクリーン1枚設置教室の課題である。また、オンラインの場合、比較的、チャット等の活用により質問をしやすいとの声もあるが、今回、対面およびオンラインでの有意な差はなく、例年どおり、対面での質問も複数あった。講義形式の授業であって、学生との対話方式による授業を心がけているが、コロナ禍の中、1台のマイクを学生間で共有させることは慎まざるを得ず、その意味で、どのように参加型授業を維持するかが、個人的な課題である。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 企業法各論
授業コード 44C29-001
教員名 家田 崇
教員コード 102459
登録人数 199
回答数 55
回答率 27.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

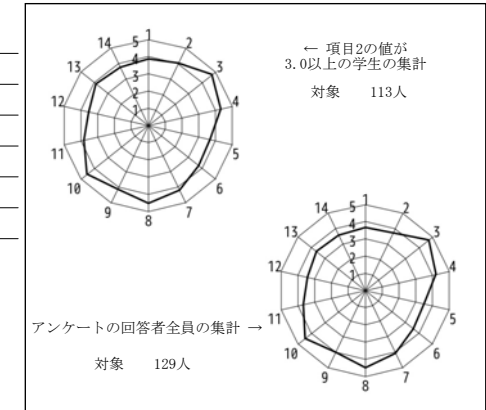


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講当初良好な評価をもらうことを目標としており、適宜授業を実施するにあたりオンラインでの授業の実施であることを踏まえ、オンライン授業の特性Zoomの設定など把握し、特に授業中に簡単な質問を行いチャットで書き込むなどして受講者の理解を確認する方法で実施でき、一定程度の到達ができたものとする。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
自由記述には、成績評価に関連する注意喚起をマイナスな表現と記述しているものがあつたが、成績評価に関連する連絡事項は、厳格に遵守してもらわなければならないことから、一定の不利益や厳格な遵守を要求しなければならず、これをマイナス表現とされると何も実施できなくなる。このような無責任な記述を行うこと自体、差し控えてもらえなければ、そもそも授業など成立しないのではないと思う。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など特になし。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 行政法総論（基礎）
授業コード 44F01-001
教員名 榑原 秀訓
教員コード 100548
登録人数 366
回答数 129
回答率 35.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

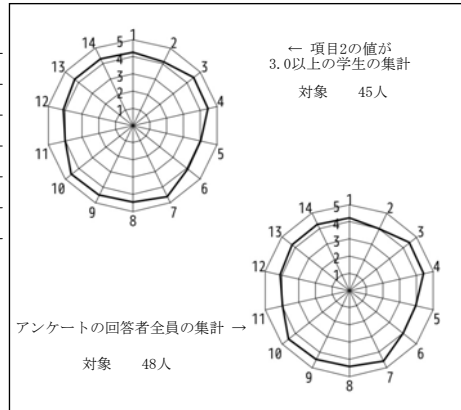


授業評価結果を踏まえた点検・評価

2019年度に同じ科目を担当しているのので、それと比較してみたい。なお、授業は、履修登録者が多いことから完全オンラインで実施している。レジュメと図などを書いた資料は資料講義DLサーバに掲げた。また、2019年度と同じく、自習用に、○×式の参考問題（回答は示さず）と、過去の記述問題も講義資料DLサーバにあげた。回答数は129名であり、回答率は5割弱である。前回数値が低かったものをみると、「到達目標を理解することができましたか。」3.49から3.50、「到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」3.55から3.57、「適切な指導や情報提供はありましたか。」3.97から3.69、「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか」4.19から3.45となっている。後者の二つは若干数値が下がっており、2017年度の数値に近く、変動の範囲内のようにも思う。ただし、全体の満足度は3.78から3.58となっており、2017年度から低下傾向にある。これにオンライン授業が影響しているのか、学生の学力などを反映しているのかは不明である。自由記述欄には、従来と比較して、積極的意見も改善意見も多数記入されていた。改善意見は以下の二点が大きなものかと思われる。質問に対する改善の要望が多かった。もっとも、メール等での質問は多くはなく、何が問題かわからないところがある。もう一つはレジュメについてであり、簡単すぎるといったものがあつた。他方で、レジュメや資料に対する積極的評価も多く、レジュメの改善意見は、レジュメだけに頼ることの問題の裏返しのようにも思う。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 家族法(親族)
授業コード 44F03-001
教員名 伊藤 司
教員コード 100474
登録人数 106
回答数 48
回答率 45.3%
休講回数 0回
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

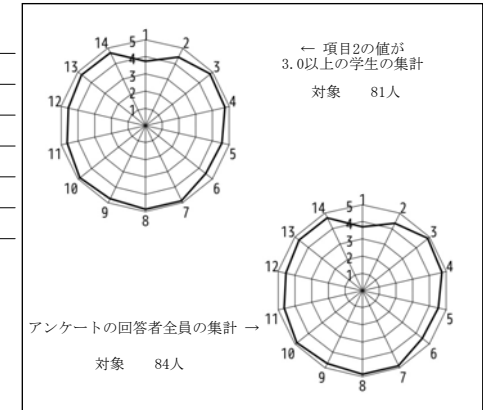
この講義は民法の「親族」を概説するもので、この分野の法的な問題を自力で解決できる用法の知識といかに解決するかの実例を数多く学ぶことを目標にしている。この目標は一応達成できているように思われる。

また、講義それ自体も全体として、それなりの評価が得られているように思われる。ただし、今回についても以前と同様にアンケートに協力してくれた学生の数が少ない。試験を受けた人数からすると4分の1ぐらいしか回答されていない。講義をしている限りにおいてはそれほど人数の減少を感じなかったのであるが、アンケートの回収率をみるとそれほどでもない状況である。おそらくこれは講義には出席していたが、アンケートには協力しなかった学生が少なからずいることを反映しているように思われる。

自由記述において特に否定的な意見はみられなかった。ただ、1度大幅に時間を超過してしまったことがあり(これはzoom中にブザーに気がつかなかったことによる)これは、今後は2度と内容に気をつけなければならない点である。また、内容についても今後も高評価が得られるように努力したい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[H・F]6
授業コード 10A51-007
教員名 山田 望
教員コード 000211
登録人数 150
回答数 84
回答率 56.0%
休講回数 0回
補講回数 0回

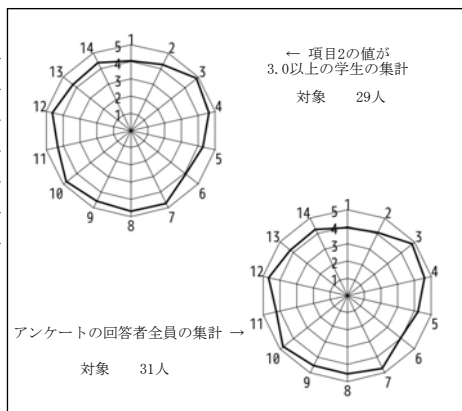


授業評価結果を踏まえた点検・評価

2年次生の選択必修科目「キリスト教概論」の授業で、受講者数150名のうち、本授業評価に回答した学生数は84名であった。まず、①の開講当初に設定していた目標と到達の程度については、設問の5、この授業の到達目標を理解することができたか、について、開講主体別のキリスト教概論/宗教論の平均値が4.26に対して4.54、設問の6、あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うか、について、開講主体平均値が4.15に対して4.48であったこと、また、新知識の獲得や理解度を問う設問13で、開講主体平均値が4.44に対して4.70、全体としての満足度を問う設問14で、開講主体平均値が4.38に対して4.68であり、いずれの設問についても開講主体平均値を上回っていたことから、概ね目標は達成できたものと考えている。②の自由記述に関しては、映像が効果的に用いられていたこと、毎回の授業の録画を資料DLサーバーにアップしていたことで、見落としていた部分の再確認や振り返りができて良かったとの評価が目についた。毎回の授業を大切に、オンラインであろうと対面であろうと、自分の経験や知識を踏まえた熱っぽい授業を行ってきたので、「先生の熱意が感じられて良かった」との評価も多かった。③としては、回答率をさらに上げて、全受講生からの評価を受けるようにすべき点、リアクションペーパーのやり方や出欠の取り方などを良いものに改善していきたいと考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アジアとの出会い3
 授業コード 13B02-003
 教員名 野口 博史
 教員コード 100473
 登録人数 119
 回答数 31
 回答率 26.1%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

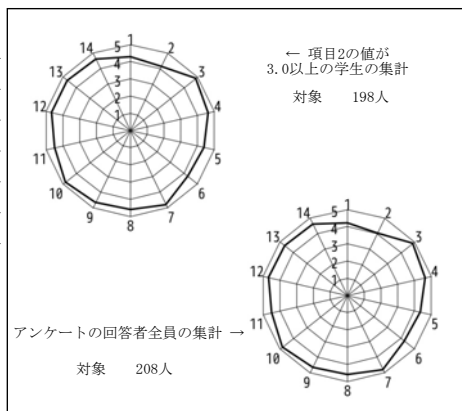
本講義は、JABEE対象科目A-3に該当し、グローバルな視点から文化・社会の多様性を理解することを学修目標としている。レポートの結果はほとんどが満足できるものであり、本講義の目的をおおむね達成できたと考えている。

本講義は2018年に授業評価の対象となっており、この際、項目1から14の平均が3.86、項目3から14の平均が3.92、設問14の満足度が3.61と、以前と比較してかなり低い数値となり、授業の全体的見直しが必要であると報告した。その後、2年間かけて、講義内容のほぼ半分を入れ替え、再構成した結果が今回現れていると考えうる。項目1から14の平均が4.40、項目3から14の平均が4.47、設問14の満足度が4.26と、おおむね以前の数値を回復できた。

自由記述欄の回答も、この傾向を反映していると思われるが、一方、従来継続的に問題となってきたものの、ここ6～7年はほぼ抑制に成功していた「早口」に関する指摘が、改善すべき点5点のうち3点を占めており、この点を克服するため、さらなる努力が必要である。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会システムと環境2
 授業コード 13D06-002
 教員名 鶴見 哲也
 教員コード 102265
 登録人数 355
 回答数 208
 回答率 58.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

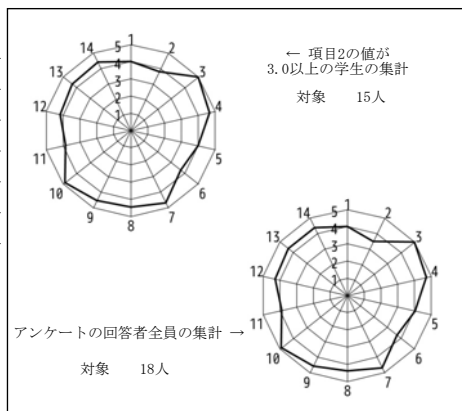


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開港当初に設定していた目標と到達の程度については、レポート課題の内容が全体として高い水準となっていたことから、十分に達成できたと考えている。また、項目1から14の平均 4.55、項目3から14の平均 4.62であり、これは学部内平均や同人数帯の授業科目と比較して高い評価を得ることができている。自由記述をみても、具体的説明が効果的であったことが分かり、理論的な説明だけでなく映像教材や実際の事例を豊富に使用することで、具体的な理解につながり、その点がよい評価を得たと考えている。最新の事例を積極的に採用したことが功を奏したと考えている。今後も、具体的事例や映像、写真などを用いることで学生の理解につなげていきたいと考える。加えて、オンラインでの講義をプラスにとらえ、授業中にわからないことがあればチャットで質問を受け付け、また授業の最後のところで質問の時間を設けることで、学生の理解につなげることができたと考えている。次年度以降もオンラインの良いところは活用して授業運営をしていくことが望ましいのではないだろうか。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際機構論
授業コード 44B49-001
教員名 山田 哲也
教員コード 100839
登録人数 57
回答数 18
回答率 31.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初はオンラインであったが、その後対面授業を実施した。いわゆるハイブリッドは行わなかったが、講義資料については引き続き資料ダウンロードサーバを利用した。授業運営全般について混乱は生じなかった。

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

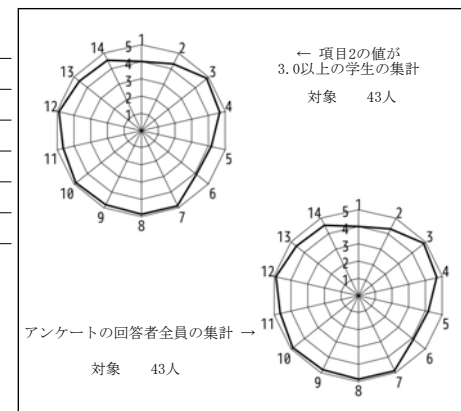
おおむね達成できていたと考える。対面授業で板書を多用すると、進度が遅くなるということに改めて気付かされた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

項目1、2、5、6という学生自身の主体性を問う設問の数値が、のきなみ低い。加えて、自由記述において「個人の勉強量が試験に直結しすぎるかもしれないこと」を問題点として記した学生がいることには愕然とする。学生が何を期待して講義に参加しているのか、強い疑問を感じざるを得ない。「教科書がないと、勉強出来ない子もいる」という指摘についても同様である。教科書を用意し、それを踏まえて講義を行うと「教科書から離れる」と言われ、教科書の内容を解説すると「教科書を読んでいるだけ」と批判される。学生自身に「学生としての主体的な学びは何か」を考えさせる機会が必要ではないか。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文明論概論2
授業コード 46A01-002
教員名 太田 和彦
教員コード 104469
登録人数 117
回答数 43
回答率 36.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

シラバスに記載のとおり、本講義は主に、下記の達成目標を設定していた。

- ・シュペングラー、トインビー、ハンチントンらの主要な文明論の議論を、文献をふまえて要約できる。
- ・文明史上の転換点と呼ばれる出来事についての知識を持ち、社会・技術・生態系の相互作用の観点からそれらを要約できる。

この目標はアンケート結果とレポートの提出結果を鑑みる限り、十分に達成されていると考える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

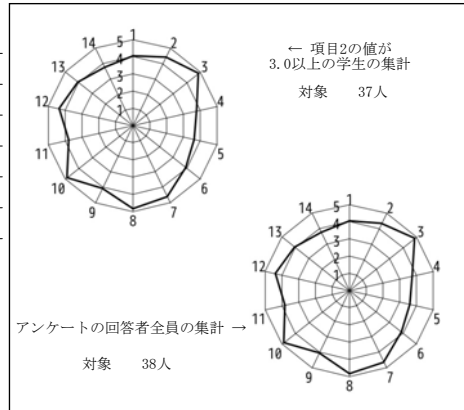
数値データならびに自由記述を鑑みる限り、受講生は本講義に十分に満足していると考えられる。

特に、日本でなされた文明論の主要な議論について、文献をふまえて要約できることを目指し、学術論文の基礎的な読み方をいくつか紹介したところ、受講生の関心と適合していたため、次年度も実施を予定している。また、質疑応答の時間をかなり多く取ったことも総じて好評であった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
継続して良質な講義を提供し、活発な学習の場を作りたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ミクロ経済学
授業コード	46D03-001
教員名	佐藤 創
教員コード	103882
登録人数	95
回答数	38
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

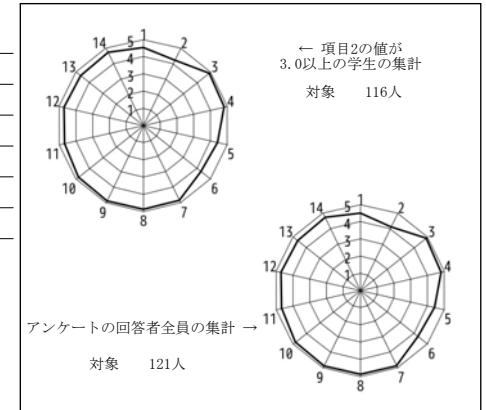


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達については、アンケート及び試験結果の結果をみると、おおむね達成できたと思われる。本授業の項目1から14の平均、3から14の平均は4.21である。なお、回答数は38でおおよそ4割であり、最後の授業でアナウンスしたが、オンラインということもあったのか、やや少ない。オンライン授業という取り組みのなかで、本授業ではレジュメを事前にアップロードし、そのレジュメのなかで穴埋めをさせる方法を採用した。ミクロ経済学は数式や計算も多く、図表を多用することで、対面で伝えることができない分を補う努力をした。なお、通信状況が学生によって異なる可能性を考慮し、おおよそ30分ごとに、見せたスライドを再投影し、短時間の質問時間を設けた。これらの工夫はアンケート結果の集計および自由記述欄をみると、概して、学生の評判が良かったようである。なお、試験100%での評価としたことが、範囲も広く不安を感じた学生が多かったようで、次年度は、中間レポート30%などとし、試験範囲を若干絞るなどの工夫は検討する余地があると考えている。オンラインの授業が続く可能性もあり、引き続き、「当該授業の理解度」「自発的な学びの促進」をオンライン授業でも進めるための良い工夫がほかにもないか、試行錯誤しながらより良い講義になるように努めたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	産業心理学
授業コード	46D04-001
教員名	久村 恵子
教員コード	100026
登録人数	213
回答数	121
回答率	56.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

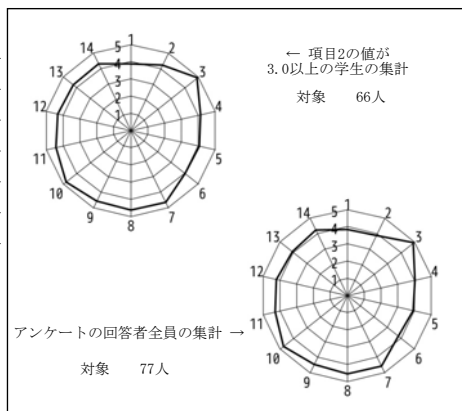
本講義の目的は、産業社会における心理学の応用を、生産者（労働者）および消費者として社会に関わる人間の行動や態度、心理を通じて理解することである。そのため、現在社会における若年者の職業選択や悪徳商法の罠などを題材にしつつ、キャリア発達における心理学、マーケティングにおける心理学という2つの側面から展開してきた。

今回の授業評価の結果を見る限り、設問3～設問14の平均値は4.72（同科目前回値4.60）であり、総合政策学科科の平均値（4.48）と比較しても、全体として肯定的で高い評価が得られた。自由記述においても「身近な事例を使った説明が分かりやすい」、「チャットや投票機能によりオンラインだけドコミュニケーションがとれ、楽しかった」、「レジュメやスライド資料の使い勝手がよく、分かりやすかった」、「将来に役立つ知識が学べた」、など授業内容および運営に対して肯定的意見が寄せられた。

その一方で、自主的な学習に関する項目（設問2）の値は4.12であり、前回値（4.03）と比較すると若干向上しているが、設問項目の中では一番低い値となった。しかし、自由記述には「中間レポートや定期的に学習内容を確認する機会があり、修行内容の理解を深められた」という声がある反面、「振り返りの機会が欲しい」という声もあり、この相反する声に対処できるように今後の課題であり。この課題も含め、基礎的な理解を深めつつ、応用できるような自主的学習を促す方法を検討し、次年度の授業に向けて改善を図っていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代国家論
 授業コード 46D12-001
 教員名 井上 洋
 教員コード 100177
 登録人数 194
 回答数 77
 回答率 39.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



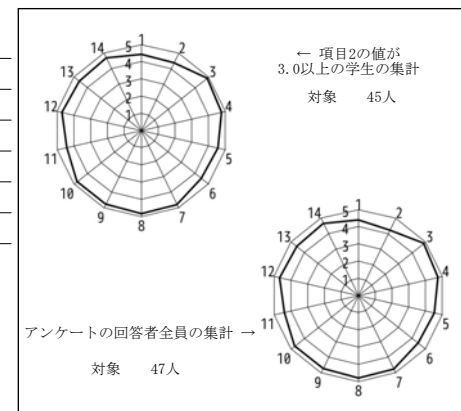
授業評価結果を踏まえた点検・評価

オンライン授業という形態は、学ぼう、聞こう、知ろうという意味をもつ学生と講師との間に、一対一で語り掛ける空間をつくりだす、ということに、オンライン授業2年目の今年、気がつきました。こうしたオンライン形式の特長を意識し、また、わたし自身が来年度末で大学教員としての生活を終いにするという事情から、本年度秋学期のふたつの講義では、現在の日本の政治と社会、行政とマスメディアのおかしさを、具体的な資料を提示して自分の言葉で語りました（これは今の日本を戦争への道を歩んでいる社会と捉える見地から日本の政治と行政の問題状況を論じるということです）。たぶん、受講生からみれば、普段、そしてこれまで聞いたことがないような見地からの話だったはずで、しかも、わたしたちが同胞とともに尊厳ある生を生きるという視点から知らなければならないような、しかも通常の生活空間ではふれられることなく隠されてきた事件・議論・音楽・写真・動画などをとりあげるものであったため、多くの学生はこの話をどのように受けとめたらよいかかわからないという反応なのではないかと思っておりましたが、評価アンケートの数値（4.32）が予想外に高かったので、びっくりするとともに、話してよかったという感懐をもちました。

今から40年ほど前のことでしたが、静岡大学の河田雅圭先生が《教育の喜びとは、学ぼうとする者がいて教えようとする者がいるときに双方の間で一瞬飛び散る火花のような有難いもの》述べられました。わたしは、南山大学に赴任して以来17年余、一度もそのような喜びを経験したことがありませんでしたが、この秋学期2つの講義において計3名の学生との間で、河田先生が述べておられた“教育の喜び”に幾分なりとも近い何かを経験することができました。コロナによるオンラインという形態がなければあり得なかったであろうことを思うと、いろいろな偶然の有難さをかみしめています。退職する前にたいへん良い経験をさせてもらったと思います。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営学概論
 授業コード 46D13-001
 教員名 金網 基志
 教員コード 102923
 登録人数 113
 回答数 47
 回答率 41.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

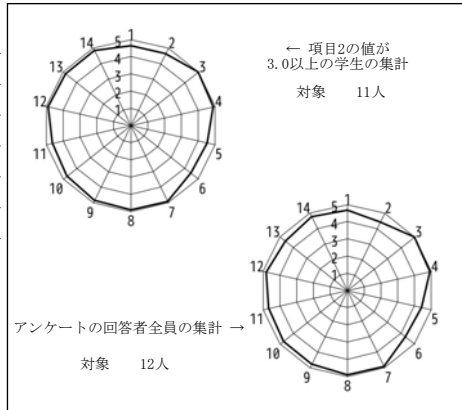


授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体としての授業満足度を示す設問14の平均値は、4.66であり、全体平均4.36、総合政策学部平均4.35、登録者別平均4.34を上回っている。また、各設問の平均値も、設問10を除いて総合政策学部平均を上回っている。この授業は対面授業であった。授業の妨げになる行為はほとんど気になるものではなかったが、一層注意していきたい。到達目標の理解に対する設問の平均値も、総合政策学部平均を上回っており、ほぼ達成できたと考えている。自由記述欄を見ると、事例を多く取り上げている点に分かりやすかったとする回答が多く見受けられた。今後も、最新の事例紹介を行いながら、授業を進めていきたいと考えている。また、授業開始時に前回の復習を行うことで、理解が深まったとの記述もあった。こうした復習も今後続けていきたい。Exerciseで考えさせる時間を設けていることも評価されている。こうした取り組みも今後も継続していく予定である。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	統計解析
授業コード	46E03-001
教員名	狭間 諒多朗
教員コード	104124
登録人数	26
回答数	12
回答率	46.2%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

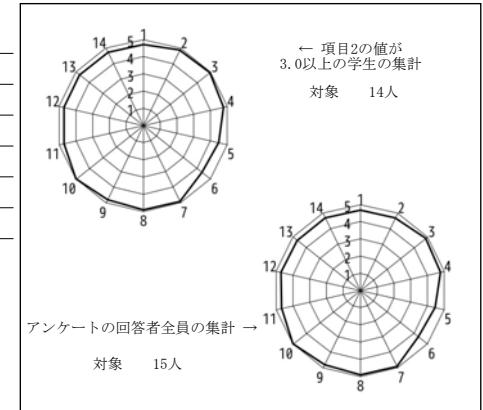
本授業では「①様々な統計解析の手法の意味を理解する」「②主要な統計解析の手法について統計パッケージソフトの結果を読みとれる」の2つの到達目標を掲げている。①については、計6つの手法を扱うことができた。その上で、毎回の小課題を見る限り、受講生はこれらの手法についてしっかりと理解できていたように感じた。②については、まずEXCELを使ったHADという統計パッケージソフトの使い方を説明した。その上で、統計パッケージソフトが出力する多くの数字の中から、適切な数字を選び出し、結果を解釈することができるようになっていたという手ごたえを感じている。

数値データをみると、ほとんどの項目が4点台後半であり、おおむね高い評価となっている。この授業では高度な統計手法も含めて多くの手法を扱ったが、項目番号4の平均値が4.92となっていることから、受講生にも理解できる構成と速度になっていたと思われる。また、自由回答の「先生の説明がわかりやすかった。」という回答からも、難しい手法も理解できる、適切な授業になっていたという手ごたえを感じている。

一方、項目番号5の平均値が4.42とやや低くなっている。説明はわかりやすくてきたものの、こちらからの一方的な授業になってしまったことは反省点である。今後は、学生が主体的に授業に参加できるような授業を目指したい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	総合政策中国語III
授業コード	46F05-001
教員名	梁 暁虹
教員コード	045229
登録人数	17
回答数	15
回答率	88.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

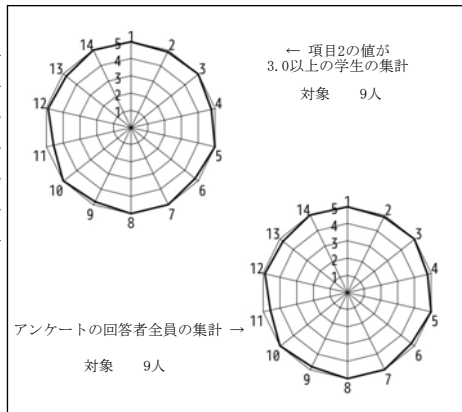


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「学生による授業評価」から判断して、この科目に設定した目標は、概ね達せられたと思う。「授業評価集計」を見ると、設問1~14の平均値は4.73、設問3~14の平均値も4.74、設問7、8は4.93、設問10は、5.00、とかなり高い点であり、学習者及び授業担当者双方の満足感が窺えよう。学生の自由記述項目15では、「授業開始前に、楽しくお話をしてくれたり、授業中に質問がないか適宜聞いてくださるところ。」「オンライン開催だったにも関わらず、先生のアウトホームな雰囲気によって先生と生徒との距離が近く感じた。」「教科書の内容だけでなく、それに関係する例文をいくつか用意していただいたので理解が深まった。」「説明が詳しくてわかりやすかった。」「教科書には書かれていないことまで学ぶことができるともよかったです。」等のよい評価があった。一方、教師として改善の余地がないわけではない。設問6は4.33の点数であった。「あなたはこの授業の到達目標に向かって力がついてきていると思いますか？」この質問は、学生自身に関するものではありませんが、教師として如何にこの点改良しうるか、即ち、学生の学習に対する積極性、学習努力、学習目的、等を啓発しうるか、熟考したいと思っています。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策中国語II2
 授業コード 46F05-002
 教員名 原田 直枝
 教員コード 018754
 登録人数 17
 回答数 9
 回答率 52.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

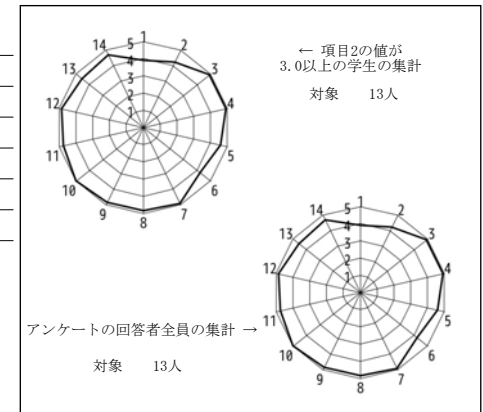


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この科目は、総合政策中国語Ⅰの継続科目であり、Ⅰで習得した中国語運用力をさらに伸長させるもので、3つの到達目標（1. 中国語によるコミュニケーション実践に必要な語法・会話の運用力を発展させる。2. 時事的な中国語文の分析に必要な語法を習得する。3. 現代中国の諸事情に関する初歩的話題の中国語文献を処理することができる。）のいずれについてもⅠで身につけた学力を伸ばすことを達成できていることが、日常の状況、また期末に実施した試験の成果から窺われる。②オンラインでの授業ということで、どうしても学生の習得状況を判断することが難しい面はあり、「科目として好ましいスピード」よりも少し慎重になり、授業の進め方が鈍くなってしまった反省がある。この自覚は、自由記述で「少し授業の進度が遅く感じた」というコメントが1件あったことと無関係ではないと思われる。また、項目11「学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」に関して、画面提示する情報について工夫が足りなかったという自覚があったが、実際、学生からの評価としても数値に伸びがなく、今後改善したいと思う。③次のQ4にもⅢが続く。ようやく対面で授業を行なうことができるので、学生の反応をよく見ながら、適切な配分で授業を進められるように配慮し、工夫していきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ACADEMIC PATH ENGLISH2
 授業コード 46F07-002
 教員名 CROKER, Robert
 教員コード 100082
 登録人数 40
 回答数 13
 回答率 32.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

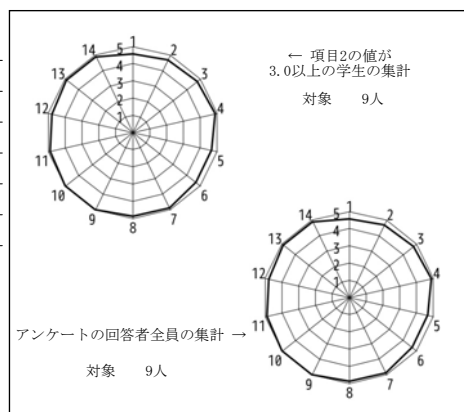


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This required elective course for third-year Faculty of Policy Studies students met once a week in Q4 on Friday afternoons, for a total of seven classes, online. The students were not particularly motivated to take the course before the course began, but nonetheless were satisfied with the course by the end of the quarter. The focus of the course was to help students learn how to find online resources for their graduation theses topics in English and Japanese using CiNii, ProQuest, J-Stor, and from Japanese government sources. Students were put in breakout rooms of three students each so they could ask each other questions, and so I could easily go around and check with and assist each student; the students found that this worked quite well. Each class, students wrote summaries of two readings that they had found in class, and finished them for homework by the Sunday evening. At the end of the quarter, students combined the information in these articles and government reports to create a 400-500 word, four-paragraph essay. The students worked hard both during and after class. Based upon the questionnaire results, overall the students felt that the course was worthwhile and helpful.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	CAREER PATH ENGLISH2
授業コード	46F08-002
教員名	O' CONNELL, Sean
教員コード	100448
登録人数	28
回答数	9
回答率	32.1%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

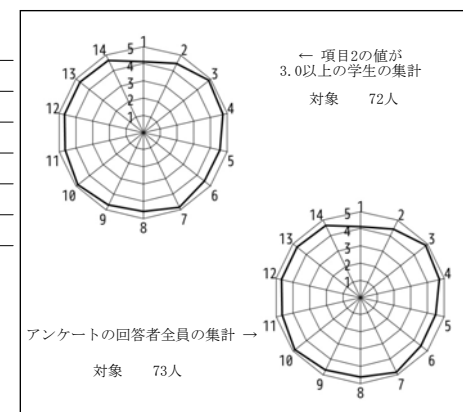
Career Path English focuses on a skills-based approach to English learning for workplace communication—namely, basic Japanese-English interpreting and translation skills. The main course goal was to give students the opportunity to experience the type of training and study required to become interpreters and translators. Additionally, this course aimed to encourage students to produce English in simulated contexts centering on workplace communication. To that end, both goals were achieved through a student-centered, active-learning approach to class content instruction.

Overall, the 4.82 score reflects a high level of satisfaction among the students and the individual comments for Q15 show that students found the content relevant and the instruction approach appropriate. However, it should be noted that only one-third of the class actually completed the online survey even though sufficient time in class was given to do it. In terms of self-assessment and evaluation, I am happy with the way in which the students reacted, progressed and applied themselves to the tasks given.

As I have been teaching this type of course for the last twenty years and constantly updating and improving its content, the course itself and my approach are as refined and effective as could possibly be.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	労働経済論
授業コード	46K04-001
教員名	水落 正明
教員コード	102745
登録人数	145
回答数	73
回答率	50.3%
休講回数	0回
補講回数	0回

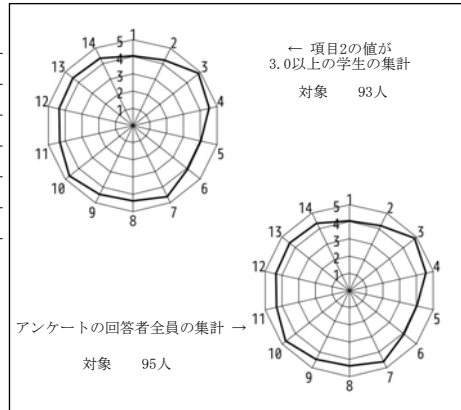


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の目標は、経済学の分析枠組みで労働市場に生じている問題（失業や賃金格差など）を、理論的考察と実際のデータ観察および分析（Excel使用）を通して理解することであった。評価から判断して、概ね授業の目標を達成したと考える。総合的な満足度（設問14）については4.63と、総合政策学科の平均4.35を上回っており、良好な結果であると考えられる。今年度は、オンライン授業（途中で対面に移行）で全員がPCを使用していることを生かして、Excelによるデータ分析も混じえた講義を行った。通常はグラフで読み取るだけであった数値を自身で計算したり、関連する事象のデータを自身で取得して分析してみたりしたことで、学生の興味を引くことができたと推察され、今後ともこうした内容を充実させていきたい。各項目について見ると、総合政策学科で平均値が公表されている14項目において、下回った項目は1つのみで、ほとんどの項目で良好な結果を得ることができた。下回った項目は、設問8「授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。オンラインで受講した場合でネットワーク環境が不安定だった場合は「どちらとも言えない」を選択してください。」であった。この点については教員側の努力では如何ともし難い部分がある。自由記述の感想を見ると、Excelでの作業を通して自分で考えることで、良い緊張感を持って授業に望めたようである。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	都市環境論
授業コード	46N21-001
教員名	石川 良文
教員コード	100650
登録人数	178
回答数	95
回答率	53.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

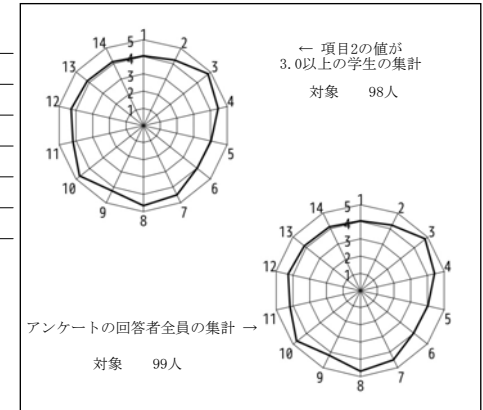
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
大学平均を全ての項目で超えることを目標としていたが、ほとんどの項目で大学平均程度であった。授業の構成や進行速度、理解が深まったかについての質問では大学平均を超えたが、一方で到達目標を理解することができたか、よく聞き取れたか、質問や相談の機会についての設問では大学平均を0.1ポイント程度低かった。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
良く聞き取れたかの設問に対して数値が低く、自由回答でも聞き取りにくかったという意見が散見された。オンラインでの授業だったが、PCのマイクの問題と思われる。オンライン授業が今後も続くのであれば、機器を調整する必要がある。総合的な授業満足度は大学平均程度の4.33だった。コロナ禍前は大学平均を超えていたことから、授業形態が変わったことによる影響があるものと思われる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
第1クォーターでは大学からハイブリッドを要請されたため、授業形態と変えたことにより学生の評価が悪かったが、第3クォーターの授業ではオンライン授業になり評価が高まった。そのためハイブリッド授業は今後は行わない方が良いと思う。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ソフトウェア工学基礎[S]
授業コード	52A03-002
教員名	吉田 敦
教員コード	101920
登録人数	197
回答数	99
回答率	50.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

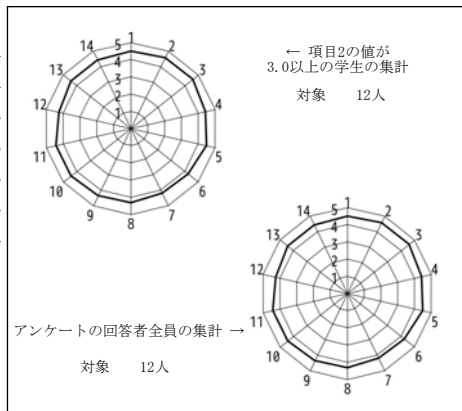


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本年度、初めて担当した授業であり、全体として無事に終わることが最大の目標であった。オンライン授業になることを前提に、講義資料および各回の授業内容を復習する課題を用意した。学生はプログラミングの実習以外にはソフトウェア開発の経験がないので、事例や自身の経験を交えたり、ソフトウェア開発以外の例を用いるなど工夫したが、時間的に苦しく、来年度、授業内容について取捨選択が必要と感じた。また、毎回の課題について採点をしたうえで、次の授業で解説や補足等を行なった。学生の理解が低い課題は再度提出させるなど理解が進むよう工夫をした。学生からのコメントとして、例を示して話したことや課題のフィードバックがあったことは理解の助けになったことが書かれており、取組みについては学生から評価された。学部独自の設問以外は、ほとんどが4以上であり、唯一、設問6が3.99であった。授業内容がソフトウェア工学全般を広く扱ったので、個々の内容が薄くなったことが原因と想定している。また、学部の独自の設問の結果からもそのことが伺える。来年度については、今年度の授業内容を見直し、具体的な適用例を増やしたり、補助的な資料を用意するなど、めりはりをつけた内容にする予定である。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	数学科指導法D
授業コード	15B83-001
教員名	小藤 俊幸
教員コード	101907
登録人数	28
回答数	12
回答率	42.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

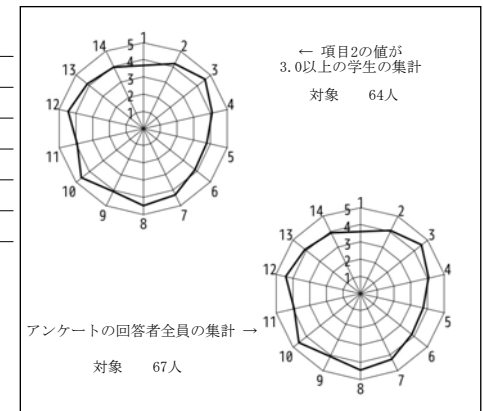
教科「数学」における様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目標としている。特に、授業構想から指導案作成への流れを対象として、背景となる学問領域との関連の理解を深め、それに関連する学習指導理論を踏まえた授業設計を行う方法を身に付けることが目標である。

新学習指導要領（中学校では本年度から実施、高等学校では来年度から実施予定）では、ICTの利用が推奨されている。これに対応して、コンピュータや情報通信ネットワークの活用について紹介した。また、新学習指導要領では、統計分野の教育が重視されていることから、授業構想の実践例として、度数分布表とヒストグラム、四分位範囲と箱ひげ図、標本調査、分散と標準偏、相関係数、確率分布、統計的な推測などの統計分野の教育内容を取り上げ、上記のICT利用と関係づけて紹介した。

履修者の多くは中学校の教員志望であり、GIGAスクール構想によりほとんどの中学校ですでにタブレット端末等の使用が実践されていることもあって、学生は熱心に取り組んでくれたと思う。履修者は、2年生と3年生が半々であった。2年生は、入学以降、ほとんど対面授業を受けたことがなく、当初は授業に不慣れな印象を受けたが、学生同士で相談する時間などを設けたことにより、次第に3年生と変わらないほどに改善されたように思う。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	統計的方法
授業コード	51A02-001
教員名	松田 眞一
教員コード	017566
登録人数	138
回答数	67
回答率	48.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・授業目標と目標達成度

本授業の目標は統計的方法の基礎である記述統計と推定・検定を学習することである。2019年より授業資料をすべて事前にWebclassで公開し、アクティブラーニングの形式で行っている。授業時間内では不明な点を聞き取りながら解説したり、数多く準備した練習問題に取り組みさせた。また、評価の対象となる7回の課題も課した。

2年ぶりに定期試験が対面で行われた。昨年はレポートにだったため、2019年と比較するとA+やAの比率が増え、FやXは減った。この形式も定着してきた感じがある。

・授業評価

昨年より回答率はさらに上がり、倍の約5割であった。回答率が上がった分、全体の評価は下がった。

設問3から14においてシステム数理平均を下回った設問は8問で、平均との差が大きいの設問は5, 4, 6である。

設問5は到達目標の理解であるが、授業評価をする時点で到達目標が何だったか忘れてしまっていたことが原因と考えられる。初回に説明しているが、例年よりあっさりしすぎていたのかもしれない。設問6もこれに付随する問題である。

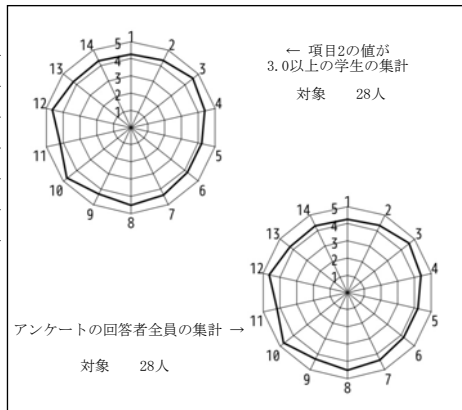
設問4は授業構成と進行速度であるが、アクティブラーニングを嫌う層が一定数いるせいである。

・次年度に向けた改善点

昨年度と同じく資料をすべて事前準備したが、オンラインであったため対面のときよりは出席率が高かったが、昨年より落ちたと感じた。選択式アンケートは昨年に引き続き好評であったが、参加を促す工夫はまだ必要であるだろう。自由記述でも資料の充実が課題であると感じた。さらなる改善に努めたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 非線形・整数計画法
 授業コード 51B04-001
 教員名 佐々木 美裕
 教員コード 019463
 登録人数 65
 回答数 28
 回答率 43.1%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

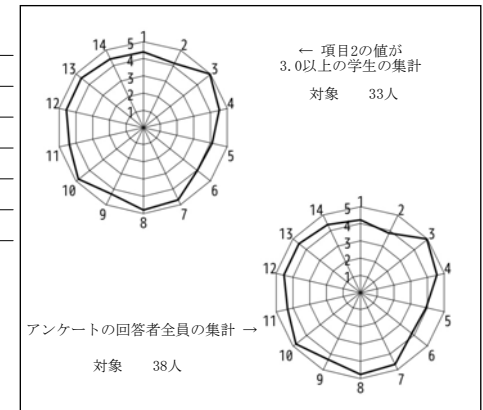


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 昨年に引き続き、オンライン開講であったため、オンライン授業の利点を生かし、受講者の理解度を深める授業を行うことを目標とした。具体的には、[1] 講義資料と教科書で予習、[2] 予習でわからなかったところを授業で確認、[3] 理解不足な点について授業後に個人Zoomチャットで質問する、というスタイルで授業を進めた。また、わかりやすく予習がしやすい講義資料の作成を心がけ、ほぼ毎回の授業において内容を確認するための課題をWebClassで実施し、毎回の授業の冒頭で前回の課題の解説を丁寧に行った。おおむね目標は達成できたと考えている。
- ② 設問9の平均値が4.29であり昨年より若干低くなった。一方で設問12の平均値が4.64と昨年よりも0.2ポイント高くなった。また、自由記述に「授業の最後に質問する時間が与えられていたことがよかった」、「質問した際に質問したこと以上の情報を得られ理解度を高めるのにとってもよかった」などのコメントがあった。昨年と比較して結果に大きな差があったとは言い難いが、質問時間を有効活用して理解度の向上に役立ててくれた受講生がいたことは嬉しく思う。引き続き、多くの学生にとって自習を効果的に行うためのサポート体制づくりを検討したい。
- ③ 板書をやめ、講義資料を中心とした授業スタイルに変更したが、板書する時間が減った分、進度が速くなるため、作成した講義資料を最大限生かして効果的な授業を行うためには予習が欠かせない。今後、オンラインであっても対面であっても、自習をサポートする体制を強化することが大きな目標である。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報社会の構造2
 授業コード 13E06-002
 教員名 藤井 勝之
 教員コード 101244
 登録人数 64
 回答数 38
 回答率 59.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

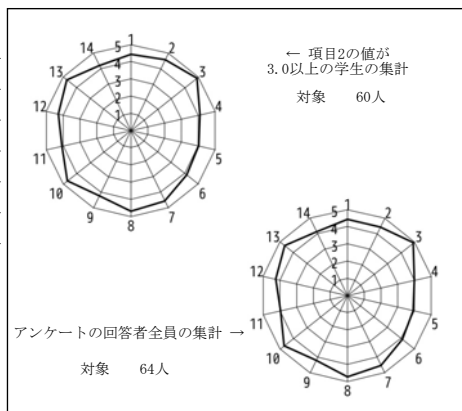


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は学部改組の関係でQ3の月木1限に開講したところ、89%が文系の受講生となった。教養を高め、文系と理系の複眼で物事を見れるようになって欲しいという気持ちで講義を行った。アルタミラの壁画に始まり、国際会議に参加して学んだ最新のDX（デジタルトランスフォーメーション）の話題まで、情報という観点から世の中を俯瞰した。また講義期間中に選挙があり、新しい資本主義の話も出てきたので、以下の電子情報通信学会の論文を読んでもらい、感想や意見をレポート課題で論述してもらった。原文人，“2050年の世界と日本”，電子情報通信学会誌，Vol.100，No.10，pp.1023-1027，Oct. 2017。普段接していない文系の受講生を多数相手に、講義担当者の教養レベルがダイレクトに反映されてしまう基盤・学際科目を行う事になったので、分野横断的な知識を有していない当方としてはかなりハードであったが、自由記述欄を見て頑張ってくれたと満足している。様々な専門分野を持つ受講生達から新しいものの見方も教えてもらうことが出来た。ただ、試験を行ってみると、デジタルとアナログの違い、ハードウェアとソフトウェアの違いが理解できていない受講生が3割近くもいたことに驚いている。我が国のITリテラシーの低さは何も高齢者に限ったことではない事を身をもって感じた。これでは我が国のDXが進むはずもない。文系と理系の複眼で物事を見れるよう、幅広い教養を身につけて欲しいと願っている。自分自身も研鑽を積み、最新の話題を講義に反映し続ける所存である。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	プログラミング基礎[TC]1
授業コード	50A27-003
教員名	横山 哲郎
教員コード	101934
登録人数	70
回答数	64
回答率	91.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

例年、中間試験でほぼ満点の受講生が1割程度といったところである。一方、本年度は3割ほどであった。中間試験は例年とほぼ同等の難易度であり、この結果からすると到達の程度が上がったと考えられる。しかも最も頻度が高かったのがこの得点圏であった。しかし、「設問5：この授業の到達目標を理解することができましたか」は3.94、「設問6：あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」は4.11であり受講生の回答からは到達目標の理解と学力向上はまだ余地があるようである。設問20が低いのも気になる。到達目標の提示とそれに向けた学習の取り組み方について分かりやすく伝えていきたい。

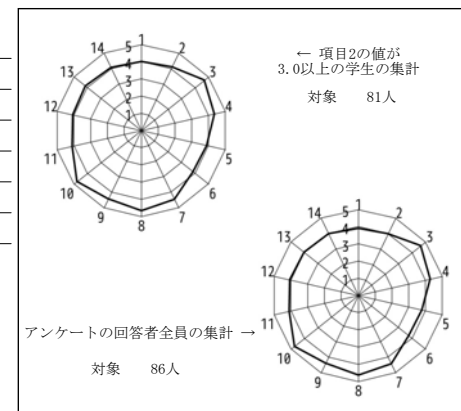
本年度は講義をオンライン、実習を対面で実施した。学生に授業中にアンケートを採ったところ、授業を全て対面を希望する学生は10.9%であり、多くの学生はオンライン授業を取り入れて欲しいという希望であった。少なくとも講義をオンライン授業にして欲しいという学生は80.4%であった。

授業中のアンケートでもそうであったが、授業進度は遅いという人は若干であり、速いという人が多い。

実習では、受講生の間隔を空けてもらって質問はzoomでオンラインで待機しているTAにしてもらっていた。コロナ対策に肯定的な意見「席と席の間が空いていて、コロナ対策がしっかりとられていると感じた。」も一部にあったが、「もっと話し合いの場を」、「生徒同士で実習に」というように受講者同士のグループワークを求めるもの、TAがオンラインから質問を受けていることへの不満があった。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	計算機アーキテクチャとOS[S]
授業コード	52A02-001
教員名	宮澤 元
教員コード	019422
登録人数	203
回答数	86
回答率	42.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【事前に設定した目標とその達成状況】

計算機やOSの仕組みについて、単に知識を伝えるだけではなく、理由を考えさせ理解させることを目標とした。設問14の全体の満足度は昨年度より若干向上したが、設問20以降の評価が2点台と目標が十分達成できていない点も残った。

【担当科目に関する総合的な自己点検・評価】

上述以外の設問の評価はほぼ3点台後半以上であり大きな失敗はなかったと考える。新型コロナウイルスの影響でオンラインでスタートしたこともあり、積極的に情報を公開したことが奏功したようだ。特にオンライン講義の録画ビデオを公開したことを評価する意見が多かった。昨年度の反省から、小レポート課題の解説やレポート課題と授業内容との関連についての説明を行ったことも満足度向上につながったと思う。

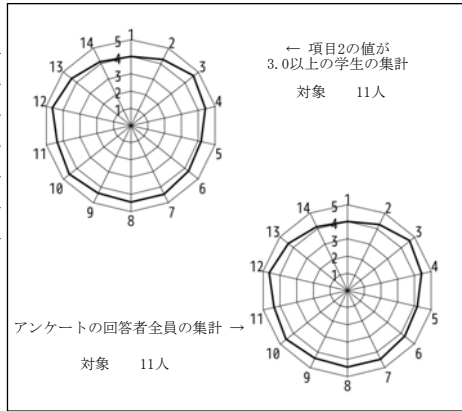
改善点として、レポート課題の難度を指摘する意見が複数見られたが、平均的な学生が達成すべき基準を超えて、力のある学生を対象にした挑戦的な難しい課題も出題する意味があると思う。

【今後の改善】

この科目を10年以上講義してきたが、学科移籍に伴い今年度が最後の担当となった。全体の満足度が4点に達したのは少しずつではあるが改善を続けてきた成果と思う。これまで拙い講義に付き合ってくれた学生には感謝したい。今後担当する科目では、この科目で達成できなかった「内容を学生の身につけさせる」点に特に注意して、改善を続けていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	数理論理学[S]
授業コード	52B07-001
教員名	佐々木 克巳
教員コード	018051
登録人数	57
回答数	11
回答率	19.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【目標】この授業の目標は、数学で用いられる文・推論・証明を形式的に扱うことによるよさを理解することである。事前に講義資料を配布すること、具体例から目標のよさを示すこと、演習時間を適宜設けることの方針は継続している。昨年に続き、オンライン授業であることから評価はレポートのみを対象とした。さらに、オンライン授業について、昨年からの評価を得ている、画面切替をその画面の内容を復習してから行うことを継続した。

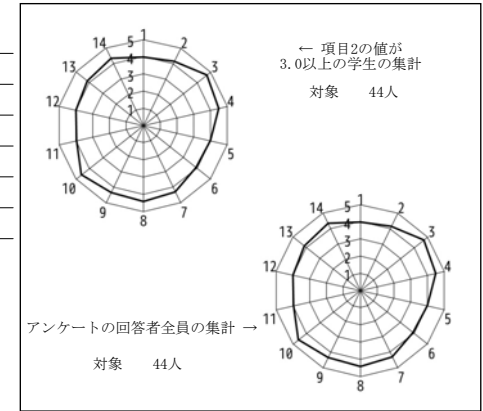
【評価】数値では、設問3～14の平均が4.40(2020年4.34, 2019年4.59, 2018年4.33)で例年どおりの結果となった。理工学部独自の設問(20と21)の結果からは、回答してもらったすべての学生は、「ノート等を見れば自力で調べられる」段階に達しており、半数以上が、「他の人にも説明できる」段階に達していた。設問20の目標達成度で「未知の問題に應用することができる」段階の学生が27%いて、回答者11名と少なかったが、これらの学生に成果があったと考える。

一方、設問6と設問20の相関係数は-6であった。どちらの設問も目標達成度に関する設問であり、設問6は力がついてきていると感じるかを、設問20は上で述べた具体的な達成度を問うている。つまり、設問20での達成度が低い学生が力がついてきていると感じていて、設問20での達成度が高い学生は設問6で力がついてきているとは感じていないということになる。到達目標が前提知識の少ない学生に設定されているということだろう。

【今後の計画】基本的な目標や運営は継続してよいと考えが、設問6と設問20の関連から、前提知識のある学生向けの題材を考えることも検討したい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	マルチメディア情報通信[S]
授業コード	52B08-001
教員名	奥村 康行
教員コード	101219
登録人数	151
回答数	44
回答率	29.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

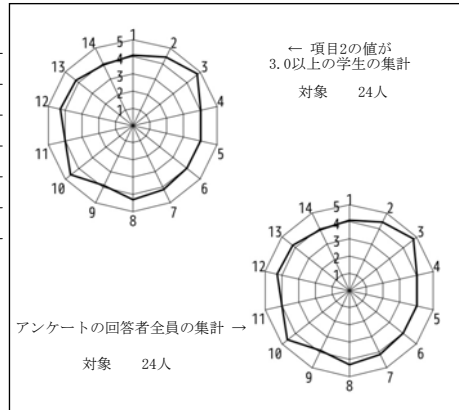


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定した授業目標： 通信システムの開発・運用に携わるときに必要な知識であるデータ圧縮技術を理解し自分の言葉で説明できるようになってもらうこと。
2. 目標達成度： 提出されたレポートの結果より、約90%の受講者が目標を達成した。
3. 担当科目についての授業評価： この科目の評定値は学科科目の平均値とほぼ同じだった。自由記述のうち改善を希望された項目は、雑音が入ることがあった(1)、ゆっくり説明してほしい(1)、であった(カッコ内は指摘した人数)。好意的な意見として、授業の録画がアップされたこと(5)、資料と講義のわかりやすさ(6)、興味深い内容だった(1)、演習問題が有効(1)などがあり、これらは今後も継続する。
4. 次年度の方針： コンデンサマイクを利用して講義したので、音質に関する苦情はなかった。また、固定された書画カメラを使ってホワイトボードを映したので、大きさの限界があった。オンライン講義での欠点を少しでも改善するため、講義直後に録画をサーバーにアップしておいた。学生にはこれを伝えておいたので、回を追うごとに出席率は低下し、録画で学習した学生が増えた。しかし、この点は学生から好評だった。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 電子通信工学実習1
授業コード 53A03-001
教員名 野田 聡人
教員コード 103679
登録人数 50
回答数 24
回答率 48.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

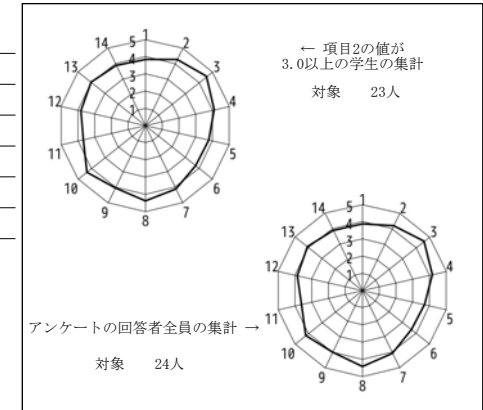


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
授業計画として設定した実習テーマをすべて完了し、授業に出席しているほとんどの学生がレポート7件をすべて提出しており、合格の水準に達している。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
テキストや授業での解説が丁寧であるというコメントがある一方、説明が冗長ではないかと指摘するコメントもあった。「もっとサクサク進められるはず」という指摘である。過去の本科目では見られなかったコメントである。対面で実機による実習を行う場合は、理解度の高い受講生でさえも解決の難しい問題に直面する場合がある。しかし本年度本科目はオンラインでの回路シミュレーション課題を基本としたため、想定外の問題が生じにくい。そのため理解度の高い受講生の視点では、それほど時間をかけるべき内容ではないと感じられたのだと推察する。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
例年の同科目のレポートの質から受講生の理解度を低く見積もるあまり、ごく一部の理解度の高い学生にとって魅力的でない授業になっている可能性がある。また受講生全体の理解度としても、実質的な内容の理解度はレポートの質の低さから推測するほどには低くない（文章作成能力が低いだけ）という可能性もある。理解度の高い学生から「レベルが低くつまらない」と思われえないような授業にする必要がある。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 制御システム実習1
授業コード 53A02-001
教員名 稲垣 伸吉
教員コード 104255
登録人数 50
回答数 24
回答率 48.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

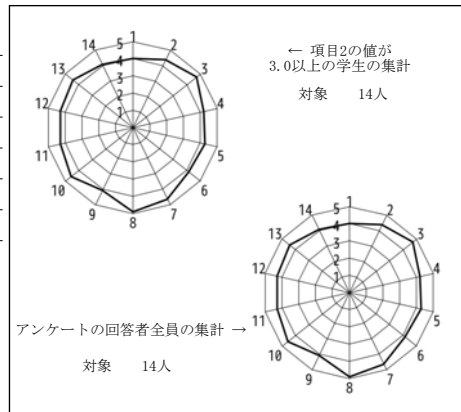


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講当初に設定していた目標は、1. 目的を持つシステムを現実の世界に試作・設計できる、2. システムのモデルなどを利用して制御アルゴリズムを構築できる、3. 制御アルゴリズム・プログラムを実在するシステムに実装できる、であった。これに対し、本講義は座学と実習をもってほぼ到達できた。感染症対策のため対面授業によって実機に触れる機会が少ないのが残念だったが、シミュレーションを用いた実習で十分に補えたと思われる。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。アンケート結果から、学生への授業への興味、取り組み、授業への対応など（設問1～14）は平均点4.02と高い値を示している。このことから、授業内容と進め方は十分であったことが分かる。設問19「授業の進行に伴う学習、理解の状況」の点数は平均3.17と若干低かった。また、設問20「授業の達成目標に挙げられた内容について、全体としてどの程度身についたか」が平均2.58と低かった。復習の機会を授業内で増やすべきであろう。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
学生にとって、制御アルゴリズムを学習するのは本科目が初めての機会になる。TAをうまく配置して個別対応できるようにする。また、授業内容の理解を促すために、レポートの解説の時間を増やして復習する機会を増やしたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[G]1
授業コード 11A07-032
教員名 DEACON, Bradley
教員コード 046920
登録人数 15
回答数 14
回答率 93.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall, feedback from the students in this course was positive. Results showed that they generally had an effective learning experience in the course.

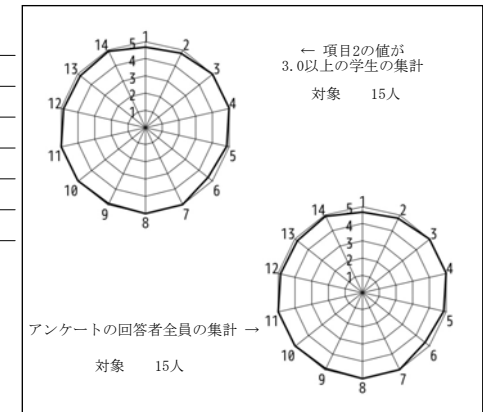
At the beginning of this course, students were invited to share suggestions for making an effective course by answering the following:

- 1) What do you want to continue doing that you found useful in quarters 1&2?,
 - 2) What do you want to do differently in quarter 3?,
 - 3) How can I (=the teacher) help you to learn in this course?,
 - and 4) How can you (=the student) help everyone to learn in this course?
- The answers to these questions were used in conjunction with my own pedagogical plan to facilitate students' learning each class.

Discipline was a problem at times and I addressed a few issues (e.g., chronic lateness, excessive absenteeism, and tardy assignments) on several occasions (by addressing the group as a whole and certain individuals outside of the group) this quarter. Moving forward into quarter 4, I believe the most important step will be to remind this class of the importance of all of us pulling our weight in order to create an effective and appropriate learning environment to facilitate our collective learning experience.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[G]4
授業コード 11A07-035
教員名 MILES, Richard
教員コード 101363
登録人数 20
回答数 15
回答率 75.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

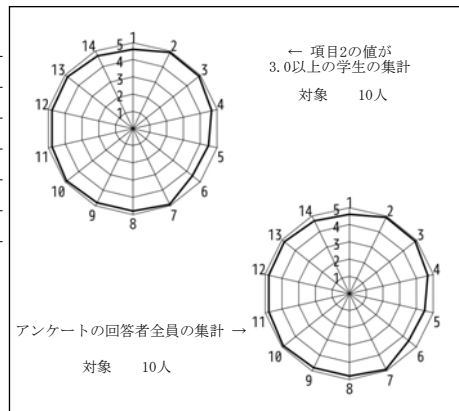


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Overall, I am very pleased with the course evaluations for English Literacy III. Given that the course was taught online for the whole quarter and that the students were first-years and new to me, it was nice to see such positive comments and scores from them. The course was designed specifically to help students become more independent English writers (essays and article critiques), as well as to help improve their reading skills. Most importantly, the students answered with a score of 4.93 to question #14, indicating they were very satisfied with the course. They also seem to have felt they had achieved a lot and had improved their English reading and writing skills.
2. The written comments from the students were all positive and reflected particular happiness with the feedback I provided on their essay drafts. This took me a great deal of time to do, so I was very happy to see the students appreciated this and learned from everything I gave them. Responses to question #4 indicate that the level of the class was appropriate — something that had been difficult to gauge with online teaching. I was also pleased to see the students felt they had been encouraged and supported throughout the course (question 11 — 5.00).
3. For next quarter, the course will move back to the classroom, where hopefully everything will be smoother and more enjoyable for both myself and the students. I will continue to support these students and provide them with as much guidance and feedback as I can, so they can continue to improve their reading and writing skills.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Society
D<国際科目群>2
授業コード 31C04-902
教員名 YARDLEY, Gabriel
教員コード 016998
登録人数 22
回答数 10
回答率 45.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

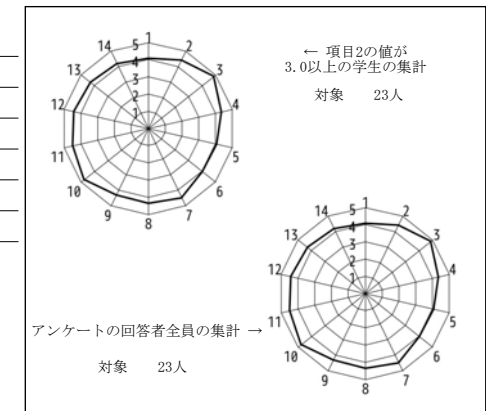


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall, in spite of being taught entirely online, there seemed to be general satisfaction with the course in terms of the syllabus objectives—which were met in full—and with regard to the revised and updated content. The methodology and materials from the same course offered in Q2 were modified to make them more accessible for the online teaching that featured in Q3. A few students seemed doubtful as to whether they understood the goals of the course or whether they were indeed working towards the course objectives. Individual feedback was provided during the course, but the instructor will in future more clearly try to complement the syllabus and course outline by personally ensuring that such students are fully aware of the course objectives and of their progress. Where appropriate, changes will be introduced or extended as requested by additional, anonymous comments and suggestions, and the instructor will endeavour to provide a satisfactory learning experience for all students taking this course in 2022. As in previous courses, students were overwhelmingly good-humoured and worked conscientiously on their assignments and class materials despite the limitations of the online teaching environment.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理言語学2
授業コード 31E18-002
教員名 村杉 恵子
教員コード 019034
登録人数 54
回答数 23
回答率 42.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

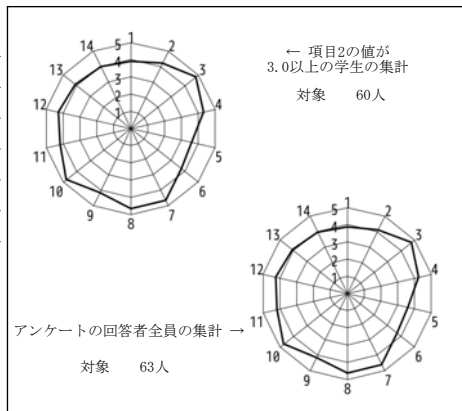


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① コロナ禍により全日程をZOOMによって授業を遂行した。教科書をもとに、シラバスに従って講義とActive Learning（ブレイクアウトセッションを用いた学生を主体とした演習形式）を取り入れた授業を行った。提出された感想やレポートを読む限りは、おおむねシラバスに掲げた目標は達成されたと思われる。
- ② 総合的な自己点検としては、数値ならびに自由記述を見る限り、従来と変わらない傾向にある。レポートについては、以前よりも負担に感ずるものがあった。対面授業で質問などを書いて授業を終える形式に比して、ZOOM・Webclass/講義資料を介在とする場合には、より負担に感ずることもあるかもしれないが、全体的に「論理的に書く」ことを苦手とする学生の割合は増えてきたことに鑑みた新たな課題の出し方を再考する必要がある。
- ③ 今後の抱負、方針については、対面授業になることから、コロナ禍前のテスト形式に変更し、学生が講義内容について正確に理解できるように努めていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教と文明
授業コード	46B05-001
教員名	VOLPE, Angelina
教員コード	000167
登録人数	80
回答数	63
回答率	78.8%
休講回数	1回
補講回数	1回

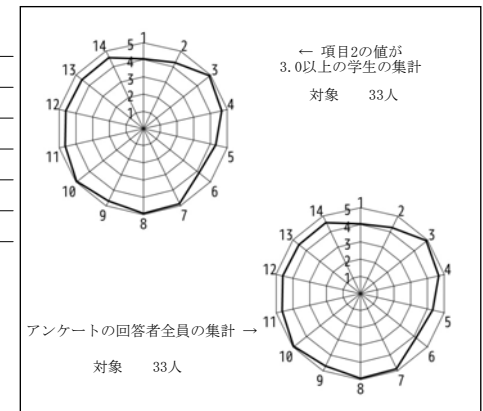


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回のクラスは非常にチャレンジ的であったと思います。最初は、ほとんどの学生の目的が単位取得にあり、講義そのものへの関心が薄いという印象でしたが、授業が進むに従って学生の関心が徐々に高まってくることを感じました。事実、レーダーチャートは「(最初に)あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」という問いに対しては3.86という数値でしたが、「この授業を取ってからもっと知りたくなった」に対する値は4.08になりました。したがって目的が(1. 時代や文化、また宗教観が異なっても、宗教が常に人間の社会的行為の中に存在し続けている理由を理解している。2. 偏見なしに知識を習得することで、文明と宗教の密接な関係を理解している。3. 現代の国際社会における宗教の役目について理解している)の目的は果たされたと思います。特に多くの学生が、「宗教という現象に対して偏見をなくし、文明のかけがえのない側面として考えなければならない」と最終レポートに書いたことは、多文化・多宗教に関する理解が深まったと言えると思います。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治学A / Political Science A
授業コード	48C26-001
教員名	山岸 敬和
教員コード	101411
登録人数	97
回答数	33
回答率	34.0%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回授業評価の対象となった「政治学/Political Science」は受講者数が約100名の大きなクラスであったが、できるだけ問いを投げかけ、考えさせ、そしてクラス全体で意見を交換するという形式で行った。

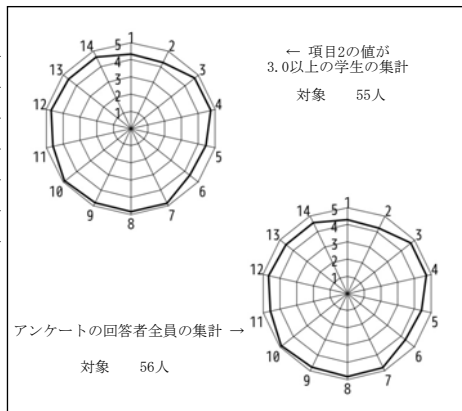
全項目平均は4.58、項目4から18の平均は4.66であり、国際教養学科科目の平均(それぞれ4.55、4.59)を上回り、特に私自身の授業運営に対して一定の評価を学生が示してくれたことは喜ばしいことである。

以下が本授業の到達目標である。1) To read and discuss politics in English、2) To understand political systems and problems in the world、3) To think about how to solve political problems in the United States, Japan, and other countries. これらの点については、学生のクラス内での議論の内容や、成績、そしてこの授業評価によって概ね達成できたと考えられる。

ただ、この授業では、より学生の理解度、クラスでの議論の盛り上がりに合わせて授業の進度を調整していった。そのため、シラバスを何度も修正しなければいけなくなった。そのことによって一部の学生に予習についての混乱を引き起こしたことがあった。これが設問5と6で低い点数が出たことに関係していると考えられる。今後は、より講義と議論とのバランスをとりながら、授業冒頭に学生が到達すべき目標と授業の進度を適宜調整することを明確に示し、さらには、学生に事前学習をより積極的に奨めるような仕掛けを考えたいと思う。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	グローバル化とメディア / Globalization and Media
授業コード	48D03-001
教員名	中村 督
教員コード	102579
登録人数	144
回答数	56
回答率	38.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

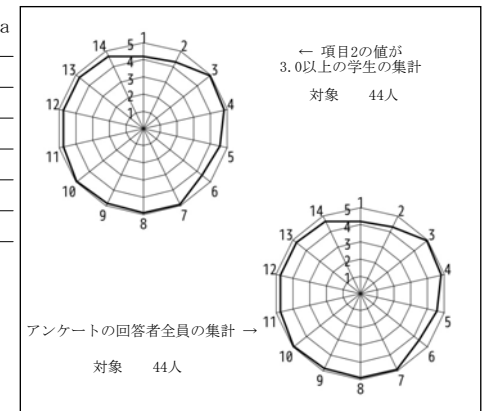


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は3年次生を対象とした国際教養学部の必修科目である。主たる目的は、グローバル化のなかでメディアがいかなる状況にあるのかを理解することにある。そのために、メディアの変容を社会との関係性のなかで把握し、次いで各々の国や地域で情報が交流し、それぞれの文化が形成されていく様相を考察することを課題とした。本年度も、昨年度と同様、感染症の影響を受けて、オンライン（Zoom）での開講となった。したがって、なによりも学生の理解度を保つことが目標となった。実際、教員による学生の理解への配慮を示す数値は4.77と高かった。しかし、これは学生が協力的な態度で臨んでくれたことによるものと考えられる。また、満足度を示す数値は4.55と比較的高くはあるが、前年度に比べれば下っている。この要因は正確にはわからないが、少し進むスピードを遅くしたため、学生によってはやや物足りないように感じたものと思われる。さらに学生の予習・復習を含めた授業参加度は4.23と低く、改良の余地がある。担当者が予習や復習の具体的な方法について提示するなどして、今後、学生の積極的な授業参加を促したい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	サステナビリティと生態系 / Sustainability and Ecosystem
授業コード	48G02-001
教員名	塩寺 さとみ
教員コード	104489
登録人数	76
回答数	44
回答率	57.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

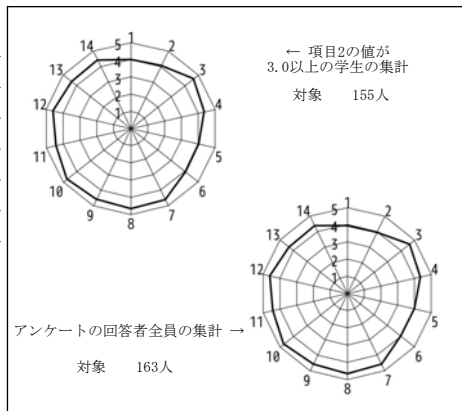
本授業は生態系のしくみと持続可能性の理解を目的としており、到達目標は以下の4点である。

1. 生物と環境とのかかわりや生態系を形作っている様々な要因について説明することができる。
2. 人間活動による生態系への影響、および生態系が人間社会に与える影響について理解し、具体例を列挙することができる。
3. 生態系のしくみと持続的利用に関する様々な資料を読んで内容を理解し、その背景について説明することができる。
4. 授業内容について自主学習によって自ら理解を含め、レポートを作成できる。

本授業評価において、「到達目標の理解（設問5）」は4-5評価が97%台、「到達目標の達成（設問6）」は93%台であった。この結果から、高校で履修していない内容であるにもかかわらず、多くの学生が興味を持って授業に臨み、しっかりと内容を理解していたといえる。また、本授業では、毎回授業後にリアクションペーパーで質問を募り、次回の授業で回答するという取り組みを行っていたが、設問15の回答内容から、これが学生の学習意欲や授業内容の理解の一助となっていたことが伺える。一方、学生から理解が難しいという反応があった項目については次回の授業で再度説明するようにしていたものの、これは、一回の授業で理解できるように説明方法等を工夫するべきであったと考えている。来年度は学生の習得度合いに応じて授業内容を調整していきたい。また、WebClassの使用方法が分からず、リアクションペーパーを「試験形式」で設定していたため、学生は記述した内容を見返して復習することができなかつたようである。今後はこの点についても気をつけたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 契約法（各論）
 授業コード 44A23-001
 教員名 平林 美紀
 教員コード 100773
 登録人数 336
 回答数 163
 回答率 48.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

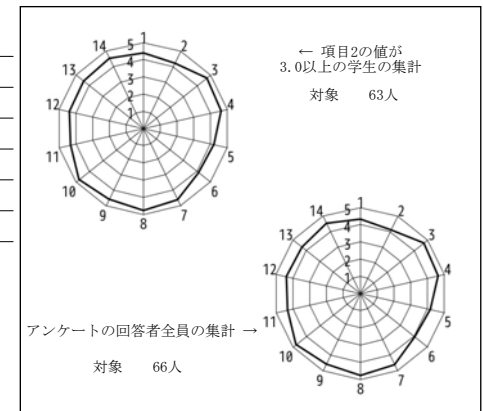
昨年に続き、同じ授業での授業評価を受けたが、ほとんどすべての項目で、昨年度を上回る評価を得ることができた。その大きな要因となったのは、昨年度の反省点として、「確認テスト」（全5回、1回当たり5~10問の択一式問題を回数無制限で期限内に解くよう指示、復習目的）をWebClass上で実施し、成績評価にも反映したことではないかと想像している。たとえば、設問2（予習・復習などの主体的な学習の努力）の数値は、3.82から3.95に上がった。この授業では、わかりやすさを心掛けており、それでもなお授業についてこれない場合に予習をすれば良い旨、指示しているため、予習や復習に格段の努力を要するとは思えないので、この数値が上がった理由としては、確認テストで復習機会を設けたこと以外に思い当たらない。また、設問6（力がついてきていると感じるか）の数値は、3.67から3.98に上がった。確認テストで満点を獲得できていることが自己評価をする上で肯定的な影響を与えたのではないかとと思われる。

ただ、設問7（教員の誠実さ・真剣さ）の数値は、4.76から4.57に下がった。理由が分からず困惑しているが、自由記載欄には、例年、板書の字をもっと丁寧に書いてほしいという意見があるので、引き続き、注意をするようにしたい。

来年度は、この授業の配当年次が変わるので、難易度の見直しをしていくつもりである。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 刑事訴訟法B
 授業コード 44E10-001
 教員名 榎本 雅記
 教員コード 103094
 登録人数 204
 回答数 66
 回答率 32.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

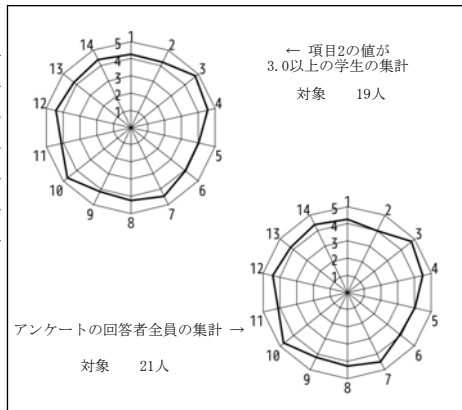


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初に設定していた目標は、おおむね達成できたと考えている。もっとも、講義期間途中でオンライン授業から対面授業に移行したため、授業予定にやや狂いが生じ、映像教材の活用ができなかったことは反省点である。②全項目について、学部平均値を上回った評価を得たことは、良かったと思うが、評価回答者の割合が少なかったことも、評価が高くなった一因とも考えられる。また、各項目中、学生の自己評価に関するもの（項目2、6）の評価が低くなっており（平均も低い）、注意を要するものと思われる。③学生の自己評価、とりわけ授業を受けての理解向上を実感できるような何らかの方策を次回には検討したいと考えている。自由記述において、オンラインデバイスの操作の関係で、黒板がよくみえないことがあったとの指摘があったので、特にオンラインと対面のハイブリッド型の授業においては注意したい。また、オンライン講義やハイブリッド講義をおこなったことによって、今後平時の対面授業に戻っても、電子機器の有効な利用は継続したいと考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民事訴訟法C
授業コード 44C13-001
教員名 石田 秀博
教員コード 101939
登録人数 33
回答数 21
回答率 63.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

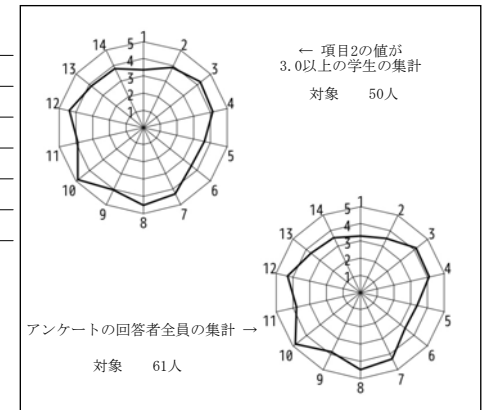
項目1から14の平均 4.31、項目3から14の平均 4.34、全体としての満足度が 4.38という結果から、開講当初に設定した目標（民事訴訟における複数請求訴訟の体系・概要を理解することができる。上訴・再審制度の概要について理解することができる。簡易裁判所の手続、略式訴訟手続について、その概要を理解することができる。上記各分野における、重要論点について、解決方法を論理的に考察することができる。）はおおむね達成できたと考えている。

学習内容がより専門的で複雑な内容であるため、簡単な事例を用いて、学生の理解の定着を図るよう試みた。この点に関して、自由記述欄の記載は、「事例を用いた説明が丁寧でわかりやすかった点。事例問題を通じて判例や学説の立場の違い等についての理解が深まった点設問を使って、問題を考える機会をたくさん作ってくださったので、受け身にならず、授業を聞くことができた。」と授業の良かった点、評価できる点として、肯定的なものばかりであったので、今後もこの方式を続けていきたい。なお、授業環境との関係で黒板の字が見えにくいとの指摘があったので、オンライン受講者がいる場合には十分に留意したい。

少人数の授業でもあり、また学生の履修態度も非常に優秀であったため、今後とも学生の意向をも十分に取り入れ、より分かりやすい授業ができるように努めていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地方自治論
授業コード 46N14-001
教員名 洞澤 秀雄
教員コード 102443
登録人数 137
回答数 61
回答率 44.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

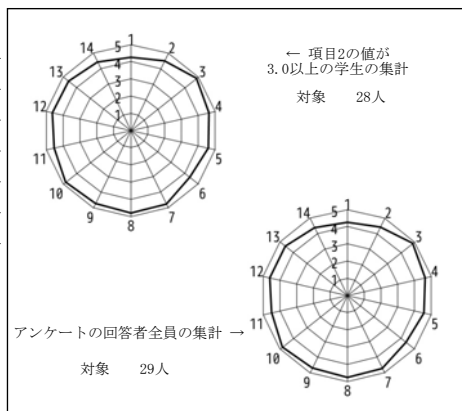
授業の目標としては、地方自治とそれに関する法制度について、法学部以外の学生に対して分かりやすく、かつ考えさせる授業を行い、地方自治について知識を前提に考えられるようにすることにあつた。こうした目標は、ZOOMでのチャットを用いることで、おおむね達成できたと考えられる。

数値データにおいては、おおむね4点台であり、項目の7と12の評価が高かった点において、授業の運営としてはある程度うまくいったのではないかと考える。

自由記述においても、ZOOMのチャット機能を用いた質問と学生の回答へのコメントについて、好評をいただいた。授業テーマについて考えたり、他の人の意見を聞けるといった、私の意図した効果とともに、（必ずしも意図していなかった）休憩時間にもなったという副次的効果もあった。他方で、喋りの速さとボリュームの多さにおいてネガティブな指摘もあった。この点、法学部以外の学生に対する法制度に係る授業としてももう少しゆっくり勝つ丁寧に説明することに配慮すべきであったと感じ、今後の反省点としたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 学校教育心理学2
授業コード 15A05-002
教員名 大塚 弥生
教員コード 000065
登録人数 51
回答数 29
回答率 56.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、教育心理学の基礎的な知識を学ぶために、概念の知的理解だけでなく、自分自身の身近な現象と結び付けて理解できるようになることを目指している。設問13（新しい知識の獲得・理解の深まり）の平均値が4.59であり、設問14（全体としての満足度）の平均値が4.38であったことから、本講義の目標はほぼ達成できたものと考えられる。

本講義はオンラインで実施されたため、ブレイクアウト・ルーム機能を使って、毎回の授業において、受講生同士が意見交換する機会を作った。自由記述による受講生のフィードバックでは、「授業内で、グループで話し合う時間があり、そこで授業の内容理解について確認することができた」「受講している学生同士で意見交換できる場があったので、講義の内容を皆の体験を聞くことでより身近に感じることができ、内容理解が深まったと感じた」等、肯定的な意見が多数見られた。しかしその一方で、「学生同士の話し合いで、少しだけシーンとしてしまうこともあったので、15分くらいで十分かもしれないと思った」という意見もあり、オンラインのために、学生の様子を把握できないことや、その場に介入できないことがネックになっていたと思われる。今後、対面授業を行う際には、引き続き学生同士の意見交換の場を設定しつつ、時間配分を工夫していきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際産官学連携PBL B
授業コード 14F02-001
教員名 藤掛 千絵
教員コード 104116
登録人数 8
回答数 4
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

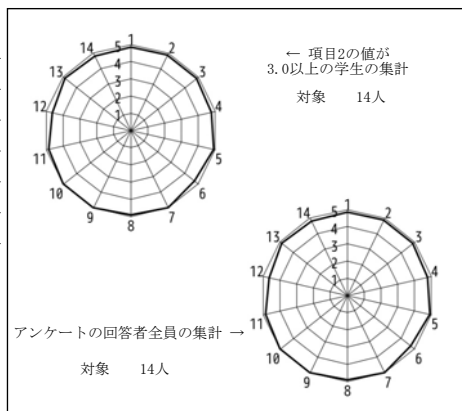
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 目の前にある具体的な問題解決を学生たちに求めたプロジェクトだったこともあり、学生たちは解決策に向けての建設的議論をすることができた。また、特別講師としてお迎えした組織のご担当者からの話を聞くことで、問題をより深く理解した上で課題に取り組むことができた。そういう意味で、目標に対する達成度は非常に高かった。
2. フィールド調査を授業に取り入れることで、自分の目で実際に確認し、体験をすることができ、その経験をもとに社会問題に向き合うことができたことは、意義深いものであった。学生たちからは、もっと長期的に取り組みたかったとの声が多く挙がり、海外の学生との英語でのコミュニケーションにより慣れてきたころに授業が終わってしまうことについても、やや物足りなさを感じる結果となった。課題解決がテーマの授業だからこそ、解決策を提案するだけにとどまらず、実際にその案を実行し、結果を検証するところまでできて初めて、満足度の高い授業となるのではないかと感じた。
3. 学生への課題実施に関する指示を、今年度の経験をもとに、よりの確に、余裕をもって出すよう努めたい。連携組織とも初めての取組みだったため、次年度はさらに組織の担当者とも議論を重ね、よりよい授業になるよう改善を図る。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際産官学連携PBL C
授業コード	14F03-001
教員名	山田 貴将
教員コード	104223
登録人数	17
回答数	14
回答率	82.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

国際産官学連携PBL Cでは開講当初に、1. 問題や課題を理解し、客観的にとらえることができる、2. グループ内で、問題や課題に対する解決策をいくつか提案し、建設的な議論ができる、3. 異なる文化背景をもつ学生がいる中、グループ内で意見をまとめ最適な解決策を提案することができるという3つの目標を設定した。学生によって若干の差はあるものの、天津師範大学の学生との8週間に及ぶ協働的なインタラクションを通じて、殆どの履修学生がこの3つの目標を達成することができたと評価している。

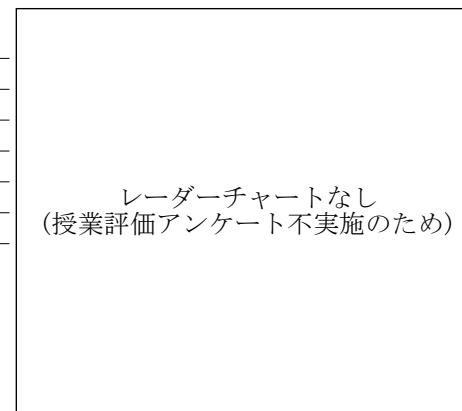
授業開講時に明確な目標を設定し、実際の授業（プロジェクト）を通じて、その目標を達成できたと自己認識している学生が多いことが、今年度の学生の授業評価における高い平均値（4.86）につながった要因だと考えている。

その一方で、学生の自由記述回答を丁寧に見ていくと、来年度に向けてまだまだ改善すべき点があるとも感じている。1つの具体例として、リーダーへの負担がかなり大きかった点があげられる。この点についてはしっかりと反省し、来年度は特定の個人ばかりにタスクが集中しないよう、各学生の置かれている状況をタイムリー且つ正確に把握していきたい。

また、来年度、文部科学省・大学の世界展開力強化事業としてのNU COILプログラムは最終年度を迎えるが、来年度以降も、本学においてPBL型COIL授業が継続的に行われるよう、本授業の完成度をより高めていくと同時に、PBLのファシリテーターとしての自らのスキルも更に向上させていきたいと考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際産官学連携PBL D2
授業コード	14F04-002
教員名	小野 詩紀子
教員コード	104564
登録人数	9
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

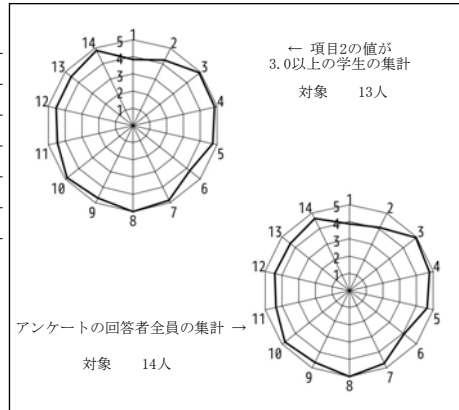
本授業において南山大学と米国メリーランド大学（UMBC）の学生たちは、グループで、南山大学への新規短期留学プログラム企画に挑戦した。今回の授業内での課題は、留学プログラム中のフィールドトリップを企画し、国際センター、JTB教育旅行名古屋支店様、一般社団法人中央日本総合観光機構様、株式会社好生館プロジェクト様向けに企画案を発表することであった。

到達目標について、受講生は概ね達成できたと認識している。課題を理解し、留学プログラムの企画チームの望みであるアカデミックな学びとの繋がりが、そして東海地方の地域創生につながり、かつターゲット層の学生のニーズにも合致するという3本柱を理解し旅行企画をすることは、受講生たちにとってハードルが高かったようだ。しかしながら、授業の進行に合わせて、学生の企画案が仕上がっていくように、UMBCの学生はニーズ調査を、南山生は旅先の探求をする構成を作った。受講生は、自分の探求結果をグループディスカッションに持ち込めるように準備し、その途中経過を授業内で発表し、フィードバックを受けた。このような授業設計にすることで、課題の理解が徐々に進み、またグループ同士の学び合いが生まれ、多くの刺激を受け、案のブラッシュアップができた受講生から聞いている。学生の振り返りからも、試行錯誤とグループ間のディスカッションにより学びを得たことがわかった。

次の学期に向けての改善点としては、今回の課題は7週間で仕上げるには非常に高度なものであったため、この期間でやり遂げられる内容になっているかの確認をしっかりとしたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]3
 授業コード 11A11-003
 教員名 LOTT, Danielle
 教員コード 103593
 登録人数 27
 回答数 14
 回答率 51.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

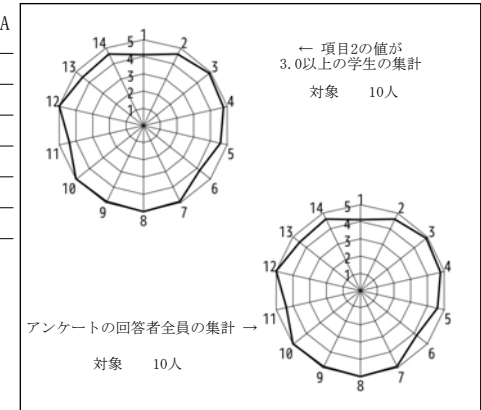
1) My goals were to develop students' communicative competency through the teaching of conversation strategies, Webclass activities, recorded presentations on Flipgrid, and conversation in ZOOM and in class. Last year, fewer students were using conversation strategies well by the end of the year. However, they did improve fluency, and according to their final reports, many students went from disliking English to liking it, and many students felt more confident in their speaking ability.

2) According to the data, the two lowest scores were in Q1 and Q2, which are in regards to the students' interest before the class and the effort that they made to participate. For this reason, based on the numerical data and comments, the course was a success.

3) Next year I won't be at Nanzan. However, if I have the chance to teach the course again, I want to continue to assess conversation strategies and do live speaking tests. This should ensure that students practice and use them even during practice conversations. I also want to continue using some materials I used on Webclass, especially readings and listening.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]9
 授業コード 11A13-026
 教員名 KUMAI William N.
 教員コード 000204
 登録人数 21
 回答数 10
 回答率 47.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

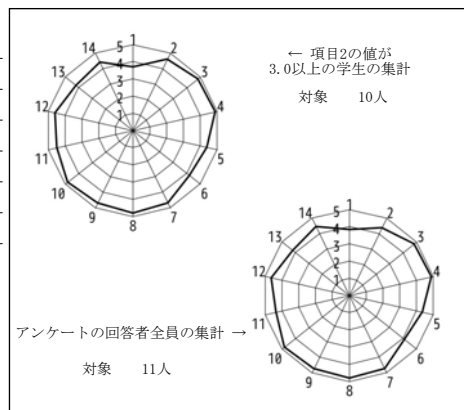


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main goals of the class were increasing accuracy and using English in creative contexts. The first was achieved mainly through oral interpretation style activities where pronunciation was stressed. The second involved the use of videos, which was fortunate because the class was held online entirely. In one sense the video viewing is easier on ZOOM than it would be by viewing on small monitors or screens in the classroom. On the other hand, collective reactions to interesting videos are missing. #1 Students did not seem interested in taking English but the comments seem positive. #6 Students did not seem to grasp the goals which were clearly stated in the syllabus; perhaps because they were explained in English at the beginning of the course they did not register. #11The class was reluctant in asking questions so it was difficult to judge in what areas they did not understand. The next class will include more creative activities which may increase the motivational level of the students.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIコミュニケーションスキルズ[S]1
授業コード 11A15-001
教員名 HOWREY, John
教員コード 100371
登録人数 24
回答数 11
回答率 45.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course is designed to improve students' overall English ability, particularly speaking, listening, and reading skills. Students learned reading strategies and vocabulary, read 3500 words per week from extensive readers, learned and practiced speaking strategies for starting, maintaining, and concluding conversations, and gave two short presentations. The course was done online which made some aspects of the course more challenging. Zoom was used each week.

I was pleased with the results of the questionnaire, though only eleven students responded. Scores were lower than I usually receive but with classes being online I think this is to be expected.

Students commented the following:

オンラインにも関わらず、コミュニケーションをとる機会が沢山あったこと。Despite being online there were many opportunities to communicate. グループ (ペア) ワークの時間が多く、楽しく学べたこと。There was a lot of group work and they enjoyed learning.

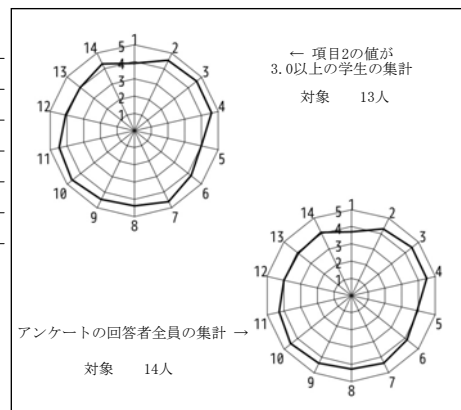
課題が週ごとに分かれていてわかりやすかった。The assignments were divided into weeks and it was easy to understand what to do and when to do them.

英会話の練習がたくさん設けられていた。There was a lot of English conversation practice.

All of these are very positive responses and encouraging.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIコミュニケーションスキルズ[S]3
授業コード 11A15-003
教員名 CAPITIN-PRINCIPE, Abigail
教員コード 102955
登録人数 24
回答数 14
回答率 58.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

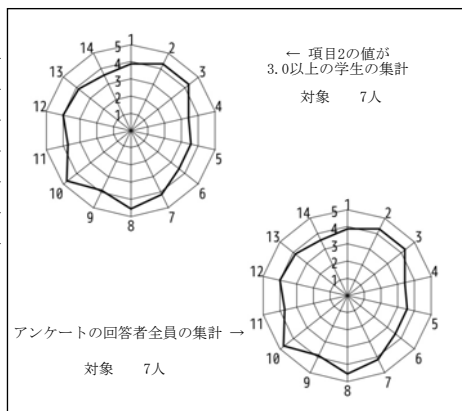


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main goal set at the start of the quarter was to encourage students to communicate using English, and to achieve this, there were numerous speaking, listening, reading and vocabulary building activities. Students were encouraged to use English, not only for class work, but also for emails, messages and comments sent to the educator and their fellow learners. This was a bit challenging for some, but over all, students were able to use English in many situations. Many students felt that this made them better at using English. Activities that encourage real-world use of English will be a part of future class activities. Students will be given both textbook learning, and learning through current events, using English as the medium of discussion. It is hoped that the next quarter will show better use of English in both class work, and real-world situations.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iライティング<HA, HP, HJ>1
 授業コード 11A17-011
 教員名 FLORES, Ana Maria
 教員コード 102899
 登録人数 22
 回答数 7
 回答率 31.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

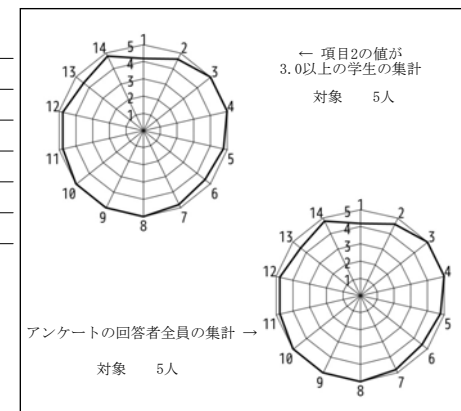


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course aims to develop writing skills in English. To achieve this end, the students were given class works that required writing different types of essays in approximately 300~450 words.. Each lesson was in line with the syllabus although there were a few instances that adjustments had to be made to address the students' learning needs. Based on the students' performances and outputs, the objectives of this course have been essentially achieved. There were quite a small number of respondents (only seven students out of 22 enrolled)to this course evaluation, unfortunately. The numerical data on the students' course evaluation though they prove the effectiveness and appropriateness of the instructions the students still expressed their desire for more focused guidance. In this regard, I would like to recreate some of my pre-existing lesson plans to make them more academically beneficial and cognitively engaging, and, at the same time, more meaningful to the students' everyday life outside the classroom.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iライティング<S, T>3
 授業コード 11A17-025
 教員名 ELLIOTT, Darren
 教員コード 101579
 登録人数 10
 回答数 5
 回答率 50.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



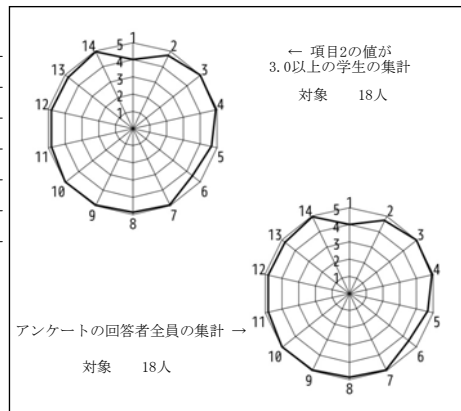
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was a very small class, as is usual in the third quarter, but the feedback was positive. The students used the textbook and WebClass materials for support, and I held a weekly Zoom session just to keep them on track, answer questions, and give feedback. I think it was effective, and looking at the final reports submitted by the students I can see that they have improved their writing skills. As such, I consider this class to be a success.

It is difficult to learn directly from this feedback as the class will be delivered in a very different format in the fourth quarter. Although this is a one-quarter class, I have had to adapt the materials, methodology, and assignments significantly every quarter this year, in order to deliver the best possible instruction in a hybrid / face-to-face / online situation. That said, I think reducing the number of written assignments from five to four this quarter was helpful, and I will continue in this fashion going forward. It enabled me to give better feedback in a more timely manner, which is very important in a class like this.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iディスカッション4
授業コード 11A19-004
教員名 都築 千絵
教員コード 103924
登録人数 24
回答数 18
回答率 75.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

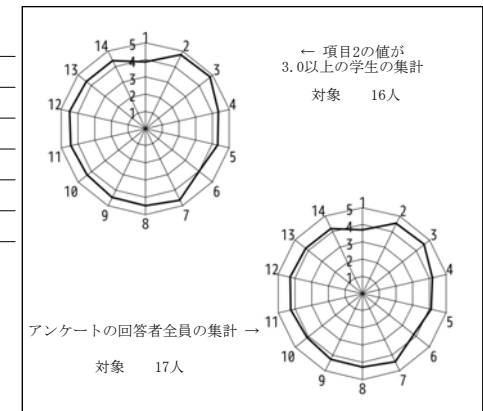
Q3はすべての授業をZoomで行ったが、昨年度の経験をふまえ、ブレイクアウトルームを多用して、学生がペアやグループで英語で話す機会を増やしたので、目標としていた基礎的な英語によるディスカッション技術を習得することは、概ね達成された。

今回、全体的に数値データは良く、特に設問14の授業満足度が4.94と高く、また満足感が伝わる自由記述もあり嬉しく思う。授業の良かった点として、オンライン授業が最初心配だったが、安心して受けられたという記述があり、心配していた学生がいたことに気づいていなかったと反省した。一方で、欠席回数が成績に影響しないことで、従来よりも欠席が多く、授業の改善点として、授業にきていない学生にディスカッションテストで足をひばられたと記述した学生がいた。欠席した学生には、特にテスト前には、個別にメールでテスト準備に関する情報をWebClass上で確認し質問があればするようになど、細かくフォローしていたが、出席していた学生には見えない部分であったと思う。

授業内での実際の練習が大事なコースでは、欠席回数が成績に影響しない場合には、欠席した授業に関しての課題の提出など、もっと欠席しにくい状況を作っていく必要があると感じた。また、小テストなどをWebClass上で欠席していても受けられる設定にしていたので、それも改善していきたい。そして、対面でもオンラインでも柔軟に目標が達成できるようにさらに工夫をしていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリーディング<全・T>8
授業コード 11A23-008
教員名 中田 晶子
教員コード 055624
登録人数 24
回答数 17
回答率 70.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、全学部向け選択必修の英語科目で、すべての授業をZoomにより実施した。初めて担当した科目である。

テキストは、1980年代から現在に至る現代美術の諸作品を通して社会や人間の問題を考える内容のものである。

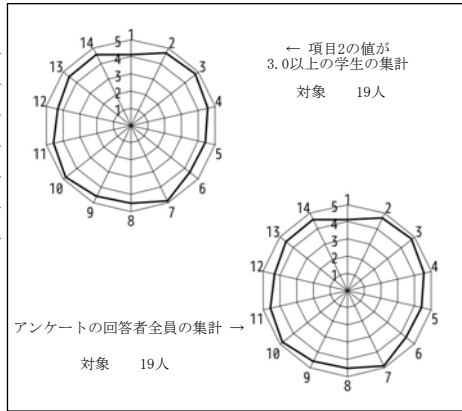
英文の内容を正確に読み取り、読み取った内容について調べ、考え、それらについて英語で表現する力をつけることを目標とした。授業での質問に対する回答、毎回の授業後に提出が求められたライティング課題、各自が興味を持った現代美術作品についての研究発表、最終レポートにもとづいて判断すると、85%以上の学生が目標に達している。

学生の評価では、講義内容や課題が難しく思えたためか、力がついたという実感は薄かったようである。「授業目標に向けて力がついた」が評価項目3～14中で唯一3点台であった。関連する自由記述には「課題が多すぎるし、提出期限が早すぎる」というものが一件あった。自由記述の評価できる点としては、「講義内容が面白かった」「現代美術を知って興味がわいた」「説明がわかりやすかった」があった。

学生自身力がついていることを実感できるよう、今後の授業には、小試験等を取り入れることを考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリーディング<全・T>12
 授業コード 11A23-012
 教員名 LEAR, Christopher Adam
 教員コード 104290
 登録人数 24
 回答数 19
 回答率 79.2%
 休講回数 0回
 補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

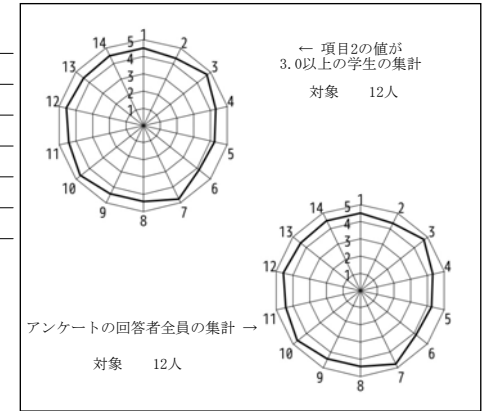
I had two goals at the start of this second semester / Q3: (1) Create a course that could work with the current online class system in place and (2) make sure students got the most out of their time during Zoom. The course went smoothly overall since all of the assignments were clearly labeled and listed on Webclass, and I ensured to explain them carefully in Zoom. For my second goal, I gave students a lot of pair/small group activities during Zoom lessons to help keep them engaged and let them socialize. The tasks given to them were easy to understand and allowed for individual responses.

I think the course has improved from last semester and I am excited to continue to reiterate and improve this course to best benefit and support my students. They seem to appreciate the group work so I will continue to emphasize activities which allow for that.

For next quarter, with the classes returning to the classroom, I am looking forward to again being present with my students so that I can better assist and support them.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリスニング<全・T>5
 授業コード 11A25-027
 教員名 GAGNON, Greg
 教員コード 103474
 登録人数 24
 回答数 12
 回答率 50.0%
 休講回数 0回
 補講回数 0回

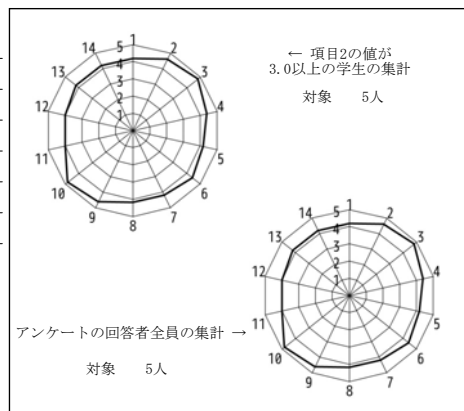


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Quarter 3 was a challenge for this class, because it was conducted online. The course consisted of listening exercises, pronunciation drills and exercises, dictation practices, and extensive listening exercises. The goal for this class was to improve students' abilities to understand native level speech, and to be able to identify and differentiate ways speakers use their language. I was pleased that many of the students were able to meet the challenge, but on-line teaching prevented me from being able to work more intensely with the class as a whole. I receive a score of 4.36 / 5.00 . The class seemed generally pleased with my performance. As for Question 15, one student wrote: 英語が苦手な人にレベルを合わせて、易しい授業だった。 Another wrote: 先生が優しく丁寧に話してくれた。 Question 16: 特になし。 / やる気のない生徒に対してもっと怒っても良かったと思う / 特になし。 Question 17: リスニングをYouTubeのTOEFLを流していたが、音的には問題はなかったが、流している画像が時々乱れたり、止まったり粗かったりしたので、思うように問題を解くことができなかつたのが残念だった。 Statement 2 from #16 and the statement of #17 supports the difficulties of an online class for Listening teaching purposes. If I were to teach this class again on-line, I would be more aware of technical difficulties, and work to solve them.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリスニング<S, T>3
授業コード	11A25-031
教員名	TIDMARSH, Andrew
教員コード	104101
登録人数	16
回答数	5
回答率	31.3%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

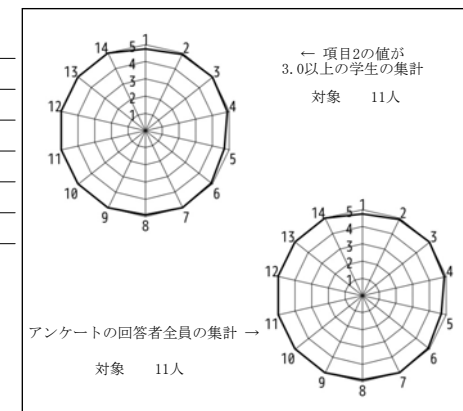
In this class, the main goal was to allow students more time to develop their vocabulary and facility with listening for those items. Compared to other quarters, there were fewer topics but we explored them for longer and more closely. Students benefited from this approach and were able to complete more practice.

It was difficult to decide the correct level of sophistication and difficulty of students' listening tasks. Some students found a few topics too difficult at first and that was concerning. In the final assessment, it became clear that the mix of easier and more difficult topics was appropriate. Some students were able to engage with the materials to a surprisingly high level, therefore I am satisfied that the pitch was correct.

The next time I run this course I will take on student feedback I received in class. This indicated that more emphasis on listening skills and having more time to get comfortable with vocabulary was better. In short, I will be incorporating these suggestions into my plans for next year's course.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語VII<全>2
授業コード	11C07-002
教員名	梶浦 直子
教員コード	102557
登録人数	14
回答数	11
回答率	78.6%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

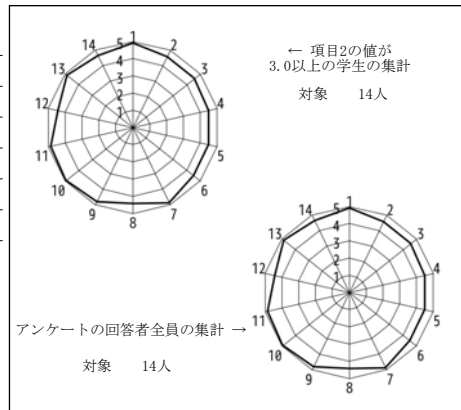
この授業では多くのグループワークまたプレゼンテーションの機会を通して、学習者同士が協力しながら、発見的、自律的にドイツ語を学ぶことにある。このクラスは、通常とは異なり、フィールドワークに参加する学生が所属するクラスであり、本来であればフィールドワークに参加している第2クォーターにはドイツ語の授業がない。そのため、長いドイツ語学習の休止期間後に、いかに学習目標を達成するかが、この授業の課題であった。

しかし、そのような心配をよそに、学習目標はおおむね達成されたと感じている。今回の評価報告書でも、学習者が同様に感じていることを確認することができた。質問13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」(5.00)で高評価を得ていることから、学習者がいかに真剣に授業に取り組んだかがわかる。また、学習者の積極的な学習姿勢は、項目6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」(4.91)で、学習者自身が高く自己評価をしていることからもうかがえる。自由記述においては「クラス全体の雰囲気がよく、全員が意欲的である」のように協働学習に関する評価が多く見られた。ここでも積極的な学習者の学習態度がわかり、大変満足している。

今後も学習者の意欲を引き出せるような学びの場を提供していきたいと考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語V[FS]2
 授業コード 11D05-002
 教員名 LANDEROS NERI, Sergio Gustavo
 教員コード 103688
 登録人数 15
 回答数 14
 回答率 93.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Evaluation report for class 11D05 002 (FS)2, 3rd. quarter.
Prof. Sergio Neri.

We were working on developing a communicative competence that allows students to:

- talk about food and their content.
- talk about use proper measurements for uncountable nouns.
- talk about professions and studies.
- talk about previous experience.
- talk about its own capabilities.
- talk about appointments, schedules, etc.

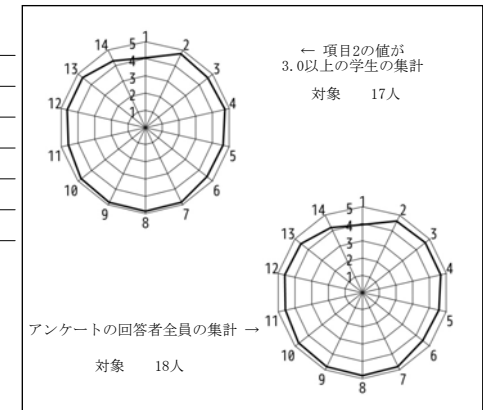
In order to achieve that students learned to:

- describe and evaluate food.
- ask for the ingredients of food and answer such questions.
- use the right counters for countable and uncountable nouns.
- use the impersonal form “se” to express the passivity of subjects.
- talk about their own abilities and the ones from other people.
- evaluate the abilities needed for a job or profession.
- talk about previous studies, work and experience in those fields.
- talk about dates, hours, days and their parts.

As for the results of the survey, as it can be interpreted in the graph, the answers of the students were positive compared to the media. Still there is more work to do in the next quarter.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語III<H>2
 授業コード 11F03-002
 教員名 虞 萍
 教員コード 101432
 登録人数 30
 回答数 18
 回答率 60.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

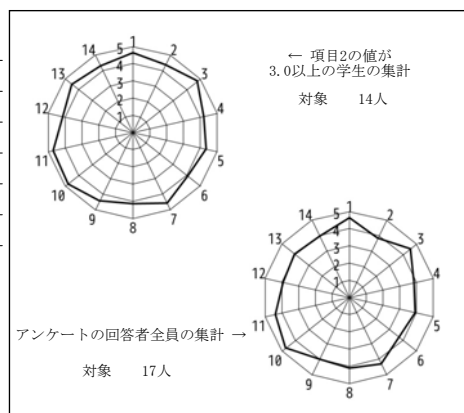
ほとんどの学生はZoom授業や課題を真面目に取り組んでくれたため、開講当初に設定していた目標はおおむね達成しました。今期も学生から高い評価を得ることができました。設問15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」という設問に対して、学生から「小テストとして教科書本文暗記が範囲になることが多かったので、必然的に教科書本文を暗記することができ、テスト勉強の際に役立つこと。」「授業で会話能力を重点的に指導してくれる点。」「基本的な知識を学んだらすぐに応用できるかの確認があり、緊張感をもって授業に取り組むことができた。」「言語を学ぶだけでなく、中国の文化についても知ることができた。」「中国の文化や伝統についても教えてくれた点良かったです。」「先生が一人一人の発音を聞いて間違っているところを直してくれたため、対面とほとんど変わらない授業の完成度であったこと。」「オンラインだったので、講師の口の動きなどが確認できて良かった。」「先生の教え方が丁寧。」などのコメントをいただきました。普段から真剣に授業に取り組む姿勢の誠実さは学生に感じていただきました。

また、学生が中国語の勉強に興味が高くなるように、授業では時間が許す限り、中国語の勉強以外、中国の文化や中国人の習慣、日中国文化の差異などのことについても紹介しました。多くの学生は興味津々に耳を傾けてくれました。

今後も学生の学習意欲を最大限に引き出せるような指導方法を摸索したいと考えています。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 実践英語IA<全>試験対策TOEIC2
 授業コード 14A09-002
 教員名 BAILDON, MARTIN
 教員コード 102326
 登録人数 23
 回答数 17
 回答率 73.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

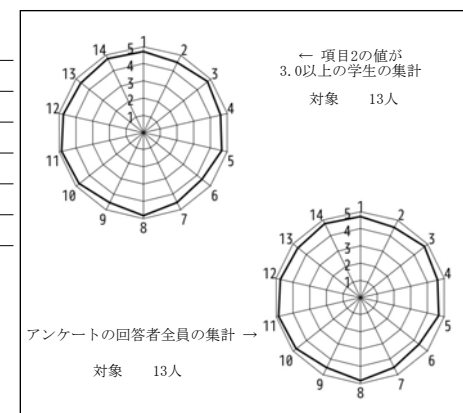


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The majority of the students achieved the aims of the course including increased understanding of the TOEIC Listening & Reading test format, awareness of available resources and improved knowledge of vocabulary, reflected in the grade evaluations of the students. The twelve comments related to strengths of the course in Q15 indicated an awareness of main goals, including group work and major resources related to the test. I understand there were several weakness of the course outlined by comments in Q16, though I feel several comments were invalid. Comments related to the course being “tough”, yet students are given much autonomy over the proportion of content they wish to complete, though are made aware that greater time investments will result in better scores. Two comments referred to understanding of tasks, yet activities were always explained during Zoom lessons with confirmation by emails in graded English, and a document indicating required tasks on Webclass. I believe enough information was provided for related activities. One comment showed dissatisfaction with the respondent having to turn on their camera in Zoom Breakout rooms which I believe is imperative for this course. One longer comment related to non-TOEIC related content, and not having opportunity to discuss mistaken textbook answers. Since it is impossible to answer all mistaken answers for all students, I strongly encouraged students to ask for help on multiple occasions in this area during Zoom lesson time, breakout rooms and by several emails. All course content is specifically related to TOEIC L&R test problems.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 実践英語IA<全>試験対策TOEIC4
 授業コード 14A09-004
 教員名 ELMETAHER, Hosam
 教員コード 104289
 登録人数 18
 回答数 13
 回答率 72.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall:
 I have taught various English subjects, each with a different specific teaching goal; overall, the goal is to develop students' academic and communicative English skills. I have developed and used my own teaching materials (e.g., TOEIC Listening and Reading Textbook). Students were always well-informed of their academic progress through feedback on their weekly homework, quizzes, tasks, and final tasks. My classes were always within the designed course syllabus and planned objectives. Students were encouraged to provide feedback in the evaluation of my classes. My teaching materials worked well and the students enjoyed the classes while demonstrating an overall improvement in their English language skills.

For this specific class evaluation:
 This class was designed to develop students' TOEIC skills (e.g., Business English Listening skills). The students have worked on different weekly assignments. Each assignment includes intensive vocabulary input, TOEIC practice, and academic research. Group and individual feedback were provided through both Webclass and Zoom. Based on the class evaluation, students very much enjoyed the class and have confirmed their TOEIC skills development. For the next academic year, I aim to implement more English progress tests in all my classes.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	実践英語IC<全>試験対策IELTS2
授業コード	14A11-002
教員名	FILER, Benjamin
教員コード	103850
登録人数	7
回答数	4
回答率	57.1%
休講回数	0回
補講回数	0回

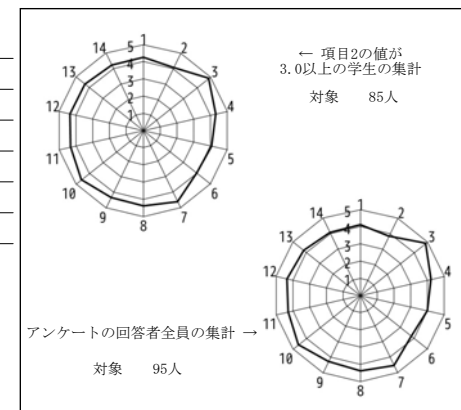
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main goal for this course is to familiarise the students with the IELTS test. I feel that by the end of the course, all the students were certainly familiar with the test and knew about each of the four main components. The second goal of the course is to give the students plenty of practice. I also think that there was ample opportunity for this during the classes. Unfortunately, it was a very small class, and therefore the results of this feedback do not reveal as much as they might with a larger sample. However, I was happy to read the positive comments from the students about the content and teaching of the course. Even with face to face classes due to start shortly in Q4, I think I will still use WebClass as a resource and a place for students and myself to share materials. In terms of thinking how to improve things, I will definitely provide the students with a paper book, as well as the electronic version on Webclass.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語教育入門
授業コード	24C05-001
教員名	六川 雅彦
教員コード	101221
登録人数	165
回答数	95
回答率	57.6%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

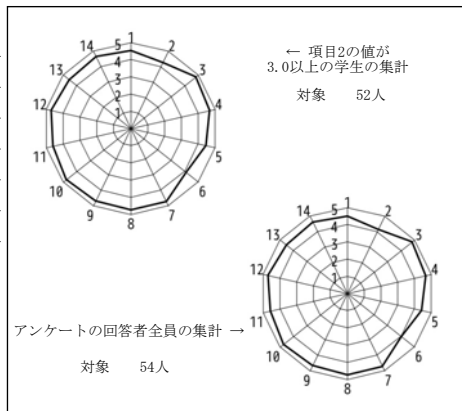
昨年もこの科目の自己点検・評価報告を何度も書いたため、オンライン授業として2回目の自己点検・評価報告である。今回は一部オンデマンドで実施したが、今回は全てリアルタイムで実施したため、オンライン授業でも少し授業形態が違い、単純な比較はできないが、今回の結果から気が付いたことを前回までの評価結果と比較しながら以下で紹介する。

まず今回も全体として目標を達することもでき、成功だったと考えている。オンライン初回だった前回、対面時だった前回と比較しても、評価はほとんど変わらず、安定していた。しかし、少し詳しく見てみると、全体的に少しずつ評価が下がっている質問が多かった。前回の自由記述のコメントではオンデマンド形式に対する好意的なコメントが多かったが、今回はリアルタイムで実施したため、その分の評価が下がったと考えられる。この科目では日常生活で身近すぎる日本語について改めて考えてもらうという活動も多いため、自分のペースで考える時間が取れるオンデマンド形式の方が向いていると考えられる。今回の自由記述のコメントは、私の学生への接し方や説明の仕方に対する好意的なものが大半だった。

最後に、比率としては前回までと大きく変わらないが、今回も回答者が少ないのが少し気になった。授業時間をとって回答してもらったの結果であり、これ以上どうすればいいのか分からないが、次回以降回答率も改善できればと考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	健康科学論1
授業コード	12D09-001
教員名	畑山 知子
教員コード	101969
登録人数	119
回答数	54
回答率	45.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

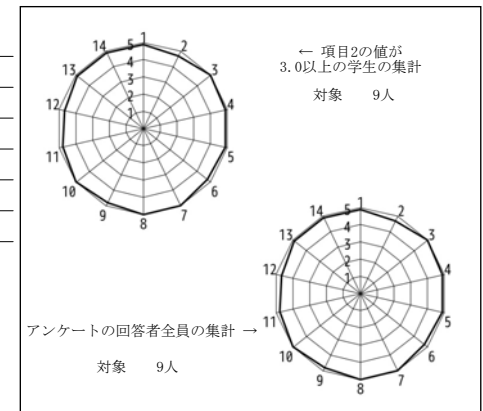


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度も、オンラインかつ1年生の受講が多いクラスであった。今年度は、知識を実践し、自らの健康づくりに活かす学びの試みとして、授業内容の一つでもある座位行動の健康への影響について、毎回の授業で座位行動の中断を促し身体を動かしたり、南山大学生を対象とした健康増進企画を考案したりした。授業に対する満足度および理解の深まりは4.5の評価であり、授業の構成や進度はおおむね適切であったと考えている。また、自由記述の回答からも、今年度の新たな試みはおおむね好評であったことがうかがえた。しかし、到達目標の理解とそれに向けて力がついてきていると感じるかについては、やや低めの評価4.0となっていた。健康づくりに関する諸問題について扱うトピックに限られたことや、理解を深めるためにブレイクアウトルームでの対話を取り入れたが、しっかりと対話できない場面もあった様である。議論を活発にするための課題設定など、改善に努めたい。また、外国人留学生にとっては、課題レポートがやや複雑であることや資料に工夫が必要であったようである。今後活かしたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(生涯スポーツ)テニス1
授業コード	14E05-001
教員名	金 興烈
教員コード	102721
登録人数	14
回答数	9
回答率	64.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

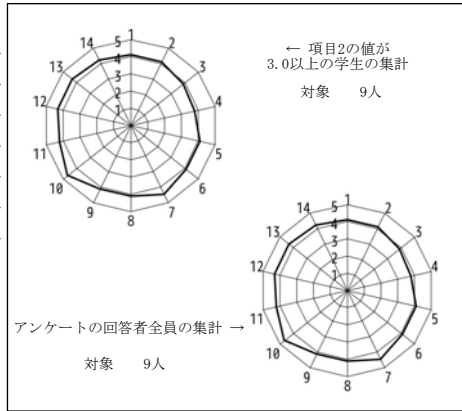


授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生による授業評価が、全体平均の4.8点以上を達成していることは、それなりに評価してよいのではないかなと思う。今回は、開講当初に「①テニスに関する理論的背景(歴史と道具の進化によるプレースタイルの変化)を理解すること、②テニスを通じた生涯スポーツに向けた基礎体力の獲得と他人との対話能力や協調性などの社会的適応の基礎を獲得すること」という目標を一人一人に設定させた。今回のような高い授業評価の結果には、とりわけ受講者らのモチベーションも一因であったと思われる。今回の受講者らは学習意欲が非常に高く、毎回の授業にも積極的に取り組んでいた。それによって、様々な知識がストレートに受け止められ、テニスの機能面でも高い目標に向かって自ら取り組んでいく姿勢が見受けられた。これは授業内容だけではなく、授業運営に関する取組も評価された結果であると判断される。次年度の授業においても、「学習や復習」など自主的な学習も行われるような授業展開や指導法の工夫をしていきたい。また、毎回の授業において教員の熱意が完全に受け止められているかといえば、必ずしもそうではないので、その辺の指導法ももっと工夫し、学生が満足できる授業展開に心がけていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	福祉論
授業コード	20A11-001
教員名	児玉 克己
教員コード	102510
登録人数	34
回答数	9
回答率	26.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



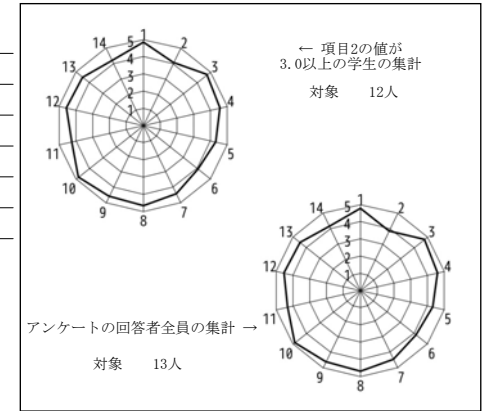
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「福祉」という言葉の意味どのように捉えているのかと最初の授業で学生に問うと、「幸せ、幸福」から始まり、多くの学生からは「弱者救済」との発言がある。高齢、しょうがい、児童等の現場ではまさに学生の捉えている「弱者救済」が日々行われている。しかしながら、「福祉」の意味合いと捉えている「弱者救済」はほんの一部にすぎない。何らか事情により、教育を受ける事の出来ない現状があり、就労を含め社会的参加が困難な現状があり、時には生存権すらを脅かされている現状がある。これらの権利の享受を阻害しているものは何であろうかを考察し、権利の享受には人権意識をいか大切に学ぶことが授業の内容であり、概ね授業目標は達成できたと思っている。

地域包括支援の重要性が高まり、共生社会の構築が謳われている現在、「福祉」という言葉が、自分たちの生活全般において深いかかわりがあり、その中で自分の人権を知り、周囲の人々の人権を認め合うという事が日常的に考えることができる講義内容を目指す。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	パーソナリティ心理学(感情・人格心理学)
授業コード	23C57-001
教員名	山脇 望美
教員コード	104477
登録人数	56
回答数	13
回答率	23.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

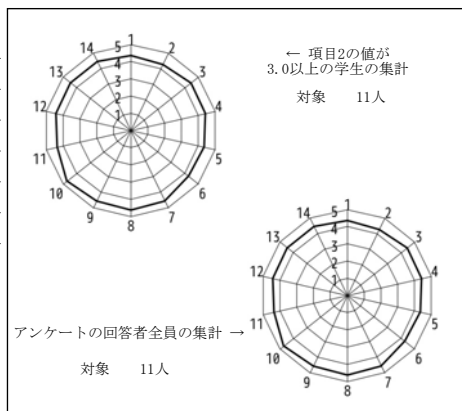
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
当初予定していた目標に到達しました。なぜなら、パーソナリティ心理学として、感情と性格の関連性について講義することができたからです。感情と性格の関連性は問題行動の引き金になる原因として多いため、公認心理師を目指す学生にとっては社会問題を理解する一つのきっかけとして有意義だったと考えます。また、本講義により、公認心理師試験にも十分対策できると考えます。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
アニメや漫画などの例を多用したことや、ワークを実施した事によって授業の理解が深まったとの評価をいただきました。感情と性格に関する例題は、社会的問題にも多く表されるため、活用して良かったと思います。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
ポジティブな評価をいただきとても嬉しいですが、レジュメが多かったことが一部の学生には負担となっている事がわかりました。来年度の授業では、授業の密度は維持しながら、レジュメの枚数を少なくして負担を軽減したいと思います。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学統計法
授業コード 23C75-001
教員名 脇田 貴文
教員コード 101105
登録人数 56
回答数 11
回答率 19.6%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度

本講義はレポートによる評価としたが、ほぼすべての学生が目標に到達していると判断できる内容であった。しかし、内容にはかなりばらつきがあったため、最低限は到達しているがその程度は学生による。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

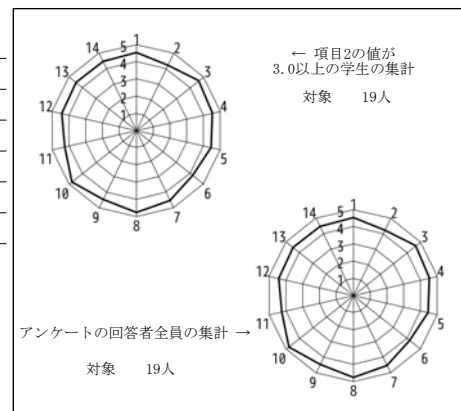
1/4程度の学生の回答結果ではあるが、すべての項目で4点以上の平均であり、科目内容も踏まえれば許容できるものと考えられる。
もっとも点数が低い項目は6の効力感に近いものであるが、こちらは難易度が関連していると思われる。
また、自由記述に関しても回答自体が少数ではあるがポジティブな内容であった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

本講義はオンライン講義で実施したためそのメリット・デメリット両面があったと思われる。
資料提示に関してはメリットの方が大きいと考えており、来年度以降も継続できればと考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 医学概説(人体の構造と機能及び疾病)
授業コード 23C77-001
教員名 丹羽 統子
教員コード 104280
登録人数 71
回答数 19
回答率 26.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



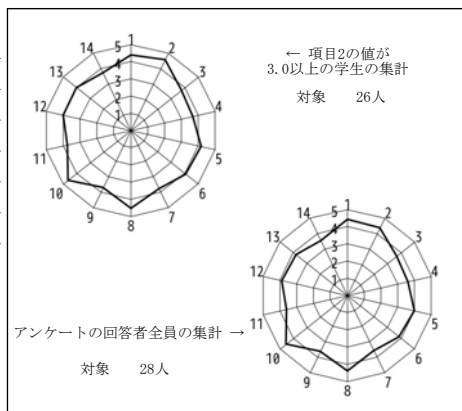
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度：より多くの学生に授業の内容を理解してもらう事を目標にした。試験結果の正答率が昨年より高く、授業の内容が昨年より理解し易かったと考える

②③総合的な自己点検・評価：昨年より自由記載のコメントが少なく授業内容に興味を持ってもらえなかった可能性がある。内容が難しいという評価を受けており内容の見直しが必要。科目の性質上、授業の内容を大きく変更することはできないが、伝える内容を検討する必要があると考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文章表現法1
授業コード 24C08-001
教員名 北田 雄一
教員コード 104314
登録人数 46
回答数 28
回答率 60.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

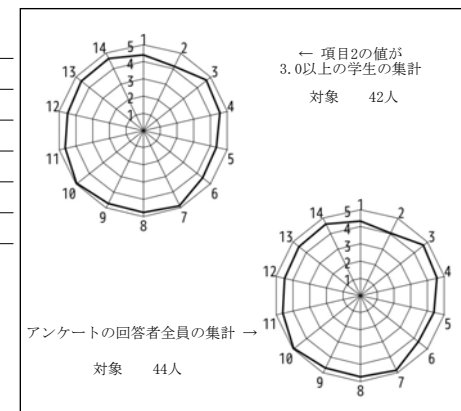


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ・開講当初に設定していた目標には到達できたように思う。学生のコメントからもそれが伺える。
- ・本講義は講義、課題、課題の添削、コメントの添付、評価を学生側に分かるようにしているが、おおむね好評なようなので続けていきたいと思う。今後はさらに教材を精選し、特に「教育格差」や「ソーシャルワーカー」に関する新聞記事を課題文として取り上げ、じっくり考えてもらいたい。
- ・学生のコメントから改善点はかなり多くあるように思われたが、オンライン講義のために発生した苦情が大半を占めていたので、対面授業で自然と解消できるようなものであった。ただ、講義とは別に「学校文法」の話や「近代文学」に関する話題を話すことがあったのだが「だらだらとしゃべるだけだから不要」「不快」「課題に集中したい」というコメントが多かったので、残念ながら「文章表現法」に直接関わることのみを話すことにして、課題に取り組み時間は必要のない限り沈黙を守るようにしたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本芸能史
授業コード 24C16-001
教員名 早川 由美
教員コード 101167
登録人数 112
回答数 44
回答率 39.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

オンラインでの授業が初めてであったため、初回から三回目までは機器の操作上の問題などで授業が中断することがあり、目標通りに進めることが出来なかった。また、対面授業を想定して選んだ教科書を使い切ることが出来なかったことも残念である。

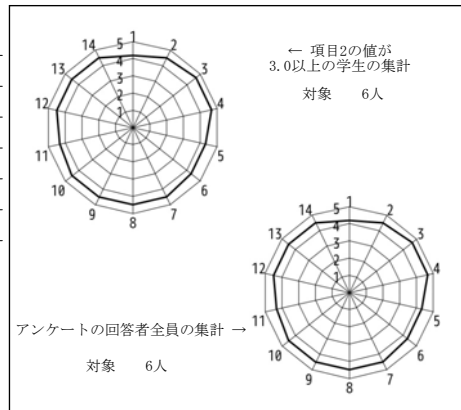
アンケートでは設問9の機器の部分の評価がそれほど低くないので、一定の効果はあったと考えているが、オンライン用に作成した資料の使い方や教室のホワイトボードの使い方などはもっと工夫すべき点があると考えている。

アンケートで評価が低いのは、設問2の「主体的に授業に参加し、内容を理解しようとしたか」(4.02)である。これに関しては、設問1の授業の内容に興味を持っていたかの項目の4.34から下がっていることから、資料は事前にアップし、次回予告も行っていたが、興味を授業参加につなげる工夫が足りなかったということだと思われる。

そのため、次年度からは事前学習や復習のための資料やインターネット上の動画資料などの指摘をより具体的にして幅広く、日本の芸能に触れてもらう工夫をしていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 王朝文学研究
授業コード 24C34-001
教員名 大井田 晴彦
教員コード 101186
登録人数 6
回答数 6
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

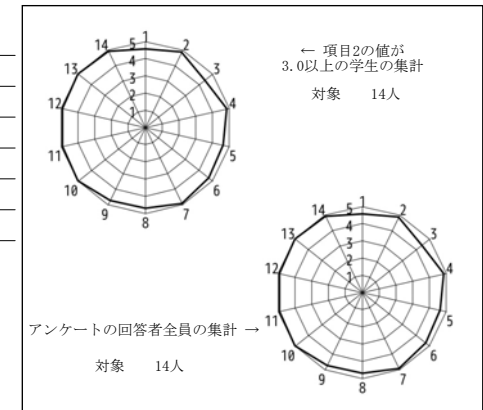


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標に対して、十分に到達したと思われる。ほぼ計画通りに授業は進行した。予定よりもかなり進捗した回もあった。少人数であったこともあり、受講学生は積極的に授業に参加していた。出席率も極めて高かった。その都度質問も多々あった。課題にも真摯に取り組んでいた。②総合的な自己点検および評価は、学生の意欲的な取り組みの成果もあり、優良であった。学生は、おおむね授業内容を理解できたようであり、古文研究の基礎的な学力が身についたと思われる。教材も分量、難易度ともに妥当だったと思われる。学生の反応も踏まえた、少人数ならではの行き届いた授業ができたように思う。とくに遠隔授業であることのデメリットなどはなかった。③アンケートを踏まえての、今後の改善点、方針については、毎回の課題の締め切りがやや早いという意見があった。課題については、対面・遠隔によっても異なるが、内容、レベルなども含めて検討したい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語教育教材研究
授業コード 24C62-001
教員名 伊藤 恵美子
教員コード 102909
登録人数 14
回答数 14
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



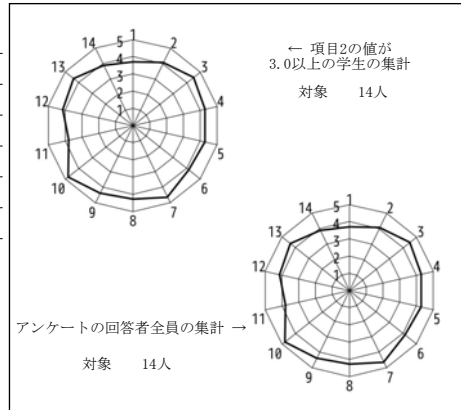
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、日本語教育教材のレベル別特徴を知っている、日本語教育教材のスキル別特徴を知っている、日本語学習者のニーズに合う教材が作成できるようになる、の3点である。設問13「授業を通して、新しい知識を得たり、理解が深まったと感じますか」の平均値は5.00である。受講生の成績評価はとA+とA(若干名)で、B以下は皆無であった。受講生一人ひとりの認識と教員の成績評価は一致しており、2021年度はこれまでにない最高レベルの到達度であった。対面授業での受講生の交流がグループワークの相乗効果を高めたと考える。

設問3「授業の開始時間は守られていましたか」以外の平均値は全体、人文学部共通、および日本文化学科を大きく上回っている。授業の開始が遅れたのは、自由記述(授業改善)にあるように「機材トラブルが多かった」からである。しかし、設問7「教員の誠実さ、真剣さ」、設問11「適切な指導や情報提供」、設問12「事前・事後指導」、設問14「この授業に満足しましたか」の平均値はいずれも4.93と非常に高い。自由記述(授業の良かった点)は、「グループで教材作成ができたところ、個人の意見を大切にしてくださったところ、自分の意見や考えが言いやすかったところ」「一人ひとりが意見を言う場面が多く、主体的に授業に参加する環境」「オンライン参加の学生に対しても親切的な対応をしていたのが印象的」「他の受講生の方との意見交換をする機会が他の授業と比べて多く、違う視点からの考えを取り入れることができた」等、高評価であったので、今後もこのような評価が得られるようにしたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 イギリスの社会
 授業コード 31E07-001
 教員名 松波 京子
 教員コード 103864
 登録人数 46
 回答数 14
 回答率 30.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

「イギリスの社会について、その社会的・歴史的背景を理解しつつ、現在いかなる問題を抱えているかを知り、その問題について自らの意見を考え、またそれを主張することができる」との問題設定であったが、ほとんどの学生が目標については到達できたと感じています。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

2021年度Q3はオンライン方式での講義だったため、Zoomでの授業となりました。学生からの意見では、オンライン講義中に出席確認があること、またたびたび学生を指名して回答させることが、オンライン授業であっても集中して受講しようという態度につながったとの意見がありました。

なお講義の内容については、イギリスのことをいろいろ知りたいという学生の要望には概ね応えられたかと考えています。意欲的に講義に参加してくれる学生が非常に多く、担当者も非常に刺激を受けました。

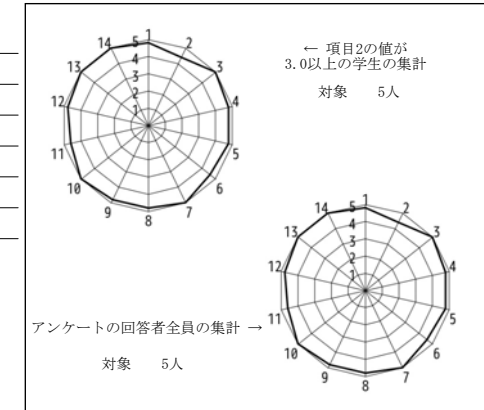
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

南山大学ではオンライン授業の場合はカメラをオンにして受講することという指示があったので、それを実施したところ、学生からは非常に不評でした。また、時折、ネット回線が厳しくなる状況があり、オンライン方式の難しさを再認識した年度でした。

今後も講義内容の方向性については維持しつつ、学生とのディスカッションの時間を少しでも多くしていきたいと考えています。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語通訳法
 授業コード 31E22-001
 教員名 クマイ 恭子
 教員コード 101131
 登録人数 12
 回答数 5
 回答率 41.7%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回

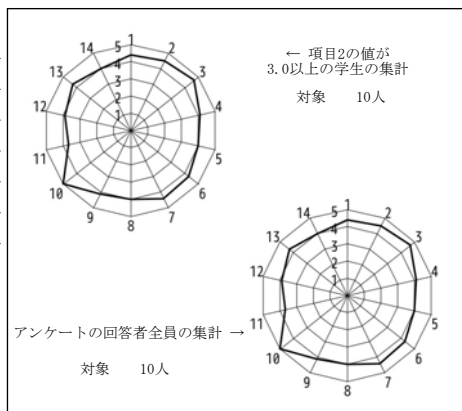


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目では、通訳というものに関する理解とそれに必要な語学力およびスキル習得を目標とした。学生の進捗を見ながら多岐にわたる題材を提供した。通訳のアウトプットには語学力が必須条件ではあるがそれだけではないこと、また、時間との戦いという要素もあって、実践しながらの練習には、学生は興味を持って取り組んでいたようである。同時通訳の演習では臨場感を持てるような運営を試みた。オンライン授業ということもあり、機材を使っての本格的な同時通訳は無理だったが、ウィスパリングは難しさを実感しつつも興味を持って取り組めたようである。国際的視野を養成する学部所属している学生が多く履修していたためその点にも留意して教材を準備した。全体的に満足の内容だったのではないと思う。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IIB2
 授業コード 32A12-002
 教員名 VILLALOBOS Antelma
 教員コード 101011
 登録人数 16
 回答数 10
 回答率 62.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course has gotten a high evaluation from the students in all the items. The students' comments were all very positive indicating that the general objectives of this course were well fulfilled. The biggest proportion of the students seems to be well satisfied with the kind of techniques used during the course classes and the way the professor behaved during the semester.

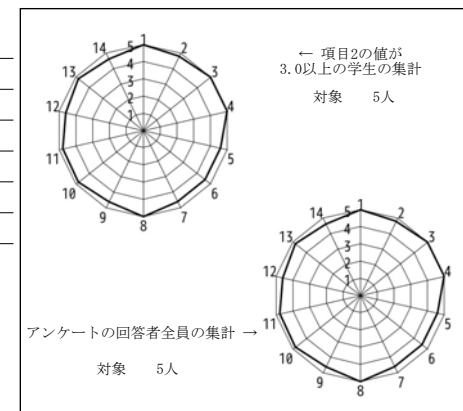
As a general evaluation of the course, I should stress that the most important point is the fact that I should continue my teaching with the standard and new methods I have developed and used until now and looking for improvements, according to the students' reactions to the contents and the teaching methods.

In other words, I should respond to the good evaluation of the students by trying to find more ways to let them obtain a better and more effective learning experience every class of the year.

Getting the students enthusiasm for the Spanish language was the clue for the exit of the course.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IIB3
 授業コード 32A12-003
 教員名 HOPKINS Mariella
 教員コード 103653
 登録人数 15
 回答数 5
 回答率 33.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

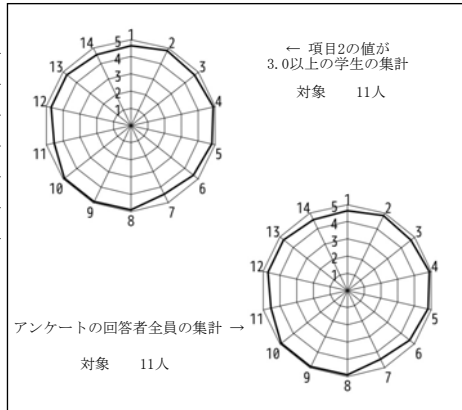
(1) En relación al punto uno de este reporte podemos indicar que los objetivos señalados en el syllabus para este periodo (Q3) han sido desarrollados con total éxito. Destacamos la buena participación de los alumnos en clases sobre todo por que vienen de un año anterior (2020) totalmente en línea y un primer trimestre de este año lectivo (2021) donde estuvimos en forma híbrida (presencial y online), a pesar de todo lo acontecido y lo que todavía vivimos los alumnos han logrado realizar actividades de grupo como de conversación y presentaciones orales de trabajos diversos.

(2) Con relación al segundo punto vemos muy importante continuar utilizando el "Webclass" así como también el "HANDOUT" y hacer que los alumnos lo puedan utilizar debidamente ya que indicamos los objetivos del curso, y los objetivos que se tienen que cumplir en cada clase.

(3) En referencia al punto tres de este reporte podemos indicar que dentro de las mejoras a aplicar esta el seguimiento a la estructura de las clases para que los alumnos tengan en clases el tiempo para la retroalimentación respectiva. Y también vemos la necesidad de trazar un gran objetivo anual como la creación de un canal de radio, canal de televisión, una bitácora, etc.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IIB3
授業コード 32A21-003
教員名 JAIME LAZO, Alan Christian
教員コード 103654
登録人数 17
回答数 11
回答率 64.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



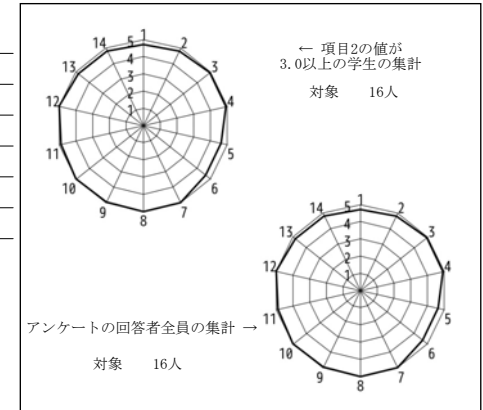
授業評価結果を踏まえた点検・評価

中級B1レベルのレッスンでは、家族や友人などをテーマにした会話もありましたがコミュニケーション能力の育成という目的を達成するために経済、社会発展、科学、芸術に関する会話の学習も行い、いくつかの社会経済的問題について要因を考察し解決策を討論しました。その際は各テーマに対応する言語習得段階やアプローチの知識不足が、スペイン語圏の社会文化的現実を深く考察するための妨げになっていることが分かりました。このような制約があるにもかかわらず、スペイン語の使用は私と受講生の間でかなり生産的で満足のいくものとなっています。

一方で、受講生が素直に発言できるようにその都度居心地のよい雰囲気作りを心がけてきました。また、学生が理解しやすく、ストレスを感じないように、授業に過度の内容を盛り込まないように細心の注意を払いました。実践的な会話コースであるため、スペイン語に対する好奇心を刺激する機会も多くつくりました。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IC1
授業コード 32A22-001
教員名 ROJAS ESPINOZA, Lorena Sue
教員コード 103464
登録人数 22
回答数 16
回答率 72.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標達成について、本講義では達成することができました。
学生は言語だけでなく社会情勢へ関心を示しました。

自己評価、クラス活動では一人ひとりにあった、サポートができたことと学生が積極的に質問がでる環境を築くことができました。
学生からのコメントがあったように、授業時間外でも対応し、学生が自由に意見を発することができました。

改善点は、ビデオやメディアを使って講義を実施したいと考えています。インプットをより効率的に行えることを目指したいと考えています。
アウトプットについては、今まで通り言語を問わず、知識と語彙が同時に発展できるように、考える力を鍛えることを目指します。試験の成績だけでなく、授業内の活動と積極的な姿勢をさらに評価する必要があると考えます。
試験の点数は大切ではあるが、それだけをメインに評価するのはもったいないと思います。
より課題を設けて、学生が自律的に調べたり、勉強したりすることを促進していきたいと思っています。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	コミュニケーション特論B
授業コード	33C02-001
教員名	清水 ベアトリックス
教員コード	047845
登録人数	4
回答数	2
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The Q3 class was held online and organized in a number of short modules so as to ensure that students' interest would be stimulated during 2 x 100 minutes. We used the situation of online teaching to improve students' computer literacy and asked them to study a variety of online oral and written material. Weekly homework had to be submitted in a variety of forms.

Each week, we studied a formal point of oral communication strategy, which was then applied to oral practice for the preparation of various examinations such as DELF or 仏検 that students wanted to take.

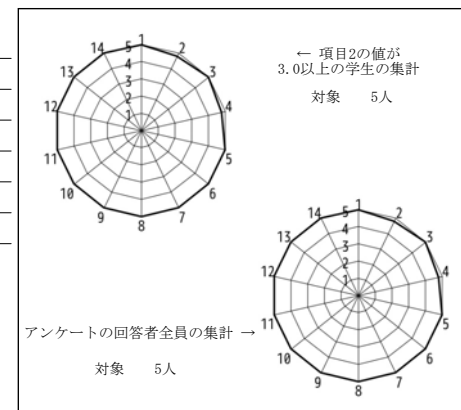
This was followed by a session of opinion sharing around a theme which had been provided a week in advance for preparation. This was done using a collaborative pad online, a form of exercise greatly appreciated by students.

The class was wrapped up by each student's short presentation of a topic of her(his) choice related to current events happening in the world, particularly France or Japan.

The number of attendants was very small but students responded to the online survey and gave high grades to this course, which was very encouraging.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス文化特殊講義B
授業コード	33C13-001
教員名	七條 めぐみ
教員コード	103896
登録人数	13
回答数	5
回答率	38.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

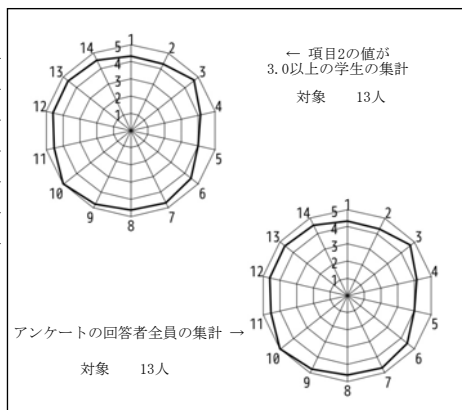


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①この授業ではフランス音楽の歴史について、(1)学問的な関心を抱くこと、(2)西洋史と関連づけながら理解すること、(3)特徴を自らの言葉で説明することを目標としていた。これらのうち(1)と(2)に関しては、大半の学生が授業に積極的な関心を持ち、世界史等の知識と結び付けながら理解しようとする姿勢が窺えた。一方で(3)に関しては、授業で学んだことを適切に記述する能力に個人差が見られ、到達が十分でない受講生もいた。
- ②今回のアンケートでは項目全体の平均が4.97点と、学科平均(4.82)以上の高評価を得ることができた。今年度はほぼすべての回をオンラインで実施し、授業で使用した課題曲をWebサーバー上にアップすることで、復習しやすいように工夫した。また、コメントシートに質問が書かれていた際には、次の授業でフィードバックを行った。そのことが、学生の受講態度やアンケートの数値にも反映されたと考えられる。
- ③アンケートの回収率が38%(13人中5人)と低かったため、より多くの受講生が授業評価アンケートに回答するよう、促す必要がある。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLSフランス語I
 授業コード 48A15-001
 教員名 HERGOTT, Florian
 教員コード 101725
 登録人数 30
 回答数 13
 回答率 43.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

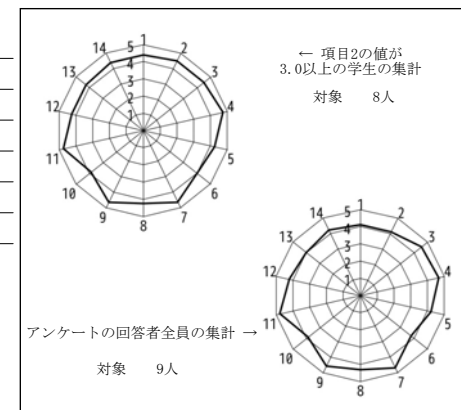


授業評価結果を踏まえた点検・評価

A large part of the lessons in the third term took place in the classroom. The protocol for limiting the spread of the virus changed the flow of a traditional communication lesson somewhat. However, thanks to the goodwill of the students, the course objectives were achieved.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語II会話2
 授業コード 35A12-002
 教員名 張 静萱
 教員コード 048047
 登録人数 27
 回答数 9
 回答率 33.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



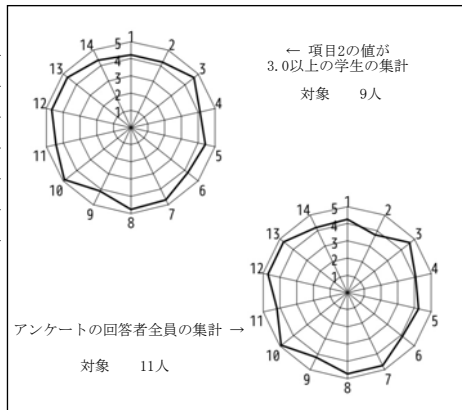
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「授業評価集計」、および学生からのコメントなどを見ますと、けっこう高めの評価をいただき、当初設定した授業目標におおむね達成したと思われます。この授業は中級会話ということで、どのようにして学生の学習意欲を引き出すかをいろいろと工夫しながら、今までの経験を生かして授業を進めてきました。また課題として普段日常生活の様子などを習った言語で会話文を作って練習してもらったりしていました。「自分で文章を作ることによって中国語の力を身につけることが出来た。」、「……とても良い学習になりました。」と学生のコメントで評価されました。

「喜欢是最好的老师。」今後は、これらの評価されたところを引き続き努力し、学生諸君の学習意欲を引き出すようさらに工夫し続けていくと同時に授業内容をさらに充実にし、学生の積極的な授業参加や興味をもっと湧いてくるよう、また受講者全員が満足度の高い授業運営に力を尽くしていく所存です。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	タイの言語と社会
授業コード	35D14-001
教員名	加藤 久美子
教員コード	100483
登録人数	34
回答数	11
回答率	32.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

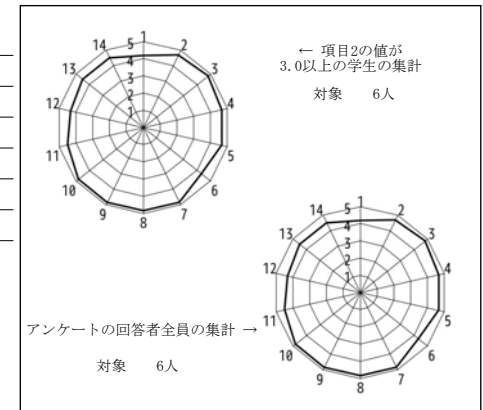
開講当初に設定した目標は、「タイ語の初歩的な表現を身につける」ことと「タイ社会に関する基礎的知識を得る」ことであった。設問13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」の評価平均値が4.73であったのに比べ、設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」の評価平均値は4.09であった。これは、知識・技術・理解が向上したとは実感しているものの、どこまで行ったら目標に到達できたと言えるのかがわからないと受講生が感じたからではないかと思う。目標をより具体的に示すことが必要だったと反省している。

授業はオンラインでおこなったため、教材としては、大阪大学がインターネット上で公開している「タイ語初級eラーニング」を使用した。アンケート自由記述欄の「この授業の良かった点、評価できること」として、発音を確認したい場合タップすればすぐ音声がかかる機能が教材についている点を挙げた受講生が二名おり、その点でこの教材を選択してよかったといえる。また、授業では、受講生を順番に指名して発音してもらいそれに対してアドバイスをする機会を設けたが、それがよかったという回答も複数あったので、この方法も効果があったと思う。一方で「改善した方がよいと感じた点や困ったこと」として、授業の進度が早い、文字を書く練習はすべて自分でやらなければならない、文化紹介に写真や動画を使ったほうが良かった、などが挙げられていたが、それは授業中に扱う教材を「タイ語初級eラーニング」のみにし、それに沿ってどんどん先へ進めてしまったことによるものであり、反省すべきである。

今後は、たとえオンライン授業であっても、文字の解説・練習にある程度時間を割くようにしたい。また、写真や動画も用意して、受講生が理解しやすい授業ができるよう工夫していきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アジア文献講読B
授業コード	35D17-001
教員名	北野 浩章
教員コード	104302
登録人数	17
回答数	6
回答率	35.3%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、東南アジア（特にインドネシア）を中心とする英語文献を読み、卒業論文で英語文献を用いることができるようにすることを目標にした。具体的には、

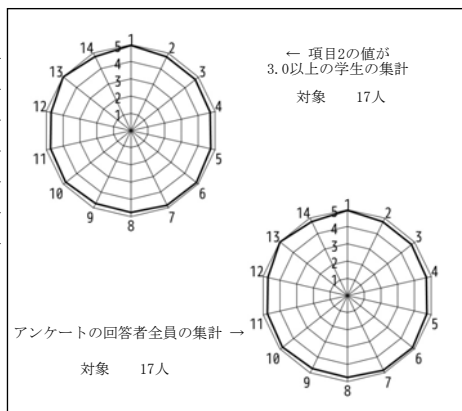
- (1) 東南アジアの歴史や文化などの基本事項を、英語を通じて理解する。
 - (2) 今日の東南アジアの最新事情を知り、時事を語るための英語表現を習得するとともに、地域の現状を理解する。
 - (3) このような練習を通じて、東南アジアに関する英語の基本文献を読解できるようになる。
- ということである。

(1) については、コースの前半（7回分）を使ってカバーした。コースの後半では、現代の東南アジアの主に政治・経済、および、今日の東南アジアで生きる人たちの姿を東南アジア研究者たちがそれぞれの視点から描写した読み物を用いた。これが(2)に相当する。

おおむね1～3段落を一人の受講者に担当を割り分けて発表してもらう方式をとった。ある程度のスピードで読み進めるにはこのような方法しかないが、受講者すべてに皆で読んだ内容が浸透したかどうかとなると心許なく、さらにレポートやその日の振り返りなどを使って確認できればさらによかったと思われる。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS中国語I
授業コード 48A24-001
教員名 趙 晴
教員コード 100960
登録人数 44
回答数 17
回答率 38.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生たちは評価してくれて、誠に嬉しく思います。学生たちもすごく頑張って勉強していますので、いつも私の方が励まされています。教室の雰囲気良く、みんな明るく真面目で、講義しやすかったです。学生たちに謝謝！と言いたいですね。

学生たちは学習内容をよく理解して覚えたので、講義当初に設定した目標に到達しました。

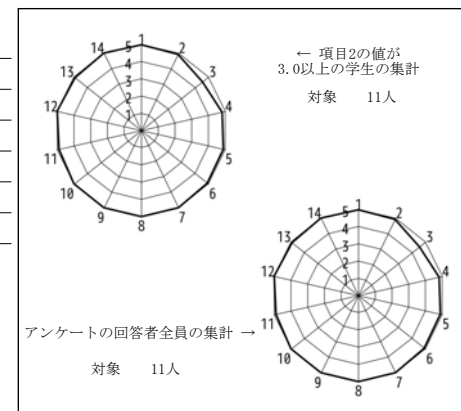
特に評価された点は「発音をしっかり教えて下さった」、「丁寧に中国語初心者にもわかりやすく一から教えて下さった」、「分かりやすく、進むスピードも良かった」、「教科書以外の応用した知識も教えていただいた」、「授業内で扱った単語の更に関連した単語を知れて良かった」、「中国人の先生なので、ネイティブな発音を聞くことができた点」などです。読みながら胸が熱くなります。

これからもさらに工夫して、楽しく学べる中国語の講義をしたいです。

学習することは楽しいことですが、楽なことではないです。我们一起加油吧！

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLSインドネシア語I
授業コード 48A27-001
教員名 PURNAWAN, I Kadek
教員コード 104129
登録人数 19
回答数 11
回答率 57.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



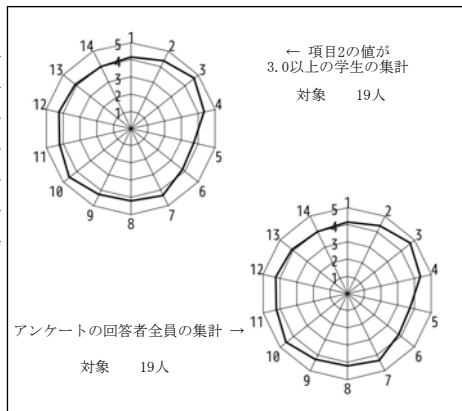
授業評価結果を踏まえた点検・評価

By the end of the course, students were able to achieve the goals set at the start of the course. Overall, I think the students were satisfied with the structure and the delivery of the course, with the average score of 4.92. Moreover, from what I observed in the classroom during the lesson, students eagerly participated in class discussions, asked and responded the questions. However, there were some lesson plans that I could not implement in the classrooms due to technical problems, especially due to the issues of the internet connection.

Conducting the lesson in a hybrid class could be very challenging for a language class, focusing on the speaking skills. It was a little bit hard to make all students speak and work in pairs. In the future I would like to design courses using various evaluation methods (one-on-one interview, speaking tests in pairs, role plays, picture-cued story telling, and oral presentations) so that I can understand the proficiency skills of the students well.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済統計入門1
 授業コード 40D05-001
 教員名 塚本 高浩
 教員コード 104478
 登録人数 42
 回答数 19
 回答率 45.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



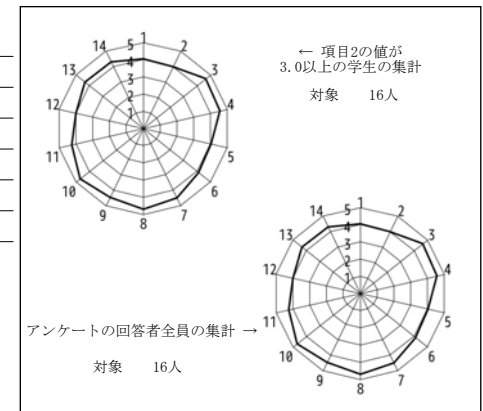
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、次の3つの到達目標を定めた。1. 計量経済学を学ぶ上で必要な基本的な統計学の知識を習得している。2. インターネットから公的統計といったデータを入手できる。3. 「MS Excel」を用いて簡単な統計分析を自ら実施することができる。本アンケートでは、目標に達成していると認識している学生がやや低い結果となっているが、授業内に行った「MS Excel」を用いた演習や課題、期末試験などの状況から、おおよその学生は目標を達成しているものと考えられる。

本授業は、基本的に対面授業であったが、オンライン受講を希望する学生向けに同時配信を行った。喋る位置によって音声聞こえにくくなるのが授業中に発覚し（本アンケートでも指摘がある）、基本的には教卓の前で喋り続ける必要性が生じた。そのことにより、対面授業のクオリティは一定程度低下したと考えられる。しかしながら、本アンケートでは一定の評価は得られており、特に、統計学の問題演習やExcelを用いたデータ解析の演習などはおおむね好評であり、次年度以降も続けて行きたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学史B
 授業コード 40D67-001
 教員名 西本 和見
 教員コード 104479
 登録人数 59
 回答数 16
 回答率 27.1%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



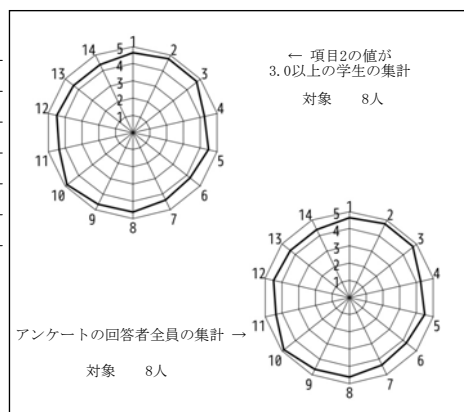
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標は、(1)経済学の発展の歴史を包括的に理解し説明することができる、(2)時代背景を踏まえつつ主要な経済学者の理論と意義を説明することができる、であった。Q3の授業はシラバス通りに進行し、アンケート結果からもある程度これらの目標を到達したと考える。設問1よりも設問13, 14が高い評価を得たので授業を受けたことで関心を高めてもらえ、良かったと思う。
- ②アンケート結果を踏まえて、この授業に対する総合的な評価はすべての項目で4を超えており、一定の学生の評価を得たと考える。特に、授業の震度や授業に対する教員の誠実さ・真剣さや、機器での音声の聞き取りやすさは高い評価を得た。逆に、質問に対する相談の機会は少なかったという評価だった。オンライン（オンデマンド）授業での非常勤での対応の難しさがあったが、これについて改善の余地がある。
- ③今年度までなので特になし。

一年間ありがとうございました。お世話になりました。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語B1
授業コード 40E05-001
教員名 MOORE, Jonathan
教員コード 101410
登録人数 28
回答数 8
回答率 28.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

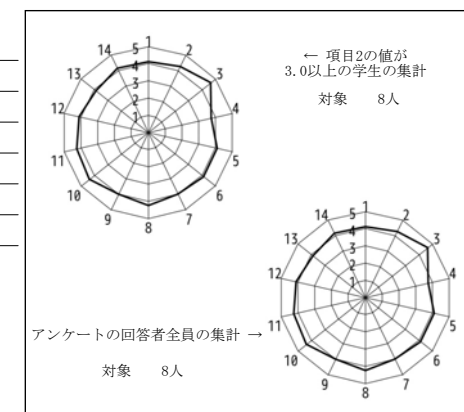


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This quarter was taught online and in-class because of the COVID-19 pandemic. The overall scoring of the set of questions was very positive. Students put a lot of effort in the lessons. Students were self-motivated to prepare for classes and projects, do assignments and review. They showed interest in English and realized the importance of English in the workplace. A syllabus was uploaded along with other materials for students. PowerPoint lectures were given for students. The class was adjusted to the student's needs and level. The research and preparation of the projects and assignments outside of class was especially useful for independent and developmental learning. Effort was made to give each student individual consultation and instruction. Students seemed very interested in acquiring communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques and skills. Overall, students were very satisfied with the class.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 時事英語B1
授業コード 40E07-001
教員名 森川 信子
教員コード 100136
登録人数 19
回答数 8
回答率 42.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

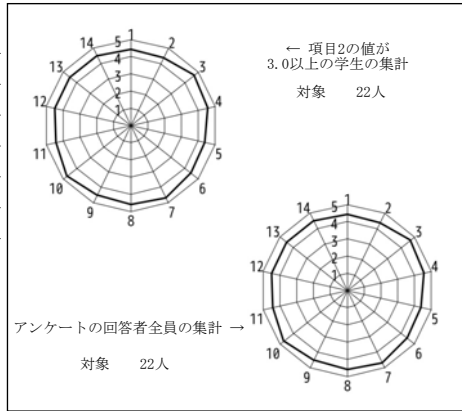


授業評価結果を踏まえた点検・評価

第3クォーターは、後半は対面授業をすることができましたが、初めはコロナの第5波のためオンライン授業でした。最初がオンラインだった影響なのか、あるいは比較的少人数だったのでたまたま個人差が見えやすかったのかもしれませんが、対面授業になっても授業にやや身が入らない（教科書をなかなか購入できなかったり、予習や復習課題への取り組みが芳しくなかったりする）様子が見られました。オンラインで授業が行われることに悪い意味で慣れてしまっていたような印象を受けました。定期試験の結果を合わせて考えると、全体としては設定していた目標の達成の程度は7割ぐらいかと思います。アンケート結果は、第2クォーターと比べると全体的に低めでした。しかしながら、自由記述回答に、毎回出していた復習課題の意図をしっかりと理解して取り組んでくれた受講者からの肯定的な感想が述べられており、その点は非常にうれしく思いました。今後の抱負としては、予習や復習課題の意義をより丁寧に伝えることで、授業で学んだ内容の理解・定着度を上げられればと思います。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民法A
授業コード	40F04-001
教員名	仮屋 篤子
教員コード	102079
登録人数	73
回答数	22
回答率	30.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初遠隔授業となったため、学生の反応を見ることができず、その点でのやりにくさはあったが、チャットでの質問については、対面よりも学生にとってはやりやすかったのではないかと思料する。数値データを見れば、一応の成果は上がったようである。特に、録画を随時アップしたことにより、授業への取り組みやすさはあったかと思われる。

ただ、板書での事例紹介などができなかつたため、わかりにくかった点はあると思う。授業内容の性質上、板書による事例紹介は必須であるが、この点を遠隔授業でどのようにわかりやすくするのは、今後の課題であろう。

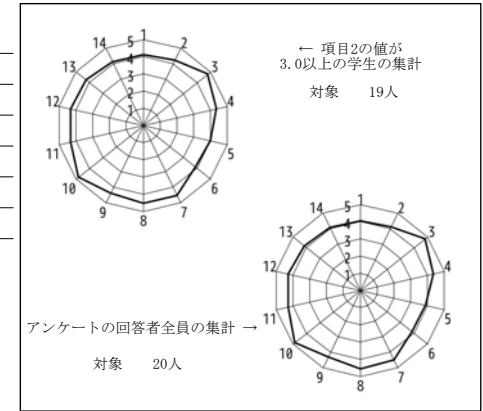
後半の対面授業との併用時には、ホワイトボードと録画システムの相性の悪さのようなものがあつたのではないかとと思われる。

ただし、他大学に比べて、南山の遠隔授業の体制は非常にレベルが高く、この点は評価することができる。学生の理解度が高かつたのも、そのためであると考えている。

次年度からは南山の講義からは離れるが、最後に良い生徒に恵まれたと、感謝しています。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	商法A
授業コード	40F06-001
教員名	村上 康司
教員コード	103658
登録人数	88
回答数	20
回答率	22.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

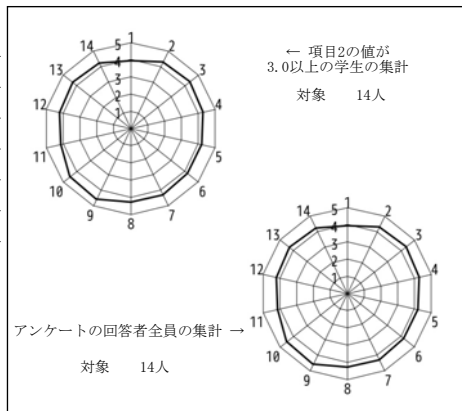


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①授業は、諸事情によりオンラインで実施することとなり不便をかけたしまったが、学生も多くがZoomにより参加しており、予定していた内容については、すべて触れることができた。
- ②もっとも、学生アンケートのスコアをみると、講義目標が十分に共有されていない、あるいはわかりにくいのか、Q5, Q6あたりがやや低いものとなっている。その他は、おおむね良好な評価を得ていると考える。また、自由記述においても、好意的な記述がいくつか寄せられている。パソコン画面上にペン書きをする画面を映し出す方法としているため、画面スペースの制約がどうしてもあり、1頁の情報が多く、細くなりがちな点は何らかの改善を考えたい。
- ③目標に向けて力がついているかどうか学生自身の主観による部分ではあるものの、やはり達成感を味わわせることができるように一層心がけたい。また、各回ごとのフィードバックは、学習したことを現実社会の出来事とリンクさせることを狙っているものであるが、単純な作業とならないように工夫が続けたい。フィードバックのWebClassへの提出は任意とはしたものの、相対的に提出者の定期試験での結果が良いこととは無関係ではないと推測される。全体として、学生が主体的に学習に取り組んでいるかどうか、結局は、各自の理解度へと直結することの証左であろうと思われるため、これを意識していきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人事管理論B
授業コード	42C28-001
教員名	余合 淳
教員コード	103585
登録人数	75
回答数	14
回答率	18.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

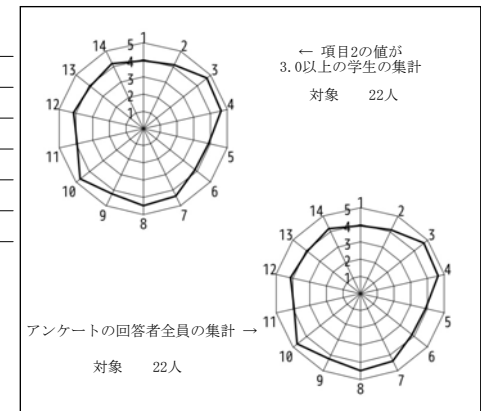


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
人事管理に関する基礎的な知識を踏まえ、企業に代表される組織と人のかかり方、特に組織側の視点に立ち、組織内の人々をどのようにマネジメントするべきかについて、特に理論と実践の関係性について理解することにあった。講義では、通常消費者、あるいは労働者として接する機会の多い企業のマネジメントを対象に、特に人材マネジメントの観点から、人事や労働を学習した。レポート及び期末試験の結果からは、概ね目標に対する到達度は良好であると考えられる。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データ全体の平均値は、経営学科平均値とほぼ同等である。特に項目2, 5, 6, 9については高く、主体的な参加を促し、毎回の講義で到達目標を意識させることについて一定の評価がある。講義の中で到達目標を具体的に何度も明示するような形をとったことで、これまでよりも到達目標についての項目が改善している。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
平均よりも数値の低いものは、履修前の興味と、授業の妨げになる行為についての対処である。オンラインでの講義、また非常勤講師による講義であるためやや講義のイメージが持ちにくい学生がいるようである。また、授業の妨げになる行為については、オンライン下で私語等がそもそも存在しなかったため、回答し辛かった点もあると考えられる。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営分析論B
授業コード	42C41-001
教員名	斎藤 孝一
教員コード	018259
登録人数	51
回答数	22
回答率	43.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、企業の有価証券報告書をケースに選び、収益性と効率性、運転資本とキャッシュ・コンバージョン・サイクル、ROAとROEを取り扱ったものである。アンケートの結果は、設問1~14の平均値は4.23、設問3~14の平均値は4.26であった。設問6の「授業の目標達成度」については、平均値が3.86で、5と4を付けた学生が72.73%であった。設問4「授業の構成や進行速度は適切であったか」は平均値4.64で、5と4を付けた学生が95.45%であった。設問14「全体として授業に満足したか」は平均で4.18、5と4を付けた学生が91.9054%であった。設問12「質問や相談の機会が十分に設けられていたか」は平均値4.14で、5と4を付けた学生が72.72%であった。設問8「教員の声や音声機器の音は良く聞き取れたか」は平均値4.50で、5と4を付けた学生が90.91%であった。設問3「開始時間は守られていたか」は平均値4.73で、5と4を付けた学生が95.45%であった。設問10「授業の妨げになる行為に対して適切な対処がなされていたか」は平均値4.68で、5と4を付けた学生が90.91%であった。ZOOMによる授業であったが、WebClassのメッセージ機能やZOOMのチャットはうまく機能していたと思われる。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営管理論B
授業コード	42E04-001
教員名	藤川 なつこ
教員コード	101618
登録人数	37
回答数	4
回答率	10.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の学修目標は、①経営管理論の理論的内容を理解したうえで、②現実の企業の事例を、経営管理論を用いて分析し、③現実の企業が抱える経営課題に対し、経営管理論の視点から打開策や改善策を提示すること、であった。学生による授業評価の設問13の回答の平均値が4、設問14の回答の平均値が4.5であることから、学修目標を概ね達成できたと判断できる。これは以下の点に心がけながら講義を進めたことによるものであろう。

①グループディスカッションの実施

単に講義を聴くだけでは、受け身の講義になってしまうので、毎週グループディスカッションを実施し、講義内容について学生間で考える時間を提供し、理解を深めるようにした。

②学生からの質問への対応

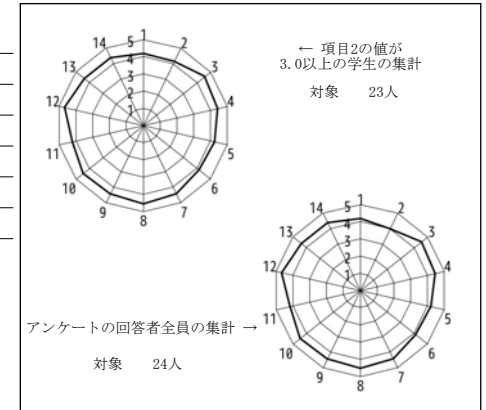
講義後にチャットに質問を書いてもらうということを毎回行った。また、そこで出た質問に対しては、全体に対してその都度回答した。このことによって疑問と答えの共有を進めることができた。

以上のように、一方的に講義をするのではなく、学生間の共同学習の場を設けることによって学生とともに講義をつくり上げていったことが、学生からの「生徒の主体性を重んじる授業スタイルだった」という評価に繋がったと考えられる。しかしながら、課題として①インプットとアウトプットの時間配分および②授業外の自主的な学習意欲の喚起が挙げられる。

以上の点を踏まえて、学生の学習意欲を高められるような、より参加的な講義にできるよう次年度はさらなる努力をしていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代産業論(電子・電機産業論)2
授業コード	42F03-002
教員名	塩川 順久
教員コード	103587
登録人数	83
回答数	24
回答率	28.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



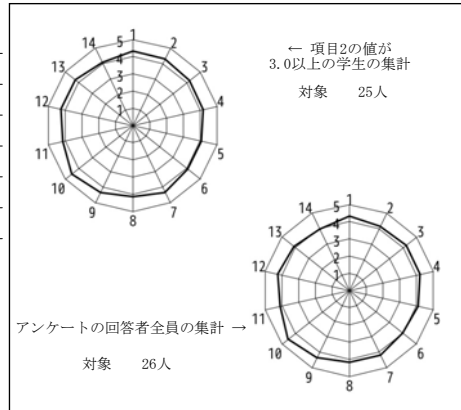
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今期で私の講義は最終となりました。有難うございました。今期の授業で気が付いたことを下記します。

1. 新型コロナウイルス感染拡大で当初オンライン講義で始まり、途中から対面に変わり混乱があったかと思いますが、登録学生数83名に対し、平均50名前後の受講生出席で残念でした。
2. 注意をしても授業中私語をされる学生が多く、煩くて良く講義が聞こえないとクレームを寄せられた学生さんが多くいました。
3. このアンケートでいつも課題になるのは、項目番号1. 事前の興味と2. 予習・復習です。教務課としてこの点改善させる指導をお願いします。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(自動車産業論)1
授業コード 42F04-001
教員名 飯島 修
教員コード 104485
登録人数 100
回答数 26
回答率 26.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

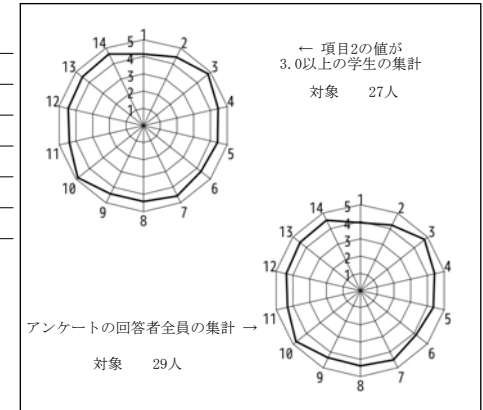


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本年度より初めて行う授業がオンラインとなり、比較的ネット環境が安定している勤務先より実施。講義形式で受講者が多く、また、在宅受講者がほとんどだったこともあり、カメラオフ可とし、休憩時間を設けるなど進行にゆとりを持たせるよう配慮した。慣れていないZoomの操作も学生の皆さんに教えてもらいながら、チャットによる質問にも極力答えつつ授業を進めた。資料が解り易かったとのコメントがあり、ほっとするとともに具体的な改善点コメントに感謝している。注視したのは①項目1の事前興味に対し、項目14の事後の満足度が下がっている点と②項目5の到達目標の理解度に対し、項目6が低い点。①については項目16の改善点コメントを参考に、次クォーターでは評価方法、レポート内容を早めに説明するように心がけた。②については事前に提出したシラバスの到達目標、授業計画を変更したことの影響が出たと推測。初回授業でシラバスの変更点は説明したものの、次クォーターでは更に丁寧な説明を心がけた。項目15の良かった点、評価できる点について、前任担当の昨年のお返に、「特にない」、「ない」、とのコメントが見られたのでシラバス変更を試みたが、今年も同じコメントが寄せられたので上記①の対応を基本に改善をしていくしかないと考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本法史
授業コード 44B34-001
教員名 代田 清嗣
教員コード 104266
登録人数 76
回答数 29
回答率 38.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

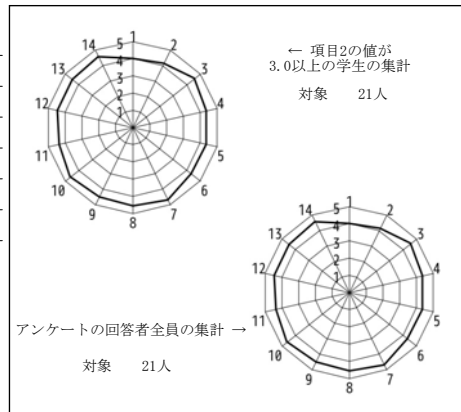


授業評価結果を踏まえた点検・評価

日本法の歴史に関する基本的知識、主要な法分野の歴史に関する専門的知識については、詳細な解説を行い、レポート課題等によってその定着が確認できたと考える。一方で、「近現代日本の法文化の特徴を歴史的な視点から理解する」という目標については、近現代との具体的な連関を授業内で十分示し得なかったため、十分に達成できなかった。授業内容に関しては、アンケート結果から、歴史的事項・背景の説明や具体的な史料を用いた解説は好評を得ていることが窺われるが、一方で学生が関心を寄せる事項について、十分な時間を割いて説明できていない可能性のあることが分かった。尤も、具体的にどの項目についての解説を学生が希望していたのかは不明であり、かつ必要な説明事項と時間数との関係から、やむを得ない部分もあると考えている。次期においては、まず到達目標を見直し、学生にとって分かり易い目標を設定する。学生に好評であった歴史的背景や史料についての解説はこれまでと同様に行うとともに、近現代法との比較や、現代人にも通じる法意識に積極的に言及することで、他の科目との関連性などを意識させたい。また、課題レポートについて平均点が低い(教員の要求する水準が高い)との意見も受けたので、学生が学修成果を実感できるような課題設定に留意する。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス法
授業コード 44B39-001
教員名 小林 真紀
教員コード 103451
登録人数 107
回答数 21
回答率 19.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

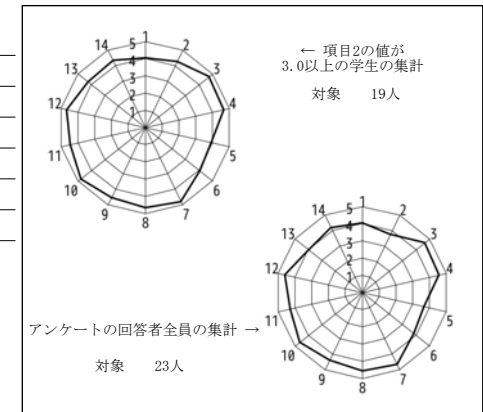
質問4・5・6に対する回答結果からみても、シラバスに掲げた「フランス第五共和制の統治機構に顕著な特徴を客観的に把握できる」「大統領制や二元的裁判制度など、日本には無いが諸外国ではしばしば採用されている制度について正確な知識をもつ」「執行府・立法府の機能など、日本法と共通する点について正しく理解できる」という目標は概ね達成できたと考えている。

自由記述欄に書かれた内容からは、オンライン授業であっても、受講生としばしばチャットなどを通じてコミュニケーションをとれば、それほど苦勞することなく授業内容を理解できていることがわかった。1コマ100分かつ2コマ連続の授業をオンラインでおこなうのは初めての経験であったため、最初は非常に心配したが、休憩時間を適宜入れるなどして、学生の集中力の維持に配慮したことが功を奏したと思う。

複数回、任意で（オンラインで）提出する課題を設定したが、名前が書かれていないものが提出数の1割程度みられ、評価の対象にできなかったことが非常に残念であった。次年度からは、提出物を（オンラインで）出す場合には、提出物そのものにきちんと氏名と学籍番号を書くように口頭でも指導をしたいと思っている。また、大勢ではないものの、授業内容が多すぎて、試験前までに頭の中に入りきれない学生がいるようである。内容的にはフランスの統治機構を中心に最低限に絞っているためこれ以上減らすことはできないが、補助教材を用いるなどしてさらなる学生の理解の促進を図りたいと考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 行政学A
授業コード 44B42-001
教員名 高 東柱
教員コード 104267
登録人数 104
回答数 23
回答率 22.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

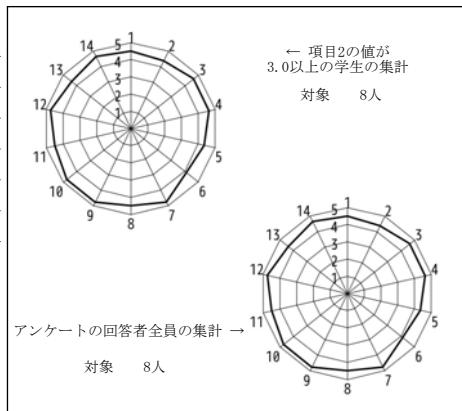
行政学Aでは、「行政学の基本概念を理解し、現代行政学の誕生と発展における歴史的背景と理解している」とこと、「行政の仕組みを政官関係、中央地方関係、官民関係、国と国との関係から捉えられるようになる」ことを到達目標として設定し、授業を行った。

本授業への全体的な満足度（設問14）の平均値は4.17となっており、数値自体は低くないものの、法律学科の平均値（4.21）を若干下回っている。これは、設問5（授業の到達目標を理解することができたか）と設問6（授業の到達目標に向けて力がついてきたと思うか）が他の項目に比べて平均値が低いことから（それぞれ3.70、3.83）、授業の到達目標が学生に十分伝わっていなかったことに原因があると考えられる。

他の設問項目や自由記述回答の結果から、授業の進め方等に問題があるわけではないと思われるため、今後は授業内で授業の到達目標についてより分かりやすく説明し、学生が到達目標の達成度をより認識できるよう改善していきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済原論A
授業コード 44B52-001
教員名 川地 啓介
教員コード 103289
登録人数 41
回答数 8
回答率 19.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標として、消費者と生産者の行動原理に加え、資源配分における市場の役割について理解できるようになることを設定した。今年度から100分授業に変更となったが、講義内容の配分について見直しを行ったため、授業目標に関連する内容について講義期間内に説明することができた。授業評価は全体としてはおおむね良好な結果であったと判断される。ただし、授業時間とネットワーク環境の2項目についてQ3に開講された授業全体の平均を少し下回っている。この点について、開講当初にパソコンの不具合などにより数分間開始が遅れてしまったことがあったため、オンラインによる授業を滞りなく進めるためにパソコンを3台準備して授業を行うことで対応した。また、授業評価の中で、到達目標に向けて力がついているかを問う項目が最も低い評価であった。初回講義において到達目標について丁寧に説明しているが、到達目標が十分に理解されていない可能性がある。来年度の授業では、到達目標についての受講者の理解を促すために、各回の内容が授業の到達目標とどのように関連しているのかを説明するよう改善したい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経済組織法
授業コード 44C11-001
教員名 水島 朋則
教員コード 103634
登録人数 8
回答数 2
回答率 25.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

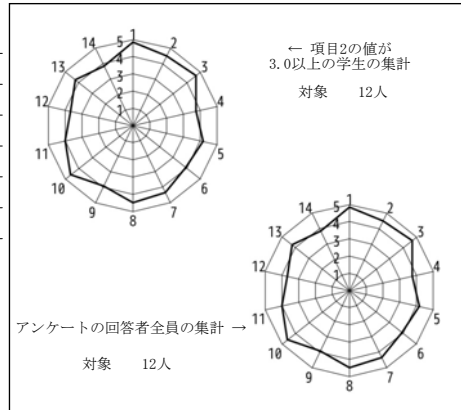
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①前年度は目標に達していない学生（不合格）が0人であったが、今年度は残念ながら、試験を受けた7人のうち1人が不合格であり、その意味では到達度は85%程度と言える。もっとも、この学生は、5回のレポート（各回15点が上限）のうち2回しか提出しておらず、シラバスに書き、最初の授業でも説明した評価方法に従えば、仮に試験で満点（25点）をとっても合格点に達しないこと（したがって、試験を受ける意味がないこと）は、本人も理解できたはずである。
- ②残念ながら回答者が2で、回答率が低いことに留意する必要があるが、設問1と設問13についてそれぞれ1人が「3」と回答している他は「4」または「5」の回答であり、平均値が3.5であった設問1以外の平均値は4.0以上であるため、数値データからは特に大きな問題は確認できない。なお、今年度はいずれの設問についても自由記述がなかった。
- ③オンライン授業であれ対面授業であれ、基本的には今年度までの授業方法等を踏襲することとしたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 会計学
 授業コード 46D08-001
 教員名 梅田 守彦
 教員コード 103893
 登録人数 31
 回答数 12
 回答率 38.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



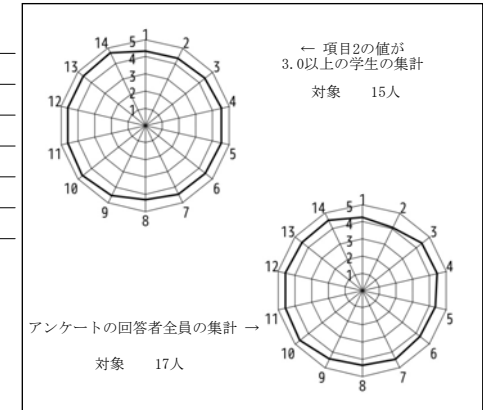
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に予定していた範囲はおおよそカバーすることができたものと判断している。しかし、授業の構成や進行速度についての評価はかなり低いものになってしまった。内容を盛り込み過ぎたため消化不良になってしまったのかもしれないが、いま一度よく確認することにしたい。

会計のような積み重ね型の科目は受講生の進度に大きなばらつきが出がちである。対面授業であれば受講生の様子を見ながら進度や難度などを見ながらそれなりに調整していくことも比較的容易であるが、オンラインではそれがなかなか難しい。そこで今学期は、教師は一定のペースで授業を進めるが、よく理解できなかった人に対してはいくつかの重要なポイントを動画にまとめたものを復習として視聴してもらおうと考えたわけであるが、そのことが「進行速度が適切でなかった」「質問や相談の機会が十分に設けられていなかった」などの不満につながったのではないかと考えている。この点については改善する必要があると感じている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 近現代史
 授業コード 46D10-001
 教員名 柳澤 幾美
 教員コード 101592
 登録人数 41
 回答数 17
 回答率 41.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

近現代史について、日本人移民を通して日米関係を学び、同時に社会史的な視点を身に付けること、歴史を他者化しないことを目標にしていた。毎回課していたリアクション・ペーパーや、論述式の試験の解答を読んだ限りでは、かなりその目標は達成できたと考えられる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

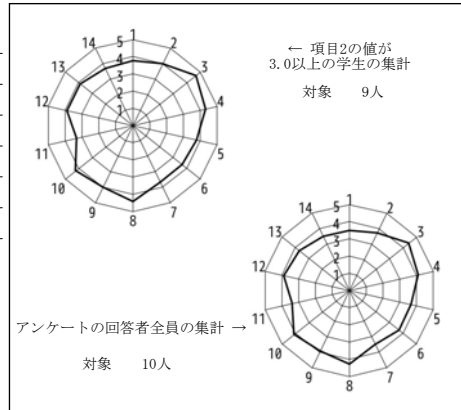
数値データは、ほぼ平均値であった。ただ、開始時間についての項目について、毎回、10分前にはZoomを開始していたにもかかわらず、3をつけていた学生がいたのは疑問が残る。自由記載については、「近現代の日本とアメリカとの関係について、移民の観点で学ぶことができた」、「ビデオを見てより理解が深まった」などの肯定的な意見があった一方、ビデオの音声や映像が見にくかったとの意見もあった。視聴覚教材は効果があると考えられるので、講義と合わせて随時取り入れたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今回は全てZoomによるオンライン授業で、学生の反応を見ることがほとんどできなかった。Zoomにおいても、ディスカッションを試みることができたのではないかと反省している。来年度は、もう少し双方向にて授業を行うことができるよう、工夫をしたい。今後も、真摯に授業に取り組みたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	位相幾何学入門
授業コード	51B10-001
教員名	山本 修身
教員コード	101051
登録人数	30
回答数	10
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



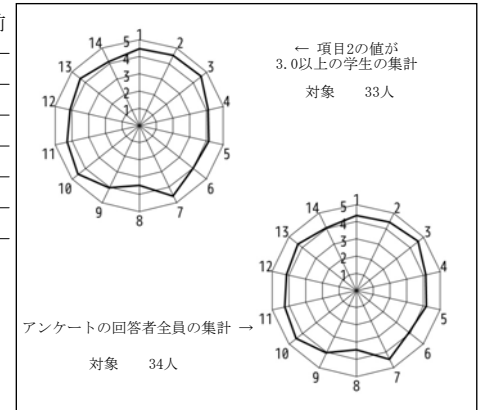
授業評価結果を踏まえた点検・評価

位相幾何学入門は位相幾何の初等的な内容について講義するものであって、それぞれの学生が位相幾何の基本概念についてある程度理解してもらおうということを目指した。第3クオータは完全に遠隔での講義ということになり、この講義がもともと授業中の演習を主体としてやっていたということで、講義室での授業と比べて講義する側も受講する側もやりづらかったのではないかと思う。当初の受講者は40名程度であったが、最終的に登録学生が30名程度、さらに試験を受験した学生は10名程度であった。それぞれの学生によって到達度はまちまちであったが、最後の試験まで受検した学生については概ね基本的な概念を習得できたのではないかと思う。位相幾何の場合、微分積分や線形代数などの科目とことなり、比較的計算がすくなく考える部分や理解しなければいけない部分が多いが、それぞれの学生の力量に応じてしっかりと勉強してくれたと感じている。授業評価アンケートについては回答者数が10名と統計的にはあまり意味のないサンプル数になっているが、概ね順当な結果であったと思う。あと、自由記述回答に「授業の動画を公開してほしい」という意見が書かれているが、今回遠隔授業で示した内容についてはほぼ100%授業サーバへアップロードしており、いつでも閲覧可能であった。

位相幾何学は、どちらかといえば抽象度の高い数学であり、なかなか習得するのが面倒な科目であると思う。今後もこのような数学を教える機会があれば、色々工夫しながらわかりやすい講義を心がけていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語III<G2021生・2019生以前 再履修者用>
授業コード	11B03-013
教員名	遠藤 美加
教員コード	101551
登録人数	40
回答数	34
回答率	85.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、1年次に開始されるフランス語の授業の第3のクォーターにあたり、フランスの日常会話を主な素材にしたテキストを用い、基礎文法を学ぶ。基礎的な文法・会話・読解・作文の対応能力の獲得を目標としている。

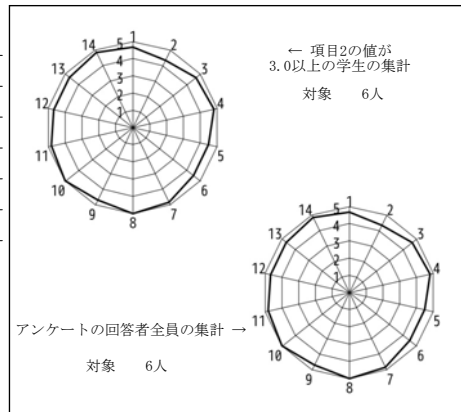
4Qを終えた今振り返れば、履修生のほとんどが授業内容、課題を積極的にこなし、目標達成度は例年より高いと言えることができる。だが、3Qのこのアンケートの時点ではまだ遠隔授業も行っており、通信トラブルや授業での積極性の問題もあって、授業の有効性は不十分であった。項目4, 5, 6, 8, 9, 12において、評価が4の前半であるのは、遠隔、対面、ハイブリッドの混在で、授業の可能性を十分に活かすことができなかつたためだと考えている。4Qではより授業時間を活用できた感触があるが、全体の成績が3Qより4Qの方で上がっていることは、その一つの効果ではないかと思われる。

自由記述では、文化資料の活用を評価するものが複数見られた。課題量については、適切と考えるものと不足を訴えるものがあり、毎年そのバランスは悩ましい。

このアンケートを受けてすでに4Qで改善を試みているが、課題量、テキスト解説の徹底、小テストの増加、発音練習の増加など、来年度も注意していきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IIB1
 授業コード 33A15-001
 教員名 VURPILLOT, Xavier
 教員コード 104503
 登録人数 19
 回答数 6
 回答率 31.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course aimed to continue improved the students understanding of the french language based on what they learned during the quarter 1. The course focused on improving all four skills : listening, reading, speaking and writing.

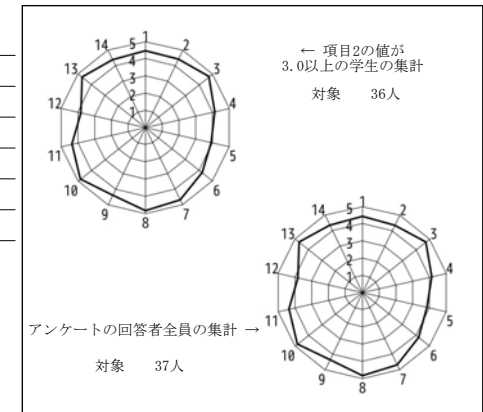
After being divided in groups, the students also had to realise a short video in the format of a debate using all the tools they learned during the quarter.

All the groups managed to do this task quite well. I hoped that those video and theirs grades reflected the fact that the students had a good understanding of the content of the course, thankfully, the survey confirmed that point.

Since it was my first time teaching this course, I wasn' t yet used to the textbook and the pairing with another teacher. Now that I am more familiar with all that, I can start to think about how to explain better the different points we studied during this quarter and rearrange the timing allocated to each activity during the class. For example, I tended to give too much time for writing activities because I checked and corrected each student one by one. This could definitely be shorten, allowing me to give them another activity or time to prepare their final video.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLSスペイン語I
 授業コード 48A21-001
 教員名 APAZA, Pablo
 教員コード 100878
 登録人数 43
 回答数 37
 回答率 86.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

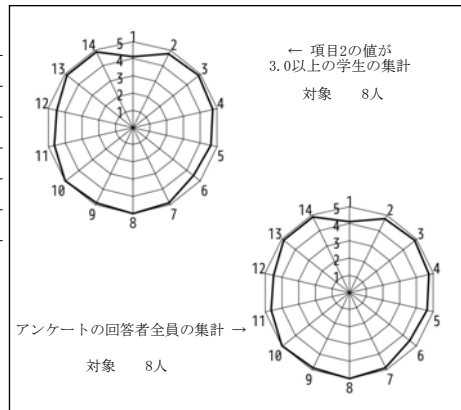
As we can see on the chart, most of the students are satisfied with the learning results, and according to the proposed objectives, these objectives have been achieved efficiently, and 95% of the students fulfilled their homework and class activities, so they learned a lot about the language and culture of the Spanish-speaking countries.

According to the comments of the students on the positive aspects, the students feel satisfied with their learning in pairs, which helps them to learn in a relaxed way, undoubtedly in principle they should have prepared the class and homework to have a good participation, otherwise the students feel that the class was getting too difficult or too fast. Maybe a little more coordination is needed with grammatical aspects, because if a student did not attend the class, or did not understand grammar, the conversation class it becomes difficult for them to follow the conversation speed of the teacher and their peers.

Besides, there are 44 students in the conversation class with hybrid classes, we understand that everyone learned in a different speed in this class which help them share knowledge and help each other too. Finally, for the next course, we will adjust a little more on the grammatical aspect, so that students always have the best possible understanding of grammar beforehand, which may help for some students in the future.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語III<全>1
授業コード 11F03-027
教員名 李 香善
教員コード 103871
登録人数 39
回答数 8
回答率 20.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

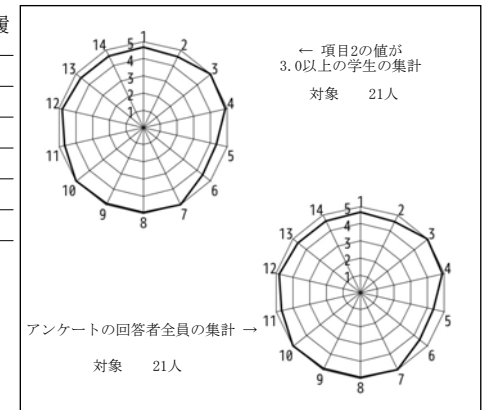


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①ピンインをしっかりと身につけ、正確に音読が出来、初級レベルの文法を理解したうえで、簡単な会話ができることを目標としています。受講生の対多数がその目標に近づいていると思います。特に中国語の学習に強い意欲を持っている7名ほどの学生におきましては、その頑張る姿勢と習得結果に、担当教員として毎回授業時に驚きと喜びを感じました。各課の発音チェックを一人ずつ行いますが、受講生のほとんどが正確に発音できるようになり、2名ほどもう少し練習が必要かと思えます。文法習得の確認として日本語の短文を中国語に訳す練習を行い、授業中一人ずつ当てられますが、授業中に、口頭で発表する際はみんな良く出ています。しかし、定期試験の答案を見たら、間違いない大変立派な答案もあれば、よく書けていない答案もあったので、もっと書く練習の必要性を感じました。②1、毎回の授業開始時に数字を引用して楽しく会話するタイムを持ちますが、これは受講生が一番集中して全員一緒に楽しめた時間だったと思います。この数字遊びタイムは今後も取り入れていきたいと思えます。2、毎回前回学習した単語と文法に触れてから新しい内容の授業に入りますが、これも良かったと思えますので、今後も継続していきたいと思えます。3、5限目の授業であり、再履修生の多いクラスなので、学生がいかに中国語に興味を落とさず、しっかり出席するよう励ますことも大事なので、単に授業をするだけでなく、学生とともに中国語の学習を楽しむ気持ちで授業に臨みたいと思えます。4、正確な発音の確認とともに、単語、短文の書く練習も繰り返し行うことで、習得した知識をしっかりと定着させる工夫を授業中に出来るだけたくさん取り入れたいと思えます。③1、ピンインだけで表記する練習をもっと行うことで、ピンイン知識のしっかりした定着を図りたいと思えます。2、習得した内容の確認として、2週に一度プリントを用意し、ピンイン、単語、文法応用の練習をしたいと思えます。3、毎回各学生に必ず1、2回発音する機会を与えることで、正確に発音できるよう指導を行いたいと思えます。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語III<G2021生・2019生以前再履修者用>
授業コード 11F03-031
教員名 中野 麻里子
教員コード 102125
登録人数 41
回答数 21
回答率 51.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

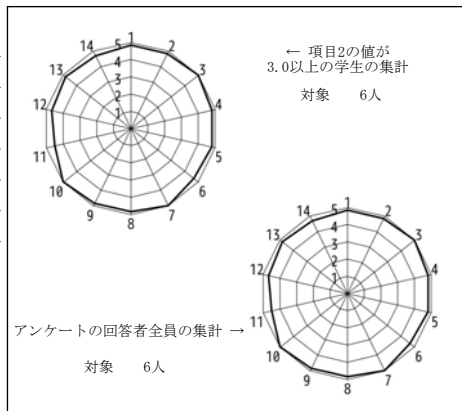


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初設定していた目標と到達の程度については、コロナで大変な状況の中で臨機応変に変更を余儀なくされたため、この状況下でなければ進めたところまでは進めてはいませんが、この状況下で進もうと予定変更した到達点までは達している。体調が悪い場合は自宅で自分で予習復習をしなければならず、学生の方も大変だったと思うが、単語をしっかりと覚え、授業の準備もしっかりとして頑張っていたと感じる。②この状況下で会話練習はたくさん取り入れるわけにもいかず、例年より少なかった中、学生たちが積極的に準備をしてきていたおかげで、少ない時間で質の高い練習ができていた。また、間違っているところ、わからないところを、学生同士指摘し合い、教え合いながらやっているのも、学習効果を高めていたと思う。③一部の学生たちが進度が速いと感じるのは、やはり板書と学生たちの距離もあり、文字が見にくくてうまく板書がとれなかったり、文字を大きく書かなければいけないために板書の順番が前後したりしたのもあるかもしれない。また、必要な復習をもう少ししっかりしてから進んだ方がよかったのかもしれない。ただ進度の問題だけでなく、他の要素に原因があるかもしれないので、そのあたりも学生たちと確認しながら次回は進めて行きたい。リスニングをもっと取り入れてほしいというのはこちらとしてもそうしたいところだが、日本人教員に習うメリットは文法事項をしっかりと学べることだと考えるので、リスニングまでいれているとさすがに時間が足りない。何かいい案はないか、色々試しながら進めて行きたいと思う。色々な意見はとてもありがたい。学生たちがこちらに意見を伝えやすい環境を作っていきたいと思う。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語作文B
授業コード	35C11-001
教員名	陳 志平
教員コード	049346
登録人数	7
回答数	6
回答率	85.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

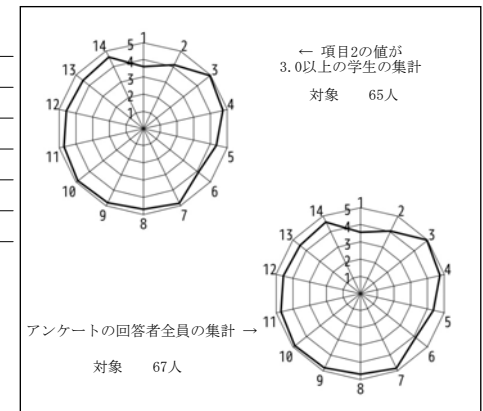
「授業評価集計」によれば、設問3（授業時間）と設問7（誠実さ・真剣さ）のどちらも5.00となっており、これらは教員の果たすべき基本責務であるが、授業姿勢が評価されて率直に嬉しい。また、授業全体に関する設問4（授業の構成や進行速度）、授業運営に関する設問9（理解度に配慮）、いずれも4.83であり、そして全体的な評価（設問13～14）の平均値が4.75などの数値データ及びレーダーチャートを見る限り、開講当初の目標は概ね達成されたと思われる。

この科目を履修する学生の実力や学習意欲のバラツキが大きいという傾向が見られるが、今学期はさらに中国語を母国語とする留学生も2名受講されているため、一人でも多くの学生にとって新しい知識を得て達成感が味わえるような授業を提供できるように、課題選びや質問・相談を含めた指導方法などに工夫を凝らした。その努力が結果に繋がって少しほっとした。

次学期からも学生に寄り添って、実力に即したバランス調整や学習意欲の喚起を課題とし、更なる授業改善への模索を行い、指導の向上を図る努力を重ねて行きたいと考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[H・F]3
授業コード	10A51-004
教員名	暮林 響
教員コード	102624
登録人数	150
回答数	67
回答率	44.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

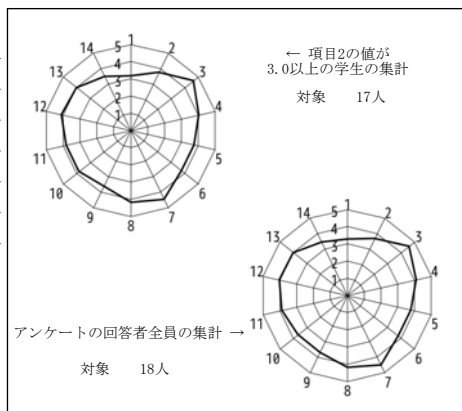


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① かなり忠実に設定目標に到達できたと感じています。
- ② 評価のよびかけが締め切りの5時間前になってしまったので、三分の一程度の回答率ですが、努力してきたことに対する正当な評価をいただけていると感じています。
- ③ 正確な文献提示ができなかった点がひとつあったので、話すときに、その出典について確実に紹介できるよう準備したいと思いました。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 思想史に学ぶ人間の尊厳1
授業コード 10D03-001
教員名 浦 英雄
教員コード 101166
登録人数 55
回答数 18
回答率 32.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

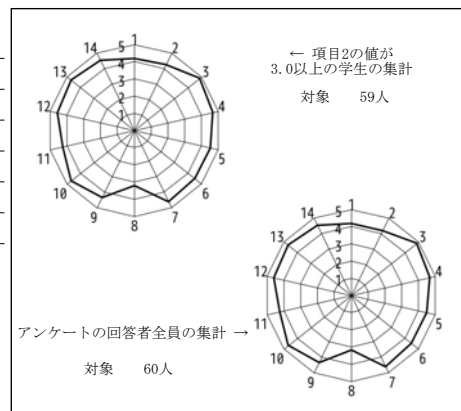


授業評価結果を踏まえた点検・評価

履修前から授業の内容に興味を持ってもらうためには、シラバスを魅力的なものに改めねばならない。私の講義は予習も復習も必要としないが、講義中にこれでもか、これでもかと示した無数の文献は、本当は一冊でも多く目を通してもらった方が良いので、学生自身が実際に本を手取るように仕向けなければならない。講義期間中に課題が欲しいという熱心な学生も居るので、文献を読ませるような課題を検討しよう。限られた時間内に、新鮮かつ深い内容を伝えたかったので、世に広まっている有り触れた意見は割愛した。そのため、私の主張が偏っているとの印象を持ったようだが、それこそこちらの目指したもので、学生自身が考える切っ掛けを与えるのに成功したから、講義の目標は達成出来たと言える。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 性と生命における人間の尊厳5
授業コード 10D06-005
教員名 三谷 竜彦
教員コード 102441
登録人数 104
回答数 60
回答率 57.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

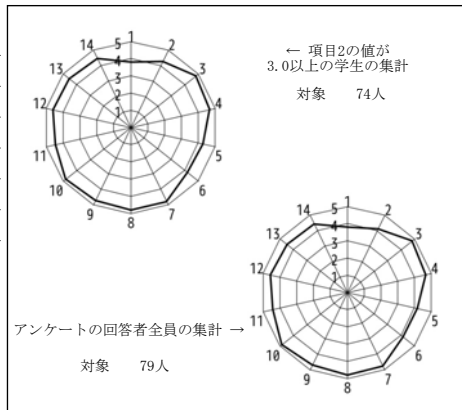


授業評価結果を踏まえた点検・評価

②受講生数は104名で、回答者数は60名（回答率58%）でした。設問3～14の平均値は4.45で、「人間の尊厳」科目全体の平均（4.46）とほぼ同じでした。いつも個人的に最も重要視している設問13（「…新しい知識…」）および設問14（「全体として…」）の数字は、4.68および4.52で、「人間の尊厳」科目全体の平均（4.45および4.35）を上回りました。これらのことから、①開講当初の目標はおおむね達成されており、したがって③今後も大枠的には（基本的な路線としては）今の授業の内容・方法を継続していった方がいいのと思っています。ただし、学生からの改善要望として、動画の音声の聞き取りにくさという点が、多く指摘されていました。それは、設問1～14の中でも設問8（…音声機器の音…）だけが取り立てて低かった（3.18）ことにも表れています。この授業方式になってから毎度指摘されている点ですが、私のDVDディスクが南山大学のパソコンの動画プレイヤーと対応していないため（稀にディスクによっては対応している場合もあるのですが）、現状では、パソコンから直接的に動画を流すことができません。どうかご理解・ご了承いただければと思います。ただし、今の感染状況からすると、来年度は対面で授業ができるかなと、少し期待をしていますが。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	音楽A2
授業コード	12A07-002
教員名	吉田 文
教員コード	102447
登録人数	162
回答数	79
回答率	48.8%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

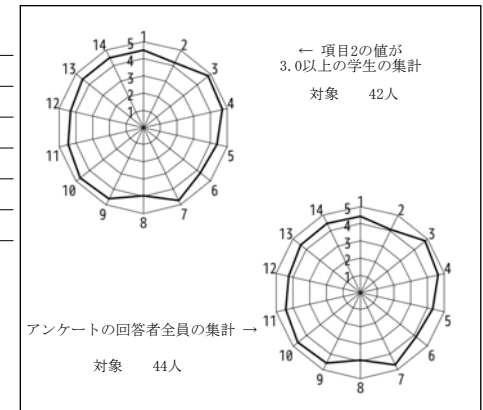


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①オンラインであった為、学生の個人差は多様にあると考えるが、ミサ曲をただ紹介するだけではなく作品の成立背景や歴史的背景、他ジャンルの美術等との関連性及び学生が日常生活で無意識にこれらの音楽と接している場面を解説することにより、それぞれの作品に関する理解度は深まったと考える。実際に儀式として行われているミサを紹介しながら講義を進めたり、作曲家について紹介することにより、宗教音楽と精神文化の関連性について理解が深まっているという目標に到達できたと思う。学生の評価では5,6の設問で比較的低い値が出ているが、毎回行ったミニテストや期末レポートを参照する限り、当初設定していた到達目標には充分到達している力がついていることが判る。今後とも到達目標をさらに明確に提示し、学生に自信を持たせる声掛けを心がけたい。
- ②一般教養科目でいかに学生の興味を促し、主体的な学びへとつなげることができるか工夫をした。予想以上に多くの学生が肯定的に授業を受け止め、主体的に参加し、興味を持って学んでいたことが読み取れた。これまでに大講義室で行った講義よりも、チャット機能を活用することにより学生とのコミュニケーションが取れた結果が表れた。また、WebClassのメール機能を通して個々の学生の必要に応じたサポートを行うことができた。
- ③今期の授業内容は来年度の内容の基礎とできることが判明した。来年度の授業形態にもよるが、オンライン講義で培った経験を大講義室での講義にも反映できるようにしたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	音楽B2
授業コード	12A08-002
教員名	小沢 優子
教員コード	101168
登録人数	134
回答数	44
回答率	32.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

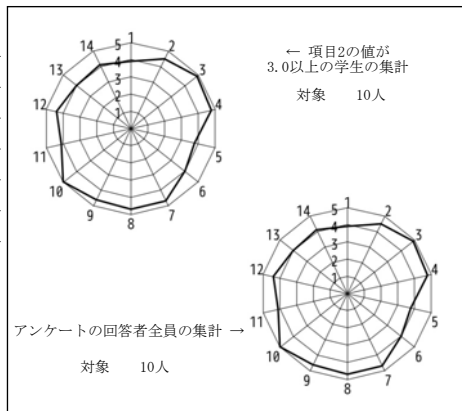


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回もオンライン授業だった。アンケートの結果は設問1~14の平均が4.41。設問3~14の平均が4.44。第2Qの「音楽B」のアンケートとほぼ同じ数値なので、授業の質は大体保たれていたのだと思うが、設問8の声や音の聞き取りやすさについては数値が下がっており、何が原因なのだろうと考えているところである。自由記述では、Zoomで流したCDの曲の音質の悪さについての指摘や改善についてのアドバイスがあり、パソコン操作にいまだに慣れていないことを申し訳なく思っている。授業の良かった点としては、「専門的な話を理解しやすいように丁寧に教えてくれた」「音楽の理解を深めることができた」「音楽を聴くことが授業内容を理解するのに役立って面白かった」などが挙げられており、開講当初掲げていた目標はある程度達成できたのではないかと考えている。コロナウィルスの収束の見通しがつかない中、今後の授業形態がどのようなのかはわからないが、授業内容ややり方は今までのものを継続させながら、オンライン授業で新たに気付いたことを糧に来期の授業に取り組んでいきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本史B1
授業コード	12B04-001
教員名	関口 哲矢
教員コード	103639
登録人数	20
回答数	10
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

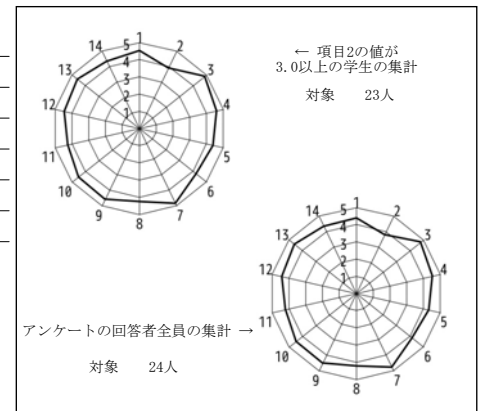
この講義では、日本歴史に関する事項と、関連する史料の解説をセットで行った。①基礎的な歴史や史料の知識の定着、②歴史知識の表現及び史料の解読技術の定着、③定着させた知識や技能をもとにした思考力、を学習の目標に設定している。ただアンケート結果とみると、こうした目標の徹底や学生の学習意欲に課題があることが浮き彫りになった。なぜ歴史を学ぶのかという点を、学生とともに考えていく工夫は求められていると感じる。

説明が丁寧であるとの感想があった。学生からいただいた感想や質問を講義冒頭に1つずつ紹介し解説している。史料の解説では、学生に考えてもらうよう投げかけを行ったり、歴史的事項の説明などをわかりやすく解説することに心がけている点が評価いただけたと考えている。予習・復習に関する課題については、何よりも取り組んでもらうことが第一にあるので、取り組まずに済んでしまうことのないように配慮している。全体的にみると、講義の内容と史料解説を関連づけ、かつ学生の考えも交えて進めることができたのではないかと感じる。

新型コロナの状況にもよるが、来期は学生同士の話しあいや討論を積極的に取り入れ、学生に主体的に考える機会を提供し、歴史をさらに深く感じてもらうようにしたい。今期、評価してもらっている手厚い解説や講義進行も継続させる。学生個々の感想や質問事項が他の学生と共有され、知識の底上げがはかれるように取り組んでいく。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	西洋史B
授業コード	12B08-001
教員名	岡地 稔
教員コード	015206
登録人数	49
回答数	24
回答率	49.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

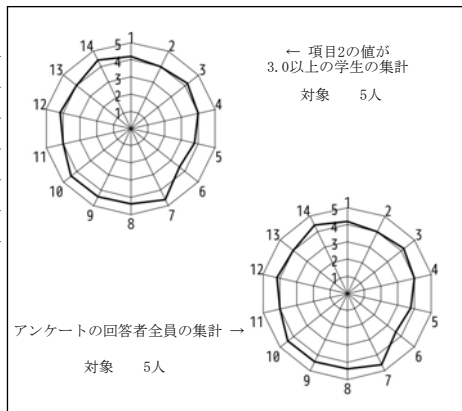


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は全学向けの共通教育科目で、受講学生は全学年に及ぶ。授業は通常の見学形式による講義形式で行われる予定であったが、コロナ禍による緊急事態宣言を受け、すべてオンラインで行われた。授業全体で見ると、授業評価項目(3~14)の平均値が4.44で、まずは及第点と思われる。開講当初に設定していた到達目標は「中世ヨーロッパにおける政治・社会・経済のありようを理解することをおして、歴史的社会的な一つとしての中世ヨーロッパを理解できるようになる」であったが、到達目標に関する質問項目5「この授業の到達目標を理解することができましたか」および6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」が、それぞれ4.33、4.17、また質問13「この授業を通して新しい知識を得たり、理解が深まったと感じますか」が4.58であり、当初の目標をほぼ達成できたと思われる。自由記述でも、質問15「良かった点、評価できることは何ですか」で、「先生の人柄と、学生に分かりやすいよう噛み砕いて説明したり、学生に身近な例えを用いて話してくれた点」「説明が丁寧で、学生が理解できているか要所で確認して下さった」「いい意味で自分の高校までの世界史の学習による先入観を壊されたように感じる。話がひと段落した時に適宜生徒側に理解状況を確認している教授の姿勢も好印象だった」「授業の内容のまとめが要所で入っており、理解しやすいという点」等々、望外の評価を得た。最後に、質問7「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることはできましたか」の評価が4.75であった。今後の励みとしたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人文地理学2
授業コード	12B09-002
教員名	柴田 陽一
教員コード	104342
登録人数	25
回答数	5
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

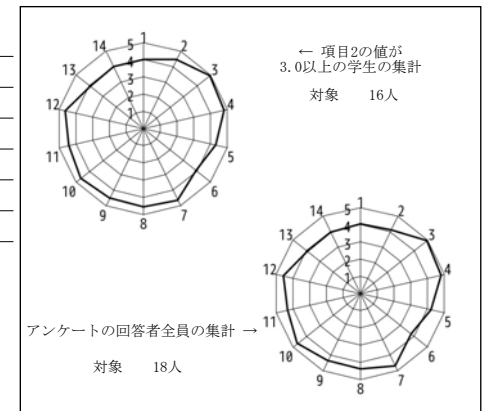


授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケート回答数が少ないため、結果をどのように理解すればよいのか迷うところがないわけではない。ただ、今回は項目番号5「この授業の到達目標を理解することができましたか。」、同6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」の評価（平均値）が、他の項目と比べて低かった。前年度に行った同じ授業に対する評価を見返してみると、同項目は低く評価されていたわけではなかった。なので、なぜ今回こういう評価になったのか現時点ではよく分からずにいる。コロナの影響で前年度に続き今年度もオンライン授業となり、一度も大学に行くことがないまま終わってしまった。考えてみれば、前年度から南山で授業を受け持つようになった私は、いまだにキャンパスに入ったこともなければ、学生と接したこともない。授業をしている実感があるようでない、というのが偽らざるところだ。来年度は、今年度のアンケート結果を受けて、授業内容や到達目標を見直したり、授業参加を促したりすることはもちろんだが、対面で授業を行いたいと強く思う。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	法学A1
授業コード	12C01-001
教員名	長尾 良子
教員コード	102081
登録人数	30
回答数	18
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



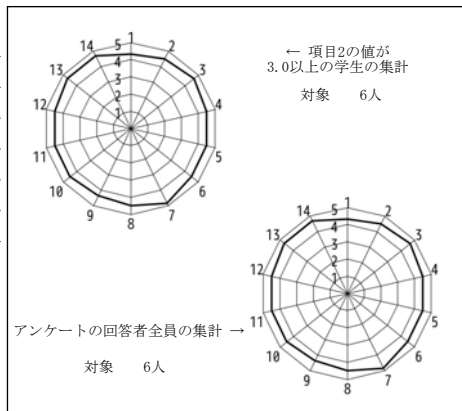
授業評価結果を踏まえた点検・評価

2021年度のQ3の「法学」は、コロナ対応で急遽授業形態が対面からZoomに変更となりました。「法学」の授業は共通教育科目で、法の基本構造、裁判の仕組み、民法・刑法の基本を理解するという授業目標はおおむね達成されたと思われます。授業評価の設問項目3、4の平均は各種集計値を上まわっていますが、他は平均をやや下まわりました。これは、授業が分かりやすいという回答と一部少し難しいとの回答が並存したためと考えられます。設問項目15の自由記述回答では、良かった点として、ブレイクアウトルームでのグループ・ディスカッション(9名)、関連サイトの調べ学習、授業ペース、質疑応答等(各1名)計13名(/18名中)の回答がありました。最終授業回の記名式アンケート(24名)でも、楽しかった、有意義だった、これからももっと学んでいきたい等々の回答がありました。昨年度のグループワークを増やして欲しいとの要望を实践したことが反映された結果となりました。他方設問項目16の改善点としては、教科書に関する指摘(2名)等が4名、特になしとの回答が7名でした。目標提示の仕方や授業時の説明内容、音声など改善できる点については改善していきたいと思えます。

社会全体で未知の状況に突入し、試行錯誤のただ中ですが、「法学」の授業全体の満足度と理解度を高める工夫と努力を、一つ一つの改善を重ねて続けていきたいと考えます。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治学B1
授業コード	12C05-001
教員名	大園 誠
教員コード	102910
登録人数	26
回答数	6
回答率	23.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

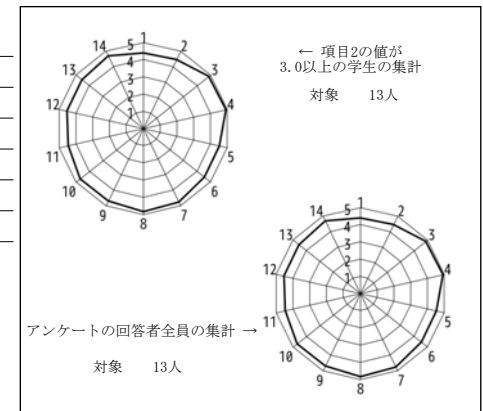


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①：この授業の内容は、当初「戦前日本政治＋戦後日本政治＋国際平和機構」という3つの内容をすべて盛り込もうとして無理が生じていたが、昨年度からはあえて「戦後日本政治史」に限定したことで、授業全体の内容と対象が明確になった。この方針は今後もぜひ継続したい。②：全項目の平均値は4.55であり、概ね肯定的評価が得られたと思う。自由記述では、この授業の良かった点として「日本の戦後政治を詳しく知ることができ現代の日本政治にも興味を持つことが出来た」との指摘があり、逆に、授業を受講して改善したほうがよいと感じた点として「やや課題が多いような気がしました」との指摘があった。授業の内容に興味をもってもらえたことは良かったが、受講生の中には課題を「負担」に感じている者もいたようである。その課題とは、(1)毎週必ず「ニュース・コメント」と「授業についての「問い」の回答」の2つを提出、(2)前半と後半のまとめとして2回の確認問題を提出、以上である。いずれも重要であると考えているので、今後も継続する予定だが、その量については再考してみたい。③：来年度はいよいよ「戦後政治史」の範囲が1945年から2022年までの「77年」と長期になる。長い期間にわたる「政治の歴史」をどのように取り上げ、分析するかについては、これまで以上に工夫を凝らしてみたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	物理学B
授業コード	12D02-001
教員名	本村 扇仁
教員コード	102685
登録人数	26
回答数	13
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

説問14の数値から、全体としては授業目標に近づくことができたものと考えられる。シラバスに「高校で物理を履修している必要はない。初めて履修するものとして授業を行う。」としたことから、授業で取り上げた物理学の知識については初歩から紹介し学習する場面を多くとった。このような展開について、説問4、9の数値から、概ね成功であったと考えられる。オンライン授業という側面では、説問8の数値から、音声が届くという点は少なくともクリアできたと考えられる。映像資料については、実感を伴った理解につながるという点から要所で取り入れる展開を今後も継続したいと考える。ただしオンライン授業の場合は、字幕の併用、また分割して視聴するなど次善の策を今後も併用したい。毎回提出の課題の配点に関してコメントがあったが、筋道立ててまとめることを重視するという立場から、期末テストを行わず課題のみという状況下で、意欲的に取り組めるよう課題の配点などを再考したい。また興味があった点についてどのように学習を深められるかをより明確にするという点に関しては、参考文献の紹介、資料の提示などに常に工夫を加えていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	化学2
授業コード	12D05-002
教員名	沢邊 恭一
教員コード	102686
登録人数	5
回答数	3
回答率	60.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度

この講義の目標は、「身の回りの物質」「身の回りの現象」を化学的な視点から観察し理解できるようになることである。講義では、その目標達成のための基礎知識と化学的思考法を説明する。そのため、講義最終日には学生に「身の回りにある化学」についてのプレゼンテーション発表をさせ、そこで自発的な化学的思考の機会を設けている。発表した内容から、学生達に講義の目標である化学的視点から身の回りの製品を観察するという経験をさせることができたといえる。

②数値データおよび自由記述等をふまえた総合的な自己点検

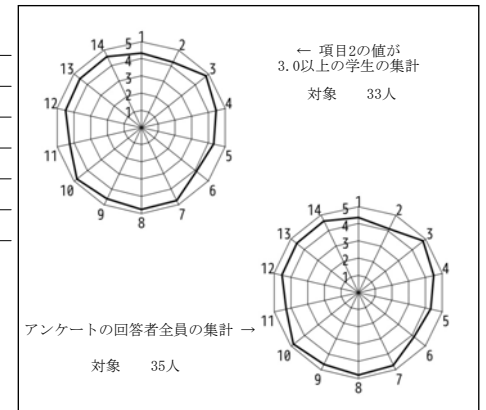
「オンラインでも双方向のやり取りや課題の取り組み方などで参加感が得られる内容だった。」「スライドが非常に丁寧に作られていた。非常にわかりやすい授業であった。」との意見から、学生の評価は良かったと言える。

③改善点、今後の抱負など

今回は、各講義での最後の確認テストで一人一人に質問し、答を全員で共有するとうことをした。これは、好評だったようなので少人数であれば、そのまま続けることとする。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地球科学A2
授業コード	12D06-002
教員名	三野 義尚
教員コード	102236
登録人数	49
回答数	35
回答率	71.4%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

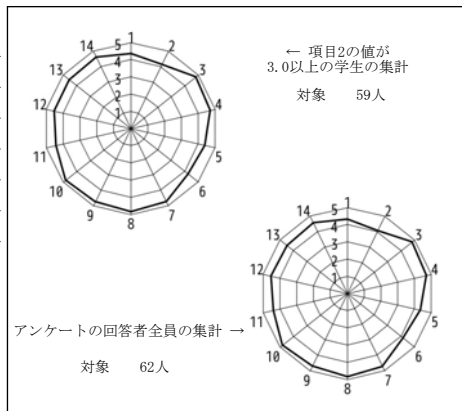


授業評価結果を踏まえた点検・評価

海洋学を通して地球環境問題の理解を深めることを目標とした。物理・化学・生物分野の基礎知識から最新の観測技術まで幅広い内容を扱い、最終的に地球環境に対する気候変化や温暖化、人間活動の影響について科学的に解説した。地球規模の大きなスケールの現象を説明するため、講義では映像資料を多用した。また授業で得た知識をアウトプットする機会として小テスト（ミニレポート）を計11回実施した。項目3-14の平均値は4.56であり、全開講科目・基盤科目の平均を上回った。相対的にスコアが低かったのは、設問#5、6、11だった。到達目標の理解（#5）はQ1講義時のスコアとあまり変わらなかったが、目標への実感（#6）は明らかに下がっていた。特定の原因は思い当たらないが、小テスト以外にも習得した知識をアウトプットできる場を授業中に設けたいと思う。またこれが学習意欲の向上（#11）につながるよう工夫したい。設問#9は比較的高いスコアであり、これは設問#15の回答にもあるように、映像資料・講義・小テストを組み合わせるスタイルが学生さんに受け入れられたのだと思う。新知識の修得と理解（#13）と満足度（#14）のスコアも高かったのも、この形式を引き続き活用していく予定である。講義資料はスライドを事前にDL配布していたが、実際に授業で使用したスライドと一部異なるケースがあったため、その部分を改善点（#16の回答）として数名に指摘されたので、対応したいと考えている。あと、早口で説明する傾向があるようなので、今以上にペース配分にも配慮したい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地球科学B1
授業コード	12D07-001
教員名	藤波 初木
教員コード	102077
登録人数	148
回答数	62
回答率	41.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

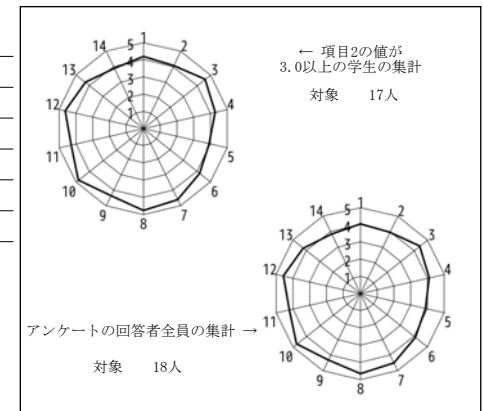


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度も昨年度に引き続き、コロナ禍のためzoomによるリモート講義となった。開講当初に設定していた授業目標はほぼ達成したと考えている。学生評価では、この授業全般に対し、良好な評価を得た。基本的に対面授業でも全てパワーポイントを用いた授業のため、zoomの授業とは相性が良いものと考えている。アンケートの任意解答でも「授業資料がわかりやすく、丁寧な説明で理解がしやすい」との回答を多く得た。今年度は、以下のことに注意して授業を行った。教養科目の自主的な予習・復習は難しいと思われるが、授業の中で復習ができるように工夫した。授業資料はなるべく難しい数式を使わず、理系の専門用語の使用も最小限に止め、身近な気象現象から地球規模の環境問題の成因をできるだけ論理的に追いかけるように努力した。授業が行われる週に観測された天気の変化や異常気象などに関する説明を、動画や天気図などを用いて解説し、授業の内容がどのように気象・気候の理解に結びつくのかがわかるように資料を作成した。また、私のフィールド(海外)の観測風景などの映像も増やし、研究者が何を行っているか等も授業内容に関連づけて話題提供した。これらの点は自由形式のアンケート結果から好評であった。今年度から1コマの授業時間が長くなった。これに伴い、授業の最初に授業に関連する様々なトピックを導入して話すようにした。しかし、それに熱が入りすぎ、授業の方がやや駆け足になる授業があった。これはアンケートでも指摘されている。来年度はうまくバランスがとれるように注意したい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地球科学B3
授業コード	12D07-003
教員名	古澤 文江
教員コード	103906
登録人数	79
回答数	18
回答率	22.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

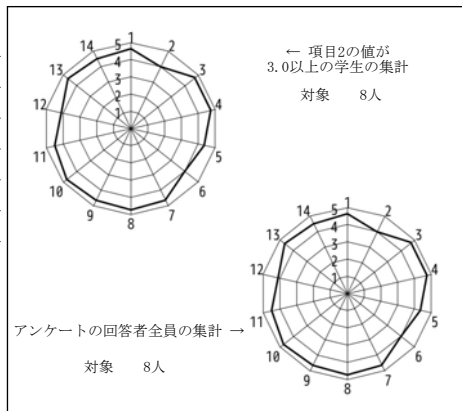


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①1つ目「熱や富者の基礎物理の習得」については、小テストの成績が70点以上80点未満の学生が最も多く、概ね理解してもらえたと考えられる。しかし60点未満の学生も少なからずいたので、より分かりやすい説明を心掛ける。また、分からない箇所を把握する努力をする。
- 2つ目「応用例の理解」は、測器をしっかりと理解した上で、その観測により得られた図を正確に読み取る事で、そこにある物理や自然現象を理解できたと思う。
- 3つ目「身の回りの現象について物理的に考察する能力を養う」という目標については、身の回りの現象や先端科学・技術に対し、自ら疑問を持ち、とても多くの質問をすることができたので、達成しつつあると考える。今後もこの姿勢を続けて欲しい。
- ②数値データが昨年と比べほとんどの項目で向上し、資料も音声も特に問題なくオンライン講義をすることができたとの記述があり、安心した。昨年度同様、当日意見や疑問を電子的に受け付け、それに丁寧に答えていくことで、学生達との距離を縮め、興味を失わないような努力を心掛けた。生徒達も、たくさんの質問をしてくれたので、とても楽しく、良かったと思う。
- ③引き続き、学生達とのコミュニケーションを心掛け、臨機応変に対応していきたい。授業時間変更に伴い構成を少し変えたため、たまに時間を超えてしまった事があったので今後注意する。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理学A1
授業コード	12E03-001
教員名	小澤 良
教員コード	103091
登録人数	27
回答数	8
回答率	29.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

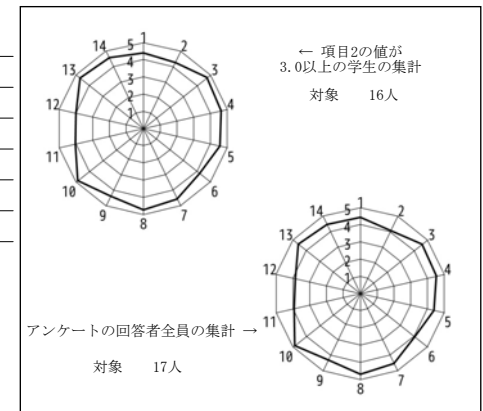


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①：試験成績も併せると、目標に達することができたと考えられる。ただし、設問5、6における学生の評価は4.0以上ではあったが試験の解答内容に比較すると低い印象があり、主観的評価と客観的評価にずれが生じているようである。より学生自身が到達目標に近づいていることを実感できるような機会を多く設けたい。
- ②：すべての項目において評価が4.0であることから、一定の成果は得られたと考える。良かった点として、「該当事象に関する具体的な例」「詳しい説明」が挙げられており、このことが評価につながったと考えられる。しかし、元々受講生も比較的少ないため回答者も多くない。この評価は暫定的なものと考えたい。
- ③：スライドの切り替えが早いとの指摘があった。以降は、学生の様子を確認しながら講義を進めることを心掛ける。また、定時を超えることはなかったが、次の講義に参加するために、最後の数分に参加できない学生もいた。このことは、良かった点として挙げられる「詳しい説明」などと相反してしまうが、より時間に余裕をもたせることも考えたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	異文化との接触1
授業コード	13A02-001
教員名	チヨ スルソップ
教員コード	103282
登録人数	55
回答数	17
回答率	30.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

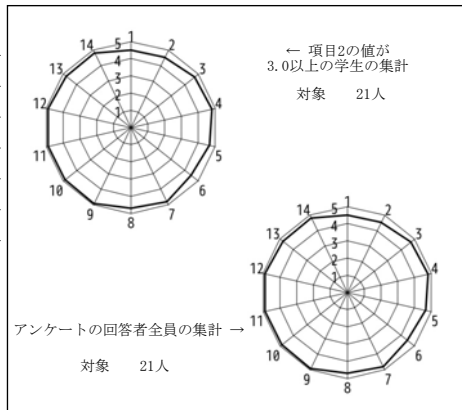


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
「(1) 韓国・朝鮮社会の衣食住や文字、生活環境などの文化要素の詳細をみていくことで、韓民族独自の社会や伝統文化の本質を理解する。
(2) 韓国現代社会の動向、半島を生きる人々の生活相を具体的に考察することで、朝鮮半島の昨今の情勢や今後の発展の可能性を把握する。」
以上が当初設定された到達目標である。目標達成のための核心に触れる情報が提供できるよう努めた。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
「(1) 多角的なテーマの選び方が良かった。
(2) 授業スライド内に提示される資料が豊富だった
(3) 学部によりがたく様々な学生が受講していた。それには韓国ドラマや音楽の爆発的な流行も関わっていると思う。そんな中で韓国・朝鮮について学べる講義がある事は、もっと多くの学生に注目されるべきだと思った。」
以上のような学生たちの自己記述欄のコメントが嬉しかった。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
当該科目の担当は今学期が最後となる。この授業が「担当する先生・受講する学生」いずれにとっても有意義で楽しい授業であり続けることを願う。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 芸術をめぐって1
授業コード 13A04-001
教員名 梶田 美香
教員コード 103589
登録人数 83
回答数 21
回答率 25.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

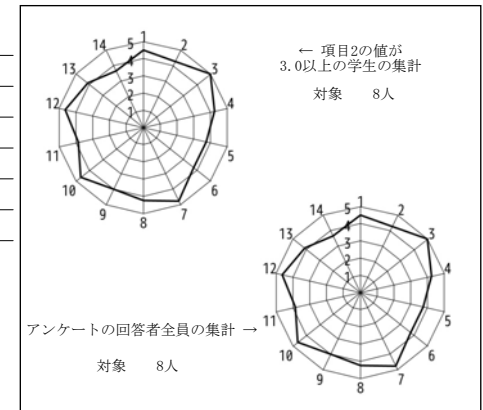


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 芸術と他分野との関わりを実社会において見出すことのできる人物像を描いて授業計画を立て、実施してきた。履修者は多様な学部学生であり、実際に、同じテーマを自分の専門分野や自らの経験に落とし込みながら授業を受けていたように、フィードバックシートから受け取ることができた。多様な考え方を尊重するために、こちら側の考え方を提示する際には、断定的にならないように留意した。
- ② 概ね、授業に対して好評価をいただいたと受け取っている。
- ③ 話し方のトーンが同じで抑揚がないことを指摘された。重要な部分が十分に伝わらないと講義の意義が低くなるので、オンライン授業の際には特に気をつけなくてはならないと感じている。資料等、コロナ禍での影響による研究を反映されたものに、随時、更新していきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生命と法律問題2
授業コード 13C02-002
教員名 三枝 有
教員コード 100468
登録人数 18
回答数 8
回答率 44.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

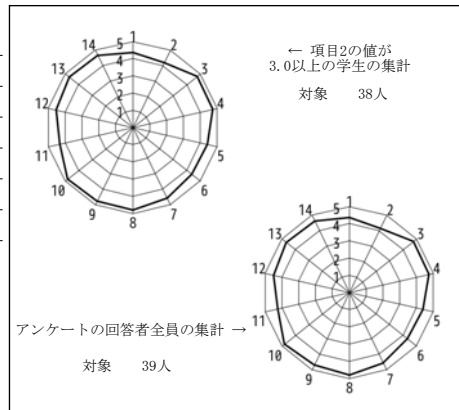


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- コロナの影響下、遠隔と対面を交えたハイブリッド講義のため、受講された学生諸君には誠にご苦勞様でした。
- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について・・・「この授業の到達目標を理解することができましたか。」と「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」については、3.75と予想を下回った。対面と遠隔のハイブリッド方式のためどちらの講義方式が反映された数値が不明であり評価が不十分にしかできないのが残念である。また、自由記述ではかなり理解度を深められたという記述があり、この記述の方々がいずれの講義方式かが判明すれば、対面・遠隔の講義の功罪も明白となろう。
 - ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価・・・総合的に見た場合、特に自由記述に反映されている道徳的観点の解説は、従前のデータから法的観点の欠如をいかに補うかについての質問から説明を増加させたものであり、さらに今回の死刑問題では哲学観点から法制度を検討する視点を多く入れた。このような視点は、法学の原点であるが、導入されている法律科目はほとんどないことから敢えて導入し、対面の受講者に意見を聞いており、思考性を高めるうえではうまくいったと評価している。今後、導入方式、導入時間などさらなる改善を図りたい。
 - ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など・・・②で記述したように、多面的思考性を高めた結果として、到達目標が高くなり、学生の達成感が十分には得られなかったことについては、対面講義のようにその場で学生の反応を把握しながら解説を加えていくことができる場合には、かなり改善が見込めるが、遠隔の場合には、この点が難しいことからさらなる工夫を図りたい。
- 最後まで受講していただいた学生諸君には、心より感謝申し上げます。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会の諸相7
授業コード 13C04-007
教員名 松野 正太郎
教員コード 104285
登録人数 129
回答数 39
回答率 30.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

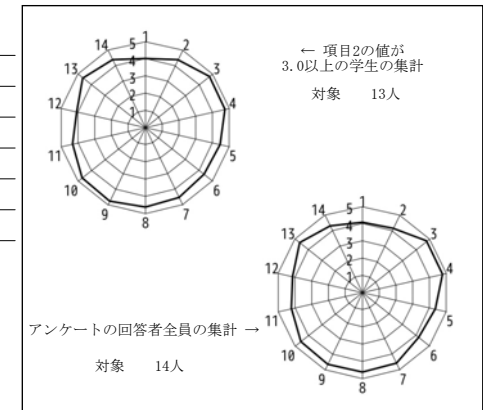


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度もコロナ禍の影響を受け、すべてリモートによる開講となった。当初の目標・到達の程度について、概ね達成されたと考えられる。環境問題やSDGsを扱う講義であるので、社会の幅広い視野や知識が必要になるが、視野を広げられたことなどについて高い評価を得た。また、受講生の満足度や理解度も概ね高いものになったと考えられる。この講義では、できるだけ資料に穴埋めを作り、書き込む作業をさせているが、このことが学生の理解度の向上に役立っているようだ。また、zoomのチャット機能を使って質問に随時答えたりしたのも効果的であった。次年度は対面になるかどうかは不明であるが、可能であれば、SDGsの取組に関するDVDなども取り入れて、より理解度の向上に努めたいと考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 知識の探求3
授業コード 13E03-003
教員名 牛島 謙
教員コード 042549
登録人数 52
回答数 14
回答率 26.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

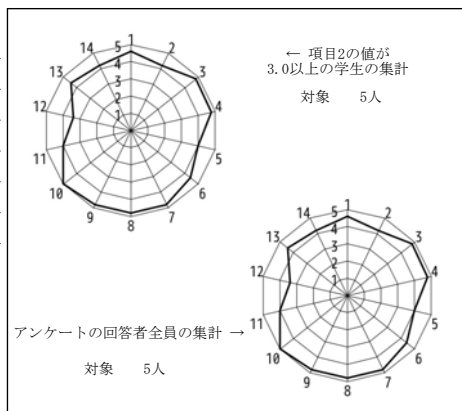


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①目標と到達の程度について。
オンラインで授業を行ったが、授業の目標は変更しなかった。インターネットの基底には明確な設計思想（デザイン）がある。その思想を理解することにチャレンジさせるのがこの授業の目標である。その目標を達成するために、自前で構築したデータベースから各回の教材を作成した。
- ②総合的な自己点検・評価。
授業のテーマが思想系であるだけに、事前の興味や授業の満足度のポイントが低い。全体としての評価は学際科目の平均を下回っている。自宅からオンライン授業を行ったが、教室での授業と遜色がない内容にすることを第一にした。授業の質はある程度学生に評価されていると思われる。授業の理解度を高めるために、オンライン授業で画面共有する教材は、事前に配布した教材に加筆したものを別途用意し、ポイントになる項目を自筆で書き取らせるようにした。アンケートの結果から、この工夫は学生に評価されたと判断できる。
前回の授業評価では、ここ数年間とは趣きが異なっているという戸惑いをのべたが、今回は例年並みに戻ったと思われる。
- ③改善点、今後の抱負、方針など
やや難しめの教材を使いながらその意味を授業中に読解するという形式で、授業を行っていきたい。学生の理解度をフィードバックしながら、解説のレベルを調整する必要がある。また、授業への満足度が低いので上げる努力はするが、思想を学ぶという場を共有することを第一に考えたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人間と機械3
授業コード	13E04-003
教員名	大野 波矢登
教員コード	100625
登録人数	10
回答数	5
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

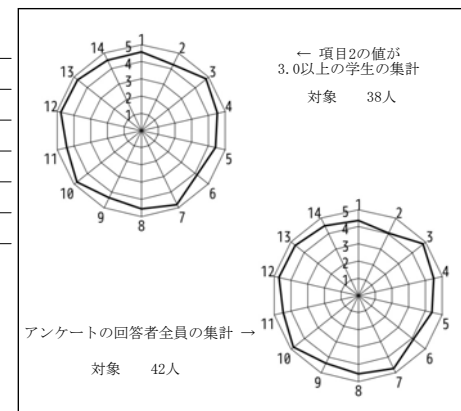


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①この授業の目標は、人工知能やロボットに関わる問題を主に哲学と倫理学の視点から掘り下げ、学生が自ら「考える」場を提供することであった。目標達成度は、アンケート項目1から14までの平均が4.44であったこと、小テストとレポートの合計点の平均が77点であったことから8割程度と思われる。
- ②アンケートの結果については、項目5が4.00、項目11が4.00、項目12が3.40、項目14が4.20であり、学際科目の平均と比較した場合、特に低い値となっている。この結果から次のことが読み取れる。授業の到達目標の理解が十分でないため、その達成に向けて自主的に学習することができず、また質問や相談への対応、提出された課題に対するフィードバックといった補完的な対応にも欠けていたため、この授業に対して十分な満足を得ることができなかった。
- ③今後の改善点として、到達目標や受講の意義について丁寧に説明すること、質問や相談に対する対応、自主的な学習の指導を適切に行うことを心がけたいと思う。また、近年のAIブームのなか、一般にはこれらの技術に関する倫理的な問題に関心を持っている者が多いように思われるが、実際の受講者はどのような関心を持っているかを、アンケート等を利用してしっかりと把握する必要があると思われる。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	博物館学E
授業コード	15M05-001
教員名	可児 光生
教員コード	102475
登録人数	65
回答数	42
回答率	64.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

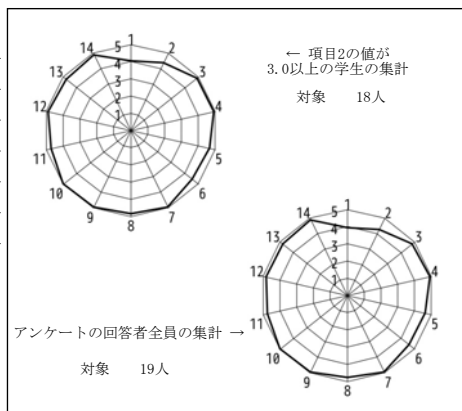


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 設定していた目標と到達の程度については、おおむね達成できたと考える。授業の内容は、現職の学芸員の立場から博物館の現場で起きている実態を伝えることに主眼を置き、また、博物館法が改正されようとしている昨今、博物館に関する最近の動向を伝え、社会のなかで置かれている博物館の存在位置にかかわる客観的課題を共有できるようにした。さらに、博物館に関する新聞や雑誌の記事を用意し、学生が少しでも関心を持ち身近な課題として意識を持てるよう授業を組み立てた。
- 項目11の「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」が4.48を示し、項目7の「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか。」に高い評価があった。
- また、チャットを効果的に使うことができたことはzoomならではのことである。学生の反応や理解度が把握でき、学生の参加度が高まったことはよかったと思う。
- 今後、学生の学習意欲が一層高まるための努力をしていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報資源組織演習III
授業コード 15P11-001
教員名 小嶋 智美
教員コード 104494
登録人数 39
回答数 19
回答率 48.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

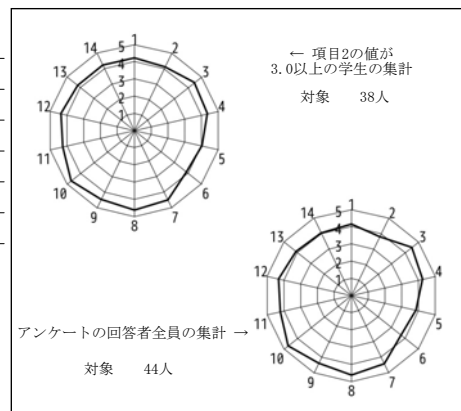


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については、到達目標を含むシラバスに沿った授業内容を組み立て、学生の習熟度に合わせて調整を行いながら進めていったこと・授業内や授業後の質問に対しできるかぎり迅速に対応したこと・ほとんどの学生がその目標に沿って提示された演習課題を高い点数でクリアできていたことから、十分に到達していると考え。担当科目に関する総合的な自己点検・評価については、学生の評価内容から、内容・授業レベル共に妥当であったと考える。ただし、1名が受講前における本授業内容に対し興味の低さを表明しており、資格課程の難しさを感じた（しかしながら該当の学生は、受講後の評価点および自由記述で、授業内容に対して高い評価をつけている）。次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などについては、オンライン実施から対面授業に代わるということで、授業の進行および学生への配慮に新たな側面を加えることが重要だと考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地誌概説
授業コード 22C07-001
教員名 佐藤 久美
教員コード 102924
登録人数 144
回答数 44
回答率 30.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

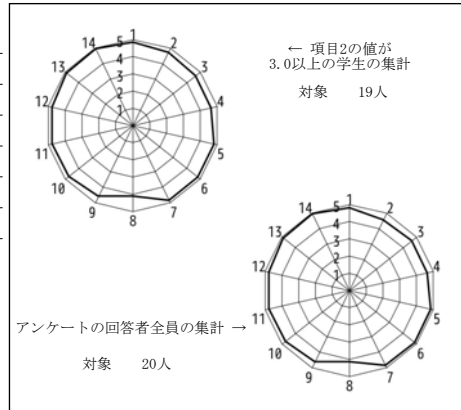


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業への出席の取り方について、Q2で行った授業の反省からweb classで取るようにしたが、途中から授業を受けるようになった学生への周知がうまく行われなかったようだ。出席の取り方についての資料も掲載していたが、見ていないという学生や出席はとらないと思い込んでいた学生もいた。講義内容はシラバスから外れることもあったが、学生の反応を確認しながら、関心のあるテーマで講義を行なった。やはり、最初から授業を受けていなかった学生にはその理解が難しかった可能性がある。受講生が多かったことも要因であると思うが、顔を出して授業を受ける学生は皆無であった。一方的にzoomでこちらから講義を行う授業形態から離れて、希望する学生に発表させる方法を最後の授業回で行なったが、受講生からの活発な質問もあり、学生同士のコミュニケーションも取れたと考えられる。また、私自身にとっても学生の反応を知ることができた。次年度はできるだけ対面で授業を行えることを期待したい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(個人スポーツ)バドミントン
 授業コード 14E01-006
 教員名 伊藤 真博
 教員コード 103257
 登録人数 22
 回答数 20
 回答率 90.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

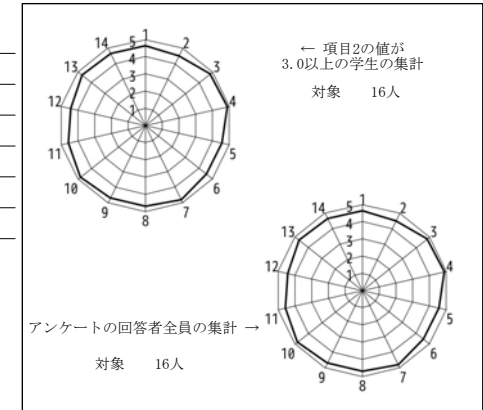


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
 開講時に設定した目標は種目に関する知識・技能の習得、ゲームを通してのマナー・仲間とのコミュニケーションの涵養、自己の健康増進の3点である。この目標に対する指標は設問13が関連するが、4.90ポイントを得ており、学生からは一定の評価が得られたと考える。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
 今クォーターはコロナ禍の影響で対面実技が危ぶまれる状況ではあったが、学生の運動への欲求、仲間づくりへの欲求や東京オリンピックでの選手の活躍等が学生たちの動機づけとなり、積極的な授業への参加につながったと考えている。授業満足度に関する設問14では4.95ポイントを得られており授業運営は概ね成功したと考える。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
 教員の声の聞き取りに関する設問8が4.15ポイントと低評価であったのは集合・説明時のマスク着用と距離の問題があり説明が聞きづらかったためだと思われる。今後はマイク等の有効利用もしていきたい。その他では授業開始時の学生の集合の遅れが気になっている。前時限からの移動や着替えの時間が必要なこともあり、致し方ない面もあるが、開始時間には全員が揃うよう動機づけを与えるようにしていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 韓国朝鮮語III<E・B>2
 授業コード 11G03-008
 教員名 白 明学
 教員コード 103287
 登録人数 30
 回答数 16
 回答率 53.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

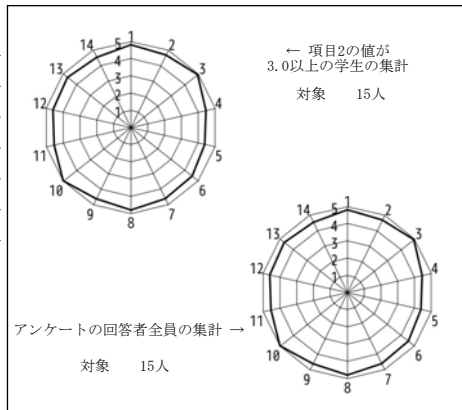


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 2021年度Q3の授業目標はおおむね達成でき、満足度も高いと言える。最初のガイダンス時に授業目標値をきっちり示し、設定したスケジュールに合わせ、初級会話に必須の疑問文、過去文、質問文、勧誘文の作り方および助詞の使い方をマスターした。授業全体と授業運営に関する設問の平均値が4.66で、学生の満足度も十分ではないが高いと言える。
- Q3も前の学期同様、学生参加型授業を一貫して実施し、授業時間内に学生を授業に集中させ、ある程度の緊張感を持たせる方法を取ったが、この点が効果を発揮したのではないと思われる。また、これだけは覚えてほしい語彙リストと文法内容を整理し、繰り返し、声に出しながら復習した。大学の授業とはいえ、語学の学習にリポートは必須だと思う。自由記述で「先生が何度も音声を聞かせてくれたし、音読の練習をする時間を授業内でとってくださったので、授業内で理解を深めることが出来ました。」「言語化力がついた」等と評価を得たところは、素直に嬉しかった。ただし、韓国語の場合は、文法構造が日本語と近似しており、学生の修得度も早い。何人もの学生に韓国語がもっと勉強したい、資格試験のための韓国語はないのかと聞かれたが、学生の要求に答えられる授業システムが整っていないのは残念である。
- また、授業方法がパターン化多少マンネリ化したり、集中力が衰えるとの声もある。学生の集中力と興味を維持させる工夫をしていかなければならない。来学期の課題である。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 韓国・朝鮮の言語と文化I
授業コード 35C01-001
教員名 金 由那
教員コード 101171
登録人数 45
回答数 15
回答率 33.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

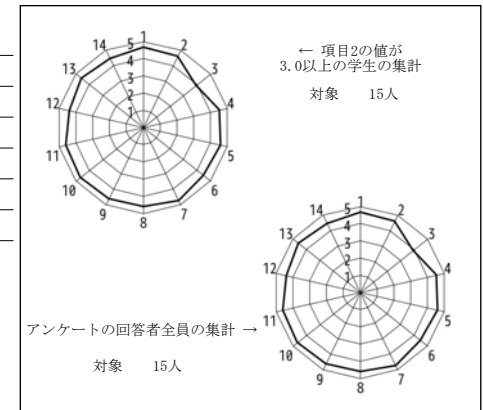
この授業では、バランスよく朝鮮・韓国語を学べるように、基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行なった。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景的知識を学習することにより朝鮮・韓国語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とし、「韓国語に触れる」ことを目標に講義を展開した。

その結果、概ね授業の目標は達成できたと考えられる。自由記述欄に、「プリントが分かりやすかった。」「説明が分かりやすかった。」などのコメントがあった。楽しく学べるように工夫して授業を行ったことがいい評価を得たと思う。

次学期以降の授業でも、今学期の授業方法を踏襲してもっといい授業ができるように努力を続けていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会・公民科指導法B1
授業コード 15B51-001
教員名 成田 健之介
教員コード 101555
登録人数 22
回答数 15
回答率 68.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



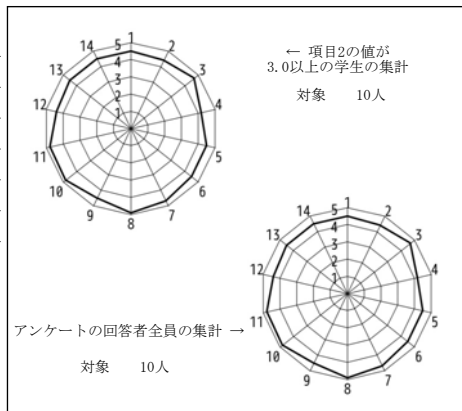
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、中学校社会科公民科の分野と高等学校公民科の授業に必要な授業実践力を高めることを目標にしている。「主体的・対話的で深い学び」や資質・能力等についての最新の情報を取り上げ、新学習指導要領に対応できる実践力の育成に力を入れた。前半では新学習指導要領の理論的側面の学修、動画コンテンツ等を活用した学校教育現場での対話型授業の分析と評価の学修を進めた。後半からは、履修する学生全員に15分～20分間の模擬授業を課し、授業構想、学習指導案細案の作成及び模擬授業と事後検討を中心とした実践的な学修となるように実施した。

学生評価については、設問14「授業全体としての満足感」の平均値は4.47、設問3～設問14の平均値は4.52であり、概ね目的は達成することができた。しかし、今回で最も低い平均値3.93であった設問3「オンラインで受講した場合、事前に予告された開始時間は守られていましたか。対面で受講した場合、授業の開始と終了の時間は守られていましたか。」が課題として残った。これは、Q3が一部学生がオンラインで参加する日が時々ある不定期のハイフレックス授業となったために、教室の学生対応とオンラインのための機材準備が錯綜して開始が若干後れる回があったことと、模擬授業を実施した期間に終了時刻を若干延長する傾向にあったことが、原因の一つであると考えられる。これまでも、なかなか改善しきれていない課題だが、模擬授業の学生の持ち時間を厳格にして、延長になってしまうことを避けたいと思う。自由記述の回答では、「教授が生徒に寄り添っており、わかりやすい授業になっていた。」「実践的な模擬授業の形が取られていて良かった。」「教師としての力をつけるための模擬授業の時間を多く割っていた点。」という記述が見られ、模擬授業を取り入れ実践的な教科指導力の育成を目指した本講義の方向性は維持していきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国語科指導法C
授業コード 15B55-001
教員名 上野 裕章
教員コード 103859
登録人数 17
回答数 10
回答率 58.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

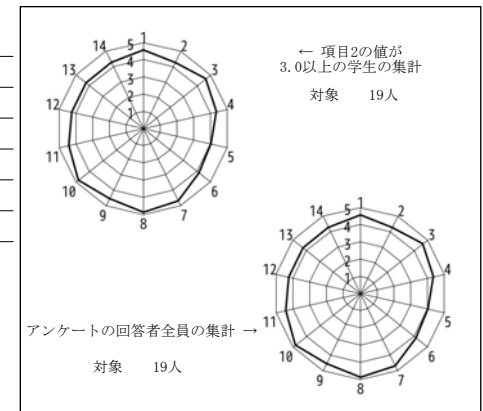


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①国語科指導法Cでは、「中学校教師として自信をもって教壇に立てる教師」を目標に授業を行った。物語・小説の教材を用いた教材の読み方と指導法について、中学校での授業形式で実施した。中学校での物語・小説の指導について概ね理解していただいたと考える。しかし、やや進度が遅れ、教材を指導法Dに持ち越した。
- ②評価平均が4.58であった。「声の大きさ・聞こえやすさ」4.9、「意欲を引き出す適切な指導や情報提供」4.8、「誠実さ、真剣さ」4.7であったが、「授業の構成や進行速度」は4.2と最も低い評価であった。説明が速すぎて書き取る時間がないのか、その都度、授業の中で確認しながら進めていきたい。
- ③Q4の国語科指導法Dでは、学生に内容の理解を確認しながら授業を進めていくようにしたい。また、「振り返りシート」に記入された学生の「読みの解釈」を紹介したり、「質問」に回答したりしていく予定である。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語科指導法B
授業コード 15B58-001
教員名 松永 隆
教員コード 015081
登録人数 35
回答数 19
回答率 54.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 講義概要**
教職関連科目としての英語科指導法である。第二言語としての、あるいは外国語としての英語の習得理論と教育の実践的なスキルを習得することを目的とした。実践面では、グループによる教案のディスカッション、ビデオによる授業観察を講義に導入した。レポート1回、教案2回、模擬授業2回を課題として課した。教材収集・教材研究・教材準備にとってコンピューターリテラシーが重要であることも考慮し、提出物はすべてコンピューター利用を義務づけた。
- 高く評価できる点**
設問3～14の平均値が4.45、設問1～14の平均値が4.44で、ほとんどの項目で4ポイントの後半に近く、まずまずの評価といえる。
「授業導入の仕方など実践的だった」、「様々な授業の作り方や、英語を学ぶためのリソースが知れた」、「教育現場をイメージし、どのように言語活動を組むのかがよくわかった」、「使用されたビデオがとても勉強になった」、「理論と実践のバランスが良かった」、「担当者が教師としてのロールモデルを示してくれた」、「ビデオで見るだけでなく、担当者が実演してくれるのがよかった」などのコメントがあった。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIIオーラルコミュニケーション[G]3
授業コード	11A03-034
教員名	MILLER, Adam Lee
教員コード	104449
登録人数	23
回答数	3
回答率	13.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

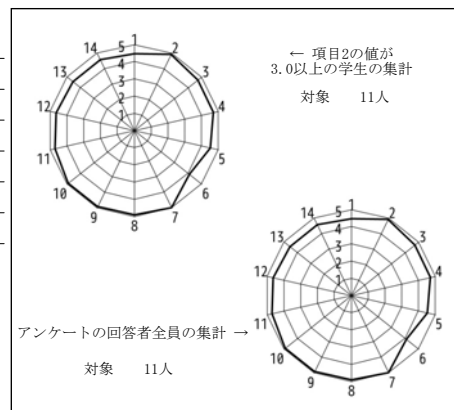
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

As this was a communication course, the main aim was to give the students the freedom to speak and share their opinions. They did so very well in all of the homework assignments, and also during group discussions during our Zoom lessons. It is a difficult subject to study online, but the students worked very hard and helped make it possible. In the future, when we are face-to-face again, it will be great to give the students the chance to discuss the topics from the course, a little more freely. Furthermore, it might be a good idea to give students a little more freedom to do some independent research and bring their own sources to discuss in class; if they can connect the materials they found to the topics in the textbook, that could lead on to some very interesting discussions in class.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIIオーラルコミュニケーション[G]8
授業コード	11A03-039
教員名	GONZALEZ DIAZ, Alejandra Maria
教員コード	103652
登録人数	20
回答数	11
回答率	55.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

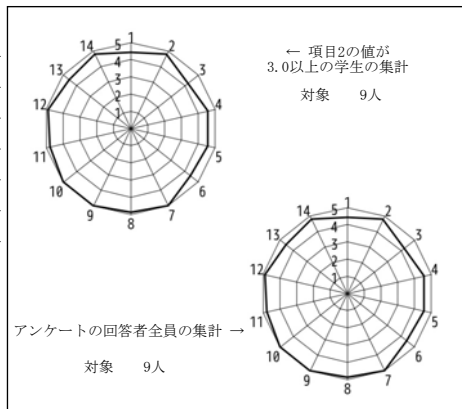


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set at the start of the course were overall achieved. Students engaged actively throughout the trimester and fulfilled their weekly tasks, which enabled productive discussions in class. I tried to keep track of the individual progress of each student. I could manage overall. All students cooperated with online learning. In the future I will continue group work in class and I will add more listening practice, such as news or other sources so that students can react and discuss topics currently taking place worldwide.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[G]6
授業コード 11A07-037
教員名 木下 薫
教員コード 104328
登録人数 20
回答数 9
回答率 45.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

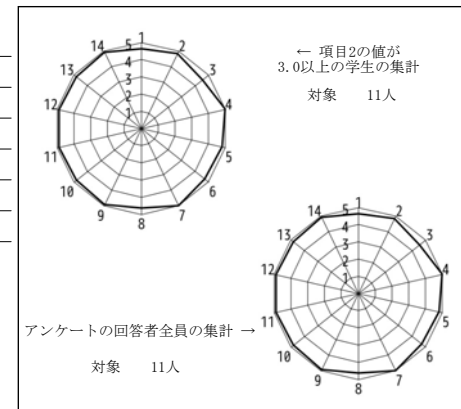


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) Students continued to learn about the structure of short academic essays. They mastered paragraph writing and appropriate word choices through in-class activities and homework. They completed a compare and contrast essay and a cause and effect essay to demonstrate their writing skills. Further, students engaged in article reviews and summary writing as part of their assignments.
- (2) Several students commented positively about my availability for students. Since each student's needs are unique, individualized support is necessary. I will continue to promptly offer feedback to students so they can utilize my advice for their essays.
- (3) Lastly, I appreciated students' willingness to participate in the class actively. Next year, I will continue to engage students through various activities and exercises.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[G]7
授業コード 11A07-038
教員名 MEJIA, Justin
教員コード 104498
登録人数 21
回答数 11
回答率 52.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Compared to Q1 and Q2 I felt much more confident in delivering lessons—even online. Overall, I believe the students were also very receptive to my teaching style.

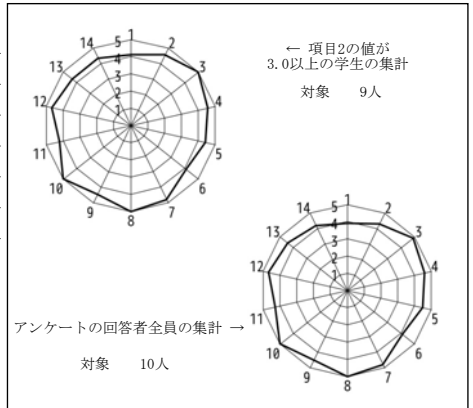
As for meeting the goals of the course, with the exception of a just a few students who failed to grasp proper formatting guidelines and citation style, I believe I was able to achieve all of the main goals.

Based on the feedback from the students I can see that my strong points are fostering a good class atmosphere and motivating the students. Where I believe I need to improve is on the clearness of my expectations as well as on individual feedback on students' writings.

To this end, I would like to improve on those two specific areas next year; especially with regards to feedback.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIIリテラシー[G]8
授業コード	11A07-039
教員名	水野 眞紀
教員コード	101981
登録人数	20
回答数	10
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

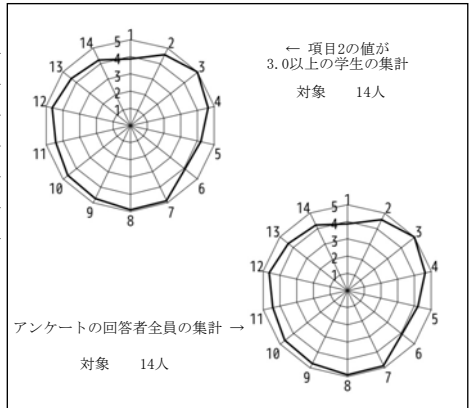
(1) 全期オンライン授業であったため、お互い初対面にもかかわらずZoomだけでコミュニケーションをとりながら授業をすることには大変神経を使った。課題を調節し予定を変更した。リーディングは教科書にとどまったが、課外では関連テーマの精読を課すことができ、ライティングは予定を網羅し、概ね目標は達成できた。前期で学んだメールの書き方と出し方、WebClassでの提出方法、フォーマット、パラグラフやエッセイの構成等の基本事項を復習しながら新たに二種類の構成でエッセイを書き上げた。

(2) 今回は授業で時間を設けたにも関わらず、クラスの半分しか回答していない。そのうえで数値から分析を試みる。Q1, Q6, Q14の数値が比較的低いのは、ライティングに対する苦手意識を持つ学生が多かったこと、対面授業がなかったことで不安や難しさを感じたからではないか。反面、Q12とQ13の数値からは、新しい知識の理解が深まり、満足していることも伺える。自由記述でも、話す場面が多いのでクラスメイトと授業を受けている感じが良かった、授業の進行や解説がわかりやすい、教員のフィードバックが丁寧、具体的で次の自分の課題が理解できたとあり、オンライン授業なりに評価されている。

(3) Q4は待ちに待った対面授業なので、学生一人一人と対話をしながら、対面ならではの授業で学生の不安や疑問に伝えていきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIIコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]12
授業コード	11A11-012
教員名	鈴木 愛
教員コード	103596
登録人数	25
回答数	14
回答率	56.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

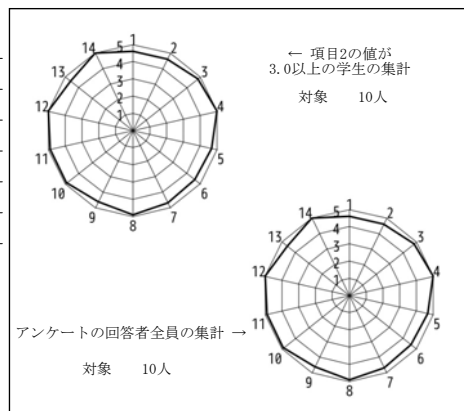
Listening goals that were set at the beginning of Q3 was to be able to listen and understand long conversations. I was able to meet the goals fairly well through Webclass materials. Speaking goals were to be able to use conversation strategies, do two presentations, and perform a discussion test. It seems like students were able to meet these goals well with the fact that they had to do it online. For reading, students were to be able to read the main idea of a reading. I feel that most students were able to achieve this goal.

Reflecting on the student evaluation, I am satisfied by their evaluation and comments. Though the class was taught all online, it seems that students were able to meet the goals and enjoyed the class. Especially with the presentations and discussion test, they were able to perform quite well with what they learned in the class.

For next quarter, I would like to keep working on their speaking skills including more of the conversation strategies, fluency, and doing a class discussion. It seems like they are getting comfortable having a conversation in English, so I would like to focus more on discussion skills, including how to interrupt and state your opinion.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[E]2
 授業コード 11A11-026
 教員名 McCANDIE, Tanja
 教員コード 102688
 登録人数 23
 回答数 10
 回答率 43.5%
 休講回数 0回
 補講回数 0回

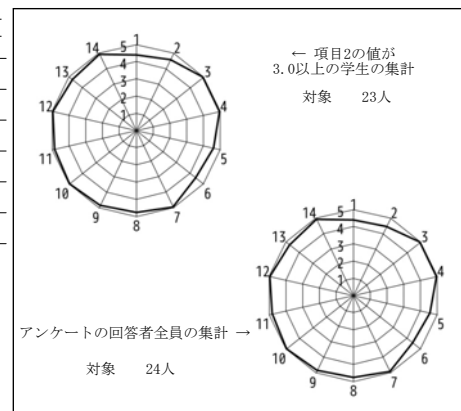


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I'm really that the students enjoyed my class and feel that goals of the course were achieved. They were a nice class but I personally found the push back to face to face while we are still in a pandemic to be rather poor of Nanzan. Most students attended this class but many said they did not want face to face but Nanzan decided not to listen to them nor the teachers with their concerns over health and safety. In the end, I put the last classes back online without permission because I felt it was the safest thing to do. Thinking towards next year, I will not be at Nanzan. I am grateful to the leadership within FLEEC who showed empathy to staff and students during these pandemic times. I can't say much about the university leadership.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[J]6
 授業コード 11A11-042
 教員名 LANGLEY, Patrick
 教員コード 104288
 登録人数 24
 回答数 24
 回答率 100.0%
 休講回数 0回
 補講回数 0回

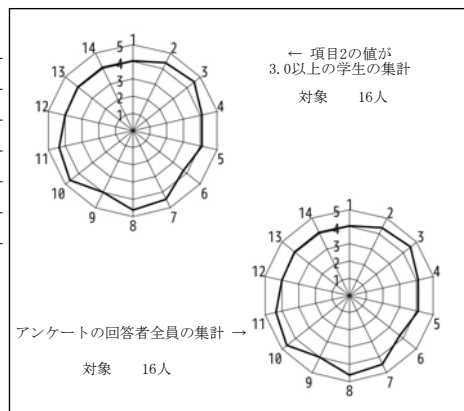


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am comfortable that I could achieve the main goals I set for this class. The students responded well to my instruction and seemed to enjoy the classes. Overall I believe that they did a good job and I think I can use their feedback to improve the course for next academic year.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[J]7
 授業コード 11A11-043
 教員名 PALISADA Eloisa
 教員コード 055830
 登録人数 25
 回答数 16
 回答率 64.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

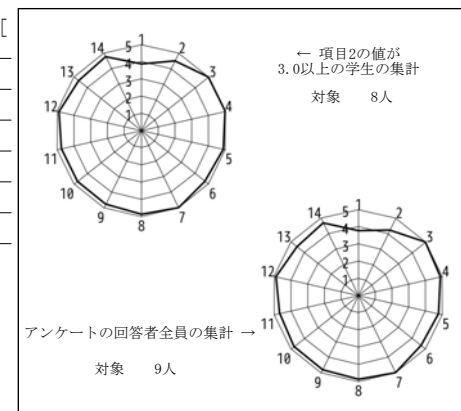


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal is to develop students' ability to use spoken English and improve their reading proficiency. Students had low interest in English before taking the class. However, as we progressed, they responded positively with great effort to participate (88%) even though most classes were conducted Online. It was a big challenge to keep the level and pace of students' needs and affected the attainment of their goal; 75% only. They recognized the teacher's sincerity, determination to provide them opportunities to learn better and effectively (89%). Appropriate action was taken to disruptive behavior (93%) and encouraged them to study independently (88%). One to consider next time is to offer clear instructions to assigned tasks, especially during On-demand sessions. There was not sufficient time given for questions and consultation Online. With problems arising from poor connectivity on the part of the students, the irregularity of attendance, the varied level of their ability, there seemed to be less satisfaction felt in general (81%). As for some personal comments, most of them said that there was a lot of time for conversation and discussion. There was too much homework and the need to have clearer explanations. So, this will be addressed further on. Seeing more students gaining confidence in expressing themselves and being happy to learn, are indeed satisfying and encouraging.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[T]12
 授業コード 11A11-066
 教員名 平出 優子
 教員コード 102521
 登録人数 22
 回答数 9
 回答率 40.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

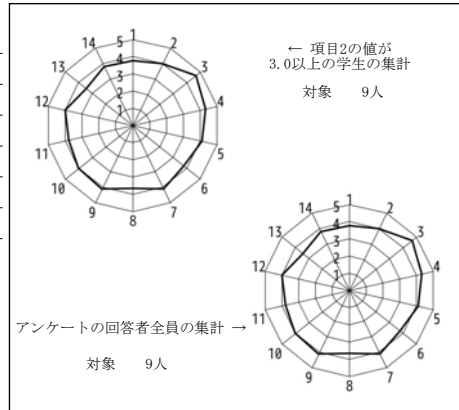
英語III Communication Skillsの授業はスピーキングとリーディングから構成される。Q3のスピーキングの目標は、久しぶりに友人に会った際の挨拶の後、過去の旅行の体験談、将来の旅行計画、様々な旅行の仕方の3つのトピックについてペアで6分間会話ができるようになることであった。授業においては、日本語での会話と英語での会話の違いを強調し、相手の発言に対してReactionをすること、2, 3行の長い答えをすること、聞かれていなくても自分のことも話すこと、この3点について練習し多くの学生ができるようになってきたと考える。Q4ではFoodをテーマにさらに自然な英会話を目指す。

Q3のリーディングの目標は、流暢に英文を読むための様々な読解方略を効果的に使えるようになること、Extensive Readingにおいて目標語数に到達し、MReaderでクイズに答えること、Vocaburay の知識を増やすことの3点であった。提出された課題の出来が非常によく、また、MReaderの集計でもほとんどの人がクリアしていたので、目標は十分に到達できたと考える。

Q3もオンライン授業で様々な制限があったにもかかわらず、授業評価の高い数値や学生からの前向きなコメントを受け、無事に終わることが出来たと実感し安堵している。Q4では難易度を上げ、更なるadvanced skillが身につくよう指導したいと考えている。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]3
授業コード 11A13-003
教員名 伊藤 実里
教員コード 045542
登録人数 19
回答数 9
回答率 47.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

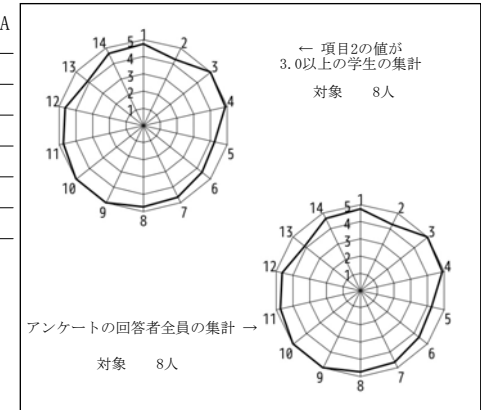


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q3から始まるQ3～Q4のコースでこれが始まりなので、Q4終了時までにはより多くの目標を達成できることを予定している。今回のアンケート回答では意外に思った点いくつかあったので、反省点と気づいた点について述べたい。まず、アンケート回答者が履修者の半数ほどだったことがある。同様のことが他大学でも見られた。いずれも2年生以上の場合で、オンライン授業への慣れかもしれないが、宿題など必須のものでないと聞き流される情報もあるような印象を受ける。今後もアンケートがオンライン授業形態で実施になる場合は、授業内で時間をとって回答率を上げるようにしようと思う。次に、zoomでのカメラ使用についてである。オンラインが中心となった昨年度の1年生は自宅にいる自分をあまり見せたくない人が多く、ブレイクアウトのような少人数になるときのみカメラをオンにして授業を行った。今年度も1年生のクラスの反応は同様だったが、このクラスは2年生だからなのかまたまなのか、全員とのコミュニケーションにカメラを使いたかったという趣旨のコメントがあったことが予想外だった。オンライン授業が始まって教室内で全体を見渡せる場合との違いに非常に気を使っていた昨年度を振り返ると、こちらもオンライン慣れで想定してしまっていた部分があったことが反省点である。もちろん今回は回答率が低い中でのコメントなので、クラス全体としてどうなのかはわからないが、その意味でも、クォータの前半から授業内容だけでなく履修者全員の反応を確かめることを改めて心がけたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]5
授業コード 11A13-005
教員名 BLOWER, Luke
教員コード 104287
登録人数 20
回答数 8
回答率 40.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

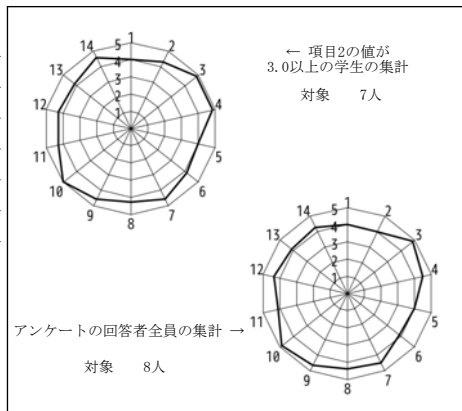
This course was undertaken online with a new group of students and a new textbook. With this in mind, the goals were to allow the students to enjoy communicating in English while meeting the core goals outlined in the course syllabus. This was largely achieved as we managed to cover the reading skills and practise them> The final quiz results showed that students had picked these up. Mixing up the communication with live sessions and audio recordings worked well.

I was happy with the feedback, the rather unusual environment did not lend it self to the best learning experience so I am glad the students were largely satisfied.

Going forward, I feel that i can leverage the textbook and added supplementary materials to really improve the learning experience back in face to face classes.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Vコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]8
授業コード	11A13-025
教員名	加藤 普由子
教員コード	101654
登録人数	20
回答数	8
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

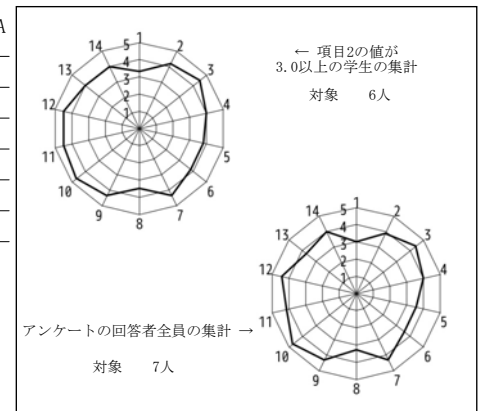


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q3はすべてオンラインとなった。コミュニケーションスキルズの授業であることから、14回すべてをzoomで実施。ブレイクアウトルームを活用しディスカッションや語彙アクティビティを試みたが、すべての学生を観察することができず、果たしてうまく機能したか不明である。そのうえ、途中からは大学が対面授業に戻した授業もあり、キャンパスで受講した学生と自宅で受講した学生が混在し、公平に対応することが難しくなった。そのような状況において、今回の授業評価は20名中8名の回答である。40%の認識が反映されている。設問6の到達目標に関する回答では、3評価が1名、2評価が1名存在している。全体としての授業への満足度、毎回の授業の構成や進行速度についても2評価が1名。学生が自身の主体的取り組みを評価して2をつけている者がおり、同一人物かは不明であるが、Q4ではあらかじめ学生と共通認識があるかどうかを確認して授業をすすめていきたい。また自由記述において「課題のやり方でわかりにくい点が少しあった」とのコメントが寄せられており、気をつけたい。一方で「考える時間が多くあった」「テキストを解く時間を授業内に設けていた点」「教員の意欲が伝わった」と評価されており、救われる感じを覚える。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Vコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]10
授業コード	11A13-027
教員名	NIXON, Richard Mark
教員コード	103559
登録人数	19
回答数	7
回答率	36.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

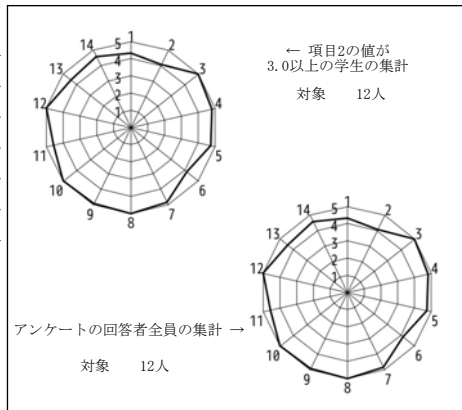


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) I tried to reach the goals set out for the course at the beginning of Q3. I was attempting to enhance the students' abilities to use their English under a variety of natural conversational scenarios. I was particularly concerned with enhancing speaking fluency while simultaneously improving grammatical and pronunciation accuracy. I believe that the students in this course tried their best in class to complete the speaking activities from the course book.
- 2) Based on the numerical data provided by students from the course evaluation survey, students seemed to be engaged in their own learning process. Their responses to the first question about interest in the course before taking this lesson suggests that they were not overly enthusiastic about what the content would offer them (3.00) but nonetheless they did try to participate in class and understand the content as shown in their answers to the second survey question (3.86).
- 3) I will need to take more initiative in the future to help students understand the course goals as their answers to Question #5 was only at 3.57. I will also need to ensure students are comfortable with my voice and the audio equipment.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]11
 授業コード 11A13-034
 教員名 山田 秀子
 教員コード 103595
 登録人数 20
 回答数 12
 回答率 60.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

すべての授業をオンラインで行ったが、学生は慣れており、情報の共有や課題の提出などにも問題はなく、開講当初に設定していた目標は概ね達成できた。講義計画に提示した学習内容・範囲は9割以上を扱い、受講生全員が課題をすべて終えることができた。

数値データはほとんどの項目で平均値が比較的高かったが、主体的な授業参加を問う項目2(4.08)と自分に力がついてきていると思うかを問う項目6(4.17)の平均値が少し低かった。授業時間内は個別の活動でも協同学習でもほとんどの学生が積極的に参加しているように見受けられた。しかし、ブレイクアウトルームでのディスカッションは対面授業と比べるとやりにくいという声が普段から聞かれた。また、授業時間外の自主学習用とした教材や多読に関しては取り組みに差があった。これらが前述の2項目の結果に少なからず影響を及ぼしていると考えられる。次学期の対面授業では、協同学習を通じて理解度を高めたり、学習したスキルを使う機会を増やしたりすることができるかと期待している。自主学習や多読については、学生同士で活動を共有する時間を作って改善を図る。

オンライン授業では学生とのやりとりが少なくなるため、理解度の把握や授業の進行速度などで迷うことが多いが、自由記述の回答から適切であったと判断する。良かった点として挙げられていることは今後も継続していきたい。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIコミュニケーションスキルズ[S]8
 授業コード 11A15-010
 教員名 LENIHAN John
 教員コード 045070
 登録人数 23
 回答数 4
 回答率 17.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

During this difficult time of continuing health regulations, it has been a great challenge for the students, teachers and all staff at Nanzan University. Under these troublesome conditions I think everyone has done the best they can do. Again, the goals of this class were basically the same as those of the first and second quarter: engage in extensive reading, improve reading strategies, develop basic vocabulary, everyday idioms and similes and to improve basic oral communication skills.

Also once again, the extensive reading exercises were supplemented with many other materials. We used Webclass more than in previous quarters and I hope that the activities were useful in building a strong base for future language learning.

During the fourth quarter we will try different techniques for learning the Latin and Greek prefixes, suffixes and roots. In the place of the quizzes we will read laminated sheets on one prefix, suffix or root. The students in similar classes said in previous years that these were helpful. I imagine the results will be the same with this class. I think, over the course of one year, that they are slowly but surely acquiring the knowledge that we have been seeking to further their vocabulary and reading skills I look forward to having face-to-face classes with this group in the last quarter

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIIコミュニケーションスキルズ <再(理工学部生用)>
授業コード	11A15-014
教員名	MOORE, Douglas
教員コード	100954
登録人数	18
回答数	1
回答率	5.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

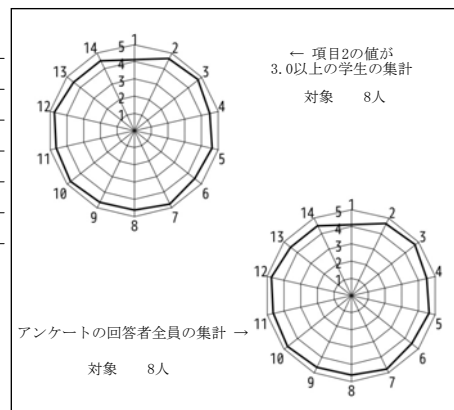
Overall, the survey results were better than last year, with a couple of exceptions. While a slim majority of students still seem to be confused as to the direction of the class and their specific duties in the classroom, more students seem to understand the grading and class schedule than last year. For the next year, this will need to be addressed even more clearly than this year, and the presentation seems to need adjusting.

Regarding class activities and assignments, there seems to be a little confusion, or non-acceptance of the teaching methodology, even though it is only a small percentage. Changes have been made in the further semesters to cover a few of these perceived difficulties, so in theory, the students will be less concerned next year.

Despite the above problems, the overall evaluation is quite a bit better than the previous evaluation. Indeed about 15% of the students are the same from the last evaluation, so there is reason to believe that an improvement is taking place in explaining and clarifying the class's aims and activities to the students. Still, further work needs to be done.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iライティング<全・T>5
授業コード	11A17-015
教員名	佐藤 ゆかり
教員コード	047605
登録人数	23
回答数	8
回答率	34.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

自宅オンライン学習を希望する学生と対面生徒のハイブリッド形式で行ったので、時間の取り方や、進め方に迷うところも多かったが、概ね授業評価が良かったので安心した。オンラインであっても対面であっても、学生通しの交わりアクティビティを必ず毎回の授業内にとり入れ、孤立して勉強することなく、互いから学べる、ヒントを得て、自分の書く物に繁栄できる仕組みを工夫した。昨今は、英訳アプリなどで課題を済ませる学生もいるように思うので、それだけにならぬように、授業中内に書く活動を毎回の初めに取り入れ、それが、学生に好評だった。書いたあとは、それをシェアする「話す活動」も取り入れ、メリハリを持たせた。シラバスを参照する機会が少なく、目標を意識せずに毎回受け身である学生も見受けられるので、授業の区切りごとに、今からする活動の内容とその学習的意義をつたえるように、毎回心がけた。いずれにしても、ライティングクラスのレベルが上がっているように思う。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語ライティング<全・T>7
授業コード 11A17-017
教員名 LANGER Daniel
教員コード 101438
登録人数 23
回答数 4
回答率 17.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

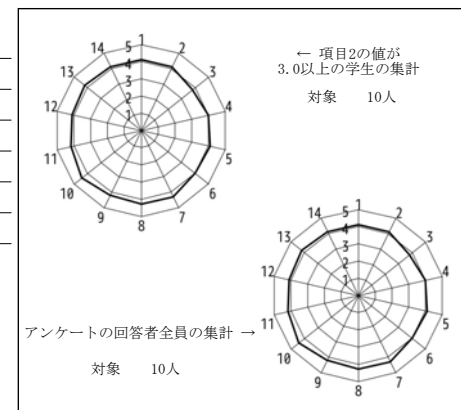
I think we did a good job of meeting the class objectives. I am happy with the output of my students, and I hope they feel more confident in their writing ability.

It is difficult to make a full self-evaluation based on student feedback, due to the low response rate, but I am glad that the evaluations were positive. I have decided to believe that the low amount of evaluations is because of high student satisfaction.

In the fourth quarter, my plan is to return to having classes on campus. Although I can understand that some/many writing students might find it comfortable to continue online classes, I hope that most students will find that face-to-face interaction will result in a better learning experience.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語ライティング<J>3
授業コード 11A17-030
教員名 KHONDAKER, Taslima
教員コード 103598
登録人数 24
回答数 10
回答率 41.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

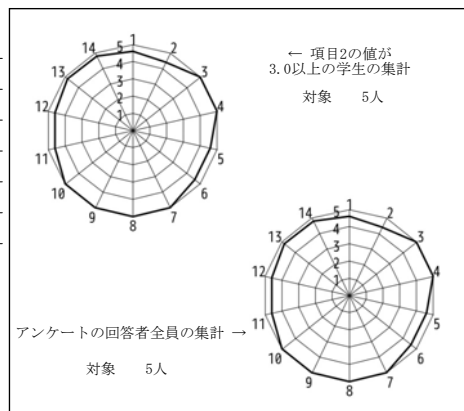


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course was to help students actively comprehend spoken messages, work out implied meanings, and develop organized points of view and try to express themselves by writing. I finished the full syllabus in time. This quarter, this class was a hybrid class. It was a pleasure to see students in person. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding Participation in the Class (Q1 to Q2) compared with the scores of 4.28 and 4.47 for the courses in the band of 11A01-001~11L.16-999, the scores of this course were 4.10 and 4.10. Regarding Evaluation of the Course in General (Q3 to Q7), compared with scores of 4.76, 4.59, 4.43, 4.24, and 4.72 for all courses, the scores for this course were 3.80, 4.00, 4.10, 4.00, and 4.30. Regarding Evaluation of the Class Management (Q8 to Q12), compared with scores of 4.60, 4.61, 4.78, 4.56, and 4.56 for all courses, the scores of this course were 4.30, 4.20, 4.40, 4.20, and 4.10. Regarding Overall Evaluation (Q13 to Q14), compared with scores 4.20 and 4.10 for all courses, the scores of this course were 4.47 and 4.48. As to Overall Impression of the Course (Q15 to Q17), the students enjoyed the class and enjoyed writing essays in English.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iディスカッション3
授業コード 11A19-003
教員名 CHARLES, Steven
教員コード 104556
登録人数 14
回答数 5
回答率 35.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

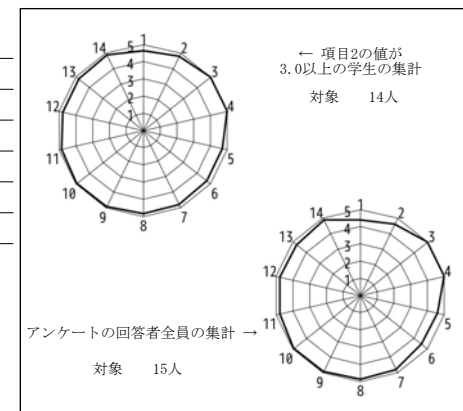


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set at the beginning were to guide students in discussing a variety of topics and lead small groups in discussing said topics. The topics presented could be easily applied to a Japanese context and thus were relatable the experiences of Japanese students. The secondary aim was to encourage critical thinking of texts and the content of said texts. Critical thinking is such an abstract concept to many students and the classroom can become a place for confusion for both teachers and students. The use of scaffolding and building up to abstract thought was utilized in this course extensively. The goals were largely achieved as students could develop critical thinking skills and analyze a text for purpose and bias as well as content. As the class was conducted online, students were expected (and generally able) to participate in the course and meet the aims of the class. As the course returns to the classroom, it is my opinion that the students should be able to continue developing analytical reading skills in future units of the text.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリスニング<全・T>7
授業コード 11A25-033
教員名 松見 誌野
教員コード 104166
登録人数 24
回答数 15
回答率 62.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

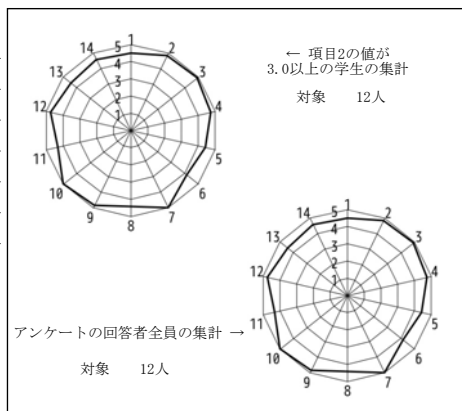


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：当初設定していた目標については、概ね達成できたと思う。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：Q3は全面オンラインだったため、授業動画を講義資料にアップロードし、リスニング学習を進めてもらった。リスニング音声を各自のペースで繰り返し聞くことができるため、リスニング力が身に付いた、自分のペースで学習できて良かった、という意見が見られた。対面授業時の学生評価とさほど変わりはないものの、自由記述欄のコメントを見ると、ポジティブなコメントが多く、科目による向き不向きはあるだろうが、担当するリスニング科目については、オンライン授業でも学生の満足度を下げることなく授業を行うことができると感じた。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：Q4は対面授業開始となるため、これまでに使用してきたWebClass等のツールを上手く活用し、受講生満足度の高い授業を行っていききたいと思う。

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IIIライティング2
授業コード 42G06-002
教員名 VIADO Cora
教員コード 100553
登録人数 21
回答数 12
回答率 57.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course was conducted virtually through Zoom and WebClass. Students learned how to use different types of English-language business correspondence, such as business letters, business e-mail, and business itineraries in order to develop important skills related to business and writing. Timed writing on a variety of topics was done regularly so as to encourage writing in English and to monitor one's progress. Cooperative learning activities gave students opportunities for sharing ideas and written work in small groups or with a partner. Working in groups or in pairs fostered camaraderie and the building of rapport among students. The overall significantly positive evaluation indicate students' general satisfaction with the content covered, the instructional methods used, and interactive dynamics among students during pair work or group work.

2021年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語ビジネス・ライティングA
授業コード 42G12-001
教員名 高野 洋子
教員コード 104147
登録人数 10
回答数 0
回答率 0.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

就職活動をしている学生や将来仕事につくことをふまえ、BUSINESS SCENEで必要不可欠な英文レターの書き方を実践中心に準備を行ってきた ZOOMで14回授業を行ったが出席率がよく、ペアワークをしながら正確に英文を書く活動を学生は取り組んだ。ZOOMの性質上、それぞれのBREAKOUT roomに参加して質疑応答を丁寧にできたことは予想以上によかった点である。教室では質問をしにくい雰囲気があるが、ZOOMなので細かいところも積極的に質問をしてくれた。また、私個人が経験したビジネスでの成功、失敗、クレームなどを紹介したので学生はHANDS ONの知識が身につく、ビジネスレターを作成することと現状をつなげて考えることができた！と授業の振り返りの際に意見として述べていた。来季は対面で授業をするので討論をする、文法の正誤を判断する活動を増やして、英文作成活動を指導する所存です